

平成25(2013)年度 文化庁委託事業報告書

方言がつなぐ地域と暮らし・
方言で語り継ぐ震災の記憶
～被災地方言の保存・継承と学びの取り組み～

平成26 (2014) 年 3 月

茨城大学人文学部 杉本妙子研究室

まえがき

本報告は、文化庁の委託を受けて行った調査研究事業「方言がつなぐ地域と暮らし・方言で語り継ぐ震災の記憶～被災地方言の保存・継承と学びの取り組み～」の報告書である。第一部では本事業業務の概略等を述べた。業務の目的、課題とその実施状況等である。第二部では各地被災地方言の記録として文字化した談話を、「Ⅰ 地域の民俗・暮らし」と「Ⅱ 震災の記憶」の二つに分けて示した。前者では茨城県内の2地域と福島県浜通りの2地域の、正月・小正月の行事を中心に、かつてのあるいは今の行事の様子などを取り上げた。かつての行事についての談話では、地域によりその様子はさまざままで、違いを感じたり、当時の様子を思い描いたりできる談話となっている。後者では、茨城県内の1地域と福島県浜通りの2地域の震災の記憶を収めた。特に、福島の2地域の談話では、福島第一原発事故により避難を余儀なくされた浜通りの方々が、どのように避難されたかや避難してすぐの頃の生活の様子などを語ってくださった話を収めることができた。いずれも、話し手としてご協力くださった方々のおかげで本報告書に収めることができた貴重なお話である。ご一読いただければ、幸いである。

巻末の資料編では、2013年までの茨城方言・関東地域方言文献目録および千葉県と福島県の一部地域についての文献目録を収めた。千葉・福島の文献目録も対象にしたのは、茨城方言との関係から必要であるからである。また、福島県浜通りについては、調査地域としての点からも作成すべきと考えた。この文献目録には、利用者の便を考え、茨城県内の大学図書館、公共図書館および国立国語研究所、等における蔵書情報を入れてある。さらに、一部の文献については内容についても若干触れている。

また、本報告書とは別に、本事業では二つの冊子を作成した。一つは茨城の方言を次世代に継承するための教材『しみじみ茨城のことば 茨城の方言を知る・方言で茨城を知るためのテキスト（試作版）』である。平成24年度文化庁委託事業の成果を活用しつつ、今年度の調査の成果も加えている。もう一つは、地域（大洗町）に残る方言史料をもとに作成した『訳注『郷土大観』所収 方言訛語』である。どちらも地域のことばや史料をとおして、改めて地域の営みや受け継いできたものを考えるために活用されることを願っている。

本事業に取り組む中で、東日本大震災から3年目の目を迎えた。かつての生活を取り戻された方々がおられる一方で、避難生活が続いている方々など、変わらず厳しい状況にある方もたくさんいらっしゃる。どちらにある方ともこの間、方言をとおして友としてつながることができたこと、また、方言をとおして時に笑うことができたことは、私にとっての喜びでもあった。つないだ手を離さぬよう、今後も皆さまと方言とともに歩んでいきたいと思う。

昨年度、今年度と、本事業に多くのご協力をいただいた。関係自治体等の皆様、ならびに調査に快く応じてくださり、お名前を挙げることをご承諾くださった個人の皆様である。ここに皆様のお名前を記して心より感謝申し上げる次第である。

《自治体等団体》

茨城県教育庁文化課、水戸市教育委員会文化課、北茨城市教育委員会生涯学習課、高萩市教育委員会生涯学習課、日立市教育委員会郷土博物館、大洗町教育委員会生涯学習課、鹿嶋市教育委員会教育総務課、神栖市教育委員会文化スポーツ課、つくば市総務部総務課、つくば市教育委員会教育総務課、茨城県内への避難者・支援者ネットワーク・ふうあいねっと

《個人のご協力者の皆様》（五十音順、敬称略）

飯田敏雄、猪狩栄子、猪狩米子、石井啓子、石毛美智子、伊藤甲ふ子、伊藤軍司、印南春子、大内章子、大谷和巳、大森京子、小田かつ子、小野田たか子、神崎勝男、川上悦、木幡トシ子、相良千代子、相良一、佐藤悦子、鈴木章郎、鈴木和代、鈴木國雄、鈴木志津江、鈴木マス子、高橋早苗、田中優子、夏井豊子、滑川京一、袴塚千鶴子、袴塚義之、稗田進、前田幸子、矢渡比佐子、綿引長夫

最後になってしまったが、研究補助員として各種調査データの取りまとめをはじめ本事業の全般にわたってサポートしてくださった八木尚美さん、方言文献収集・整理、データの入力、原稿チェックなどを誠実に手伝ってくれた学生の香山早貴さん、佐藤沙耶佳さん、大宮友理加さん、玉造初音さんにも、ここに記して感謝したい。

平成 26(2014)年 3 月

茨城大学人文学部 杉本妙子

目 次

第一部 概要	杉本妙子	1
1 業務の概要		3
2 業務実施体制		6
3 談話収集調査の概要		7
第二部 各地の方言談話		9
文字化の基準・記号の見方		1
I 地域の民俗・暮らし		15
I-1 茨城県北茨城市平潟の談話	杉本妙子	17
[CD収録談話] 昔の門松・ドンド焼き・正月の市のこと／ 小正月の嫁の里帰りとナリ木／子どもの頃の遊び		
I-2 茨城県神栖市波崎の談話	佐々木冠・杉本妙子	37
[CD収録談話] 雷の話／正月の行事		
I-3 福島県双葉郡双葉町の談話	杉本妙子	61
[CD収録談話] 正月のお供え、凍み餅、十日市の話／正月 飾り、小正月の稲穂つけの話／正月の雑煮・餅つき のこと／桑畑の話		
I-4 福島県双葉郡楢葉町、他の談話	杉本妙子	101
[CD収録談話] 七五三、立志式、葬式の白鳩／方言の違 いの話		
II 震災の記憶		115
II-1 茨城県神栖市波崎の談話	佐々木冠	117
[CD収録談話] 被害が少なかったこと／津波の話、三陸の 話／神栖の大橋がストップした話など／津波が来たら 波崎はなくなる／関東大震災の時の話／地震、雷 火 事、おやじ／津波は怖い、ダンベが流された／孫を迎 えに行った話、液状化／孫を迎えに行った話／ユニク ロおよび花王石鹸のときの被害／車が流された話／ 千葉のソゴーにいた家族の話／上野から赤羽まで（孫）		

／舟の心配の話／魚の風評被害／松露（キノコ）／東
海村で事故があったら／1週間に2回しか漁に出ること
ができない／この辺は目に見えないものに支えられ
ている

Ⅱ－2 福島県双葉郡浪江町の談話 杉本妙子 169
[CD収録談話] 避難した頃の話

Ⅱ－3 福島県双葉郡双葉町の談話 杉本妙子 177
[CD収録談話] 避難の話

資料 方言文献目録 197

第一部 概要

1 業務の概要

本業務は、文化庁による「平成 25 年度被災地における方言の活性化支援事業の募集」に応募し、採択された事業である。以下、本業務の概要を述べる。

1-1 業務の題目

方言がつなぐ地域と暮らし・方言で語り継ぐ震災の記憶 ～被災地方言の保存・継承と学びの取り組み～

1-2 業務の目的

東日本大震災における被災地域である茨城県沿岸部を中心に福島県浜通りを加えた地域における暮らしとその変化や震災に関わる経験を、地域の文化・絆としての方言で記録し、方言文化資料を保存・継承することが本業務の第一の目的である。また、それらの方言資料等を活用した学びの取り組みとして、地域を再認識するために当該地域の自治体等と連携した取り組みや、方言でつながるコミュニティの活性化のための取り組みを行うことが、本業務の第二の目的である。

1-3 業務の期間

平成 25（2013）年 9 月 20 日～平成 26（2014）年 3 月 31 日

1-4 当該年度における課題項目とその業務実施状況の概略

(1) 被災地の方言を収録・保存するとともに、方言を学ぶ・方言で学ぶ教材を試作する取り組み

この取り組みは本業務における中心的な取り組みである。そこで、以下に、①被災地の方言を収録・保存する取り組み、②被災地である茨城県の方言を学ぶ・方言で学ぶ教材を試作する取り組み、の 2 つに分けて述べていく。

①被災地の方言を収録・保存する取り組み

被災地域の民俗・暮らしや震災時の様子を、地域の方言で収録して方言談話資料を作成した。

地域の民俗・暮らしについての談話資料は、以下の地域について作成した。

- ・茨城県北茨城市平潟
- ・茨城県神栖市波崎（2012 年度の調査データから新たに談話資料としたものを含む）

- ・福島県双葉郡双葉町（情報提供者は茨城県内居住の避難者）
- ・福島県双葉郡楢葉町を中心とする地域（同上）

震災時の様子についての談話資料は、以下の地域について作成した。

- ・茨城県神栖市波崎（2012年度調査データによる）
- ・福島県双葉郡双葉町（情報提供者は茨城県内居住の避難者）
- ・福島県双葉郡浪江町（同上）

②被災地である茨城県の方言を学ぶ・方言で学ぶ教材を試作する取り組み

昨年度の取り組みである「東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する調査研究事業（茨城県）」の成果ならびに本年度の成果（談話資料）を利用しながら、茨城県を知るためのテキストを試作した。テキスト試作版は『しみじみ茨城のことば 茨城の方言を知る・方言で茨城を知るためのテキスト（試作版）』（テキストは別冊）である。内容は、茨城方言の概略説明、方言地図で見る茨城方言、談話資料から見る茨城の民俗であり、実践活動を促すための「課題」と「発展」を加えた。具体的な内容は、以下の目次のとおり。

目次

1 茨城方言の解説

- (1) はじめに
- (2) 発音（音声・音韻とアクセント）の特徴
- (3) 文法の特徴
- (4) 語彙について
- (5) 敬語
- (6) まとめ

2 方言地図で見る茨城の方言

- (1) 全国・東日本の方言地図
- (2) 茨城県と周辺地域の方言地図
- (3) 茨城県内の方言分布

課題1

3 方言で知る茨城の民俗

3-1 茨城方言のあいさつ

- (1) 水戸市下国井町のあいさつ
- (2) 北茨城市大津のあいさつ
- (3) 高萩市高戸のあいさつ
- (4) 日立市のあいさつ
- (5) 大洗町のあいさつ
- (6) 神栖市奥野谷（旧神栖）のあいさつ
- (7) 神栖市波崎のあいさつ

課題2、3 発展①

3-2 昔の子供の遊び

- (1) 北茨城市平潟のかつての子供の遊び
- (2) 神栖市波崎の初午の子どもの行事

課題4 発展②

3-3 生活の中の地名

- (1) 震災と軍民坂の井戸水（水戸市）

(2) 弁天山と砂山（神栖市）

課題5 発展③

参考文献

この（1）の①の取り組みについては、調査地域が当初の計画とは異なり、茨城県内での調査は計画を下回ったが、茨城県内居住の福島県からの避難者対象の調査については談話収集調査の可能性を探るとしていた計画に対して、上記のように3地域に関して実施し、談話資料とすることができた。また、方言を学ぶ・方言で学ぶ教材については試作版を作成することができた。したがって、計画内容の修正はあったものの、成果に関しては計画は十分に達成できたと考えている。なお、テキスト試作版については、関係自治体ならびに茨城大学人文学部と地域連携協定を締結している自治体の教育委員会、中学校等に送付した。それら送付先からの試作版テキストについての評価は、本事業報告の後に、別途、報告することを予定している。また、試作版を使用した教育実践は、平成26年度に茨城大学における教養科目等において行う予定である。（関連課題（4）参照）

(2) 被災地としての茨城方言を「知る、触れる、調べる」ためのウェブページを作成する取り組み

この取り組みについては準備状態である。ウェブページ作成は、業務申請時に報告した業務の構成員はいずれも困難なため、茨城大学内に協力者を求め、現在、進行中である。近日中にウェブページを開設し、茨城方言に関する資料や情報を提供する予定である。ウェブページにアップロードするのは、昨年度ならびに今年度の文化庁委託事業の成果が主なものである。

(3) 被災地としての茨城方言を「知る、触れる、調べる」ための方言資料を閲覧可能な資料として整えて提供する取り組み

上記(2)でアップロードする方言資料や(5)の取り組みで収集した茨城方言を中心とする方言資料について、茨城大学図書館や自治体図書館等に提供するのが、本取り組みである。一部の資料はすでに提供済みであり、今年度の報告書やテキスト等についても、本報告書提出と相前後して提供できる見込みである。

また、それらのほかに、本報告書末に収めている文献目録のみを小冊子形態にまとめて、県内の図書館（郷土資料コーナー等）に収めて利用の便を図る。なお、文献目録の内容は本報告書と重複するので、省略する。文献目録については、目録内の資料を手軽に閲覧あるいは入手できることも、重要である。研究者等を除けば、身近な図書館にほしい文献があることが望ましい。そこで、本業務として、入手可能な茨城方言に関する文献を収集した。それらについて、図書館と連携して利用に供することができるような方策を、今後検討したい。

(4) 被災地としての地域の方言を聞き、学ぶための機会の提供の準備

本業務で行う方言に関する調査の成果を地域社会に還元する取り組みの方策として、方言を聞き、学ぶための機会の提供の準備として、上記（1）に述べたテキスト試作版がある。そのテキストを利用しながら、平成26年度の高等学校での出前授業や茨城大学教養科目での講義・公開授業を予定している。また、その他の教育の機会についても、継続して可能性を探っていく予定である。

さらに、福島県からの避難者と方言で話す場として、今年度は1回、行うことがで

きた。(2014年2月11日) 今後、継続していくための課題を検討しつつ、来年度も行う予定である。

(5) その他、被災地としての茨城方言等を活用するための素材集作りと資料収集

地域の方言を知るための資料として、本年度は大洗町教育委員会生涯学習課と連携して『訳注『郷土大観』所収 方言訛語』を作成した。本資料は、およそ100年前の大洗町の史料である『郷土大観』の中の、方言について記述されている「方言訛語」の章を取り出して、小冊子にまとめたものである。貴重な史料ながら利用されにくいものであったものを、新たに現代語訳と注釈、ならびに収録されている俚言および類語の分布状況等をまとめることによって、利用しやすい形にした。この冊子は、本報告書とともに県内の公共図書館ならびに大洗町内の教育機関に提供する。(冊子は別冊)

また、先行研究・俚言集などの資料収集を行った。特に、自治体等が作成した俚言集や年代の古いもので身近な図書館に収められていない文献を収集した。収集した文献は、複写したものについては抜き刷り形式の小冊子に製本した。このように整理することで、今後、茨城方言の文献の閲覧希望に対応しやすくした。上記の(3)で述べた小冊子化した文献目録とともに、有効活用を図っていきたい。

以上、本業務の課題に沿ってそれぞれの実施状況を述べた。課題と実施とが計画時と異なる点はあるものの、本報告書、別冊の2種の冊子とともに、本業務は総体としては達成できたと判断する。

2 業務実施体制

業務実施体制は次のとおりである。

- ・代表責任者：杉本妙子（茨城大学人文学部教授）
担当内容：業務全体の統括、方言に関する現地調査および史料・資料調査、報告書等の作成、等
- ・副責任者：佐々木冠（札幌学院大学経営学部教授）
担当内容：方言に関する現地調査の分担、報告書作成の分担
- ・実施補助：八木尚美（茨城大学研究補助員（本業務担当））
担当内容：代表責任者の業務の補助全般

業務項目	実施場所	業務担当責任者、実施者、他
(1)被災地の方言を収録 ・保存するとともに、方言を学ぶ・方言で学ぶ教材を試作する取り組み	茨城県内各地（茨城大学、被災市町村、他）	責任者：杉本 妙子 実施者：杉本 妙子 佐々木 冠
(2)被災地としての茨城方言を「知る、触れる、調べる」ためのウェブページを作	茨城大学、茨城県内図書館、他	責任者：杉本 妙子 実施者：杉本 妙子

成する取り組み		
(3)被災地としての茨城方言を「知る、触れる、調べる」ための方言資料を閲覧可能な資料として整えて提供する取り組み	茨城大学、茨城県内図書館、他	責任者 : 杉本 妙子 実施者 : 杉本 妙子 実施補助 : 八木 尚美
(4)被災地としての地域の方言を聞き、学ぶための機会の提供の準備	茨城県内各地（茨城大学、被災市町村、他）	責任者 : 杉本 妙子 実施者 : 杉本 妙子
(5)その他、被災地としての茨城方言等を活用するための素材集作りと資料収集	茨城大学、茨城県内外図書館、他	責任者 : 杉本 妙子 実施者 : 杉本 妙子 実施補助 : 八木 尚美

3 談話収集調査の概要

「1 業務の概要」の「1-4 当該年度における課題項目とその業務実施状況の概略」の(1)「①被災地の方言を収録・保存する取り組み」として行った方言談話収集調査について、調査を行った地点（地域）、調査者、文字化等担当者等は下記のとおりである。なお、下記の地点（（参考）の調査地点を除く）が「第二部」で取り上げる方言談話の地点（地域）である。

(1) 北茨城市平潟

談話収録地点：北茨城市平潟（ひらかた）
調査年月日：2013年12月9日
話者：男性1名
調査員：杉本妙子
文字化等担当者：杉本妙子

(2) 神栖市波崎（その1）

談話収録地点：神栖市波崎（はさき）
調査年月日：2012年9月12日
話者：女性3名、男性1名（補助的談話者として）
調査員：佐々木冠、杉本妙子
文字化等担当者：佐々木冠

(3) 神栖市波崎（その2）

談話収録地点：神栖市波崎（はさき）
調査年月日：2014年2月6日

話者：女性 4 名、男性 2 名（文字化した談話では、女性 2 名、男性 2 名）
調査員：杉本妙子
文字化等担当者：杉本妙子

(4) 福島県双葉郡浪江

談話収録対象地域：福島県双葉郡浪江町（なみえまち）
調査年月日：2013 年 11 月 16 日、11 月 30 日
話者：女性 2 名
調査員：杉本妙子
文字化等担当者：杉本妙子

(5) 福島県双葉郡双葉

談話収録対象地域：福島県双葉郡双葉町（ふたばまち）
調査年月日：2013 年 12 月 24 日、12 月 27 日
話者：男性 1 名、女性 1 名
調査員：杉本妙子
文字化等担当者：杉本妙子

(6) 福島県双葉郡楢葉、他

談話収録対象地域：福島県双葉郡楢葉町（ならはまち）および双葉町
調査年月日：2014 年 2 月 11 日
話者：女性 5 名（文字化した談話では、女性 4 名）
調査員：杉本妙子
文字化等担当者：杉本妙子

(参考) 調査結果を方言談話以外に利用した調査

○神栖市(旧神栖)

談話収録地点：神栖市奥野谷（おくのや）
調査年月日：2014 年 2 月 7 日
話者：男性 2 名
調査員：杉本妙子

第二部 各地の方言談話

文字化の基準・記号の見方

方言談話の文字化の基準ならびに文字化に用いた各種記号について説明する。以下に示すものは、平成 24 年度文化庁委託事業「東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する調査研究事業（茨城県）」に示したものに、加筆修正を加えたものである。参考文献は以下の 2 点である。

『伝える、励ます、学ぶ被災地方言会話集文字化の基準・記号の見方』（川越めぐみ氏、東北大学産学官連携研究員（作成時））

『宮城県沿岸市町村談話資料作成マニュアル 東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する調査研究事業』

（１） 文字化の概要

文字化に当たっては、方言を文字化したものと、それを共通語訳したものを上下段に並べて表記した。方言は上段にカタカナで表記し、共通語訳は下段に漢字かなまじり表記で記してある。なお、基本的には文節で分かち書きをしてある。

方言音声 → 上段、表音的カタカナ表記
共通語訳 → 下段、漢字かなまじり表記

例：ソー ソンデ ホーゲン デダノカシラ。 ← 上段 方言音声の文字化
そう それで 方言 [は] 出たのかしら。 ← 下段 上段に対する共通語訳

（２） 発話者の表示

① 発話の単位

1 人の話者が続けて話している発話で、話者が交替するまでの連続した発話を 1 発話とした。つまり、発話権が交替するまでが 1 発話である。あいづちは別に処理した。

② 発話記号

話者、調査者など、談話の場にいる人物に A、B、C、D～のようにアルファベットで記号をつけてある。

各談話の文字化資料の冒頭には、「話し手」として A、B、C、D～の話者情報を示す。

③ 発話番号

発話の通し番号を、1 発話の話者記号の前に入れてある。

例：001A：～ 012B：～ 123C：～

この通し番号は、一つの話者ごとの通し番号とし、同じ話者による談話でも、話題が変われば通し番号は「001」から始まる番号となっている。

（３） 固有名詞

個人が特定できるような固有名詞、話者名及び一般の人名についてはアルファベットに置き換えてある。

話者 → 「A」「B」などの話者記号を使用

会話中の個人名 → Xを使用。複数出てくる場合は半角数字を後ろに付けて区別

(X_n、n=1、2、3、4～) した。

例：X1 チャン、X2 サント～

会話中の屋号 → Yを使用。Y_n、n=1、2、3、4～

会話中の船名 → Sを使用。S_n、n=1、2、3、4～

なお、歴史上の人物、有名人、話者の個人情報に関係しない会社名その他の固有名詞、地名についてはそのまま記載した。

(4) 文字表記の基準

【方言音声の文字化部分】 (上段)

表音的カタカナ表記を用いた。音声の方言的特色(キの口蓋化、母音の無声化など)は、特に書き分けることはしていない。

長音：「ー」 例：ソーナンダ (×ソウナンダ)

助詞：「は」→「ワ」 例：アレワ ナンダガ

「を」→「オ」 例：コレオ モッテゲ

「へ」→「エ」 例：ガッコーエ イグ

鼻濁音：半濁点を使用してある。

ガ行鼻濁音「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」

入り渡り鼻音は上付き文字を使用「ンダ」

中舌音：どちらかの音声の近いほうを採用した。

例：スに近いシ → 「シ」

シに近いス → 「ス」

「ア」と「エ」の中間の音については「エァ」「アエ」という表記も許容した。

例：「ネァ(ない)」「ナエ(ない)」

四つ仮名：「ジ」「ズ」に統一した。(「ヂ」「ヅ」は使用していない)

例：「アエズ(あいつ)」

【共通語訳部分】 (下段)

意識はできるかぎり行わず、基本的に方言の直訳とした。

漢字かなまじり表記を用いてある。

助詞：ないと読みにくい場合のみ、適宜、補った。補ったものは[]でくくってある。

？：ないと疑問文と判断しにくい場合のみ適宜補った。

長音：感動詞や終助詞などにおいては、基本的に長音記号「ー」を使用した。

(5) 記号の見方

【方言文字化の部分】 (上段)

- 。(句点) : ポーズがあり、意味的に1つのまとまりを持つ文の最後につけた。
- 、(読点) : 基本的に息をついた箇所またはポーズのある箇所に付してある。
読みやすさを重視して付した部分もある。
- () : あいづち。発話権が移っていない時に話をさえぎったり、口を挟んだりした箇所。
例：ソーヤッテ ムガシワネー (B ンダネー) ヤッテダンダー。
- { } : 笑い声、咳払い、間などの非言語音。
例：{笑} {咳} {手を叩く音}
- ~~~~~ : 聞き取れない部分には波線を引いた。
例：オチャズケノ ~~~~~
聞き取りが不十分な部分は、聞こえた音を記した箇所に波線を引いてある。
例：コエズカレデ
- _____ : 発話が重なっている部分には、普通の下線を引く。
あいづちは発話を () に入れ、重なっている部分には下線を引いた。
例：モラッテクダサイ (A ソーダ) (B モラテー)
- ===== : 発話が重なり、かつ聞き取れない部分には、二重下線を引いた。
例：アイズ _____ (B ホンテ) オドゲデネーゴド
発話が重なって聞き取りが不十分な部分は該当箇所に二重下線を引いた。
例：アイズ キタナー (B ホンテ) オドゲデネーゴド
- [] : 注記。[] 内の数字は注記番号。各談話の後に注記をまとめてある。
地域特有の語や表現の意味用法を説明したり、談話に登場する主な人物、場所、屋号、船名などを説明している。その他、特に注意しておきたい音声的特徴などに使用したものもある。
例：ムガシワ サンザンサ [1] エッタゲンド
例：カーチャンノミセ [2]。

【共通語訳部分】 (下段)

- 。(句点) : ポーズがあり、意味的に1つのまとまりを持つ文の最後につけた。
- 、(読点) : 基本的に息をついた箇所またはポーズのある箇所に付してある。
読みやすさを重視して付した部分もある。
- ? : 疑問文であることがわかりにくい箇所に適宜使用する。
例：チョー エギサ エッタナ。
今日 駅に 行ったの？
- () : あいづち。発話権が移っていない時に話をさえぎったり、口を挟んだりした箇所。
例：ヒトグミダケナンダト。(A アー) ダカラ ハヤグ、チッテ。
一組だけなのだと。(A あー) だから 早く、 といって。
- { } : 笑い声、咳払い、間などの非言語音。(一部のあいづちを含む) 「{笑} {咳} {手を叩く音}」のように示す。
例：イチンチグレ ジャナクテ ナンツー {笑} {C 咳}

- 一日ぐらい じゃなくて 何という {笑} {C 咳}
- ×××× : 言い間違いや言いよどみなど、共通語訳ができない部分。
 例：ム ム ムツカシー
 × × 難しい
- ~~~~~ : 聞き取れず、共通語訳も不明な部分には波線を引いた。また、聞き取りが不十分で共通語訳も不十分な部分にも該当箇所に波線を引いた。
 例：ツナミ ~~~~~ ネクテ
 津波 ~~~~~ なくて
- _____ : 発話が重なっている部分には、方言の部分に準じて下線を引いた。
 例 005A : ア。
ああ。
 006B : ソレオ イレデ。
それを 入れて。
- ===== : 発話が重なっており、聞き取れない、または聞き取りが不十分であり、共通語訳も不明な部分には、方言の部分に準じて二重下線を引いた。
 例：ビョーギ _____ (B _____) シタンダ。
 病気 _____ (B _____) したんだ。
- ////// : 対応する共通語訳が不明な部分。
 できるだけ注記を入れるなどして、話の流れはわかるようにした。
 例：モーゼーノ モジナンデスナ。
 // // // 文字なんですね。
- [] : 方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。
 例1 : ミカン ノセテ
 みかん [を] 乗せて
 例2 : ヨメカ° ジッカニ カインノワ ジューコ° ンチダナンテ
 嫁が 実家に 帰るのは [正月の]15日だなんて
- ※ 意味の説明や意識にも使用した。その場合は「=」を付してある。
 例：イマ ユー
 今 いう [=今話題にあがった]

I 地域の民俗・暮らし

【1】昔の門松・ドンド焼き・正月の市のこと

収録時間 5分50秒

話し手

A 男 1947 (昭和 22) 年 (収録時 66 歳) 水産業
B 女 1957 (昭和 32) 年 (収録時 55 歳) (調査員)

001A : ショーガズーワ (B ハイ) ショーガズーワ アノ カドマズー
そうだねー (B はい) 正月は あ の 門松

(B ハイ) カダッタンネー。(B エー エー) カドマズツッテモ
(B はい) 飾ったんねー。(B えー えー) 門松と言っても

ココラヘンノ カドマズワ チョット チカ° ーデスヨ。(B エー) イッポン
ここら辺の 門松は ちょっと 違うのですよ。(B えー) 一本

キー サシテ、 ソンデ アノー マズオ シバッテ クイ ブッテネ。
木[を] 挿して、 それで あのー 松を 縛って 杭[を] 打ってね。

(B エー) ソンデ オサガキ ヤッテ ソレカ° ニホン、 アノ ウチノ
(B えー) それで お榊[を] やって それが 2本、 あの 家の

マエニ ニホン サシタンデスヨ。
前に 2本 挿したんですよ。

002B : サキニ ボーオ ウッテ?
先に 棒を 打って?

003A : タケノ ボージャナグ
竹の 棒じゃなく

004B : キデスカ。
木ですか。

005A : シ キ。 クイ クイナンデスヨ。(B クイオ ウッテ) シ クイデ ブッテ、
ん 木。 ×× 杭なんですよ。(B 杭を 打って) ん 杭で 打って、

(B エー) ソンデ ソコサー _____ マズノキオ シ シバツテ (B エー)
(B える) そんで そこに _____ 松の木を × 縛って (B える)

ソンデ オサカキオ シバツテ (B エー) ソンデ ショーカ° ツ ムガエンノ。
それで お榊を 縛って (B える) それで 正月[を] 迎えるの。

006B : ハーア。 マツワ アノー ドー ドーユフーニ コー ワレテ
はーあ。 松は あのー ×× どういうふう こう [枝が]割れて

007A : フツ フツノ アノー
×× ふつうの あのー

008B : ミッツ ミッツ グライニ (A ン。 ン) ワカレテルトカ ヨッツ
××× 3つ ぐらいに (A ん。 ん) 分かれてるととか 4つ

009A : シー ダイタイネー イチメーターチョットゲ。
んー だいたいねー 1メーターちよっとかい。

010B : ア ケッコー デッカイデスネー。
あ けっこう でっかいですネー。

011A : シー。 イジメーター ンダネ イジメーターニサンジューグライガナー ンー。
んー。 1メーター そうだね 1メーター2・30[センチ]ぐらいいかなー ンー。

ソー ヨラへ マズオ コー カザッタワケナンダ ニホン。(B ハーア)
[家の前の] そこらへ 松を こう 飾ったわけなんだ 2本。(B はーあ)

ソンデー ショーカ° ズ オワッテ、 アノー ソレ モスニ ナノガゲ。
それで 正月[が] 終わって、 あのー それ 燃すのに 7日か。

012B : ア ナノカニ。
あ 7日に。

013A : ンー。(B ハイ) ナノガ ヨーカゲ。 ヨーガノ アサ。 ナナクサ ア
んー。(B はい) 7日 8日か。 8日の 朝。 七草[粥] あ

ナナク ナナクソ オワ
××× 七草 ××

014B : ナナクサ ナナクサワ ナノカデスネー。
七草 七草は 7日ですネー。

015A : ネー ナノカ メシ クッテ ソレー ナカクサカ° ユ ク タベテガラ
ねー 7日の 飯[を] 食って それ[が] 七草粥 × 食べてから

アノ モヤシニ イッタト オモッタナ。(B ハーア) ソレオ
あの 燃やしに 行ったと 思ったな。(B はーあ) それを

ドンドヤギツツンダイネ。(B ドンドヤキ) ンー。 コ
どんど焼きっていうんだよね。(B どんど焼き) んー。 ×

016B : ドンドヤキワ ドコデ ヤリマシタカ。
どんど焼きは どこで やりましたか。

017A : ソゴノ マエノ トゴデ [1]。 コノ コノ ブラクワ (B エー) ココノ
そこの [家の]前の ところで。 この この 部落は (B えー) ここの

ソゴノ マエノ トゴデ。
そこの 前の ところで。

018B : ジャ モー ウミガ スグ メノマエツテユー アタリデ。
じゃ もう 海が すぐ 目の前っていう 辺りで。

019A : ソー。 ンー。
そー。 んー

020B : コノブラクワ ドコマデオ サシマスカ。
この部落は どこまでを 指しますか。

021A : コノ カド ソゴノ カドントゴマデ。
この 角 そこの 角のどこまで。

022B : ジャ アッチノホー ワ アノ コー ワンノアタリノ ムコーノホーワ
じゃ あっちの方 は あの こう 湾の辺りの 向こうの方は。

023A : ムコーノホーワ ハジマンサマノホーサ イグノ。
向こうの方は 八幡様の方に 行くの。

024B : マエワ ハチマンサマワ コッチニ アリマシタヨネー。
前は 八幡様は こっちに ありましたよねー。

025A : ンート ハチマンサマツテネ
んーと 八幡様ってね

026B : イ イマ イマデモ アノー ソ ソ エー。
× 今 今でも あのー × × えー。

027A : オヤシロ アリマス。 ンー ソンダットー ホトンド ムコーサ ミンナ
お社[が] あります。 んー そうだけれど ほとんど 向こうに みんな

モッテッチャッテ。 ンー。
持って行っちゃって。 んー。

028B : ソコノ ハチマンサマノ トコロデ ヤルッテワケデワナクテ。
そこの 八幡様の ところで やるというわけではなくて。

029A : ンー。 シロツパデ スナハマデ ムガシワ ヤッタンダ。
んー。 広っぱで 砂浜で 昔は やったんだ。

030B : へーエ。 アッ スナハマデ ヤッタンデスカ。
へーえ。 あっ 砂浜で やったんですか。

031A : ンー。 マエ ムガシア スナハマデ ヤッタノ。(B ジャ イ) ソゴ
んー。 前 昔は 砂浜で やったの。(B じゃ ×) そこ

マエノトコ ス スナハマダッタガラ。
前のところ × 砂浜だったから。

032B : エー。 イマ テトラポットツテユーカ イー イー
えー。 今 テトラポットっていうか ×× ××

033A : ンーヤ テトラポットツテ イマ ウメタテンナッチャッテンダ。
いいや テトラポットって 今 埋め立てになっちゃっているのだ。

034B : アッ ウメタテテ アレ ウメタテテッテコトワ タテモノガ ソコ
アッ 埋め立てて あれ 埋め立ててということは 建物が そこ

タッテル トコロデスカ。
建っている ところですか。

035A : チカ° ー チカ° ー。 ムゴー マッシュョーメン。
違う 違う。 向こう 真正面。

036B : コッチガ
こっちが

037A : ンー。
んー。

038B : ジャー アノ ハチ フルイ ハチ
じゃー あの ×× 古い ××

039A : コッチ コッチワ モー ウミダカラ (B エー) ムガシワ。
こっち こっちは もう 海だから (B えー) 昔は。

- 040B : ジャ フルイ ハチマンサマノ スグ ヒダリテアタリデスネ。
 じゃ 古い 八幡様の すぐ 左手辺りですね。
- 041A : ソー シダリテノ マエノホー。(B ヘー) ダ イマノ ヤグシサマケ。
 そう 左手の 前の方。(B ヘー) だから 今の 薬師様かい。
- ヤグシサマノ シタノホーデ (B アー) ンー アソゴデ ドンドヤギッテ
 薬師様の 下の方で (B あー) んー あそこで どんど焼きって
- ヤッタンダ ムガシ。
 やったんだ 昔。
- 042B : ヘーエ。 ナンゲングライガ アツマッテタンデスカ コノアタリワ。
 ヘーえ。 何軒くらいが 集まってたんですか この辺りは。
- 043A : ソレワネ チューカ° ッコー ナッカ ナンネーカダナー オレカ°。 ダ
 それはね 中学校に なるか ならないかだなー 俺が。 だから
- ショーワ サンジューコ° ネンコロマデケ。(B アー) イマデモ
 昭和 35年頃までかい。(B あー) 今でも
- ドンドヤギツツーノア ヤッテルヨ。 コノ カドマズワ ショーワ
 どんど焼きっていうのは やってるよ。 この 門松は 昭和
- サンジューコ° ネン コロマデダナ。
 35年 頃までだな。
- 044B : アッ カドマツガ。
 あっ 門松が。
- 045A : ンー。 ドンドヤキワ イマデモ (B ドンドヤキ) ヤッテマス。 ンー。
 んー。 どんど焼きは 今でも (B どんど焼き) やってます。 んー。
- 046B : クイニ コー マツオ
 杭に こう 松を
- 047A : ソー。
 そう。
- 048B : デ コレニ サカキ、 サカキモ。(A ンー) サカキモ コー
 [それ]で これに 榊、 榊も。(A んー) 榊も こう
- 049A : クイ クイ ブッテー、(B エー) ンー ソンデ コー シバツテ、 ンー
×× 杭[を] 打って、(B えー) んー それで こう 縛って、 んー

サガギト マズデ ヤッタンダ。
榊と 松で やったんだ。

050B : ソノ マツワ ドコカラ モツテキタンデスカ。
その 松は どこから 持ってきたんですか。

051A : マズワ アノ ジューニカ° ズネー ニジューシチンチガ
松は あの 12月ねー 27日か

ニジューハチンチゴロンナット イジツツンノ アッタンデスヨ。
28日頃になると 市っていうの あったんですよ。

052B : アッ モイッカイ。
あっ もう一回。

053A : イチ
市。

054B : イチ。
市。

055A : ンー、 ショーカ° ツノ イジカ°。(B ハイ) ジューニカ° ツダ
んー、 正月の 市が。(B はい) 12月だ

ニジューシチガ ニジューハチダッタナー タブン。 ソレカ° イジカ°
27日か 28日だったなー たぶん。 それが 市が

アッテー ソ ソコデ ウツテタンデスヨ。(B へー)
あって × そこで 売ってたんですよ。(B へー)

ニキ° ヤカカダッタダヨ。(B ソーデショーネ) ズーット ソーユー
にぎやかだったんだよ。(B そうでしょうね) ずーっと そういう

ミセカ° ネ ジュッケンクライ デテ。
店がね 10軒くらい 出て。

056B : エー。 ソレワ アノ アノー ワンゾイニ イチガ
えー。 それは あの あのー 湾沿いに 市が

057A : ワンゾイニ ンー。 ソ サンバシツター トコデー。
湾沿いに んー。 そう 栈橋っていう ところで。

058B : {つぶやき声} ソレ トクニ ナニナニイチツテユー ナマエワ
{つぶやき声} それ 特に 何々市っていう 名前は

ツイテタンデスカ。
ついてたのですか。

059A : ヤ ツイデネーナー。
いや ついていないなー。

060B : タダ イチ。
ただ 市。

061A : ンー。(B モー _____) タダ ショーカ° ツノ イジーダカラ。
んー。(B もう _____) ただ 正月[用の品物を売る]の 市だから

(B エー) ダ ケッキョクワ ハンモートガ (B ハイ) ソーユー
(B えー) だから 結局は 刃物とか (B はい) そういう

ハモノトガネ アノー アレ ナンダ アノー ナリ [2] アレ ヨグ アノ
刃物とかね あのー あれ なんだ あのー ナリ あれ よく あの

ナンツノ。 ナリ ナン ナンツンダッペナー。
なんていうの。 ナリ ×× なんていうんだろーなー。

<電話の音 省略>

ナ ナ ク クマデツツノケー。(B アッ)ン クマデトガ ハコ° イダトガ。
× × × 熊手っていうのかい。(B あっ)ん 熊手とか 羽子板とか。

062B : カザリガ ツイテル
飾りが ついてる

063A : カザリ、 ンー。
飾り、 んー。

064B : フククマデ デスネー。
福熊手 ですなー。

065A : ンー、 ソーユヤツモ ウッチタンダー。(B ンー) アド ナリ ナリ アノ
んー、 そういうやつも 売ってたんだ。(B んー) あと ナリ ナリ あの

コー ナンツノ クマデ イマ クマデミタクナッテケンド コー
こう なんていうの 熊手 今 熊手みたいになってるけれど こう

フクブグロトガ ナイガ ツイテルヨーナ。
福袋とか 何か ついてるような。

- 066B : コーユー {絵を描きながら}
 こういふ {絵を描きながら}
- 067A : ソー、 カザリ。 アノー (B エーエ) エビスサマトガ (B エー エー)
 そう、 飾り。 あのー (B えーえ) えびす様とか (B えー えー)
- ソナ イロンナ ス コバントガ
 そんな いろんな × 小判とか
- 068B : コー コーユーノデスヨネ。 {絵を見ながら}
 こう こういふのですよね。 {絵を見ながら}
- 069A : シ ソー ソー。
 ん そう そう。
- 070B : デ ココニ コー イロンナノガ ツイテタリトカ。
 で ここに こう いろんなのが 付いていたりとか。
- 071A : シ ソー。 ソー ソーイヤズモ ウツテタンデスヨ。
 ん そう。 んー そういふやつも 売ってたんですよ。
- 072B : コレ フク アレッ フクザサデシタツケネー。 ナンデシタツケネー。
 これ ×× あれっ 福笹でしたっけねー。 なんてしたっけねー。
- 073A : ナリ ナリーコマトガ ナン ナリトガナントガ ユンダイネ ソレネ。
 ナリ ナリコマとか ×× ナリとかなんとか いうのだよね それね。
- 074B : ナリ。
 ナリ。

注

[1] ソゴノ マエノ トコデ

どんど焼きを行った場所。昔は、話し手の家の海の近くに砂浜があり、そこで、この部落のどんど焼きが行われた。現在はその砂浜は埋め立てられて、ない。

[2] ナリ

ナリキのこと。ナリキは繭玉をつけた木。この後の談話に出てくるのだが、平瀨の繭玉は繭に見立てた丸い餅をつけるのではない。詳しくは「【2】小正月の嫁の里帰りとナリ木」を参照。

《写真》北茨城市平潟

上：話し手宅の近く。どんど焼きは、写真手前右手にあった砂浜で行った（草むらになっているところは、津波で家が流された跡）

下：八幡様から見た平潟湾



【2】小正月の嫁の里帰りとナリ木

収録時間 4分20秒

話し手

A 男 1947 (昭和22)年 (収録時66歳) 水産業
B 女 1957 (昭和32)年 (収録時55歳) (調査員)

001A : ソッデー ヨメワ ヨメカ° ジッカニ カインノワ ジューコ° ンチダナンテ
それで 嫁は 嫁が 実家に 帰るのは [正月の]15日だなんて

オレゲノ ヨメ ユワレチャッテ シンセキノ オバチャンカラ。
俺の家の 嫁[は] 言われちゃって 親戚の おばちゃんから。

002B : ジューゴニチ。
15日。

003A : コショーカ° ズダネ。
小正月だね。

004B : エー エー。
えー えー。

005A : ンー コショーカ° ツニー ヨメ ヨメノ ヨメワ ジッカニ カイルモンダッテ。
んー 小正月に ×× ××× 嫁は 実家に 帰るもんだって。

006B : ジッカニ カエル オヨメサンワ ナニカ (A ンー) トクベツニ オミヤゲオ
実家に 帰る お嫁さんは 何か (A んー) 特別に お土産を

モッテクンデスカ。
持って行くのですか。

007A : イヤ ソレ ワガンネー。 オミヤケ° ナンカ モッテガンメー ジッカニ
いや それ[は] わからない。 お土産なんか 持って行かないだろう 実家に

カインノニ。
帰るのに。

008B : ジャ X1 [1] サンノー アノー オクサンワ。
じゃ X1さんの あのー 奥さんは。

009A : イヤ オラ オラワ モー モー ショ ショーカ° ツンナッター カッタカラ。
いや ×× 俺は もう もう ×× 正月になったら [嫁は]帰ったから。

(B アー ソーナン) ソ ソンデ ウジノ ホンケノ (B エー)
(B あー そうなん) × それで 家の 本家の (B えー)

ホンケノ オクサンカ° ユッタワゲダヨ、 オレケ° ノ ヨメニ。(B エー)
本家の 奥さんが 言ったわけだよ、 俺の家の 嫁に。(B えー)

ヨ ヨメワ ヨメニ キタラ ジューコ° ンチニ コシヨーカ° ツニ
× 嫁は 嫁に 来たら [正月]15日に 小正月に

カインダッテ。{笑} イマデモ イマデモ ユー。{笑}
帰るんだって。{笑} 今でも 今でも 言う。{笑}

010B : イマデモ ソー イッテ カエッテクル、 カエリマスカ。
今でも そう 言って 帰ってくる、 帰りますか。

011A : イヤ モー チッカデワ [2] モー オヤ イナグナッチッタカラ
いや もう 実家では もう 親[は] いなくなってしまったから

イガネ アノ イガナクナッチャッタシ。 カオダシニ イグダゲデ (B エー)
行かない あの 行かなくなっちゃったし。 顔出しに 行くだけで (B えー)

スク° カエッテキチャーシ。 ムカシャー トマリニ イッタッペーヨ、
すぐ 帰ってきちゃうし。 昔は 泊まりに 行っただろうよ、

(B エー) トマリ ニ イグノカ° タノシミダッタッペーヨ。
(B えー) 泊まり に 行くのが 楽しみだっただろうよ。

012B : ソーデスネー (A ンー) ナカナカネ デテ イケナイシ (A ンー) ヨメワ。
そうですねー (A んー) なかなかね 出て 行けないし (A んー) 嫁は。

コシヨーガツニ トクベツナ カザリツケトカ。
小正月に 特別な 飾りつけとか。

013A : カザリツー コ ナンツッタツケ? ナリキ° ナリキ° ナリキッテ
飾りという × 何て言ったっけ? ナリ木 ナリ木 ナリ木って

ユーンダヨナ。(B ソーデスネ) ナリキッテ ウジデ ヤットンダヨ。(B ンー)
言うんだよな。(B そうですね) ナリ木って 家で やったんだよ。(B んー)

アノー キー ヤッテ ソンデ _____ モジオ カラメテネー。
あのー 木を やって それで _____ 餅を からめてねー。

014B : エー、 ソノ モチノ カタチワ ドーユ カタチデスカ。
えー、 その 餅の 形は どういう 形ですか。

015A : コーユ ナケ° ー モチダヨ。
こういう 長い 餅だよ。

016B : アー ヤッパリ ホソナガイノー。
あー やっぱり 細長いのを。

017A : ホソナカ° インダヨ。 ソノ ソノ キサ コー ヤッタノ。 アノ マルイ
細長いんだよ。 その その 木に こう やったの。 あの 丸い

ヤズデネーカラネ。(B エー) ホソナカ° ク キッター (B エー) ソンデ
やつでないからね。(B えー) 細長く 切って (B えー) それで

コー クルクル クルクル マルメタンダ キニ。(B ホソイ) コ コーユ
こう くるくる くるくる 丸めたんだ。 木に。(B 細い) × こういう

キダヨ。 ナンボンモ コーユーフニ コーユ オーキー キカ° アッテ
木だよ。 何本も こういうふうに こういう 大きい 木が あって

(B エー) コ キダナ。
(B えー) こう 木だな。

018B : ンー? コー エダニ コー イッパイ デテルンデスカー。(A ソー)
んー? こう 枝に こう いっぱい [枝が] 出てるんですかー。(A そう)

デ コー ワカレテルワケデ。(A ンー) デ コーユ トコロニ
[それ]で こう 分かれてるわけで。(A んー) [それ]で こういう ところに

ソノ ホソナガイノ コー タンザクミタイ
その 細長いの こう 短冊みたい

019A : タンザクデネー。 ン ン キサ マルメンダ。
短冊でない。 ん ン 先[を] 丸めるんだ。

020B : アッ キニ マルメル。
あっ 木に 丸める。

021A : ンー。 キニ クッツゲデ。
んー。 木に くっつけて。

022B : ジャ コーユ トコロニ コー クルクルクルット (A ソー ンー)
じゃ こういう ところに こう くるくるくると (A そう んー)

クルクルクルット コ。(A ンー) ソノ イッポンノ オーキサワ
くるくるくると こう。(A んー) その 1本の 大きさは

031A : シ コ コーハクノ マユダマダーネーンド。(B アー) コーハクノ モチデー
ん × 紅白の 繭玉じゃないんだ。(B あー) 紅白の 餅で

032B : コーハクノ モチデ、 ア ヤッパリ コーハクデスカ。
紅白の 餅で、 あ やっぱり 紅白ですか。

033A : シー、 コ シー コーハクノ モチデー (B エー) ケッキョクワ コノ キニ
んー、 × んー 紅白の 餅で (B えー) 結局は この 木に

コー マルメデ (B アー) ヤッタ トモッタナー。 タブン モー オヤノ
こう 丸めて (B あー) やった と思ったなー。 たぶん もう 俺らの

オエヨリ [5] トークレ シタ モー ヤッテメー。
俺のより 10[歳]くらい 下[は] もう やってないだろう。

034B : ヤ モー ヤラナクナッチャッタ。
いや もう やらなくなっちゃった。

035A : シー オイヤヨリ ジュッコ シタノモナ ワガンネーナー タブン。
んー 俺らより 10こ 下のもの[は] わからないなー たぶん。

036B : ジャー X1サンーガ コドモノコロワ ヤッテタ_____。
じゃー X1さんが 子どもの頃は やってた_____。

037A : コドモノゴロワ ヤッタノ。 アノー ケッキョグア アノ トコナメニ
子どもの頃は やったの。 あの一 結局は あの 床の間に

カザッテネー。(B ハイ) トコノマニ カザッタンデスヨ。(B エー) ソレー。
飾ってねー。(B はい) 床の間に 飾ったんですよ。(B えー) それ。

038B : ア ゲンカングチジャナクッテ、 トコ
あ 玄関口じゃなくて、 床の間

039A : ゲンカンジャナグ トコノマ トコノマイ カザッタノ、 コノ
玄関じゃなく 床の間 床の間に 飾ったの、 この

ナリッキツツンナ。
ナリ木っていうのな。

注

[1] X1

人名。話し手A。

[2] チッカデワ

「チ」の発音は、チとジの中間の音。

[3] シタ

餅をつけた枝を立てるための台になる木のこと。

[4] デテキテイテー

北茨城のことばとまとめた『方言事典』(北茨城民俗学会 2003)に「なりぎのき」で、「<成り木の木>(植物)ウルシ科ヌルデ。小正月に繭玉や紅白の餅を飾る木。」と出ていること。

[5] オヤノ オエヨリ

「オヤ」「オエ」の発音は、「オイヤ」の融合音。ラ行子音の脱落による音変化によるものか。このすぐ後のAの発話の「オイヤ」も同様と考えられる。

【3】子どもの頃の遊び

収録時間 3分7秒

話し手

A 男 1947 (昭和 22) 年 (収録時 66 歳) 水産業
B 女 1957 (昭和 32) 年 (収録時 55 歳) (調査員)

001A : イヤ シトバンワ イネーナー。 シルマ シルマ イッケント。(B エー)
いや 一晚は いないなー。 昼間 昼間 いるけれど。(B えて)

コヤ トル トル アノ スーッテ [1] イッタンネ。(B ンー。 ス トリ)
小屋 ×× ×× あの 「す」って 言ったんね。(B んー。 す 鳥)

アソビ アソビダヨ。(B エー) ン。
遊び 遊びだよ。(B えて) ん。

002B : トリノスノ スト オンナジデスカ。
鳥の巢の 巢と 同じですか。

003A : ンー。 ソーイ アノ アノー スミダーラデー (B エー) カゴッテ、
んー。 そういう あの あのー 炭俵で (B えて) 囲って、

(B エー) ソンデ シルマ ソゴ ソゴニ ヤスミントキナンカ ソゴニ
(B えて) そんで 昼間 そこ そこに 休みの時なんか そこに

イロナゴト ヤッテー アスンデタンダナー。
いろんなこと やって 遊んでたんだなー。

004B : スミダワラデスカ。
炭俵ですか。

005A : ンー スミダワラ ッテ イマノ アノ アダヨ ムシロミデーナン
んー 炭俵 って 今の あの あれだよ 筵みたいなの

ヤツデネーヨ、 アレワ。 マット アレー ヤツデ デキテル
やつでないよ、 あれは。 もっと あれ やつで できてる

ヤツナン ネ。 ナンツンダー アレ、 アレワ カヤガ、 カヤ
やつなん ね。 何と言うんだ あれ、 あれは 茅か、 茅

カヤミデーノデ (B エー) アンダンダネ。 アスビツター ソレダノ
茅みたいので (B えて) 編んだの だね。 あそびっていう それだの

カンケリダノ (B ハイ) テダシ [2] ダノ。
缶けりだの (B はい) 手出し だの。

006B : テダシッテ ナンデスカ。(A ン?) アッ テダシッテユノワ。 カンケリ。
手出しって 何ですか。(A ン?) あっ 手出しってというのは。 缶けり。

テダシデスカ。
手出しですか。

007A : テー コーヤッテ (B エー) コー モノカケ° ニ カグレデ
んー。 手[を] こうやって (B えー) こう 物蔭に 隠れて

(B エー) ソッデ オニ オニンナッテ、(B エー) ソンデ コーヤッテ
(B えー) それで ×× 鬼になって、(B えー) それで こうやって

テー シッコメダラ コンド オッカケンダヨ。 ソンデ タッチ シル
手[を] ひっこめたら 今度 追いかけるんだよ。 それで タッチ ××

スルマデ オッカケンノ。{笑} ココラヘンニ アノー フ アノ フ フネデ
するまで 追いかけるの。{笑} ここら辺に あのー × あの × 船で

ツカー (B エー) アミナヤダナンカ アッタカラ、(B エー) ソゴサ ミンナ
使う (B えー) 網とかなんか あったから、(B えー) そこに みんな

カグレテンノ。
隠れてんの。

008B : モノカゲニ カクレテ テダケ ダスンデスカ。
物蔭に 隠れて 手だけ 出すんですか。

009A : テー コーヤッテ モノカケ° ー カグレテ (B エー) ソーデ テー ダシテ、
手[を] こうやって 物蔭[に] 隠れて (B えー) それで 手[を] 出して、

(B エー) ソンデ ケッキョクア サンジューメーターグレ ハナレデ
(B えー) それで 結局は 30メーターぐらい 離れて

(B エー) イ インダヨ。 ソレデ テー シッコメタラ コンダ
(B えー) × いるんだよ。 それで 手[を] ひっこめたら 今度は

オッカケンデー。 ソレ オニン ナッタ モノガ。(B エー) ソンデ
追いかけるんだよ。 それ 鬼に なった 者が。(B えー) それで

イジバン サギニー ツカメタ モノカ° コンダ オニン ナルワゲダ、 ンー。
一番 先に 掴まえた 者が 今度は 鬼に なるわけだ、 んー。

ソンドート ダイタイ イチンチ オニン ナツタラ イチンチ オニダカラ。
それだと だいたい 一日 鬼に なったら 一日 鬼だから。

モー イツラ [3] ノホーニ アスビー イッチャンダヨ ミンナシテ。
もう 五浦のほうに 遊びに 行っちゃうんだよ みんなして。

010B : {笑} オ オニ ホッポットイテ デスカ。
{笑} × 鬼[を] 放っておいて ですか。

011A : オニ ホッテ。{笑}
鬼[を] 放って。{笑}

012B : ヤ ソノ テダシッテ ユノワ ハジメテ キキマシタ。
いや その 手出しって いうのは 初めて 聞きました。

013A : ンー？
んー？

014B : ヤー テ
いや 手

015A : アド アド ケーカイセンテユー [4] ヤ アスビ アツタンダヨ。
あと あと 警戒船ていう × 遊び[が] あったんだよ。

016B : ア ソレモ キータコト ナイデスネ。
あ それも 聞いたこと ないですね。

017A : {笑} コレ フ アノ フネノ ヤズダガラネ。
{笑} これ × あの 船の やつだからね。

018B : エー。 ケーカイセン。
えー。 警戒船[ごっこ]。

019A : ンー。 ソレワー シトリ イ マイノ モノワ ア アノ ツナー ツナオ
んー。 それは ひとり × 前の 者は × あの 綱[を] 綱を

ヤッテー、 ソッデ ウシロデ ソーサスルワゲダ。(B アー) ソーデ オニガ
やって、 それで 後ろで 操作するわけだ。(B あー) それで 鬼が

キット ホー サッカイ ズンズンズーンと シッパルト ゼンソクリョクデ
来ると そう ~~~~~ ズンズンズーンと 引っ張ると 全速力で

ハシルワケ ミンナ。{笑}
走るわけ みんな。{笑}

020B : ケーカイセンノ センワー フネデスカ。
「ケーカイセン」の 「セン」は 「船」ですか。

021A : ンー？
んー？

022B : ケーカイセンノ センワ フネデスカ。
「ケーカイセン」の 「セン」は 「船」ですか。

023A : フネダヨ、 ケーカイセンテ。 ダー フタリデ ヤッター (B エー) ソンデ
船だよ、 警戒船て。 だから 2人で やって (B えー) それで

ヤッパ オニカ° イルワケナнде、(B エー) ソンデ オニモ コーアッテ
やっぱり 鬼が いるわけなんで、(B えー) それで 鬼も こうやって

フタリデ ヤッター、(B エー) ソンデ シ タッチシット マタ ソノ
2人で やってー、(B えー) それで × タッチすると また その

イチバン サギ タッチシタ モンカ° オニン ナルワケダ。
一番 先[ニ] タッチした 者が 鬼に なるわけだ。

024B : コノ ケーカイセンモデスカ。
この 警戒船もですか。

025A : ケーカイセンゴッコ。
警戒船ごっこ。

注

[1] スーッテ

「ス」は、子どもの遊びの名前。巢。小屋を作って、昼間、そこで遊ぶが、一晩、そこで過ごしたりはしない。

[2] テダシ

手出し。子どもの遊びの名前。隠れん坊のような遊びで、鬼が隠れて手だけを出す他の子にタッチして掴まえる。タッチされたら、その子が鬼になる。

[3] イツラ

五浦。北茨城市内にある景勝地。

[4] ケーカイセンテユー

「ケーカイセン」は、子どもの遊びの名前。2人で組になり、綱でつながって船のまねをしながら、鬼から逃げる。鬼にタッチされたら、その2人が鬼になる。

I - 2 茨城県神栖市波崎の談話（その1）

佐々木 冠

【1】雷の話

収録時間 57秒

話し手

A	女	1938（昭和13）年	（収録時74歳）	元水産加工業
B	女	1936（昭和11）年	（収録時75歳）	元水産加工業
C	女	1939（昭和14）年	（収録時73歳）	元水産加工業

001B：イーベワ アノ カミ カミナリー（C、A カミナリー）コノ チカクサ
タベは あの ×× 雷 （C、A 雷） この 近くに

オッコッタノ。タマケ°ダ、オラ。
落ちたの。びっくりした、俺は。

002A：アレワ スコ°ガッタナー。
あれは すごかったなー。

003B：ビビビビ、ヒカッテ、パット ヒカッテ、コゴ アゲデデネ、アゲデ
びびびび、光って、ぱっと 光って、ここ 開けていてね、開けて

ネットタ、ホンドギヨ。パット ヒカッテヨ。
寝ていた、そのときよ。ぱっと 光ってよ。

004C：デ ウジデ ゼンブネー ジーチャン [1] カ° ヨージンブガイガラ ゼンブ
で うちで 全部ねー 爺ちゃんが 用心深いから 全部

シメッチャッタノ。センメンジョダゲ アイデダノ。ネ シタツケネ
閉めちゃったの。洗面所だけ 開いていたの。ね そうしたらね

センメンジョカ° ミズビダシデヨ。
洗面所が 水浸しでよ。

005A：キタアメダッタノガ。
北雨だったのか。

006C：コッチ X1ノ アイダ
こっち X1の 間

007A : イナサガ。
いなさか。

008C : イナサ。
いなさ。

009A : イナサダッタノガ。
いなさだったのか。

010C : ダカ° ヨ ダイドゴロワ ダイジョブダゲドモ
だがよ 台所は 大丈夫だけれども

(B ショーカ° ネーダモンナー) センメンジョカ° ビッショビシヨ。
(B しょうがないんだものな一) 洗面所が びしょびしょ。

011A : キノー ホラ ケーッテクルッコロカラ シカッテダッペヨ。
昨日 ほら 帰ってくるころから 光っていたらろうよ。

012B : シカッテダッテ オモッタラ、パーッテ。オラ ソゴラサ
光っていたって 思ったら、 ぱーって。俺は そこらに

オッコッタデネーノ カミナリカ° ッテ イッテダダヨー。 ダゲドモヨー、
落ちたのではないの 雷がって 言ったたんだよー。だけれどもよー、

マダ ソレガラ パーンッテ ナッタッペー。(A ンダナー)
また それから ぱーんって なっただらう。(A そうだな一)

013C : ンダガラ マジノヨー アレ〔2〕デ オギダシテミダッケ イジジー
だから 町のよー あれで 起き出してみたら 1時

ヨナガノ イジジ ニジュップンニー ゴーウ アノ カミナリド
夜中の 1時 20分に 豪雨 あの 雷と

オーアメコーズイケーホーカ° デデダノ。
大雨洪水警報が でていたの。

注

〔1〕 ジーチャン
この場面では自分の夫を指す。

〔2〕 アレ
街頭放送のことを指す。

【2】正月の行事

収録時間 8分50秒

話し手

A	女	1938 (昭和13)年	(収録時75歳)	元水産加工業
B	女	1936 (昭和11)年	(収録時77歳)	元水産加工業
D	男	1937 (昭和12)年	(収録時76歳)	漁師
E	男	1942 (昭和17)年	(収録時71歳)	元漁師
F	女	1957 (昭和32)年	(収録時56歳)	(調査員)

001F : アノー エト オショーガツノ ハナシオ コンカイワ スコシ {カップの音}
あのー えと お正月の 話を 今回は 少し {カップの音}

オシエテモライタイト オモッテタンデスケド。
教えてもらいたいと 思ってたんですけど。

002B : マーマー ショーカ°ズ
まーまー 正月

003A : ショーカ° ツ ナニ^ア。
正月 何が^ア。

004F : オショーガツノ ジュンビカラ ハジマッテ (A ンー) タトエバ
お正月の 準備から 始まって (A んー) 例えば

オショーガツノ タベモノトカ コノアタリノ オゾーニワ ドンナ
お正月の 食べ物とか このあたりの お雑煮は どんな

オゾーニカトカ。
お雑煮かとか。

005B : アー アー アー。
あー あー あー。

006A : アー アー アー アー アー。
あー あー あー あー あー。

007F : アト コシヨーガツモ。
あと 小正月も。

008D : _____

009E : コノヘンワ コシヨーカ° ツッテ ヤンネ。
この辺は 小正月って やらない。

010A : コシヨーガツ ココラ ヤンネド。 (F ヤンナイ) ン。 ン。
小正月 ここは やらないぞ。(F やらない) ん。 ん。

011E : _____

012A : ア ヤンネ。 ヤンネ。
あ やらない。 やらない。

013F : ジュー ジューゴニチワ?
××× 15日は?

014E : ヤンナイヨ _____
やらないよ _____

015B : ジューコ° ンチワ シルコ [1]。 アンコ (A ンー) アンコデネ。
15日は 汁粉。 餡子 (A んー) 餡子でね。

016A : オソナエオー (B ンー) クズシテー (F エー) シ アンコ シルコ。
お供えを (B んー) 崩して (F えー) × 餡子 [で] 汁粉。

017E : ソレデ アレ アレ ヤッペ アノー ンー カザリツケノー (B ンー)
それで あれ あれ やるだろう あのー んー 飾り付けのー (B んー)

シメナワオー ドー アレ アレオ ヤイ ヤイデー
注連縄を [注連縄] とー あれ あれを ×× 焼いて

018A : ンー。 マメノカスデ
んー。 豆の粕で

019E : ソー マメ マメノ マメノ カスオー ド イッショニ クルンデー
そう ×× ××× 豆の 粕を [粕] と 一緒に 包んで

(A ンー)
(A んー)

020D : バケツン ナカサー チョコット イレデー (B デズーット タイテナ)
バケツの 中に ちょこっと 入れて (B でズーット 炊いてな)

タイデルー
炊いてる

021A : エーノ マーリー。
家の 周り。

022E : エーノ マーリ。シー。シー。
家の 周り。 んー。 んー。

023F : アー ソーナン _____ (A シー)
あー そうなん _____ (A んー)

024D : タイデルー マメノ ツユデモッテ コー (A ヤッテ) _____ シメナーオー
炊いてる 豆の 汁でもって こう (A やっテ) _____ 注連縄を

025F : ソレガ イチガツノ ジュー ジューゴニチダ。
それが 1月の ××× 15日だ。

026A : ジューゴンチ シー。
15日 んー。

027B : ジューゴンチニ ヤッタ
15日に やった

028D : シメナーオ コー モヤシテ (E _____) (F エー) ソッテー バケツン
注連縄を こう 燃やして (E _____) (F えー) そうして バケツの

ナカデ ガラガラ ガラガラ カキマーシテ {E 笑} (F エー) (B ソーデ)
中で ガラガラ ガラガラ 掻き回して {E 笑} (F えー) (B それで)

グルーット) デ グルーット エーノ マーリー (B マーリー) マーシテ
グルーット) で グルーット 家の 周り (B 周り) 回して

(E デ _____) ミンナー ヤンネーダガーナンダガー ソナー
(E で _____) 皆 やらないのだから そん

029A : ソレワ ナゼカッテユード (B シー) ヘビニ ヘーランネーヨーニダド。
それは 何故かっていうと (B んー) 蛇に 入れられないようにだど。

030F : オー。
おー。

031D : ヘビニ ヘーランネーヨーニ?
蛇に 入られないように?

032A : シー。
ん。

033B : へー アッ ソー。
へー あっ そう。

034A : ソーアッテ キータド トショーリニ。
そうやって 聞いたぞ 年寄りに。

035D : オラ オラー コー トショーリニ キータ ダガーナンダガ キンネーケド [2]
×× 俺 こう 年寄りに 聞いた だかなんだか 知らないけど

(A シー) オラー シ ナニー

(A ん) 俺 ん 何

036E : マヨゲッ?
魔除け?

037D : シー シー。
ん ん。

038A : マヨゲッ?
魔除け?

039D : マヨゲ (A シー) ミンナ ビョーキナンネーヨーニガナートモツテ (A シー
魔除け (A ん) 皆 病気にならないようにかなーと思って (A ん

シー) ヤッテルケ。

ん) やってる。

040E : ナニ ソンナ ハナシダヨナー。
何 そんな 話だよなー。

041B : _____。
_____。

042A : ダッ イロイロ アッタッペヨナー。(D シー) シー。(E シー) ワシラー
だから 色々 あったよなー。(D ん) ん。(E ん) 私達

バッパニ キーダノワー ナカ° モノ [3] カ° へーシネーヨーニ (E シー)
お祖母さんに 聞いたのは 長物 [=蛇] が 入らないように (E ん)

053D : サドイモ ヤツテ
里芋 やって

054E : ニクガ カエナカッタンベー。(A ンー) ダカラネー アノ
肉が 買えなかつたんだろ。(A ンー) だからねー あの

チョーマンドリッテ [4] アッペヨ、(D ンー ンー) チョーマ。(D ンー
チョーマンドリッテ あるだろ、(D ンー ンー) チョーマ。(D ンー

ンー ンー) デ コーユ キーイテ ナイテベ。(B ンー ンー)
ンー ンー) で こういう キーって 鳴いてるだろ。(B ンー ンー)

アレオネー ワナー カケデ (B トルノ) トツテネ ア ゴーニオ ツ アノー
あれをねー 畏 かけて (B 捕るの) 捕ってね あ 雑煮を × あの

ヤツタン。
やったんだ。

055D : ヤ ニクルイワ オライカ° イレネガッタナ。
いや 肉類は 俺の家は 入れなかつたな。

056B : オライデモ
俺の家でも

057A : ワシライモ イレネー。 ンー ンー。
私の家も 入れない。 ンー ンー。

058B : ショーカ° ツワ ニクルイ ツカーナイ。
正月は 肉類 使わない。

059A : ニクー ンー ツカーネー。(D ンー) デ ナナ
肉 ンー 使わない。(D ンー) で ××

060B : コナイダネ ニカ° ツノネ ナニ ミッカニ (F エー) トシコシッテネ [5]
この間ね 2月のね なに 3日に (F エー) 年越してね

(F エー ソーデスネ) (A マメマギ) ソレワ マメマギ ヤッデー。 アッ
(F エー そうですね) (A 豆撒き) それは 豆撒き やってー。 あっ

ソレワ ナンダツケ アノー
それは なんだつけ あの

061A : オニワ ソト。 シーラキ°。
鬼は 外。 柵。

062E : シー ヒーラ
んー ×××

063B : ヒーラキ° ネ、(A シー) ヒーラキ° オ コー ココエ ウチノ ホラ
柵ね、 (A んー) 柵を こう ここへ 家の ほら

064D : カドカドサ。
角々に。

065A : カドカド シー。
角々 んー。

066B : ヒーラキ° ド サカナノ ホラ (E イワシ ~~~~) アダマ イワシノ アダマオ
柵と 魚の ほら (E 鯛 ~~~~) ××× 鯛の 頭を

(A シー) ホラ ツッポシテ イッショニ ツッポシテ ソレデ
(A んー) ほら 刺して 一緒に 刺して それで

ツットスندگانネ。
突き刺すんだね。

067A : オニノ ヤローカ° ー (B シー ハイッテクンダイネ) シッ アノ イワシノ
鬼の 野郎が (B んー 入ってくるんだよね) ×× あの 鯛の

アダマー、 クイダークッテモ {BF 笑} シーラキ° カ° オッカナクテ
頭、 食べても {BF 笑} 柵が 怖くて

(B シー) キランネダッテ。
(B んー) 来られないんだって。

068B : ハイレネアーンダッテ ウチサ、 シー。 ダカー
入れないんだって 家に、 んー。 だから

069F : ジャ イエノ コー ヨスミノ トコロ。
じゃ 家の こう 四隅の 所。

070B : ソ ヨスミ ソー ソー ソー。
そう 四隅 そう そう そう。

071D : シー シー ヨスミデナク コノ (A ゲン) トブクロ アグ トコー [6]
んー んー 四隅でなく この (A ××) 戸袋 開く 所を

(B アグトコロ) (A シー) (E ~~~~) (F アー。) アゲダリ
(B 開く所) (A んー) (E ~~~~) (F あー。) 開けたり

《写真》 上：家の出入り口の全てにつけた節分の柗と鯛の頭
下：神栖市波崎の街並み（銚子大橋から）



シメダリスツトコー。(F エー。)

閉めたりするところ。(F えー。)

072B : ニガイモ ゼンブニ
2階も 全部に

073F : ゼン ゼンブニ
×× 全部に

074A : シー ゼンブ
んー 全部

075B : ゼンブニ
全部に

076D : ゼン ゼンブ
×× 全部

077F : ゼンブニ ヒーラギオ。
全部に 柵を。

078B : ソー。
そう。

079A : ソー。
んー。

080D : ソー。 オラー コトシャー (A シーラキ°ニ) ニガイ ヤンネガッター。
んー。 俺 今年は (A 柵に) 2階 やらなかつた。

081A : アタシライデワ ヤッタ。
私の家では やつた。

082D : アー。
あー。

083E : オッカー ヤッターナー。
..... お母さん やつたなー。

084A : ヤッタ ヤッタ。
やつた やつた。

085D : ソー コナイダ ゴミヤダッタガラー (A ソー) ミンナ
んー この間 ごみの日だったから (A んー) みんな

トッチャーベヤーナンテ
取ってしまおうなんて

086A : ワシライデモ マダ シタワ ニカイワ トッタケッドモ (D ン一) シタワ
私の家でも まだ 下は 2階は 取ったけれども (D ン一) 下は

マダ クツツカッテル。
まだ くつついてる。

087B : ソレデ ヤッテ一
それで やって一

088E : サイキンノ ワケー シトワ ヤンネーミテーナー。
最近の 若い 人は やらないみたいなー。

089A : ヤンネーヨ オメー。 ワカンネード オメー。 ン一。
やらないよ お前。 わからないぞ お前。 ン一。

090B : ヤンネー。 ヤンネ ヤンネ。 ン一。
やらない。 やらない やらない。 ン一。

091D : チガーヨ オレガ イッショケンメ ヤッテル X 1 ガ [7] イッショケンメ
違うよ 俺が 一所懸命 やってる X 1 が 一所懸命

ミテンダモン オレオ。 {B 笑}
見てるんだもん 俺を。 {B 笑}

092A : ワカンナカッペノー。
わかんないだろうなー。

093B : ジャ ワカンダッペケド ヤヤ ヤンネー ヤンネーヨ。
じゃ わかるんだらうけど ×× やらない やらないよ。

094D : オラー コーヤッテ ヤルヨーッテ オーバニ [8] オサーッタガラナー。
俺 こうやって やるよーって お祖母さんに 教わったからなー。

095A : ソー ワシラモー トショーリニ オサーッテ。
そう 私たちも 年寄りに 教わって。

096B : ムカシノ ホラー オーバーサンノ イルトゴロアネー (A ン一) ミンナ
昔の ほら お祖母さんの いるところはねー (A ン一) みんな

サーッテネー ヤッタケド。
そうやってねー やったけど。

097E : オレ オレノネー アノー ウマレノ アノ チ X2ラ [9] カ°
..... ×× 俺のねー あのー 生まれの あの × X2らが

ウマレタ ホンケネ。(B ンー) アノー ジンジャカ° アル.....
生まれた 本家ね。(B んー) あの 神社が ある.....

(D ジンジャ?) (B アル) シ オ オ オーサワサマツテネ [10]
(D 神社?) (B ある) ン × × 産土様ってね

オイナリサンダナー。(A ンー) ソコデー ジュ ニカ° ズノ
お稲荷さんだなー。(A んー) そこで ×× 2月の

ジュウコ° ンチカ。 アッ イチカ° ズ ジュウコ° ンチ、(A ンー) コ
15日か。 あっ 1月 15日、 (A んー) ×

コショーカ° ズイネー ミンナ アツマツテネ サケ ノンデタン。(A アー)
小正月にねー みんな 集まってね 酒 飲んでたの。(A あー)

(B アー) アノネ アーツイ サケオ ノマセ ノマ ノマセルワケヨ。
(B あー) あのね 熱い 酒を 飲ませ ××飲ませるわけよ。

{CBD 相槌} デネー イーツマデ ノマセツチャーカラ {D 笑}
{CBD 相槌} でねー いいって言うまで 飲ませちゃうから {D 笑}

098B : アー トコトン キーチャーナー {笑}
あー とことん [酒が] 効いちゃうなー {笑}

099E : シー ヤー ホントニ。 アー ダカー
んー いやー 本当に。 あー だから

100D : オ オーラノ オヤジラホー [11] ア イッペ アッドー。
× 俺の 親父らのほうは × いっぱい あるぞー。

101E : ダカー ジーサン カンヌシサンワネ オラ ジーサン ソックリダツト。
だから 爺さん 神主さんはね 俺 爺さん [に] そっくりだツて。

{笑} {B 笑}
{笑} {B 笑}

102A : ダツテ ナナクサマデー (E ンー) (B ンー) ナツパ クエネカッタッペヨ [12]
だツて 七草まで (E んー) (B んー) 菜っ葉 食えなかつただろうよ

ムカシワ。
昔は。

103E : ソーダイナー。
そうだよなー。

104A : ンー。
んー。

105F : アー ソー (B ネー) ナツパ タベナインデスカ。
あー そう (B ねー) 菜っ葉 食べないんですか。

106A : ンー ナナクサマデ。
んー 七草まで。

107B : ナナクサ ナツタラー ナ ナゾーニツテユン [13] _____。
七草に なったら × ナゾーニっていう _____。

108A : ナゾーニツテ ヤルケットモー ソレマデワ ナツパ クーナツツペー。
ナゾーニって やるけれども それまでは 菜っ葉 食うなっていうだろう。

109E : _____ オレワネー アノ ホラ ヤマー スキダッタガラー (B ンー)
_____ 俺はねー あの ほら 山 好きだったから (B んー)

ショーカ° ツン ナットネ ヤマン ノボルベヤツテ ガッコ
正月に なるとね 山に 登ろうやって 学校

ヤスミダッタガラー ヤ ヤマノカミサマ [14] ノー ウコ° キダスツツワ
休みだったから × 山の神様の 動き出すっていうのは

ナンカダ アレー。
何日だ あれ。

110D : ジューコ° ンチダヨー。
15日だよー。

111E : ヤ ヨグ ユー アレデネー (A ンー) キョーワ ヤマ ヘー ンナツテネー
いや よく いう あれでねー (A んー) 今日は 山 入るなってねー

{CB 相槌} モ モツテカレチャーツ アンシエ アッタ ワケダ。
{CB 相槌} × 持ってかれちゃうっていう _____ あった わけだ。

(D ンー) ジューコ° ンチダッタ アレー。
(D んー) 15日だった あれ。

112D : ンー。 ソースッ ジューコ° ンチニー オラノ オヤジライカ° ホーデワ
んー。 そうすると 15日に 俺の 親父の家のほうでは

コーユー カミサマノ コーユー ハコカ° アルワケダヨ。 ソレカ°
こういう神様の こういう 箱が あるわけだよ。 それが

コーヤッテ コレクレーガナー コ コノ クレーダナー。 コノクレ
こうやって これくらいかなー × この くらいだなー。 このくらい

ナカ° イダ。 ソーッテー ソノ ワケーシカ° モツン ヤズカ° ~~~~~
長いんだ。 そうして その 若い衆が 持つ ヤツが ~~~~~

ソーッテ オトナカ° モズヤズア {テーブルをたたく音} コレオ
そうして 大人が 持つやつは {テーブルをたたく音} これを

クク° ッターヨ。(A ンー) ソ ソコンチサ アカ° ッテー (A ンー ンー)
くぐったよ。(A んー) × その家に 上がって (A んー んー)

コレサ クク° ッタヨ。(A ンーン) ソッテー ンー ヨル ヨナカ
これに くぐったよ。(A んーん) そうして んー 夜 夜中

ヤッタカラ。
やったから。

113A : ショーカ° ツノ ギョージ ソレカ° 。
正月の 行事 それが

114D : オ ショーカ° ツノ ギョージ。
お正月の 行事。

115A : カシマカ° 、 (B カシマワネー) へー。
鹿島 [15] が、(B 鹿島はねー) へー。

116D : デー コドバーワ オデーハンニャッツーダヨ [16]。
それで ことばは 「お大般若」 っていうのだよ。

117A : アッ オデーハンニャガー。(D ンー) (B 笑 ヨー ~~~~~))
あっ お大般若か。(D んー) (B 笑 ~~~~~))

オデーハンニャガー。
お大般若かー。

118D : オデーハンニャーッテ (A ハンニャーッテ ンー) ドナッテ アルグ。
お大般若って (A 般若って ンー) 怒鳴って 歩く。

(B アルグノカ° アルグダ) ソコンチ ハミガヨー
(B 歩くのが 歩くのだ) その家 がよー

(A カズイデナ) コメガヨー

(A かついでな) 米がよー

119B : ナンカ ヘンナモン カツグダッペ コーナー (A シー) (D シー) ヨー
なんか 変なもの 担ぐだろう こうな一 (A ん一) (D ん一) よー

フターリデ。

2人で。

120A : シー。

ん一。

121D : コメガ モジオ モラッテー (A シー) (B シー) キョーワ オメライタ
米か 餅を 貰って (A ん一) (B ん一) 今日は お前らの家ノ

オメライノ ヤドサ (A シー) ハコブダーヨ。(E シー)

お前らの家の 宿に (A ん一) 運ぶのだよ。(E ん一)

122A : オデーハンニャガー。

お大般若か。

123D : シー ヤッターヨー。

ん一 やったよー。

124B : _____

125E : コシヨーカ° ツデア カッコクノ チホーデ ソーイ ギョージカ°
小正月では 各国の 地方で そういう 行事が

アッターナー。

あったよな一。

126B : シー。

ん一。

127A : シー。

ん一。

128D : ソッデー コレ [17] コレ クレベー (A シー) ナンツダー ハイグ
それで これ これ くれるだろう (A ん一) なんていうんだ 早く

イエバ アケ° テクレッタイ、 (A シーン) ソコンチデヨー (A ン)

言えば [家に] 上げてくれって、(A ん一ん) その家でよー (A ん)

ヒヤグエンダラ ヒヤグエン。 ムガシノ シャクエンダカンナー、 ホースット
百円なら 百円。 昔の 百円だからなー、 そうすると

ソレオー ガッコ イグマデニ ワケッチャー。 {B 笑}
それを 学校 [に] 行くまでに [子供たちで] 分けてしまう。 {B 笑}

129E : ダカ ソレグライノ アスビダー。
だから それぐらいの 遊びだ。

130D : アスビ。
遊び。

131A : アー。
あー。

132B : ハズマッテ ホラヨー _____。
初午って ほらよー _____。

133A : ゴリシヨ ゴリシヨ [18]。
ごりしよ ごりしよ。

134B : _____ ハズマッテ ハズムッテ [19] シッテル?
初午って 初午って 知ってる?

135E : ハズマッテ シッテルデシヨ。 ハズマ。 ニカ° ツノ キューノ ニカ° ツノネ
初午って しってるでしょ。 初午。 2月の 旧の 2月のね

(B ハツウマ) ハツ アノ ハジメニノ ウマノシダ。(B ンー)
(B 初午) ×× あの 初めにの 午の日だ。(B んー)

ソレワネー コノ イマー ヤンネケドネ。
それはねー この 今[は] やらないけどね。

136B : ンー イマワ ヤン ソレデ コヤオ タデデー、 コドモラ
んー 今は ×× それで 小屋を 建てて、 子どもら

137E : アノ ジンジャノ オイナリサマノ (D コドモニ) オイナリサマノ
あの 神社の お稲荷様の (D 子どもに) お稲荷様の

(B ンー) マー (B マーリサー ジンジャー タテテ) マーリサ
(B んー) ×× (B 周りに 神社[を] 建てて) 周りに

138F : コレガ ニガツノ イツデスカ。 キューデスカ。
これが 2月の いつですか。 旧ですか。

- 139E : キューノ ニカ° ツノネ
 旧の 2月のね
- 140A : キュー ニカ° ツノー ハジメデノ ハツ アノ ウマノシ。
 旧 2月の 初めての ×× あの 午の日。
- 141F : キューニガツノ (A ンー) ハツ。(A ンー)
 旧2月の (A んー) 初。(A んー)
- 142B : ソレニ コヤ タデデ コーニ ガクセー ショーガクセーダナ。
 それに 小屋[を] 建てて このように ×××× 小学生だな。
- 143D : コノー コノー ジンジャノ アル ウジ。
この この [稲荷]神社の ある 家。
- 144B : ンー。
 んー。
- 145E : イ オイナリサマ アルトコ。
 × お稲荷様 [の] あるところ。
- 146D : オイナリサマノ カザッテアル ウシ。 コゴニ トジカ° アッタヨ。
 お稲荷様の 飾ってある 家。 ここに [そういう] 土地が あったよ。
- (F エー) ネー モー コーノ シトチョーナイニー カナラズ フタツツク
 (F えー) ねー もう この 一町内に 必ず ×××××
- フタツツカ ミツツ アンノ。
 2つか 3つ あるの。
- 147E : _____ コヤー コーシテー {咳} ソノ コドモラカ° コヤー
 _____ 小屋 [を] こしらえて {席} その 子どもらが 小屋 [に]
- ヒッコスワケヨ。
 引っ越すわけよ。
- 148F : ソノ オイナリサン オ ガ (E ン) アルトコロニ (E ンー)
 その お稲荷さん × [お稲荷さん]が (E ん) あるところに (E んー)
- コヤオ ツクルン。
 小屋を 作るの。
- 149D : ンー スー。 オイ オイナリサンオ カコムノ。
んー そう。 ×× お稲荷さんを 囲むの。

150F : オイナリサンオ カコムヨーニ。
お稲荷さんを 囲むように。

151D : ンー。
んー。

152F : コヤー コーシテネ アノー イマ ムシロツテ シッテンデシヨ。(F エー
小屋 [を] こしらえて あのー 今 筵って 知ってるでしょ。(F える

エー シッテマス) ムシロデネ ムシロデ コヤ コーシテナ。
えー 知ってます) 筵でね 筵で 小屋 [を] こしらえてな。

153A : コヤ コーシテネ。{笑}
小屋 [を] こしらえてね。{笑}

154D : ソンナニー ネンデ ザイリョー アッタラナー。(A ザイリョーア ネー)
そんなに ないんで 材料 [が] あつたらな。(A 材料は ない)

ダイズト ザイリョー アッタラ リッパナモノ デギタダナー
..... 材料 [が] あつたら 立派なもの できたんだなー

ブルーシートモ アルシ。
[今なら] ブルーシートも あるし。

155A : ンー。
んー。

156B : ソコイ トマツテ コドモラカ° トマツテー。
そこに 泊まって 子どもらが 泊まって。

157A : ンー。
んー。

158D : ンー。 デー ソゴサーネ
んー。 [それ] で そこにはね

159E : デー ヨルネー (D ンー) ヨルネ アノー カー カグ イエーサーノ アノ
[それ] で 夜ねー (D んー) 夜ね あのー ×× 各 家への あの

コイ {笑}
こういう {笑}

160B : ヘーアンニツテ
平安につて

- 161A : ヘーソク。(E ヘーソク) ヘーソクー モッテ
幣束。(E 幣束) 幣束 [を] 持って
- 162B : ヘーソク モッテ オメン カブッテ (A ン) ♪ [20] ゴリシヨ
幣束 [を] 持って お面 [を] かぶって (A ん) ♪ ゴリシヨ
- ゴリシヨ オニナサンノ ゴーリシヨッテ カイッテグンノ。 ン。
ゴリシヨ お稲荷さんの ゴリシヨって 帰って来るの。 ん。
- 163E : デ タン アン タヌギト キズネノ オメン ア ヒョッドゴド
[それ] で ×× あの 狸と 狐の お面 あ ひよつとこと
- ヒョッドゴド
ひよつとこと
- 164D : タイコ タダイデ。
太鼓は たたいて。
- 165A : キツネ。
狐。
- 166B : タイコ タタイテ
太鼓 たたいて
- 167F : オ オメンワ ヒョットコ ナンデスカ。
× お面は ひよつとこ なんですか。
- 168D : チカ ー チカ ー コノ ー キツネト
違う 違う この 狐と
- 169E : ナンデモネ
なんでもね
- 170A : アノ ー キツネノ ン。
あの ー 狐の ん。
- 180F : ア ー アッ オイナリサンダカラ。
あ ー あつ お稲荷さんだから。
- 181A : ン。
ん。
- 182D : ン ン。
ん ん。

183B : ソイデ コレー モラッターリー (F ンー) オカシ モラッターリー
それで これ[を] もらったり (F ンー) お菓子[を] もらったり

(E ゴリシヨ ゴリシヨデネ) ナンカシテ

(E ゴリシヨ ゴリシヨでね) なんかして

184D : ウジニ アルヨー オメンカ° ー。 ンー。
家に あるよ お面が。 んー。

185E : コゴ コ アノ オイヤカ° ネー コゴノ ヤシキワネ メデタイ
ここ × あの 俺なんかねー この 屋敷はね めでたい

ヤシキッテネー (B ソーダヨネー) (D ウター ウタウヨ ンー、 ゲン)
屋敷ってねー (B そうだよねー) (D 歌[を] 謡うよ んー、 ××)

ツルト カメトカ° ワヨー モッテ {笑}

鶴と 亀とが 和を もって {笑}

186A : ワヨー ンー。
和を んー。

187D : コノー ゲンカン ナガ トコデモッテ (E テーコダイナー) テ テーコ
この 玄関 [の] 中 ところでもって (E 太鼓だよなー) × 太鼓

タダイ。 [21] ♪ ヨーオイーヤー イーヤーッテ。
たたいて。 ♪ 「ヨーオイーヤー イーヤー」 って。

188B : テーコ タタイタイネー。 ♪ イーヤーネー アーリヤーヨッテナ。
太鼓[を] たたいたねー。 ♪ 「イーヤーネー アーリヤーヨ」 ってな。

189E : ♪ コノー ヤーマー ヤシーキー ナンテナ。 (D ンー ミンナ コー)
♪ 「この 山 屋敷」 なんてな。 (D んー みんな こう)

メデーターイー ザシーキーッテナ。 (D ンー) アーラヨ。 {A 笑}
めでたい 座敷」 ってな。 (D んー) 「アーラヨ。 {A 笑}

ツールートー カメートーガー (B ソーダー ンー、 ヤッターナー) ヤレー
鶴と 亀とが (B そうだ んー、 やったなー) ヤレー

マイーオドルツツタ?
舞い踊る」 って言った?

190A : マイアソブ ンー ンー。
「舞い遊ぶ」 んー んー。

- 191E : アソブナー。 コゴローカミーサーマッテ _____ {笑}
「遊ぶ」な一。 この 神様って _____ {笑}
- 192A : ソー。 {笑} ソースト シューキ° ノ デー (E シューギカ° イーカラヨ一)
 そう。 {笑} そうすると 祝儀の 出 [が] (E 祝儀が いいからよ一)
- デカタカ° チカ° ーダヨ。 {笑} {D 笑}
出方が 違うんだよ。 {笑} {D 笑}
- 193B : オーカ° ネモチダーッテネ一 ン一。 カーッテ カーッテネ カーッテ
「大金持ちだ」ってね一 ん一。 こうやって こうやってね こうやって
- カーッテ ヤッテ カーッテ カーッテ ヤッテ。
 こうやって やって こうやって こうやって やって。
- 194D : ヘーソク グシテモラーノヨ トショーリニ。 ン一。
 幣束 [を] 具してもらうのよ 年寄りに。 ん一。
- 195B : トショーリデ ヤッターネ一。 ン一。
 年寄りで やったよね一。 ん一。
- 196E : ホントネ。 ソーシテ シトバン トマッテネ。 コレ モラー。
本当ね。 そーして 一晩 泊まってね。 これ もらう。
- 197B : デ コレ モラッテ (D ソッデー) コンダ ソノ コドモラ
 [それ] で これ もらって (D それで一) 今度 その 子どもら [が]
- ワケタッパーナー (A ン一) (D ン一) ナ一。 {笑}
 分けたらろうよ一 (A ん一) (D ん一) な一。 {笑}
- 198D : ズーブン
ずいぶん
- 199E : ワリーコト シテル コドモモ アルシネ一 (B ン一 ン一 ン一) イマー
 悪いこと してる 子どもも あるしね一 (B ん一 ん一 ん一) 今 [は]
- ~~~~~
 ~~~~~
- 200B : イマー ヤンネ一。  
今 [は] やらないね一。
- 201A : サンカ° ツコロマデ ショーカ° ツカラ サンカ° ツコロマデワ一 ン一  
3月頃まで 正月から 3月頃までは ん一

ムカシャー ソーユー ノカ° アッタダヨナ。  
昔は そういう のが あったんだよな。

202E : エーノコ [22] モ ヤッタッペ。  
亥の子も やっただろう。

203A : エーノコカ。  
亥の子か。

---

## 注

[1] ジューコ° ンチワ シルコ

この地域では、1月15日はお供えの餅で汁粉をする。また、汁粉の餡を作るために小豆を煮て、その粕（小豆の皮）を焼いた注連縄とともにバケツに入れ、それをぐるぐるかき回しながら家の周りに撒いて厄除けをした。なお、しめ縄は12月30日ごろに飾り、正月4日には外す。

[2] キンネーケド

第1音節はキとシの間の音。キに近い。

[3] ナガモノカ°

長物は蛇のこと。

[4] チョーマンドリッテ

「チョーマンドリ」は、ヒヨドリ。

[5] トシコシッテネ

「トシコシ（年越し）」は節分のこと。

[6] トブクロ アグ トコー

波崎地域では、玄関1か所だけでなく、小窓も含めてすべての出入り口にヒイラギと鯛を挿す。旧神栖地域でも同様。

[7] X1ガ

X1は人名。

[8] オーバニ

オーバは祖母のこと。バツパとも。

[9] X2ラ

X2はEの妻の名前。

[10] オーサワサマッテネ

「オーサワサマ」と聞こえるのは、産土様のこと。Eの実家の辺り（千葉県九十九里）で祀っていた神様。

[11] オラジラホー

Dの実家の父親の家の方。Dの実家は鹿島。

[12] ナツパ クエネカッタッペヨ

正月七草まで、青物（葉物野菜）は食べないという慣習のこと。

[13] ナゾーニッテユン

「ナゾーニ」は、菜雑煮。菜を入れて作る七草粥のことを「ナゾーニ」という。

[14] ヤマノカミサマ

「ヤマノカミサマ」は、山の神様。『茨城方言民俗語辞典』（赤城毅彦 1991）には、「ヤ



マノカミ」の見出しに「山の守り神」とあり、「ヤマノカミノヒ」の見出しに、「山の神の日 正月 6 日と 11 月 6 日をいう。昔、この日山の神は「木が多い」、えびす神は「魚が多い」と争いになり、「それでは、取り競争をしよう」ということで、山の神が魚をとり、えびす様が木を伐ったが、どちらも多すぎて取り切れなかったという。」

[15] 鹿島

現在の市町村名では「鹿嶋市」だが、町村合併前は「鹿島」であったので、ここも旧の表記を用いた。

[16] オデーハンニャ

お大般若。『茨城方言民俗語辞典』（赤城毅彦 1991）によれば、「オデーハンニャ (1) 大般若経の入った箱をかつぎ、家々をまわる行事。(地域は省略) 子どもの行事のところもある。1 月から 2 月上旬にかけておこなわれるが、村落によって日は異なる。」(2)の魚名は省略) とある。

[17] コレ

お金。小遣い。

[18] ゴリシヨ ゴリシヨ

お大般若の時の歌(お囃子)の掛け声。

[19] ハズムッテ

「ハズム」は、初午のこと。旧 2 月の初めての午の日に行った。波崎の初午の行事では、この後の話しに出てくるように、子どもたちが村に祀られている稲荷神社を囲んで小屋を建てて、一晩、過ごした。

[20] ♪

お大般若の時の、子どもたちのお囃子。お囃子を謡っているところに ♪ を付した。

[21] ～テーコ タダイ。

この発話前後から、謡いを口々に謡ったり、笑ったりが続く。一部音声重なって聞き取れず、文字化できていないところがある。

[22] エーノコ

亥の子。この後に、亥の子行事についての話が続く。冬の行事で、俵のふたに紐をつけて、4 人で地面をたたきながら「エーノコダ エーノコダ ココワ ドコノ エーノコダ」などと囃すという。波崎では「ジンジ」(旧 2 月 1 日)の日にしたという。『茨城方言民俗語辞典』には、10 月の行事とある。

【1】正月のお供え、凍み餅、十日市の話

収録時間 8分7秒

話し手

- |   |   |                |            |       |
|---|---|----------------|------------|-------|
| A | 男 | 1936 (昭和 11) 年 | (収録時 77 歳) | 農業    |
| B | 女 | 1938 (昭和 13) 年 | (収録時 75 歳) | 農業    |
| C | 女 | 1957 (昭和 32) 年 | (収録時 56 歳) | (調査員) |

001C : アノ チョード ジューニガツナノデ アノ オショーガツノ ハナシナンカ  
あの ちょうど 12月なので あの お正月の 話なんか

ジューニガツカラ オショーガツノ ハナシナンカ (C ンーン) アノー  
12月から お正月の 話なんか (C んーん) あの一

ドンナフーニ サレテタカ スコシ  
どんなふうに されてたか 少し

002A : アーア アッチノホーデ ヤッテタノワー (C エー) アレダワイ、  
あーあ あっちの方で やってたのはー (C えー) あれだわい、

ショーカ° ツコロシ ナッチットー ンー~~~~ オショーカ° ズーニ クー  
正月の頃に なるというとー ンー~~~~ お正月に 食う

モチーワ ジューニ ジューニガツノー サンジューニチゴロ ツイデー、  
餅は ×××× 12月の一 30日頃 搗いてー、

ソシテオ オソナ オソナエテユーダベ ソーユモノワ (C エー)  
そういうものを ××× お供えて言うだろう そういうものは (C えー)

ソーユノー ア ナンカショ アギ アゲッカー ア ミデー ソシテ  
そういうのー あ 何か所 ×× 上げるかー あ 見てー そして

ツグッデー アト カミダナサーワ アー コーニ ニ  
作ってー あと 神棚には あー こういうふうに ×

ニダンカサネーオ シテオイデ ウイサ ミカン アケ° トク。  
二段重ねを しておいて 上に みかん 上げておく。

003C : カミダ カミダナワ コー ニダンデー (A シーダ) ウエニ ミカンデスカ。  
××× 神棚は こう 二段でー (A そうだ) 上に みかんですか。

004A : シー。 アトワ ノーチク° ナンテ ア アッタガラー  
んー。 あとは 農機具なんて × あったからー

キカイサナンテワ (C エー) シ カミ シーテ (C エー) チンチェーノ  
機械になんては (C えー) × 紙 敷いて (C えー) 小さいの

ニダングレー カサネテ ズーット (C エー) オイテアッタ  
二段ぐらい 重ねて ズーっと (C えー) 置いてあった。

005C : ア ジャー ドコモ ニダンナンデスネー。  
あ じゃあ どこも 二段なんですねー。

006A : シー。  
んー。

007C : ナンカショグライ アノー アゲマシタカ。  
何か所ぐらい あのー 上げましたか。

008A : ナンカショッテア キカイワ トラクタ ニダイ アッタシ (C エー エー)。  
何か所って 機械は トラクタ 2台 あったし (C えー えー)。

アー  
あー

009C : イチダイニ イッコズツデー  
1台に 1個ずつでー

010A : シー イチダイサ フタ ヤッパシ フタツズツヨー。(C エー) シー。  
んー 1台に ×× やっぱり 2つずつよー。(C えー) んー。

011C : コー コーユ [1] コ コーユンデスネ。  
こー こういう × こういうのですね。

012A : シー。 アトワー コンバインサモ (C エー) フタツツ。 フンナノワ  
んー。 あとはー コンバインにも (C えー) 2つ。 そんなのは

ハー アー アノー ショーカ° ツ スキ° ルコロ サキ° サ イグッコロワ  
もう あー あのー 正月 過ぎる頃 先に 行く頃は

ハー ネズミワ チャーント (C アー) イタダイテッカラー ハー。  
もう ネズミは ちゃんど (C あー) いただいてるからー うん。

(C ア) ネズミッチャーナー (C へ) トラタタノ アノ カネノ  
(C あ) ネズミというのはな (C へ) トラクタの あの 金の

ウイサモ アカ° ッテクンダモン。(C エー エー) アド カンソーキ  
上にも 上がってくるんだもん。(C えー えー) あと 乾燥機

フタツツ アッタカラ (C エー) カンソーキサモ アキ° テ アドワ アノ  
2つ あったから (C えー) 乾燥機にも 上げて あとは あの

モミズリキ。(C エー) ンー ライスマスターッテ ユーノサー。(C ハイ)  
糲摺り機。(C えー) ンー ライスマスターッテ いうのさー。(C はい)

ソイツサ アキ° テ アト ソコラヘンノ グーグール サーヤル キカイサ  
そいつに あげて あと そこらへんの ぐるぐる 機械に

ア ヤッパシ フタツグレズツ アキ° トク、(C エー) ンー。{咳払}  
あ やっぱり 2つぐらいずつ あげとく、(C えー) んー。{咳払}

ムーカシワー ウ ウチデナンテモ ヤッパシー アー ホゾンシヨクノー  
昔はー × うちでなんかも やっぱりー あー 保存食のー

キノ キ アノー ナンダ シミモジッテ ヤズ ツグッテタダ<sup>ド</sup>。  
×× × あのー なんだ 凍み餅って やつ 作ってたんだ<sup>ぞ</sup>。

013C : ア ヤッパリ シミモチオ ツクッテタンデスカー。  
あ やっぱり 凍み餅を 作ってたんですかー。

014A : ンー。 ダイタイ イマワ ハー シミモチナンター ヤッテ ツクンダラー  
んー。 大体 今は もう 凍み餅なんてー やって 作るのならー

ハー アーノ チンチェー キカイデ ハー アーノ コメ トイデー ナベサ  
もう あの 小さい 機械で もう あの 米 研いでー 鍋に

イッコクチュット (C エー) シトリデー ジカン キター  
入れておくという (C えー) ひとりで[に] 時間 来てー

ムクムクッテ ウゴイター モチンナッテ (C アー) デキアガッチト  
むくむくって 動いてー 餅になってー (C あー) 出来上がるという

ブツアナッテ アギルスト デキアガッテッカラー。(C エー エー) ンー。  
///って 上げる<sup>という</sup>と 出来上がってるからー。(C えー えー) んー。

ホンナンヤツ ツカッテタダ。 ンー。 ソイツ  
そんなやつ 使ってたんだ。 んー。 そいつ

015C : アノ ムストコロカラー ゼンブ ヤッテクレル モチツキキデスカ。  
あの 蒸すところからー 全部 やってくれる 餅つき機ですか。

016A : シーン シーダ。  
んーん そうだ。

017C : ベンリデスネー。  
便利ですなー。

018A : シー。 マー トキトキサ ウチサ アルワー。 モッテコネーデ。 シー。  
んー。 まあ //////// うちに あるわー。 持ってこないで。 んー。

019C : シミモチワ イツゴロマデ ツクッテマシタカ。  
凍み餅は いつ頃まで 作ってましたか。

020A : シーミモチワ ナンネンコロマデ デキ ツクッテタッタベナー。  
凍み餅は 何年頃まで ×× 作ってたんだろーな。

ウーチノホーワ シミモチ ツグルヨリ ハー ア ツグッテタ シトワ  
うちの方は 凍み餅 作るより もう あ 作ってた 人は

イズゴロ ツグッテタベヤ アレー。  
いつ頃 作ってただろー あれー。

021B : ナニー？  
なにー？

022A : シミモチー。  
凍み餅ー。

023B : ナンダー。  
なんだー。

024A : X 1 [2] サンナンテバ シンバラク ツグッテタドナー。  
X 1 さんなんていえは しばらく 作ってたよなー。

ジューニカ° ツー (B シー) イチカ° ツ ニ ニカ° ツ サンカ° ツコロマデ  
12月ー (B んー) 1月 × 2月 3月頃まで

ツ ツクッテタ。(C ハー) シー。 オラー ソコデー シンミモチ  
× 作ってた。(C はー) んー。 俺 [は] そこでー 凍み餅

デキアガッタ ヤズー ゴスソーナルダケダッタモン。  
出来上がった やつ ご馳走になるだけだったもん。

025C : ..... シミ シミモチワ ジャ サイキンモ アノー  
..... ×× 凍み餅は じゃ 最近も あのー

026A : ツクラネー。  
作らない。

027C : ツクッテ フクシマニ イタコロワ ツクラナカッタデスカ。  
作って 福島に いた頃は 作らなかったですか。

028A : ツクンネカッタ ンー。 ヤ トナリノ カーチャンワー オレゲ アノ ン  
作らなかった。 ンー。 いや 隣の 奥さんはー 俺の家 あの ン

シミモチ ウツタリ マツタリシテーイタツタカラ ソイツノ シミモチ ント  
凍み餅 売ったり ..... していたから そいつの 凍み餅 沢山

シミ シミラカシタカラ クリツカラナンテ モラッテー タベタリ  
×× 凍みらかしたから くれるからなんて 貰ってー 食べたり

ソナナコト シテータケンドー。 ンー。  
そんなこと していたけれどー。 ンー。

029C : コナイダ ソノ シミモチノ ハナシオ キーテ タベテミタイナート  
この間 その 凍み餅の 話を 聞いて 食べてみたいなーと

オモッテンデスケド ウツテルモンデスカ。  
思ってたんですけど 売ってるもんですか。

030A : ンー。  
ンー。

031C : コノヘンデワ アンマリ ミナイーデスネ。  
この辺では あんまり 見ないですね。

032A : トーキョーサ イグツチツト  
東京に 行くっていうと

033C : アー トーキョー イクト ウツテルンデス。  
あー 東京 行くと 売ってるんです[か]。

034A : ンー。 ココラヘンニワー (C コノヘンワ スツ) コノヘンダツテ  
ンー。 ことから辺にはー (C この辺は ××) この辺だって

ウツテンデネーベガー。  
売ってるんじゃないだろうか。

035C : デモ アンマリ サムク ナイノデー  
でも あんまり 寒く ないのでー

036A : サムクネクタッテー ココデ ツクン  
寒くなくたってー ここで ×××

037C : シミマスカー。  
凍みますかー。

038A : ココデ ツグンナクッタッテ ドッカデ ツグッタ ヤツー (C エーエ)  
ここで 作らなくたって どこかで 作った やつー (C えーえ)

ミセヤデ ジッシーレテクンデネーノカ。 オレノ ハハオヤノ ジッカワ  
店屋で 仕入れてくるんじゃないのか。 おれの 母親の 実家は

カズロー [3] テユー トコーサ スンデタッタカラー (C エーエ)  
葛尾ーという ところに 住んでたからー (C えーえ)

ンダカラ ソッチカラ モラッタヤズ コンナ アズクッテー コンナ。  
だから そっちから もらったやつ こんな 厚くてー こんな。

039C : ソレデ シミ チャント シミテー。  
それで ×× ちゃんと 凍みてー。

040A : チャント シミテンダー。 ソコー ソ ソコノ フジンカイッテユーノカ  
ちゃんと 凍みてんだー。 ×× × そのの 婦人会って言うのか

アー ソーユーノ セ センモンテキニ ヤッテーデ フユン ナッチットア  
あー そういうの × 専門的に やっていて 冬に なるというと

(C エー) アー キッ キッ キカイデ キッ アツミ オナジク キッテー  
(C えー) あー ×× ×× 機械で ×× 厚み 同じく 切ってー

(C エー) ソイツ コンドー ヨルニ (C エー) ホスノヨ。 ユ  
(C えー) そいつ 今度 夜に (C えー) 干すのだ。 ×

シメラカスノカ。 ホーシテ コンドー アサ ハヤグ オキテー シモサ  
凍らせるのか。 そして 今度 朝 早く 起きてー ひもを

コー (C エー エー) ジッコズツ アンデ ホシテ ハウスンナカサ  
こう (C えー えー) 10個ずつ 編んで 干して ハウスの中に

ブラサケ° テ (C エー) ソーシテ ヤッテタノヨ。 ホンデ ソ アノー  
ぶら下げて (C えー) そうして やった<sup>~~~~~</sup>。 それで × あのー

ショーンバイガタダー アレ カズローノ シミモチ [4] ナテユッチット  
商売方だー あれ 葛尾の 凍み餅などと言うと

(C エー) ミンナーナ カッター。 フクシマノ イベントーダーナンテ  
(C えー) みんな 買ってー。 福島ノ イベントだなんて

ユートキア コッ コトシャ ハイヤカッタ ダ ダレガー イママデ アノー  
いう時は ×× 今年は 早かった × 誰かー 今まで あのー

トーカイチ [5] ニナンテ デテタダッタ。  
十日市になんて 出ていたんだった。

041C : エー。 コナイダノ アノー ニホンマツ [6] ノ  
えー。 この間の あのー 二本松の

042A : ンー アントキア デテネカッタナ。  
んー あの時は 出てなかったな。

043C : デテナカッタデスカ。  
出てなかったですか。

044A : アソコデ デテナノワ ナンダッタツケ。 ン。 ナランデ モラッタヤツモ  
あそこで 出てきたのは なんだったツケ。 ん。 並んで もらったやつも  
アンダナ。  
あるんだな。

045C : ムカシワ ソノ トーカイチナンカデ ウツテタンデスカ。  
昔は その 十日市なんかで 売ってたんですか。

046A : ウツテテアー。 ンー。  
売ってたー。 んー。

047C : トーカイチツテノワ ジューニガツノ トーカデスカ。  
十日市っていうのは 12月の 10日ですか。

048A : ジューニカ° ツノ トーカダッタベカナー。 チ アンデネ。  
12月の 10日だったかなー。 × そうではない。

ジューニカ° ツノ ニジューサン ニジューシ ニジューゴドダツケカ?  
12月の 23 24 25[日]だったか?

ミッカグラー アッタドナー。  
3日ぐらい あったよなー。



- 049B : ハツカイチ [7] デネーノ。  
二十日市ではないの。
- 050A : ハツカデネアー トーカイチダ。  
二十日[市]ではない。 十日市だ。
- 051B : トーカイチワ ホノマエデネーカー、 チガーカ。  
十日市は その前ではないかー、 違うか。
- 052A : マエダワヨ。 ハツカイチツチャー イズカラダー。  
前だよ。 二十日市っていうのは いつからだー。
- 053B : アトダッタペ ニジューナンニチ トーカイチノ アト。  
あとだっただろう。 二十何日 十日市の あと。
- 054A : トーカイチワ チット ハイカッタノカ。 ンー。  
十日市は 少し 早かったのか。 んー。
- 055C : ソノ トーカイチワ シミモチノホカニ ドンナモノオ ウツタ  
その 十日市は 凍み餅の他に どんなものを 売ってた
- 056A : アー イロンナモンダ。 ホッチコッチガラー (C エー) キテー、 アー  
あー 色んなものだ。 そっちこっちからー (C えてー) 来てー、 あー  
チョーセンツケカラー アー ユノ ハモノーガラー アト ハマ チケカラ  
朝鮮漬けからー あー 刃物からー あと 浜[が] 近いから  
コンブトカ サガナトカ。 ナニシロー ウツタノワ ショーカ° ツニ ツカー  
昆布とか 魚とか。 なにしろー 売ってたのは 正月に 使う  
シ ョーナ (C エー エー) シナモノ ガ ウツタノヨ オモノ。  
× ような (C えー えー) 品物 が 売ってたのよ 主に。
- 057C : ジャー ジューニガツノ トーカ トーカゴロデスカネー。  
じゃあ 12月の 10日 10日頃ですかねー。
- 058A : トーカゴロダッタカ ナンダカ。 オッキクナッテ ワスレデ ワカンネ ハ。  
10日頃だったか なんだか。 大きくなって 忘れて 分かんない もう。  
イマ ャッタ コトダッテ ワスレンダカラ。  
今 言った ことだって 忘れるんだから。
- 059C : ソレ トーカイチワ ツイ サイキンマデ ッテユカ イマモ  
ソレ 十日市は つい 最近まで っていうか 今も

ヤッテルンデスカ。  
やってるんですか。

060A : イーマーワー ハ アノー アレ ニホンマツダカ アズコラヘンデ  
今は一 ー あの一 あれ 二本松だか あそこらへんで

ヤッテンダナ。(C エ) ンー イベントトシテ。  
やっただな。(C え) んー イベントとして。

061C : ネー アレワ ジューイチガツノ ニジューサンニチデシタモンネ。  
ねー あれは 11月の 23日でしたもんね。

062A : ナーンダツケ ナーンニチダツタカナー。  
なーんだっけ 何日だったかなー。

---

## 注

[1] コーユ

二段重ねのお供え餅の絵をかきながらの発話。

[2] X 1

人名。名前。

[3] カズロー

地名。福島県双葉郡葛尾村。正しくは「カツラオ」(葛尾村ホームページに記載の名称より)。

[4] シミモチ

「シミモチ」は、凍み餅。薄く切った餅を縄などで縛って、冬場に日陰の軒下などにぶら下げて、凍ったり融けたりさせて餅を乾燥させて作る。それを水で戻してから焼いたりして、昔は、農繁期のおやつなどにした。

[5] トーカイチ

福島県双葉郡浪江町の十日市。

[6] ニホンマツ

地名。福島県二本松市。

[7] ハツカイチ

二十日市。福島県双葉郡富岡町で行われていた年末の市。

## 【2】正月飾り、小正月の稲穂つけの話

収録時間 12分15秒

話し手

A 男 1936 (昭和 11) 年 (収録時 77 歳) 農業  
B 女 1938 (昭和 13) 年 (収録時 75 歳) 農業  
C 女 1957 (昭和 32) 年 (収録時 56 歳) (調査員)

001C : アノー サッキノ オショーガツノ アノー ジュンビノ ハナシーノ  
あのー さっきの お正月の あのー 準備の 話の

ツズキオ チョット オシエテ ホシーンデスケレドモー。 アノー  
続きを ちょっと 教えて ほしいんですけれどもー。 あのー

カドマツートカ マツカザリワ ドーシテマシタカ。  
門松とか 松飾は どうしてましたか。

002A : マツカザリナンテワ イツダー。 アレワ サン ショーカ° ツメーニ  
松飾なんていうのは いつだー。 あれは XX 正月前に

マツカザリナンテ シンダカラ。 (C エー) ンー。 オレワ イー  
松飾なんて するんだから。(C えー) んー。 俺は XX

ヤッケダカラ ホンナノ ツグンナケンチョモヨー。(C ジャ カッ) ツ  
厄介だから そんなの 作らないけれどもよー。(C じゃ XX) ×

ツクンノワナー ~~~~ アノー イマワ ハー リンタルダカナンダカデ  
作るのはなー ~~~~ あのー 今は もう レンタルだかなんだかで

(C エー) カスダナー。(C ママ) ンー。 ソノー  
(C えー) 貸すんだなー。(C XX) んー。 そのー

ショーカ° ツシーズンニ ハー アー ソーシテ ショーカ° ツ オワッテ  
正月シーズンに もう あー そうして 正月 終わって

ナンニチカ タチッチートー (C エー) トリニクンダカラ。  
何日か 経つて言うともー (C えー) 取りに来るんだから。

003C : ハ一。 ソレワ アノ イシ マツカザリ。  
は一。 それは あの XX 松飾。

004A : マツカザリ。 ン。  
松飾。 ん。

005C : レ レンタルノ マツカザリデスカ。  
× レンタルの 松飾ですか。

006A : レンタルダベ ナンダッテ アッテ  
レンタルだろう なんだって ~~~~~

007C : レンタルダト ヨク ソノ ツギノ トシモ ツカーンデスカネ。  
レンタルだと ×× その 次の 年も 使うんですかね。

008A : ツカーネヨ ンダッテ タゲ (C ツカーナイデスヨネー) タゲ  
使わないよ だッテ ×× (C 使わないですよねー) 竹

フルクナルシ (C エー) カザッテル マズダノー (C エー) アトナー  
古くなるし (C えー) 飾ってる 松だのー (C えー) あとなー

コンナ アゲー ~~~~~ ナゲーヤツダナ アンナノ (C エー) ミンナ  
こんな 赤い ~~~~~ 長いやつだな あんなの (C えー) みんな

カレッチャーベヤ。  
枯れちゃうだろう。

009C : アー。 ジャ レンタルッテユーカ アノ チャント ツカッタアトデ  
あー。 じゃ レンタルっていうか あの ちゃんと 使ったあとで

カイシューモシテクレル。  
回収もしてくれる。

010A : カイシューシテクレル。  
回収してくれる。

011C : んー。 ジャ ソレ ドンドヤキトカデ アノー  
んー。 じゃ それ どんど焼きとかで あのー

012A : モスノカナー。(C モシタリワ シナインデスカネー) ンー ナンダカヨー  
燃すのかなー。(C 燃したりは しないんですかねー) んー なんだかよー

ソイツワ ヨク ワカンネケンドモー。 オラガ ホンナ マツカザリナンター  
そいつは よく 分んないけれどもー。 俺が そんな 松飾なんてー

シネーガラ。 タンダ シルッテユーノワ (C エー) シミナワッテユーノカ  
しないから。 ただ するっていうのは (C えー) 注連縄っていうのか

(C ハイ) コーユー ~~~~~ イッポシ イッポシ [1] ソイツー  
(C はい) こういう ~~~~~ 1本 1本 そいつー

カミダナサ イッポン アケ° テ、 アトワー オラ チンチェーコロワ  
神棚に 1本 上げて あとは一 俺[が] 小さい頃は

オヤジ ジンブンデ コー モジ (C エー) モジッテ コンナ  
親父 [が] 自分で こう ×× (C エー) ひねって こんな

ワッカニシター (C エー) ンート マズトー サカキト アトー コノ  
輪っかにして一 (C エー) んーと 松と一 榊と あと一 この

アゲー ポンコノキーダノ サシター (C エー) ウチノ マーリダダノ  
赤い の木だの 挿して一 (C エー) うちの 周りだの

キカイダノ ソンナトコ カゲテオイタッタケッチョ。 (C ホーオ) ソレモ  
機械だの そんなとこ かけておいていたのだけれど。(C ほーお) それも

ハー アー ダンダン ヤンメデ ハー ホンナノ シンネデ ハー  
もう あー だんだん やめて もう そんなの しないで もう

カンミサマサダケ タラノロッチダー イッポン  
神さまにだけ 一本

センゴヒャクエングレーノヤツ (C エー) カッテ アギルダケダッタ。  
1500円ぐらいのやつ (C エー) 買って 上げるだけだった。

ンダカラ カッテキテ アゲル ヤツオ ソノ イッポンサー ンー  
だから 買ってきて 上げる やつを その 1本に んー

カンデ コンナニ キッター (C エー) ホシテ ブラ キッタノナンテ  
紙で こんな[ふう]に 切って一 (C エー) そして ×× 切ったのなんて

ウッ ウッテッカラ ソイツー (C ア) ショージガミデ。  
×× 売ってるから そいつー (C あ) 障子紙で。

013C : カ カミモ。  
× 紙も[売ってるのですね]。

014A : ンー。  
んー。

015C : コー コー ナワニ。(A ンー ナワサ) コ コ コ コン コン  
こう こう 縄に。(A んー 縄に) × × × ×× ××

コンナ [2] コンナンデスヨネ。  
こんな こんなんですよね。

016A : シー ソンナヤツ。 シー ソンナヤツー ソイツ サンボン。  
んー そんなやつ。 んー そんなやつー そいつ 3本。

017C : ア サンボン。  
あ 3本。

018A : シー。  
んー。

019C : コレガ カミダナデスカ。  
これが 神棚ですか。

020A : シー。 ソイツ カミダナデ サケ° テ ア ソシテオクノヨ。 アートワ  
んー。 それは 神棚で 下げて × そうしておくのよ。 あとは

ショーカ° ツキ° ヨーギーニ シンノワ ムカシワ ナンダツケ  
正月行事に するのは 昔は 何だツケ

シューカ° ツンナツツット アノー ブラグノ セーネンダジカ° コー  
正月になるというと あの 部落の 青年たちが こう

カク° ラツテヤツオ (C エー) イッケン イッケン マーツテ、 アート  
神楽ってやつを (C えー) 一軒 一軒 周って、 ~~~~~

ムカシワ ゼンブ イッケン イッケン マーツテ ヤッタダケツチョモ。  
昔は 全部 一軒 一軒 周って やったのだけれども。

ソノツキ° シ ダンダントー ヒツテキター コンド キボーシャダケン  
その次 ん 段々と 減ってきて 今度 希望者だけに

ナツター (C エー) シー。 ソイツ ダンダン ハー ナグナツテ コンドワ  
なつて (C えー) んー。 それで 段々 もう なくなって 今度は

ハー ヤグナカ° シ [3] ナンテユー ヤツ アッペシタ。 アンナノン トキー  
もう 厄流しなんていう やつ あっただろう。あんなのの とき

アノー モーシコミツチャデー ヤルク° レダナー。  
あのう 申し込み // // // やるぐらいだなー。

021C : ソレ ヤクナガシツテユーノワ ショーガツニ ヤル モン ナンデスカ。  
それ 厄流しっていうのは 正月に やる もの なんですか。

022A : ショーカ° ツニ ヤッタダ。 (C シーン) {ドア音}  
正月に やったのだ。 (C ふうん) {ドア音}

コショーカー° ツッテー ンー。  
小正月ってー ーんー。

023C : アー コショーカーガツデ。  
あー 小正月で。

024A : ニカ° ツダカー サンカ° ツニ アッペシサ アントキ。  
2月だか 3月に あるだろうさ あのとき。

025C : ンー。 アッ コショーカーガツワ コショーカーガツワ ジューゴンチデスネー。  
んー。 あっ 小正月は 小正月は [1月]15日ですネー。

026A : シャーネー オラー。  
知らない 私は。

027C : {笑} コショーカーガツワ イチガツ ジューゴニチジャナイデスカ。  
{笑} 小正月は 一月 15日じゃないですか。

アノ コーハクノ モチオ。  
あの 紅白の 餅を。

028A : ンー。コショーカー° ツッテ イツダッケー? ショーカー° ツ コショーカー° ツ。  
んー。小正月って いつだっけ? 正月 小正月。

029B : オショーカー° ツ?  
お正月?

030A : コショーカー° ツ。  
小正月。

031B : コショーカー° ツ? (A ンー) シャーナー {C 笑}  
小正月? (A んー) さあなー {C 笑}

032A : オレヨリ ワゲーガラ シャーネーダワナー。  
俺より 若いから 知らないんだよなー。

033C : アレ コーハクノ モチー モチオ コー キニ コー マルメタリトカ。  
あれ 紅白の 餅 餅を こう 木に こう 丸めたりとか。

(A ンー) アルイワ マルイ アノー ダン モチオ  
(A んー) あるいは 丸い あの ×× 餅を

034B : ジューサンニチカー。  
13日か。

035A : ナーニチダカ シャーネーヤ (C エー) \_\_\_\_\_。 アー イチ  
何日かは 知らないや (C えー) \_\_\_\_\_。 あー ××

イッチカ° ツ。  
1月。

036B : イチガツノ ジューサンニチ イナボツケ [4]。  
1月の 13日 稲穂つけ。

037A : シー。  
んー。

038C : アー イナボツケ。  
あー 稲穂つけ。

039A : シー アー イナボツケナンテァ コシヨーカ° ツニ ホンナノ  
んー あー 稲穂つけなんていうのは 小正月に そんなこと

ヤンダナ。 (C エー) シー ソントキー フタンバデワ ダルマイチ [5]  
やるんだな。 (C えー) んー そのとき 双葉では だるま市[の]

キ° ヨーンジ アッテヨー (C エー) ホントキモ ヤッパシ コシヨーカ° ツン  
行事 あって (C えー) そのときも やっぱり 小正月に

ツカウ コノー ナン\_\_\_\_\_ダ ソロット ナッタ センベクツツクッタリー  
使う この なん\_\_\_\_\_だ //// なった 煎餅作ったり

ソーイノ ウッテンノヨ。  
そういうの 売ってるんだよ。

040C : ソノ イナ イナボツケデスカ。 (A シー) イナボツケワ ジブンノウチデ  
その ×× 稲穂つけですか。 (A んー) 稲穂つけは 自分の家で

ツクッタノ。  
作ったの[ですか]。

041A : ンダ。  
そうだ。

042B : ジブンノ ウチデ ツクッ  
自分の 家で ×××

043C : ジブンノウチデ。  
自分の家で。



044A : コーハグノ モジ (C エー コーハク) モジ モジ チント ツイデー  
紅白の 餅 (C えー 紅白) 餅 餅 ちょっと 搗いて

ソシテー シロモチー  
そうして 白餅

045B : チンチャク キッター ~~~~~ キーサ ツケンダ コー ピチャーット  
小さく 切って ~~~~~ 木に つけるんだ こう ピチャーット

コーナ。(A シーダ) ピチャーット ネバス。 チッチャク キッター。  
こうな。(A そうだ) ピチャーット つける。 小さく 切って。

046C : エー。 デ アノー ユー (B シー) キニ コー マキツケルンデスカ。  
えー。 で あのう こう (B んー) 木に こう 巻きつけるんですか。

047B : マー マグデナクテー  
×× 巻くのではなくて

048C : ダンゴニ  
団子に

049A : ソイツオ コー ピチャーット ネバスンダ。  
それを こう ピチャーット つけるんだ。

050B : ピチャーット ネバセバ イーダ キーサ。(C シー。) コーナッター キー  
ピチャーット つければ いいんだ 木に。(C んー。) こうなったら 木

コーアットシタ (C エー エー) ピチャーット (C エー) コー モジ  
~~~~~ (C えー えー) ピチャーット (C えー) こう 餅

ツケレバイン。
つければいい。

051C : アー。 ジャ コー エ エダガ アルト ココニ コーユフーノ コー
あー。 じゃ こう × 枝が あると ここに こういうふうの こう

キッタノ コー ペタット。
切ったものを こう ペタット。

052A : シー キッタノ。シー。
んー 切ったの。んー。

053B : コノキワ ナンデカンデ ナニ ナニキダッケー? ナラノキダガー
この木は 必ず ×× 何木だっけ? 檜の木だか

クリノキダガー。
栗の木だか。

054A : シーデネー チカ[°] ー。ナーンダ コラー アゲー キナンダナ。(C アー)
そうではない 違う。 なんだ これは 赤い 木なんだな。(C あー)

シー。アーガイ キワ ナンテユダベ アノキワー。オーラ キノ ナメー
んー。赤い 木は 何て言うんだろう あの木は。俺[は] 木の 名前[を]

シアネーガラ アドワ ヤッケーダカラ ホン アノー ナンダ
知らないから あとは 厄介だから ×× あのう なんだ

モーソダケノー タゲー ノ イダ。(C エー) アイツ キッテ アイズア
孟宗竹の 竹 の 枝。(C えー) あれを 切って あいつは

ブラサケ[°] タリシタダッタ。(C ハーア) シー。 モーソー
ぶらさげたりしたのだった。(C はーあ) んー。 孟宗

055C : ホ ホントワ ソノ アカイ (A シー ソー) アカイ アノー (B キレー)
× 本当は その 赤い (A んー そう) 赤い あの (B きれい)

カワ カワ キナンデスネ。
×× ×× 木なんですね。

056B : ヒノキダガ ナンダダガノ。
檜だか 何かだかの。

057A : ヒノキデネワ、ヒノキツチャ アオイ ハッパナンダドー。
檜でないよ、 檜っていうのは 青い 葉っぱなんだぞ。

058C : ソーデスネー。
そうですねー。

059B : ナンダ。 ナンダッタベ アレワ。
何だ。 何だったろう あれは。

060C : アカクツテ ハッパ オチテルンデスヨネー。
赤くって 葉っぱ 落ちてるんですよー。

061A : ハッパ オチテルー。(C ン) ンダガラ マイノ トシニー ニッコ
葉っぱ 落ちてる。(C ん) だから 前の 年に 根っこ

キッテオクチュ ニッコデネ フルイ キー (C シー)
切っておくというと 根っこでない 古い 木 (C んー)

キットクチトー シンメカ° アゲー アイツカ° デテクンノヨー。
切っておくという と 新芽が 赤い あいつが 出てくるのよー。

(C エーエー エー) ソイツオー ヤワイッテ イーアンベ イーアンベ
(C えーえー えー) それを やわらかいって いい塩梅に いい塩梅

シー カッコノ イーヨナ トコ ポツント キッチキテ ソイツオ
んー 格好の いいような ところ ポツンと 切ってきて それを

ブラサケ° ノノヨ。
ぶら下げるのよ。

062C : ア ブラサゲルンデスカ。
あ ぶら下げるんですか。

063A : シー。 キー ンダガラー カミサマノ ニッコ アタリサ クツツケテ
んー。 木 そうだから 神様の / / / あたりに くっつけて

ソーシテ コーナッタトゴサー コノ モジ ペッタペッタ ペッタペッタ
そうして こうなったところに この 餅 ペッタペッタ ペッタペッタ

ツケンノヨ。
つけるのよ。

064C : モチオ ツケルトー イッパイ コー モチガ ツケ ツイテ
餅を つけると いっぱい こう 餅が ×× ついて

オモクナルノデ チョード イナホミタイニ ナルンデスカ。
重くなるので ちょうど 稲穂みたいに なるんですか。

065A : シー ソーソー。
んー そうそう。

066C : ジャ ソレワ カミダナニ アゲタンデスカ。
じゃあ それは 神棚に 上げたんですか。

067A : カンミダナダナ アレ。
神棚だな あれ。

068B : ンダナー。
そうだなー。

069C : シー。
んー。

070A : カミダナノ ハシラサー ノ (C エー) ソバサ ユワイダダッタガラー。
神棚の 柱に の (C えて) 傍に 結わえたのだったからー。

ソイツサ フンダカラ ナンダ アレワ。 モナガノ カワ ツグル ヤズデ
それに そうだから なんだ あれは。 最中の 皮[を] 作る やつで

ダルマ デキタリナンダリ ソンナヤツーオ センベーダノナンダ サケ° テ。
だるま できたりなんだり そんなやつを 煎餅だのなんか 下げて。

071C : アッ ソノ イナボツケニ センベーモ。
あっ その 稲穂つけに 煎餅も。

072A : ンー センベーモ ツケタン。
んー 煎餅も つけたの。

073C : アノー コムギコデ ツクッタ センベーデスヨネー。 ナンブセンベミタイナ
あの 小麦粉で 作った 煎餅ですよねー。 南部煎餅みたいな

074B : ンダ。
そうだ。

075A : ンダー ソンナヨンナ (B ンダー) ヤツー。 ンー。
そうだ そんなような (B そうだ) やつ。 んー。

076C : ナンブセンベーク ウント カタイデスケレドモ アーユー カタイ
南部煎餅は うんと 硬いですけれども ああいう 硬い

センベーデ
煎餅で

077B : ダル ダルマノ カタチシタ (C エーエー) センベーガラ (C アー)
×× だるまの 形した (C えてえて) 煎餅から (C あー)

イロイロ
いろいろ

078A : ンー セン
んー ××

079C : コ コーユ カタチノ センベーデス~~~~~
× こういう 形の 煎餅です~~~~~

080A : ンー ソイツサー コー シボカ° ツイデテ
んー そいつに こう 紐が ついてて

081C : エー。ア コーユノワ イチデ カッテクルンデスカー。
えー。あ こういうのは 市で 買ってくるんですか。

082A : イジデ カッテクルノ。 ダッチ ジブノウチデ フンナ センベーノ カダモ
市で 買ってくるの。 だって 自分の家で そんな 煎餅の 型も

ネーベシー。
ないだろうし。

083C : ンー。 コレニ イトガ ツイテルンデスネー。
んー。 これに 糸が ついてるんですねー。

084A : ンー。 ンダガラ ソイツワ ダルマダノー ンー センベーダノ
んー。 だから そいつは だるまだの ンー 煎餅だの

クッツゲデー。
くっつけて。

085C : ダルマモ ツケタンデスカ。
だるまも つけたんですか。

086A : ダールマッテ コノー
だるまって この

087B : ダルマワ ツケナイ
だるまは つけない

088C : センベー。
煎餅。

089A : センベーデ
煎餅で

090C : センベーノ ダルマ。
煎餅の だるま。

091A : ンー センベーノ ダルマ。
んー 煎餅の だるま。

092B : ダルマワ ダルマデ カッテキテー (C エー。 ジャー フタバモ) ア
だるまは だるまで 買って来て (C えー。 じゃあ 双葉も) あ

カミダ カミダナノ (C ンー) アノー アゲデタノ。
××× 神棚の (C んー) あの 上げてたの。

093C : エー。 ジャー ソノ ダルマイチン トキデ。
えー。 じゃー その だるま市の 時で。

094B : チン チンチェー チン
×× 小さい チン

095A : ンー ダルマイチ。
んー だるま市。

096B : チンチェー ジンカラ コー ソロデ マイトシー (C エー エー)
小さい 順から こう 揃えて 毎年 (C えー えー)

コー コトシ コノ クレーナノ カッタラ ライネンワ (C エー) スコシ
こう 今年 この くらいなの[を] 買ったら 来年は (C えー) 少し

オッキーノ カッター (C エー) コー ジ ジュングジュング。(C エー)
大きいの 買って (C えー) こう × 順々に。 (C えー)

097A : ホンナコトシテ ツケタッタカー。
そんなことして つけていのだったかー。

098B : ヤッター。
やった。

099A : オラ オシシ ダールマダッタラ ナンデモイート オモッテタカラ
俺 ××× だるまだったら なんでもいいと 思ってたから

100B : ンデネ。 チンチェー ジンカラ カッテ ソナエテク。 (A ンーン。)
そうじゃない。小さい。 順から 買って 供えていく。 (A んーん。)

ソシテ (A ホイツワ アレダンベ) アト イツパイン ナッタラ モ モス
そうして (A そいつは あれだろう) あと いっぱいに なったら × 燃す

101A : ホイツワ カミダナサ アケル ダルマダベァー。(B ンダー) チカ[°]ー イ
そいつは 神棚に 上げて だるまだろう。(B そうだ) 違う ×

イナホノモー
稲穂[つけ]のも

102C : エー。 ジャー ソノ ダルマイチン トキデ。
えー。 じゃー その だるま市の 時で。

103B : チン チンチェー =====
×× 小さい =====

- 104A : シー ダルマイチ。
んー だるま市。
- 105B : チンチェー ジンカラ コー ソロデ マイトスー (C エー) コー コトシ
小さい 順から こー そろえて 毎年 (C えー) こう 今年
- コノクレーナノ カッタラ ライネンワ (C エー) スコシ オッキーノ
このくらいなの 買ったら 来年は (C えー) 少し 大きいの
- カッター コー ジ ジュングジュング
買って こう × 順々に
- 106A : ホンナコトシテ ツケタッタガー。
そんなことし [稲穂に飾りを]付けていたっけかー。
- 107B : ヤッター。
やった。
- 108A : オラ オシンシ ダールマダッタラ ナンデモ イード オモッテダガラ。
俺 ×××× だるまだったら 何でも いいと 思ってただから。
- 109B : ンデネ。 チンチェー ジンカラ カッテ ソナエテク。(A ンーン) ホシテ
そうでない。 小さい 順から 買って 供えていく。(A んーん) そして
- (A ホイツワ アレダンベヤ) アド イツパインナッタラ モ モス。
(A そいつは あれだろうよ) あと いっぱいになったら × 燃す。
- 110A : ホイツワ カミダナサ アケ° ル ダルマダベア。(B ンダー) {C 相槌}
そいつは 神棚に 上げる だるまだろう。(B そうだ) {C 相槌}
- チカ° ー イ イナホノモー
違う × 稲穂のも
- 111B : イナホワ ンサ ツケンノモ アルー。(A ノー ツケ ツケンノモ
稲穂は そうさ 付けるのも ある。(A [稲穂]の ×× 付けるのも
- フンダ) ダルマ ダルマノ カタチン ナッテ。
そうだ) だるま だるまの 形に なって。
- 112C : セ センベー。
× 煎餅。
- 113A : ンダガラ ンー ダルマノ (C ンーン) カタチオ シテタケッドモ コンナ
だから んー だるまの (C んーん) 形を してたけれども こんな

コトシワ イッセンチダッタケンチョモ ライネンワ ニセンチナンテ
今年は 1センチだったけれども 来年は 2センチなんて

ホンナコト キモッテネーモン。
そんなこと 決まってないもの。

114B : チガーッテ。 _____
違うって。 _____

115C : ソレア カザルホーノ ダ ダルマデスカ。
それは 飾るほうの × だるまですか。

116A : カザルホー ンー。 カミダナサ アキ° ル ヤズワー チンチェー
飾るほう んー。 神棚に 上げる やつは 小さい

タドエバエ ゴセン コトシワ ゴセンチノ ヤズ ヤッターラ ライネンワ
例えば ××× 今年は 5センチの やつ[を] やったから 来年は

ロクセンチドガ ダンダン オッキグシデー デ サイコ° ニー
6センチとか だんだん 大きくして [それ]で 最後に

ゴジッセンチク° レーナッタラモンダラ ハー、 イッカイ コイツ
50センチぐらいになったものなら もう、 一回 こいつ[を]

トリハラッテ (C エー) アノー ドントサイッテユーノ [6] (C エー)
取り払って (C えー) あのー ドント祭っていうの (C えー)

ソントキ モッテッテ モシテクンノヨ。 ホノ
その時 持って行って 燃してくるのよ。 その

117C : ソースルト マタ ソ ソノ ツギノ トシーワ チッチャイ
そうすると また × その 次の 年は ちっちゃい[だるまを買う]

118A : ンー チッチャイノガラ ヤル シトモ イルシー (C エー) ホノ
んー ちっちゃいのから やる 人も いるし (C えー) その

オッキーノ ヤッテ オッキーノガラ ダンダン サケ° テクル
大きい の やって 大きい の から だんだん [小さく]下げてくる

{C 相槌} シトモ イルシー。 ソノ カ カターニヨッテ チカ° ーンダネ。
{C 相槌} 人も いるし。 その × 家庭によって 違うんだね。

119C : ソノ ダルマワ アノー マイトシノ コノー カッターワ ズーット
その だるまは あのー 毎年の この 買ったのは ずーっと

カザットクンデスカ。
飾っておくのですか。

120B : カザットクダ。
飾っておくのだ。

121A : カザットクヨ。
飾っておくよ。

122C : アノ チーサイノカラ ジュンバンニ。(B ン一) (A ン一) デ モー
あの 小さいのから 順番に。(B ん一) (A ん一) [それ]で もう

ゴジッセンチグライニ ナッターラ ソレオ ドントサイニ モッテッテ
50センチぐらいに なったら それを ドント祭に 持って行って

(A) ソノトキワ ゼンブ モスンデスカ。
(A) その時は 全部 燃すんですか。

123A : ゼンブダ。
全部だ。

124C : チッチャイノモ。
小さいのも。

125A : ン一 チッチャイノモ。
ん一 小さいのも。

126B : ン一 タナ タナ イッパインナッカラー (C エ一)
ん一 棚 棚 いっぱいになるから (C え一)

カエネーダ。
買えないのだ。

127A : タ タナノ一 タガサカ°
× 棚の 高さが

128C : タナノ タカサニ ハイル ハイラナクナッターラ ダメデスヨネ。
棚の 高さに 入る 入らなくなったら だめですよね。

129A : ハイル ヤズダ。ハイダ ン一 ハインナグナッターラ ダメ ダガラ
入る やつだ。××× ん一 入らなくなったら だめ だから

(C エ一) ソイズー
(C え一) それを

130C : ウチ ウチモア タナガ コノクライシカ ナクッテー アンマリ デッカイノ
家 [私の]家も 棚が このくらいしか なくて あんまり 大きいの

カーナクッテイーヤッテ ユッテー (A ンー) マイトシ チッチャイノ
買わなくていいやって 言って (A ンー) 毎年 小さいの

カッテマシタケド。
買ってましたけど。

131A : オーレーノ タナワ ナンボ アノ カミダナーノー ナガサ イマ シトツ
俺の[家の] 棚は なんぼ あの 神棚の 中に もう 一つ

カミダナサ ハイルク° レーノ ヤズダガラ。
神棚が 入るぐらいの やつだから。

132C : ジャ ダイブ オッキーデスネー。
じゃ だいぶ 大きいですねー。

133A : ンー。 タガサ ナンボ アッペヨ。 ヨンジューコ° センチガ
んー。 高さ どのくらい あるだろうよ。45センチか

ゴジッセンチ アルナー。 ンー。
50センチ あるなー。 んー。

注

[1] イッポン イッポン

ドアを開閉する音が発話に重なって聞き取りにくい。

[2] コンナ

注連縄の絵をかきながらの発話。

[3] ヤグナカ° シ

正月の行事として行われた厄払いの行事。

[4] イナボツケ

稲穂つけ。旧正月 14 日頃の行事。繭玉に相当するものと考えられる。『相馬方言考 改訂版』(新妻三男 1973) の方言雑話「二三、稲穂と生り申す」の項目を見ると、次のようにある。

旧正月一四日の行事に、稲穂と生り申すがある。

「稲穂」といふのは本物の稲穂のことではなくて、いなぼの木? の小枝に餅を点々と、恰も稲穂のやうにとりつけて部屋に飾り、今年の豊作を祈願するのである。いま農家は欠かさずこれをやってゐる。(後略)

また、同書の「単語」の章には、「エナボ(名) 稲穂の意。旧正月十四日に木の枝に餅をつけて居間に飾るもの。稲穂にみなして今年の満作を祈る。」とある。

[5] ダルマイチ

だるま市。双葉町で行われていた正月の伝統行事。この後の話から、だるま市の時に小正月に使うものなども売っていたことがわかる。

[6] ドントサイッテユーノ

「ドントサイ」はドント祭。どんど焼き、左義長のこと。

【3】正月の雑煮・餅つきのこと

収録時間 6分58秒

話し手

A 男 1936 (昭和 11) 年 (収録時 77 歳) 農業
B 女 1938 (昭和 13) 年 (収録時 75 歳) 農業
C 女 1957 (昭和 32) 年 (収録時 56 歳) (調査員)

001C : アノー オショーガツノ オゾーニワ ドンナ オゾーニデシタカ。
あのー お正月の お雑煮は どんな お雑煮でしたか。

002A : オゾーニーワー ショーユサ アー トリニグ イッチェツチャー ソイズア
お雑煮は 醤油に あー 鶏肉 入れて そいつは

ポタンポタント アノー ツ コー ツイ ツイデットギ ハー アルテード
ポタンポタンと あのー × こう ×× 搗いているとき もう ある程度

イマ キカイデ ツグガラダ..... (C エー) キカイデ シュット トッテー
今 機械で 搗くからだ..... (C えー) 機械で シュット [餅を]取って

(C エー) デ ミズンナガサ ウルガシテタ [1] ヤツオ (C エー)
(C えー) [それ]で 水の中に 浸していた やつを (C えー)

アズイガラナー、 (C エー) ホイツオ トッテー テンデ
[搗きたては]熱いからなー、(C えー) そいつを 取って 手で

チキ° ノノヨ ポツンポツント。 コゴサ ウー ンー サンニン イッカラナー、
ちぎるのよ ポツンポツント。 ここに うー んー 3人 いるからなー、

シトリ フタツツズツダッテー ロッコ アレバイーナンテモツテ (C エー)
一人 2つずつだって 6個 あればいいなんて (C えー)

アンマリ ダマッテ イッコクツツート モジト モジ
あんまり だまって [水に]入れておくと 餅と 餅[が]

シツツイチャッテヨー (C エー) ツンキ° クートギ アッタメチト シニ
引っ付いちゃってよー (C えー) 次 食う時 温めるというと 火に

カケッチート ハー ドロドロ ナッチャーベ。 ンデネガラ フンナコト
かけるといって どろどろに なっちゃうだろう。 そんなこと

シンダッターラ ハー ゴーニモチワ イッカイ ツイダ ヤズオ (C エー)
するのだったら もう 雑煮餅は 一回 搗いた やつを (C えー)

ズット ノバシテ トッポトッポチ キッテ (C エー) ホイデ ヤイデ
ずーっと 伸ばして トッポトッポと 切って (C エー) それで 焼いて

イッ イリ アノー
×× ×× あのー

003C : アッ ノバスンデスカ。 コ ノ ノスンデスカ。
あっ 伸ばすのですか。 こう × 伸すのですか。

004A : ノス。 _____ コーユー アー ココサワ ネーナー。
熨す。 _____ こういう あー ここには ないな。

フツノ ウチサ コーユ アマドイッツノ アPPER。 (C エーエー)
ふつうの 家に こういう 雨樋っていうの あるだろう。(C エーエー)

アイツー ロクジッセンチニ グライニ キッタ ヤツサ (C エー)
あいつ[を] 60センチに [60センチ]ぐらいに 切った やつに (C エー)

イリテ ペタペタ ペタペタ ヤッテ オツツイテッテ
[餅を]入れて ペタペタ ペタペタ やって くっつけて いって

{テーブルを叩く音} (C アーア) ホシテ カタグナッテガラ コロント
{テーブルを叩く音} (C あーあ) そして 固くなってから コロンと

シックリゲーッチャ ソイツ キッテ
ひっくりかえしては そいつ[を] 切って

005C : ソスト チョード カマボコミタイデスネ。
そうすると ちょうど かまぼこみたいですね。

006A : ソー。 ンー。 ソーシデー ヤイデー (C エー) アー ゴーニニ シダリー
そう。 んー。 そうして 焼いて (C エー) あー 雑煮に したり

(C エー) ホンナゴトシデー クッ ンー ナ ツイタバッカシン トキワ
(C エー) そんなことして ×× んー × 搗いたばかりの 時は

ソノマンマ ハー テデ ポツポツ キッテ、(C エー) ホシデー コー
そのまま もう 手で ポツポツ 切って、(C エー) そして こう

ナットーニ モチニ シタリ (C エー) オゾーニモチニ シタリ ソイツ
納豆に [納豆]餅に したり (C エー) お雑煮餅に したり そいつ

アン アンコーモチニ シタリ ソンナシテ タベタンダワイ。
×× 餡子もちに したり そんなことして 食べたんだよ。

007C : アノ オショーガツノ オゾーニ モ ソノー アマドイミタイナノニ
あの お正月の お雑煮 も その 雨樋みたいなのに

イレタノオ ヤイテ。
入れたのを 焼いて。

008A : イヤ ソイツワ ハー ツキタテー ハー クーダワイ ソノマンマ。
いや そいつは もう 搗き立て[を] もう 食うのだよ そのまま。

009C : デ オショーガツニ モチ ツクンデスカ。
[それ]で お正月に 餅[を] 搗くのですか。

010A : オショーカ° ツニ ツグー ウジモ アルーシ ツガネー ウジモ アルシ。
お正月に [餅を]搗く 家も あるし 搗かない 家も あるし。

ヤッケーダカラ ハー フツワ ハー (C ハイ) ショーカ° ツマエニ
厄介だから もう ふつうは もう (C はい) 正月前に

ツイデオグノヨ。
搗いておくのよ。

011C : エー。 ダイタイ ショーガツマエノ ナンニチ。 サンジューニチ。
えー。 だいたい 正月前の 何日。 30日。

012A : ナンニチ サ サンジューニチガ ニ ニジュー (C ニジューハチ)
何日 × 30日か × 20 (C 28[日])

ニジュークンチニワ クニ クニモジツカー [2]。
29日は クニ クニ餅とか。

013B : ニジュークツチャー モチ ツグモンデネーツテ。
29[日]と云えば 餅[を] 搗くものでないって。

014C : ダメデスネー。 ソーデスヨネー。
だめですネー。 そうですよねー。

015A : ダ ク クニ モジツカッター (C エー) ダメダガラ ニジューハチンチ。
だから × クニ 餅とかって (C えー) だめだから 28日[に搗く]。

016B : サンジューニチガ (C アー ニジューハチンチ) サンジューイチ。
30日か (C あー 28日) 31[日]。

017C : サンジューイチンチニ ツクコトモ アツタン
31日に 搗くことも あったの

018A : アル。 ンー。
ある。 んー。

019B : ニジューハチカ サンジューニチ。
28[日]か 30 日。

020C : エー。(A ンー) デ ニジューハチニチカ サンジューニチガ ダイタイ
えー。(A んー) で 28[日]か 30 日が だいたい

オーイデスカ。
多いのですか。

021A : ンー。 ンーダナー。
んー。 そうだなー。

022C : デ ソノ アマドイニ イレテ (A ンー) カッ スコシ カタクスルッテ
で その 雨樋に 入れて (A んー) ×× 少し 固くするって

ユーノワ オゾーニニ スルトキノ モチナンデスカ。
いうのは お雑煮に する時の 餅なんですか。

023A : イーヤ フ フダンヤ (C フダンヨー) フダーンノ ヤイデ タベツトガ
いや × ふだん用 (C ふだん用) ふだんの 焼いて 食べるとか

(C エー) ソンナー ヤツダワヨ。
(C えー) そんな やつだわよ。

024C : ジャ ショーガツヨーワ コー シカクク キルンデスカ。
じゃ 正月用は こう 四角く 切るのですか。

025A : ビューツダン ヤツケダカラ ソンナモンナ アマドイサ イッチャー
別段 厄介だから そんなものは 雨樋に 入れては

キルダケダー。 {笑} {C 笑} シカクニナンツツタラ アーダベ
切るだけだ。 {笑} {C 笑} 四角になんて言ったら あれだろう

コーイ ハンダイ [3] ダイタイ (C エー) ノバサナクーテワ。 ナー
こういう 飯台 だいたい (C えー) 伸ばさなくては。 なんだ

ノバシタッテ コッチノ ハジト マンナガノ アズミ チカ° ーガラナー。
伸ばしたって こっちの 端と 真ん中の 厚み[が] 違うからなー。

(C エー) ンー。 ホンナ カテーコト カンカ° ーテネーガラ ウチデワ。
(C えー) んー。 そんな 堅いこと 考えてないから 家では。

ミンナ ハー アー アマドイサ イレテ (C エー) スット ナジョシテ [4]、
みんな もう あー 雨樋に 入れて (C えー) スット どうにかして、

(C エー) ホイデ カ アー カタクナッタモンダラ ホイツガラ トッテー、
(C えー) それで × あー 固くなったものなら そいつから 取って、

(C エー) イマノ モジワ ナンダガ カダクナンノ ハイェーヨーナ
(C えー) 今の 餅は なんだか 固くなるの 早いような

カンジシテヨー。(C アー) ンー。 ソイツー コンド キカイデ ハー
感じしてよー。(C あー) んー。 そいつ 今度 機械で もう

ポツツン ポツツン ポツツン {切るふりをする}
ポツツン ポツツン ポツツン {切るふりをする}

026C : ア キカイデ キルンデスカ。
あ 機械で 切るのですか。

027A : キカイデ キカイデモネーワヨ アンナノ。 ムガーシ ムガシ アノ
機械で 機械でもないよ あんなの。 昔 昔 あの

ンマトガ ウシニ (C エー エー) カセタノ [5]
馬とか 牛に (C えー えー) 食わせたの

オシキ° リ [6] ナンテユー ヤツダ (C エー エー) アレー ノ ヤツデ
押し切り なんていう やつだ (C えー えー) あれ の やつで

キンダワイ。
切るんだよ。

028C : アー アレデ モチモ キッテタンデスカ。
あー あれで 餅も 切ってたのですか。

029A : ホ モジ キル ヤズア ベツニ アズ。 ソーイ セン センヨーノ
そう 餅[を] 切る やつは 別に ある。 そういう ×× 専用の

ヤツナンダ。(C ア ンー) ソイツ キッテ。 _____
やつなんだ。(C あ んー) そいつ[で] 切って。 _____

030C : ソースト コー ウエニ ハガ ツイテテ コーヤッテ キル ヤツデスカ。
そうすると こう 上に 刃が 付いてて こうやって 切る やつですか。

031A : ソー。 シタ イダデヨ。(C エー) アートワ ハー ヤイデ クーノワ
そう。 下[が] 板だよ。(C えー) あとは もう 焼いて 食うのは

ハー アンコ ツケテ クツタリ ハー、 オゾーニニシテ クツタリ。 アレ
もう 餡子 付けて 食ったり もう、 お雑煮にして 食ったり。 あれ

ムガーシワ ナンダッタベ コノー ショーカ° ツーノ フ ツイタチダカ
昔は なんだったろう この 正月の × 一日だか

フツカニワ ハー オドゴシト [7] カ° オマカネ [8] シンダーナンター
二日には もう 男が 賄い[を] するのだなんて

(C ソーデスネー) ソンナコト ユツタケンチョモー。

(C そうですねー) そんなこと 言ってたけれども。

032C : エー。 ツイタチジャナインデスカ。
えー。 [正月]一日じゃないんですか。

033B : ヤンネーモン。
[賄を]やらないもの。

034C : ヤラナインデスカ。{笑}
やらないんですか。{笑}

035A : {笑} ヤンネー _____。
{笑} やらない _____。

036B : _____ ダッテ ヤンネーワイ。 ニッカーション ミッカカンダケワ
_____ だって やらないよ。 _____ [正月の]三日間だけは

オトコシトノ マカネーカナンツツタッテー(C エー)ヤンネーモノ ダメダー。
男の 賄いかなんて言ったって (C えー) やらないもの だめだ。

037A : ノンノカイ
~~~~~

038C : ジャ ヤル ウチダトー オショーガツノ ミッカカンワ アノー  
じゃ やる 家だと お正月の 三日間は あのー

(A ンダナー) オトコシガ

(A そうだなー) 男衆が

039A : ナーnda ヤンネーベー クサシ [9] ダ。 イマノ オトコッチャー  
なんだ やらないだろう 怠け者だ。 今の 男っていうのは

クサシダカンナー。{C 笑}

怠け者だからなー。{C 笑}

040C : ソノ オショウガツノ アノー ツイタチヤ フツカニ タベル  
その お正月の あの 一日や 二日に 食べる

オゾーニッテ ユーノワ アノー オモチノ ホカニワ グワ ドン ナニオ  
お雑煮って いうのは あのう お餅の ほかには 具は ×× 何を

イレマシタカ。  
入れましたか。

041A : グーワ ホトンド アノー ナンダ ダイゴン ダイコンダナンテ アノー  
具は ほとんど あのう なんだ 大根 大根だなんて あのう

ゴボーノ ササキ° リ [10] トガー アン トリニクワ イッチャナー。  
ごぼうの 笹がきとか ×× 鶏肉は 入っていたなー。

ンー。  
んー。

042C : コボーノ ササキ、 ダイコンモ イレマシタカ。  
ごぼうの 笹がき、 大根も 入れましたか。

043A : ダイコンナンテワ インニャー ハー (C イレナイ) アジ デネーモン。  
大根なんてのは 入れない もう (C 入れない) 味[が] 出ないもん。

044C : アー。 アトワ エート ゴボーノ ササギリト トリニク (A ンー)  
あー。 あとは えーと ごぼうの 笹がきと 鶏肉 (A んー)

ニンジンワ ドーデスカ。  
人参は どうですか。

045B : ニンジンダノ キリコブ。  
人参だの 切り昆布。

046C : ニンジン キリコブ。  
人参 切り昆布。

047A : オゾーニサ キリコンブ イッチャーカー。  
お雑煮に 切り昆布 入っていたか。

048B : イーレール。  
入れる。

049A : ンダカ。  
そうか。

050C : ソレワ ワリト フタバマチダト チカクノ ヒトタチア ミンナ  
それは 割と 双葉町だと 近くの 人たちは みんな

イレテル モノデシタカネ。  
[切り昆布を]入れてる ものでしたかね。

051B : \_\_\_\_\_ ワンカ° ヤノ ダケ。{笑} {C 笑} ホガノ シトワ  
\_\_\_\_\_ 我が家の だけ。 {笑} {C 笑} ほかの 人は

ドーヤッテンダカ ワカンネー。  
どうやってるのだから わからない。

052C : エー。  
えー。

053A : ヨーソデワ ドーユゴド ヤッテツカ (C エー) ワカンネツチョモ。  
よそでは どういうこと やってるか (C えー) わからないけれども。

054C : ネギワ ドーデスカ。 \_\_\_\_\_  
ネギは どうですか。 \_\_\_\_\_

055A : ネ ア ネギ° ナンテモ イリルナー。  
× あ ネギなんていうのも 入れるなー。

056C : ナガネギデスヨネー。  
長ネギですよなー。

057A : ンー ナカ° ネギ° 。  
んー 長ネギ。

058C : アブラーゲワ ドーデスカ。  
油揚げは どうですか。

059B : アブラーケ° ワ アンマリ \_\_\_\_\_ (C イレナイ) オゾーニサナ。  
油揚げは あんまり \_\_\_\_\_ (C いれない) お雑煮に。

060A : トリ トリニグ イレツカラ ハー  
×× 鶏肉[を] 入れるから もう

061C : エー。 アジガ デテ。  
えー。 味が 出て。

062A : トリニグノ アブラ アンマ アジト アイツノ アジワ チカ° ーベガラ。  
鶏肉の 油 あんまり 味と あいつの 味は 違うだろうから。

063B : トリニグ トリニグダノ (C エー) イレデ、(C エー) イダメデガラ  
鶏肉 鶏肉だの (C エー) 入れて、(C エー) 炒めてから

(C エー) アレ スッカラ、 アブラーケ° ナンカ インネーナー。  
(C エー) あれ するから、 油揚げなんか 入れないなー。

064C : イレナイ。  
入れない。

---

## 注

- [1] ウルガシテタ  
「ウルガス」は、水に浸すこと。
- [2] クニモジツトカー  
「クニモジ」は、12月29日に餅を搗くこと。9日が「苦」に通じることから、この日に餅つきをするものでないとして、搗かない。
- [3] ハンダイ  
餅を伸すための台。
- [4] ナジョシテ  
どうにかして。
- [5] カセタノ  
「カセル」は、食わせる。
- [6] オシキ° リ  
押し切り。ここでは、家畜に食わせる藁を切るための道具と同じような台所道具。
- [7] オトコシト  
男人。男性、男。
- [8] オマカネ  
賄い。料理を作ること。ここでは、正月三が日は男が台所に立つという習慣のこと。
- [9] クサシ  
怠け者のこと。『相馬方言考 改訂版』(新妻三男 1973)には、「クサシ(名) 骨惜しみ、無精、大儀がること。又その者。(後略)」とある。
- [10] ササキ° リ  
笹切り。笹のように細く薄くそぎ切りにすること。笹搔き。

#### 【4】桑畑の話

収録時間 2分40秒

話し手

A 男 1936 (昭和 11) 年 (収録時 77 歳)  
B 女 1938 (昭和 13) 年 (収録時 75 歳)  
C 女 1957 (昭和 32) 年 (収録時 56 歳) (調査員)

001C : ムカシワ クワバタケガ ヤッパリ グ グンマダカラ (A クワバタケ  
昔は 桑畑が やっぱり × 群馬だから (A 桑畑

アッタドナー。シー) オーカッタデスケド イマ モー ゼンゼン  
あったよなー。んー) 多かったんですけど 今 もう 全然

ミナクナッチャイマシタネー。 オカイコ ヤル イ ウチガ ナイデスカラ。  
見なくなっちゃいましたねー。 養蚕 やる × 家が ないですから。

002A : ンダナー。 アレ グンマノー トミオカチャー [1] ナテユー トゴロサモ  
そうだなー。 あれ 群馬の 富岡町なんていう ところにも

イッタコトモ アルケッチョモヨー アスゴラヘンワ  
行ったことも あるけれどもよー あそこら辺は

クワバタケ° ーバッカシダッタモンナ。 (C ソーデスネー) ダイド イマ  
桑畑ばかりだったもんな。 (C そーですネー) だけど 今

シー  
んー

003C : イマ モー ゼンゼン ナイデスネ。  
今[は] もう 全然 ないですね。

004A : カラナ。 コーサ コノ シンサインナルー ニサンネンマエニ  
からな。 ××× この 震災になる 2・3年前に

イッチキタッタ オレ。  
行ってきたんだ 俺。

005C : エー。 モー ナカッタデショー。  
えー。 もう [桑畑は]なかったでしょう。

006A : ナガッタ。 (C エー) アノ クワバタゲ アッタ トゴナンテ  
なかった。(C えー) あの 桑畑[が] あった ところなんて

ガサヤブ [2] シ ナッテ キー ヤブニ。  
藪に なって [桑の]木[が] 藪に。

007C : アー ガサヤブッテ ユーデスカ。{A 笑} {笑} ジャー アノ  
あー 「ガサヤブ」って 言うんですか。{A 笑} {笑} じゃー あの

ソノママ コー コーサクホーキチッテ ヤツデ。  
そのまま ×× 耕作放棄地って やつで。

008A :                      シー ソーソー。 シー。  
                     んー そーそー。 んー。

009C : アノ クアノ ネッコガー トルノガ ヨーイジャナインデー (A シー)  
あの 桑の 根っこが 取るのが 容易じゃないので (A んー)

ケッキョク アトデ ナンカ ハタケニ シナオスノガ メンドクサクッテ  
結局 後で 何か 畑に し直すのが 面倒くさくって

(A シー) ホーキシチャッタデショーネ。  
(A んー) 放棄しちゃったんでしょね。

010A : シダベナ。 シダケッドモ ヤッパシ フタバ [3] アタリモ ホンナ トコ  
そうだろうな。 だけれども やっぱり 双葉辺りも そんな ところ

アンダ (C エー) ソーインナンツッテヨー。  
あるんだ (C えー) 桑園なんて言ってよー。

011C : エー。 ソーインデスカ。  
えー。 桑園ですか。

012A : クワバタゲ、 コーイ  
桑畑、 こういうふう

013C : アー。  
あー。

014A : クワバタゲーニー シテーエー タ トゴカ° アン シ シトカ° ハー  
桑畑に してい た ところが ×× × 人が もう

トショッテキタシー (C エー エー) ワゲーモノ イネーガラ (C エー)  
年を取ってきたし (C えー えー) 若い者[が] いないから (C えー)

ソノまんま ハー ノビッパナシデ オグガラー ソイツア キー コンナ  
そのまんま もう 伸びっぱなしで おくから そいつは 木[が] こんな

フトグナッテァー アイツァ クロイ ミー ナンノナ。  
太くなくて あいつは 黒い 実[が] 生るのな。

015C : アー ソーデスネ。  
あー そうですね。

016A : ン。 ソイツー コンド トリニ ニンケ° シ ニンケ° ンカ° トッ トッ  
ん。 そいつ[を] 今度 採りに ×××× 人間が ×× ××

ソノ ア クロイ ミオ トッテ オレ ナン シンダッテ  
その あ 黒い 実を 採って[いる人に] 俺[が] なに するんだって

キータラバ、 コーイツ アノ ジャーム ウンマインダガラ (C エー エー)  
聞いたらば、 こいつ あの ジャム うまいんだから (C えー えー)

ナンツッテー トッテグ シト インダツケ。  
なんて言って 採っていく 人[が] いるんだっけ。

017C : イマダト アノ ジェーエーナンカダ ノ チョクバイジョデ (A ン)  
今だと あの JA なんかだ [JA]の 直売所で (A ん)

タマニ ウツテマスヨ。  
たまに 売ってますよ。

018A : アー ソー。  
あー そー。

019C : デモ コドモノコロモー ワタシ アンマリ スキジャナカッタカラ  
でも 子どもの頃も 私[は] あんまり 好きじゃなかったから

タベナカッタンデー  
食べななかったんで

020A :        アイツ クーチット ココ マックロ ナッカラナー。  
       あいつ 食うというところ 真っ黒[に] なるからなー。

021C : ソーデスネー。 {笑} フクシマノ フタバノ アタリデワ アノー  
そうですねー。 {笑} 福島の 双葉の 辺りでは あのー

オカイコッテユカ ヨーサンワ シ シテタンデスカ。  
お蚕っていうか 養蚕は × してたのですか。

022A : スル ン ヤッテタ シトモ イタ。 {C 相槌} ン。 ハダゲ イッパイ  
する ん やってた 人も いた。 {C 相槌} ん。 畑[を] いっぱい

モッテル シトダリー (C エー) ソーイ シト。 アートワ タンボダモン  
もってる 人とか (C えー) そういう 人。 あとは 田んぼだもの

ミンナ。 ンー。 ムカシノ タンボワ コンナ チーサー \_\_\_\_\_  
みんな。 ンー。 昔の 田んぼは こんな 小さい \_\_\_\_\_

(C ソーデスネー) イマ イマー キバンサービシテ ハー キカイカ°  
(C そうですねー) 今 今[は] 基盤整備して もう 機械が

オーカ° タガカシタガラー ハー ミンナ オッキ タンボン ナッテッケドー。  
大型化したから もう みんな 大きい 田んぼに なってるけど。

023C : エー。 ヤー ムカシワ ホントニ イ アノ  
えー。 いや 昔は 本当に × あの

マッスグジャナカッタデスカラネー。  
[田畑の区画が]まっすぐじゃなかったですからねー。

024A : ンーン。 マッスク° デネアー。  
んーん。 まっすぐでない。

025C : デモ ソノコロガ ナツカシーデス。  
でも その頃が なつかしいです。

026A : ンーダナヤー。  
そうだなあー。

---

## 注

[1] トミオカチャー

地名。群馬県富岡市のことと思われる。

[2] ガサヤブ

藪。『福島県方言辞典』(児玉卯一郎 1935)には、使用地域は福島県の全地域とある。  
また、『相馬方言考 改訂版』(新妻三男 1973)には、「ガサヤブ(名) 小藪などに  
いふ。 ガサヤブこえで来てふんぬきした。」とある。

[3] フタバ

地名。話し手の住んでいた福島県双葉郡双葉町。



【1】七五三、立志式、葬式の白鳩

収録時間 5分38秒

話し手

- A 女 1941 (昭和 16) 年 (収録時 72 歳) [檜葉町] 主婦  
B 女 1943 (昭和 18) 年 (収録時 70 歳) [檜葉町] 元会社員・農業  
C 女 1951 (昭和 26) 年 (収録時 63 歳) [双葉町] 元会社員  
D 女 1938 (昭和 13) 年 (収録時 75 歳) [双葉町] 元会社員  
E 女 1957 (昭和 32) 年 (収録時 56 歳) (調査員)

〔注〕町名は避難前に住んでいた地域。必ずしも出生地ではない。

001A : アノサ ヒチコ° サンダッテ ヒモトキッテ ユッタッペ。  
あのさ 七五三だって 「紐解き」 って 言っただろう。

002B : ナ シボトキ。  
な 「紐解き」。

003A : ユ センセイ ヒモトキッテ ユワナイ?  
× 先生 紐解きって 言わない?

004B : ヒボトキワ ヒチコ° サン。  
紐解きは 七五三。

005E : オンナノコ?  
女の子の[七五三]?

006A : オンナノコ ヒモトキッテ。(B ンー) ナンデ ヒモトキツツンダッペナ。  
女の子[は] 紐解きって。(B んー) なんて 紐解きって言うんだろうな。

ソノトーリ オボエダガラ フシキ° ニモ オモワナカッタケンドナー。  
そのとおり 覚えたから 不思議にも 思わなかったけれどなー。

シチコ° サンダッテ ユ、シチコ° サン ユワネーペ。  
七五三なんて 言わない 七五三[なんて] 言わないだろう。

007B : ヒボトキナー ナナサイ オンナノコワー アー ン シボトキワ  
紐解きなー 7 歳 女の子は あー ン 紐解きは

ナナサイダカラ ナーカ シモ ト トク トギ (A トクダー。 笑)  
7歳だから なんか 紐 × 解く 時 (A 解くのだ。 笑)

イミナダケドナー。(A ナンダ) キモノ キテー シメンダッケドー  
意味なんだけどなー。(A なんだ) 着物 着て [帯を]締めるんだけど

(A ナンダ) トゲルツツンダモンナー  
(A なんか) 解けるっていうんだもんなー。

008A : ナンダッペ ソレ ユッタナー。  
なんだろう それ 言ったよなー。

009B : ンー シボトキダヨー。  
んー 紐解きだよー。

010A : ンー。 モ シコ° ネンナッチャッタケド ワタシラントキワ シボトキッテ  
んー。 もう 死語になっちゃったけど 私らの時は 紐解きって

ユッテタモンナ。  
言ってたもんな。

011E : ソレ オンナノコノ ナナサイノ シチゴサンノトキダケ。  
それ 女の子の 7歳の 七五三の時だけ。

012B : ンダー。 シボトキッテ。  
そうだ。 紐解きって。

013A : ソーソーソーソー。 ンー オトコ ユワネンダーヨ。  
そーそーそーそー。 んー 男[は] 言わないんだよ。

014E : オトコノコノ  
男の子の

015B : オトコワ ユワネンダ。  
男は 言わないんだ。

016A : オトコモ オンナモ イナカワ ナナサイデ ヤルノ。  
男も 女も 田舎は 7歳で [七五三を]やるの。

017B : ナナサイデ ヤッカラ。  
7歳で やるから。

018A : イナカダケナンダヨ。 チ、 ト トカイダケ ゴセーデ ヤンノワ。  
田舎だけなんだよ。 違う、 × 都会だけ 5歳で やるのは。

019C : ソーソー。  
そーそー。

020B : トカイワ ゴサイダッペ。  
都会は 5歳だろう。

021A : ン ナゼダローナ。  
ん なぜだろうな。

022B : ウジダ ナナサイダモンナー。(A ン一) ミンナ オトコモ \_\_\_\_\_  
家では 7歳だもんなー。(A ん一) みんな 男も \_\_\_\_\_

オンナモ ナナサイ。  
女も 7歳。

023C : ムカシワ ソーダッタダヨネ。  
昔は そうだったんだよね。

024B : ンダー。  
そうだ。

025A : ア アトー アトワ チューガクニネントキ ナンダツケ オドゴノシト  
× あと あとは 中学2年[の]時 何だツケ 男の人[が]

ヤンノワ。  
やるのは。

026B : アー アルワ (A アレ) オドゴノ ア  
あー あるわ (A あれ) 男の あ

027A : チューカ° ク ニネンダカ サンネンダカ ヤル \_\_\_\_\_ ヤッタ  
中学 2年だか 3年だか やる \_\_\_\_\_ やった

028B : リシキ ヤンダ。  
立志式 やるんだ。

029A : リ リ リッシシキ [1] リッシシキ。  
× × 立志式 \_\_\_\_\_ 立志式。

030B : リ リ リッシシキ。 キョーダ キョーカ° リッシシキノ ヒダ。  
× × 立志式。 今日だ 今日が 立志式の 日だ。

031A : キリツノ リツニ ココザスツテ カイデ リッシシキ。 (B ソー  
「起立」の 「立」に 「志」って 書いて リッシシキ。 (B そー

リッシシキ) コレ オトゴダケ。(B オトゴダケ) ソラ ガッコデ ヤル  
立志式) これ 男だけ。(B 男だけ) それは 学校で やる

ヤツ。

やつ。

032E : ジュー ジューニサイ。  
××× 12 歳。

033A : ンー。 チューガ  
んー。 ××××

034C : ソンナコト ウチノホー [2] ワ ヤンナカッタイネ。  
そんなこと うちの方は やらなかったよね。

035B : チューカ°グ ニネン。  
中学 2年。

036A : ンー リッシキツッテー。  
んー リッシシキって言って。

037B : リッシシキダ。(A ンー) コレワ チュー オトコノ (A オトゴダケ)  
立志式だ。(A んー) これは ××× 男の (A 男だけ)

チューカンダナー。

[子供と大人の]中間だなー。

038A : ソー ソー。 チャント チューカ° ッコーデ ギョージニ (B ソー)  
そー そー。 ちゃんと 中学校で 行事に (B そー)

ハイッテッカラ。

入っているから。

039B : ギョージニ ハイッテンノ。  
行事に 入ってるの。

040C : ア スンゴイネ ナラハワ。  
あ すごいね 檜葉は。

041B : ナラハ ヤッテクツチャヨ。  
檜葉[は] やってくれたよ。

042A : ヤルヨ。  
やるよ。

043C : ソレ ナン ナンデ (B リッシシキ) ナラハッテ ミンナ コー チョット  
それ ×× なんて (B 立志式) 檜葉って みんな こう ちよっと

ヨタクサインダロ。  
////////のだろう。

044D : シー ナラハー イワキ [3] マデ ソーユーノワ ント カダイндаヨ。  
んー 檜葉は いわきまで そういふのは うんと 堅いんだよ。

045C : シーン ソーソー。 ヒロノ [4] モ ソーダヨ。  
んーん そーそー。 広野も そうだよ。

046B : ダケンドモ アレダッペ イッシシキ カッテ ヨコスノワ チタノ シトワ  
だけれども あれだろう [道具を]一式 買って よこすのは 北の 人は

コッカ° ーサ ヨメニ クットキワー イッシシキ カッテ  
ここからさ 嫁に くれる時は [道具を]一式 買って

ヨコシタッタッペナ。 ンダカラ アノ コッチャガラ オヨメニワ イ  
よこしたただただろうね。 だから あの こっちから お嫁には ×

イッテモ イーケット アッチガラ モラー シト タイヘンダッテ。  
行っても いいけれど あっちから もらう 人[は] 大変だッて。

047A : ソーナンダッテヨー、 ダッテ  
そうなんだッてよー、 だッて

048B : イッシシキナー ソーマーガラ クル シト コー イッシシキ  
一式なー 相馬から 来る 人[は] こう 一式

049A : カーナイ シト カウ シト イッカラナー。 シ ナンテユンカーナー。  
買わない 人 買う 人 いるからなー。 ん 何ていうのかなー。

050B : シチコ° サンダノナニカ ゼンブー カッテ ヨゴスノ。 (A シー)  
七五三だのなにか 全部 買って よこすの。 (A んー)

ウチノホー カーカラ。  
うちの方[は] 買うから。

051E : ソー ソーマノヒトガ?  
×× 相馬の人が?

052A : チカ° ー ワタシラワ アレダー ウチノホーノ デワ オヨメサンノ  
違う 私らは あれだ うちの方の 出身は お嫁さんの

オヨメサンノカ°ー ゼンブ カーカラ ヒチゴサンデモ。  
お嫁さんの方が 全部 買うから 七五三でも。

053B : オヨメサンノ ジッカカ° ゼンブ カーンダモン。  
お嫁さんの 実家が 全部 買ったもん。

054A : アノ ガッコノ アカ°ル ツクエデモ ナンデモ ゼンブ カウカラ。  
あの 学校の 上がる[時の] 机でも なんでも 全部 買うから。

055B : コドモ ウマレタ ニューカ° クシキダノ ゼンブ。 ガッコマデナ。  
子ども[が] 生まれた 入学式だの 全部。 学校[のもの]までな。

056A : ンー。  
んー。

057B : ガバンカラ  
かばんから

058A : ダ ソノカーリ ソレカ° ギャクンナッタラ ゼンゼン (B ソー) アノ  
だから その代り それが 逆になったら 全然 (B そー) あの

アノー フ フギ° リジヤナインダケド ソーイ カンシュエデ ゼッターイ  
あのー × 不義理じゃないんだけど そういう 慣習で 絶対

カーナイ ヒト イルモンナー。(B ンー) ダ ウチノホーワナ オヤガ  
買わない 人[も] いるもんなー。(B んー) だから うちの方はな 親が

ダスンダモンナ。  
出すんだもんな。

059B : オヤカ° ゼンブ カッテモラッタノ。  
親が 全部 買ってもらったの。

060A : ンー (C アレ) オンナノホーノ オヤワ ンダカ シゴイ シッピダヨ。  
んー (C あれ) 女の方の 親は だから すごい 出費だよ。

061E : ウチ ウチノホーモ ウマレルト オイワイワ オンナオヤノホーガ。  
×× うちの方も [子どもが]生まれると お祝いは 女親の方が。

062C : イワキー イワキデ シヌトサー ハト トバシタンダヨネ。  
いわきは いわきで 死ぬとさー 鳩[を] 飛ばしたんだよね。

063B : ンダヨ。 ハト トバスヨ。  
そうだよ。 鳩[を] 飛ばすよ。

064C : ハト トバスヨネー。  
鳩[を] 飛ばすよねー。

065B : シー (A アー ハト) イワキワ。 ウチノホーワ トバサネーケツト  
んー (A あー 鳩) いわきは。 うちの方は 飛ばさないけれど

オソーシキデ ハト トバスノ。  
お葬式で 鳩[を] 飛ばすの。

066C : ナカ° ク ナカ° ク イキタ シトネ。  
長く 長く 生きた 人ね。

067B : ナカ° ク イキタ シト。  
長く 生きた 人。

068A : ナカ° ク イキタ ヒトナー。  
長く 生きた 人なー。

069C : シ アノ ハトー \_\_\_\_\_ ネット。  
ん あの 鳩 \_\_\_\_\_ ねっ。

070E : オソーシキデ。  
お葬式で。

071B : ウチノ バーチャンノ オヤワ アノ ハト トバシタヨ。  
うちの ばあちゃんの 親は あの 鳩[を] 飛ばしたよ。

072A : ワタシ キュージューニダケド ハト トバサナカッター。 ワリカッタカナ  
私[の母は] 92[歳]だけど 鳩[を] 飛ばさなかったわー。 悪かったかな

カーチャンニー。  
かあちゃんに。

073B : ウチノ バーチャンノ オヤワー キュージューヨンデ ナクナッテー (A シー)  
うちの ばあちゃんの 親は 94[歳]で 亡くなって (A んー)

ハト トバシタヨ。  
鳩[を] 飛ばしたよ。

074E : へー。  
へー。

075C : オジサンモ オバサンモー シンダトキニ ハト トバシタノ。 ハト  
おじさんも おばさんも 死んだときに 鳩[を] 飛ばしたの。 鳩[を]

トバスノーツツタラ  
飛ばすのと言ったら

076B : イワキーシワ トバスヨ。 ソ スエツキ° [5] ダッテ トバシタヨ。  
いわき市は 飛ばすよ。 そう 末続だって 飛ばしたよ。

(C アー ソーケー) ウチノ バーチャン スエッチキ° ダカラ ハト  
(C あー そうかい) うちの ばあちゃん[は] 末続だから 鳩[を]

トバシタノ。 オエ (C ンー) ナンデ トバスダカ ワカンネケド。  
飛ばしたの。 俺 (C んー) なんて 飛ばすのだから わからないけど。

077C : アエ シロ シロイ ハトナンダヨネー。  
あれ 白 白い 鳩なんだよねー。

078B : ンー。  
んー。

079E : ハー シロイ ハト。  
はー 白い 鳩。

080B : ハト カコ° サ イッチェキテー (A んー) オソーシキ デテグトキ ト  
鳩[を] 籠に 入れてきて (A んー) お葬式[が] 出ていくとき ×

トバスノ。  
飛ばすの。

081C : アー ソーソー ンーンー。  
あー そーそー んーんー。

082A : ソノ アレワ デンショバトダカラ モドッテクンダナ。 カイヌシニ。  
その あれは 伝書鳩だから 戻ってくるんだな。 飼い主に。

083B : モドッテワ コネー カ カッテクンダモン。  
戻っては 来ない × 買ってくるんだもん。

084C : デモ ココニワ コナイ。  
でも ここには 来ない。

085A : チカ° ー チカ° ー カイヌシントコイ モドッテクンベー。  
違う 違う 飼い主のところに 戻ってくるだろう。

086B : ソー ソー。ンダ カイヌシン チャント  
そー そー。 そうだ 飼い主の ちゃんと



087C : シー デモ カズカ° イッパイナノヨ。(A エー) イチワヤ  
んー でも 数が いっぱいなよ。(A えー) 1羽や

ニワジャナイヨネー。  
2羽じゃないよねー。

088B : シー。  
んー。

089A : ホントニー?  
ほんとに?

090C : シー。  
んー。

091E : ナンワッテ キマッテルンデスカ。  
何羽って 決まってるんですか。

092B : カ カカ° チャ。 ワガンネナ。(C           ) カゴサ ホシテー オレ  
× ///////。 わからないな。(C           ) 籠に そして 俺[は]

オーバーサントギワー ムスメカ° ハシカデー、 アタシ サキガイライニ  
おばあさん[の葬式の]時は 娘が 麻疹で、 あたし[は] ///////

イガナカッタノ (A シー) オーバーサンノ オヤー。 ヤー セーダイニ  
行かなかったの (A んー) おばあさんの 親。 いや 盛大に[葬式を]

ヤッテクチャーヨーッテ キュージューヨンサイダカラー。 ソシタ オーバーサンワ  
やってくださいよって 94歳だから。 そしたら おばあさんは

ソレヨカ キュージューコ° サイ。(A フーン) キョネン オトドシ  
それより[長く生きて] 95歳。 (A ふーん) 去年 一昨年

ナクナッタ。  
亡くなった。

093C : ハトワ ナンワカ シラベトキマスカー?  
鳩は 何羽か 調べておきますか?

094B : ネー ハト トバシタンダヨ、 ハト。  
ねー 鳩[を] 飛ばしたんだよ、 鳩。

095E : へー。 デ シロイ ハトナンデスネー。  
はー。 [それ]で 白い 鳩なんですねー。

096C : シロイ ハトデス。  
白い 鳩です。

---

## 注

[1] リッシシキ

立志式。檜葉町の中学校で行われている行事。震災以降も行われており、例えば「福島県双葉郡檜葉町立檜葉中学校「絆プロジェクト」ホームページには、2011年12月8日に新鶴中学校（会津美里町立）で行われた檜葉中学校の立志式の様子がアップされている。同ホームページには、立志式の趣旨を「立志式は、14歳を迎えた少年少女に、個人的にも社会的にも重要な年齢であることを自覚してもらい、前途を励ます行事」とある。

[2] ウチノホー

話し手Cの住んでいた双葉郡双葉町の方。

[3] イワキ

地名。福島県いわき市。福島県浜通りでは、北の相馬と南のいわき（磐城）とで、慣習が違っていて、この後の話しでも、その違いについて話題になっている。

[4] ヒロノ

地名。福島県双葉郡広野町。

[5] スエツキ°

地名。福島県いわき市久之浜末続。

## 【2】方言の違いの話

収録時間 1分11秒

### 話し手

- A 女 1941 (昭和16)年 (収録時72歳) [檜葉町] 主婦  
B 女 1943 (昭和18)年 (収録時70歳) [檜葉町] 元会社員・農業  
C 女 1951 (昭和26)年 (収録時63歳) [双葉町] 元会社員  
D 女 1938 (昭和13)年 (収録時75歳) [双葉町] 元会社員  
E 女 1957 (昭和32)年 (収録時56歳) (調査員)

[注] 町名は避難前に住んでいた地域。必ずしも出生地ではない。

001A : アノ エギヨー エギ テーシャバツテ ユッタベ (B ンダヨ) テーシャバニ  
あの 駅よー 駅[を] 「停車場」って 言ったろう (B そうだよ) 停車場に

イグツテ。(B ン) エギツテ ユワナインダヨ。 テーシャバニ イグツテユン。  
行くって。(B ン) 駅って 言わないだよ。 停車場に 行くって言うの。

002B : ヒロノ [1] アタリダヨ。 キド [2] ワ ユワネーヨ。  
広野辺りだよ。 木戸は 言わないよ。

003A : アッ ヒロノダゲカ。(B ヒロノ) コーニ チカ° ーンダヨ トナリデ。  
あっ 広野だけか。(B 広野) [方言が]このように 違うんだよ 隣で。

テーシャバニ イグツツンダヨ \_\_\_\_\_ テーシャバ。  
停車場に \_\_\_\_\_ 行くっていうんだよ 停車場。

004D : デモ テーシャバデツツテモ ワタシラモ ワカルヨ。  
でも 停車場って言っても 私らも わかるよ。

005E : デモ ワカリワ シマスケド。  
でも わかりは しますけど。

006A : ワカクドー フツー \_\_\_\_\_ テーシャバニ イグ \_\_\_\_\_。  
わかるけど ふつう \_\_\_\_\_ 停車場に \_\_\_\_\_ 行く \_\_\_\_\_。

007D : テーシャバ ワカルモンナー。  
停車場「で」 わかるもんナー。

008B : ンダケド ユワネーモン \_\_\_\_\_ ユワネーモン。  
そうだけど 言わないもん \_\_\_\_\_ 言わないもん。

009D : ムカシノ シトワ ユーンダ。  
昔の 人は 言うんだ。

010C : ンー。  
んー。

011B : ヒロノワー アマ [3] ドワー オレ ネーチャン ヨメニ イッテッカラー  
広野は 姉とは 俺[の] ねえちゃん 嫁に 行ってるから

ヒロノナ。 ホストー アマドワー アノ テーシャバ。  
広野な。 そうすると 姉とは あの 停車場。

012A : テシャバツテ ユツタデショ。  
停車場って 言ってたでしょ。

013B : ンー テーシャバトモ ユーナ。 キド ドッ チガ エキッチ ユー {笑}  
んー 停車場とも 言うな。 木戸 ×× 違う 駅って 言う {笑}

ネーチャンカ° ユンダ。  
ねえちゃんが 言うんだ。

014A : チカ° ー オンナジ ワタシ ヒロノデモー ヒロノワネ コトバカ° アライノ。  
違う 同じ 私 広野でも 広野はね ことばが 荒いの。

ユノ ユノシトワ ナラハマチワ ヤーラカイノ。  
この この人は 檜葉町は 柔らかいの。

015B : ヤマイダモン ヤマイダ。 ンダ キド キドダモン。 ヤーサシーノ。  
////////////////////。 そうだ 木戸 木戸だもん。 [ことばが]やさしいの。

ヤーサシーツーノワ ナイ [4] ツクカラ。(A ンー) ンダッペナイ  
やさしいっていうのは ナイ[が] つくから。(A んー) ンダッペナイ

(A ンー) イ イ イグノガイ (A ホントナンダ) オジャ  
(A んー) × × イグノガイ (A ほんとなんだ) お茶[を]

ノンデガッセーツテ (A ンー) ユーカラ。 ンカ° ッセーダガラ。  
飲んでガッセーって (A んー) 言うから。 ンカ° ッセーだから。

016A : ンー オチャ ノマッセートカナ。 スコ° ク ズ アライ。  
んー お茶 飲まッセーとかな。 すごく × [広野は]荒い。

017B : ダ アッチャー ヒロノワ チカ° ーノ モット ネット アノー  
だ[から] あっちは 広野は 違うの もっと ねっ あのー

フサノハマ [5] ワー (A ンー) ウミ ウミデー モット アラクナンダッテ。  
久之浜は (A んー) 海 海で もっと 荒くなるんだって。

018A : リョーシ。 ソーナンダヨナー。 アー。  
漁師。 そうなんだよなー。 あー。

019E : アッ ウミゾイワ コトバガ アライッポイ。  
あっ 海沿いは ことばが 荒っぼい。

020B : ウミゾイノ シトノカ°。 トー キドノー  
海沿いの 人の[ほう]が。 ×× 木戸の

021A : アラッポイ。 ソーデ キモチワ アラッポクナインダ。 ア キモチワ  
荒っぼい。 それで 気持ちは 荒っぼくないんだ。 あ 気持ちは

イーндаケド。 {笑}

いいんだけど。 {笑}

022B : キドノホーガ ヤサシーッテンダ ンダッペナイ イマ ユーケッドモ  
木戸の方が やさしいっていうんだ ンダッペナイ 今[は] 言うけれども

アダ {笑} ンダッペナイナンテ (A ンー) ンダッペナイナンテ ユーダ。

私 {笑} ンダッペナイなんて (A んー) ンダッペナイなんて 言うんだ。

---

## 注

[1] ヒロノ

地名。福島県双葉郡広野町。

[2] キド

木戸。福島県双葉郡の東南部にあった村で、現在の檜葉町の南部にあたる地域。現在もJRの駅名にある。広野は木戸の南。

[3] アマ

姉のこと。

[4] ナイ

ナイは共通語の「ネ」に近い。この後で、ナイの他、ていねいな言い方を示している。具体的に例は、「ンダッペナイ (=そうだろうね)」、「イグノガイ (=行くのかい)」「オジヤ ノンデガッセー(お茶 飲んでいきなさい)」。

[5] フサノハマ

「ヒサノハマ」のこと。地名。福島県いわき市久之浜。漁港(久ノ浜港)がある。

## II 震災の記憶



Ⅱ－１ 茨城県神栖市波崎の談話

佐々木 冠

【１】被害が少なかったこと

収録時間 1分49秒

話し手

A	女	1938 (昭和13)年	(収録時74歳)	元水産加工業
B	女	1936 (昭和11)年	(収録時75歳)	元水産加工業
C	女	1939 (昭和14)年	(収録時73歳)	元水産加工業

001C : ダケット コンドワ ソレ ナガッタッテナ。  
だけど 今度は それ なかったってな。

002B : ワガンネケットナー。  
わからないけれどなー。

003C : コンドノ ジシンワー アノ シニワ スコシワ イッタケドモ  
今度の 地震は あの 日には 少しは 行ったけれども

ドーンと クル ナミガ オーカッタッテ。 (A ダケットヨー)  
ドーンと 来る 波が 多かったって。 (A だけどよー)

ソレガヨー トネカ° ワ キナイデ チョーシサ ブツカッテ。  
それがよー 利根川 来ないで 銚子に ぶつかって。

004A : コゴワー イガイ クジカ° アッタヨ カワオグ〔1〕ニ。スイモン ゼンブ  
ここは 大きい 河口が あるんだよ 川奥に。 水門 全部

アケ° ッチャード イガイ クジカ° シカエデベ。 ダガラ コゴワ  
開けちゃうと 大きい 河口が 控えているだろう。だから ここは

タイシタ シカ° イカ° ネーダヨナ。  
たいした 被害が ないんだよな。

005B : アドー アレダ \_\_\_\_\_ ハシントゴノナ。  
あと あれだ \_\_\_\_\_ 橋のところのな。

006C : アノドキ スイモン アケ° ダガラー ムゴーノ ホラー (A オグニ ホラー)  
あのとき 水門 開けたから 向こうの ほら (A 奥に ほら)



サワラ ウミカ° ワ。  
佐原 海側。

007A : ナンダツケ アレカ° アッペヨ。 ナンダツケ ホラホラ オレラ  
なんだつけ あれが あるだろうよ。何だつけ ほらほら 俺ら

リョコーニ イッテヨ オッカネ オモイ シタッペヨ。 アノ  
旅行に 行ってよ 怖い 思い しただろうよ。あの

ポンポンブネデヨ。ツチウラマデ イッテヨ。カスミカ° ウラ。  
巡航船でよ。 土浦まで 行ってよ。霞ヶ浦。

(C ウーン カスミカ° ウラ) カスミカ° ウラ デデ キネガッタ。 {笑}  
(C うーん 霞ヶ浦) 霞ヶ浦 出て 来なかった。 {笑}

アソゴノ クジカ° アッカラ。  
あそこの 河口が あるから。

008C : ムガシノヨ イタコツテ ユーノワヨ シオカ° ヨ アソゴマデ  
昔のよ 潮来って いうのは 潮がよ あそこまで

アカ° ッタダツーガラ。 マ、シオカ° アケ° シオン ナッテ イタコマデ  
上がったんだっていうから。ま、潮が 上げ潮に なって 潮来まで

シオカ° アカ° ッテ。ダガラ アソゴワ アノ イタコツテネ シオカ°  
潮が 上がって。だから あそこは あの 潮来ってね 潮が

クルッテ (B シオカ° クルッテ)。ソレデ \_\_\_\_\_ ダッテ イー。デ  
来るって (B 潮が 来るって)。それで \_\_\_\_\_ だって いう。で

ソレ ズーット サガノボツテ エドカ° ワマデ イッテ ムガシワー アノ  
それ ずーっと さかのぼって 江戸川まで 行って 昔は あの

ホラ タカセブネ (A タカセブネガ) サゲヤ カス ツミコンデ  
ほら 高瀬舟 (A 高瀬舟が) 酒や 糟 積み込んで

(A ウダニモ アッペヨナ)。 ウダニモ アッペ。  
(A 歌にも あるだろうよな)。歌にも あるだろう。

(A カスヤ アブラオ ツミコンデッテ) ツミゴンデ。デ トリデエ  
(A 糟や 油を 積み込んでって) 積み込んで。で 取手へ

ユグダドガ ソイドゴデ ヤスンデ ソレデ エドカ° ワガラ エド  
行くのだとか そういうところで 休んで それで 江戸川から 江戸

イッタダッテ。  
行ったんだって。

009A : ダゲットナー モー アノ ジシンダゲワ モー。デモ ワシラカ°  
だけどもなー もう あの 地震だけは もう。でも 私らが

アノヨサ イッテガラ クルワナ。  
あの世に 行ってから 来るわな。

010C : ハー ンデモ チョット ワガンネド イマ コーヤッテ  
はー それでも ちょっと わからないけれど 今 こうやって

~~~~~ オッカネドナー。  
~~~~~ 怖いよなー。

011B : メーノ アノ ジシンツツー アノ チョット ネーナ ソンナニナー。  
前回の あの 地震っていう あの ちょっと ないな そんなになー。

アイダ アイデ (A アイダ アグネー) ~~~~~  
間 開いて (A 間 開くねー) ~~~~~

012C : モドッテ キタデネーガ。 (B キタ)  
戻って 来たのではないか。(B 来た)

013B : チョコント。  
ちょこんと。

014A : チョコント ガツント キタ。  
ちょこんと がつんと 来た。

015C : ッテ キタヨネ。  
って 来たよね。

016A : ガツント キタヨ ホントニ。  
がつんと 来たよ 本当に。

---

注

[1] カワオグ  
霞ヶ浦の方を指す。

## 【2】津波の話、三陸の話

収録時間 1分41秒

### 話し手

|   |   |              |          |
|---|---|--------------|----------|
| A | 女 | 1938 (昭和13)年 | (収録時74歳) |
| B | 女 | 1936 (昭和11)年 | (収録時75歳) |
| C | 女 | 1939 (昭和14)年 | (収録時73歳) |

001A : ケサ ヨジイグラダ カイジョン ナッタノナ。(B カイジョニ  
今朝 4時くらいだ 解除に なったのな。(B 解除に

ナッタネー) マー ミズワー、アマミズワ オッカナグネーケツトモ  
なったねー) まー 水は、 雨水は 怖くないけれども

ツナミノ ナミワ ドーショーモネーガンナー。  
津波の 波は どうしようもないからなー。

002C : アレワ キラシタグネーヨナー [1]。サンリグノナー。  
あれは 来られたくないよなー。 三陸のなー。

キノドグダゲドモナー。  
気の毒だけれどもなー。

003A : デモ マダ サンリグワ コー ホラ ワンドン  
でも また 三陸は こう ほら 湾に

ナッテッタツツケナ。 ワダシラワ イッタゴドネガラ  
なっているんだっていうっけな。私らは 行ったことないから

ワガンナイケツトモー。ワシラノ ジーサンラノ ハナシダト。  
わからないけれども。私らの 爺さんらの 話だと。

004C : ゼンブ ワンドデヨー リアスシキダガラヨー。  
全部 湾でよー リアス式だからよー。

005A : オメラワ ホラ オドツツァントゴサ [2] イッタッペ。  
お前らは ほら お父さんのところに 行っただろう。

006C : ソレデ ナンカ。  
それで 何か。

007B : ヨグ ワガンネナー。  
よく わからないなー。

008C : ソシテ アノ サンリクニ ズーットネ ウジノ ジーチャンワ フネ  
そして あの 三陸に ズーっとね うちの 爺ちゃんは 船

オリデガラー ソノ ホラー オガガラ ミダイツツワゲ。 ホラ モー  
降りてから その ほら 丘から 見たいっていうわけ。ほら もう

ズーット ホラ ハジノヘマデノ ミナドワ メ ツブツテモ  
ズーっと ほら 八戸までの 港は 目 つぶつても

イガレルンダッテー。ネ。アレ イッカイ オガガラ ミデガラッテ  
行かれるんだって。ね。あれ 一回 丘から 見てからって

イッテ ズーット カイカ° ンデ ホグジョーシタノ。  
言って ズーっと 海岸で 北上したの。

009A : リアルシキッテ イーベヨネ。 ワシワ ヨグ ワガンネケットモヨ。  
リアル式って いうだろうよね。私は よく わからないけれどもよ。

010C : デ コゴカ° カマイシ コゴカ° ソレゴソ ユリアケ° ダノネ  
で ここが 釜石 ここが それこそ 閑上だのね

ズーットネ ヤラレダトゴ ゼンブ アルツテッタノ [3]。  
ズーっとね やられたところ 全部 歩いて行ったの。

011A : アソゴラワ ウダニモ ノゴツテベヨー。 アノー オハラブシニモ  
あそこらは 歌にも 残っているだろうよー。あの おはら節にも

ガクセーカ° シッカリ [4] シンデー。オメラ ソノ ウダ  
学生が いっぱい 死んで。お前ら その 歌

キーダコドネーガ。  
聞いたことないか。

012B : ネーナー。  
ないなー。

013A : ネーエ。アノー ミンヨーデ ヤッタヨ。ワシ ロクオンシテ アルケットモー。  
ない。あの 民謡で やったよ。私 録音して あるけれども。

ガッコーノ ガギラカ° イッペー シンデー。ソレカ° ウダニ シテアルヨ。  
学校の 子供たちが たくさん 死んで。それが 歌に してあるよ。

ダガラ ツナミッテ ユー モノワー アット ユーマダダッペヨナー [5]。  
だから 津波って いう ものは あっと いう間なのだろうなー。

014B : ダレカ° イッテタダガ ソノ オンナカ° クルマン ノッカッテー  
誰が 言っていたのだから その 女が 車に 乗って

サーイフ トリニ イッテ アレダガラ、ナミカ° キチャッテナー。  
財布 取りに 行って あれだから、波が きちやっテナー。

ナミカ° キテ ノッカッタノ ノンネデ コンダ オグジョーサ  
波が 来て 乗ったの 乗らないで 今度は 屋上に

アカ° ッタノカ° コンダ アノ ヒト。サイフ トリニ イッテ ホラ。  
上がったのが 今度は あの 人。 財布 取りに 行って ほら。

015C : ナンデモ イーガラ タガイトゴサ アカ° ッタ ヒトワー ミンナ  
何でも いいから 高いところに 上がった 人は みんな

タスカッタダゲド クルマサ ノリゴンダ ヒトワー ダメ。  
助かったのだけれども 車に 乗り込んだ 人は だめ。

016A : ダメダネー。  
だめだねー。

---

## 注

[1] キラシタグネーヨナー

カ変動詞の受動態が〔kirare〕ではなく〔kirafi〕と発音されている。茨城県内の多くの地域では〔kirare〕と発音される。

[2] オドツァントゴサ

この場面では、聞き手の夫を指す。

[3] アルッテッタノ

「歩く」のテ形で促音便が生じている。

[4] シッカリ

この「シッカリ」は多数を表す。

[5] ユーマダダッペヨナー

「あつというまなのだろうな」の意味。この方言の拡張コピュラ構文（ノダ文に対応する構文）は標準語のそれ（いわゆるノダ文）とことなり、述部に「ノ」が不要。ここでは、終止形のコピュラ「ダ」が連続する構造になっている。

### 【3】神栖の大橋がストップした話など

収録時間 1分09秒

#### 話し手

|   |   |              |          |        |
|---|---|--------------|----------|--------|
| A | 女 | 1938 (昭和13)年 | (収録時74歳) | 元水産加工業 |
| B | 女 | 1936 (昭和11)年 | (収録時75歳) | 元水産加工業 |
| C | 女 | 1939 (昭和14)年 | (収録時73歳) | 元水産加工業 |

001C : ダッテ アノ オーハシモヨー アノー ゼンゼン モー  
だって あの 大橋もよー あの 全然 もう

トーレナカッタダガラ。デ カコ° メオーハシモ ゼンゼン ダメ。  
通れなかったのだから。で カモメ大橋も 全然 だめ。

(B クルマ ハイレネナ) デモ クルマカ° ゼンブネー チョーシ  
(B 車 入れないな) でも 車が 全部ねー 銚子

メザシテ イッチャッテ。ソレデ モー ストップ、ストップ シチャッテ。  
目指して 行っちゃって。それで もう ストップ、ストップ しちゃって。

002A : ワシラノ X2ワヨー。  
私らの X2はよー。

003B : カミスノ コゴサ キタノ、タガイガラ。コゴ チョット タガイベ。  
神栖の ここに 来たの、高いから。ここ ちよっと 高いだろう。

アッチ [1] ヨリ タガイベ。アソゴン ズラーット ナランチッタモン。  
あちらより 高いだろう。あそこに ずらーっと 並んでいたもの。

004A : カミスノ クルマ。  
神栖の 車。

005B : カミスノ クルマ。ドッカラ キタダ オメラ、カミスダッテ。  
神栖の 車。どこから 来たのだ お前ら、神栖だって。

006C : カコ° メオーハシモ [2] チョーシオーハシモ モー  
カモメ大橋も 銚子大橋も もう

ストップサセラレチャッタノ。(B ソーダッペー) ンデ モー ズーット  
ストップさせられちゃったの。(B そうだろう) それで もう ずーっと

モー ホラ チョーシノー イオンノ ホーサ ニケ° デッテ。(B イオンノー)  
もう ほら 銚子の イオンの 方に 逃げて行って。(B イオンの)

007A : デ トラヤノ [3] ヒトラワナ ゼンブナ サンチューサ [4] ニケ° ダダド、  
で 虎屋の 人たちはな 全部な 3 中に 逃げたんだと、

サンチューサ。ジブンラワ サンチューサ ニケ° ダケットモー。オヤラカ°  
3 中に。 自分らは 3 中に 逃げたけれども。 親らが

コッチダガラー オヤラカ° アレ イガイノ ヒトリ ツレデ ドー  
こっちだから 親らが あれ 大きいの 一人 連れて どう

ニケ° ダノガド オモッテ カンケ° ーダツケ ナイチャッタダッテー。  
逃げたのかと 思って 考えたら 泣いてしまったんだって。

{笑} ジブンワ ニケ° デ キタケットモー エサ ケツテ ホラー  
{笑} 自分は 逃げて 来たけれども 家 帰って ほら

ヘンコドー カーチャラカ° [5] イネガッタラー ナジシベツテ。  
お祖母さんと 母さんらが いなかったらー どうしようって。

ナゲデ キツチャッタツテ ハナシシテダケットモー。ツナミカ° キタラ  
泣けて 来てしまったって 話していたのだけれども。津波が 来たら

モロトモダヨー。オヤワ ヒトリワ オイデゲネヨー。  
もろともだよー。親は 一人は 置いて行けないよー。

(B オイデゲネーヤ)  
(B 置いて行けないや)

008C : ソシタラ ムスメカ° ヨー ツトメデル カイシャカ° ヨー アレワー  
そうしたら 娘がよー 勤めている 会社がよー あれは

ヒロシマダノ オカヤマニ アルワゲー、アノ キョーダイカ° イシャカ°。  
広島だの 岡山に あるわけ、あの 兄弟会社が。

シタツケー ドーダッターツテヨー アノ ハサキ  
そうしたら どうだったってよー あの 波崎

ナグナツチャッタンデショツテ イワレダツテ。{笑}  
なくなってしまったのでしょーって 言われたって。{笑}

---

## 注

[1] アッチ

ここでは、神栖市内を指している。

〔2〕 カコ° メオーハシモ

カモメ大橋を指す。話者によれば「カゴメ大橋」と呼ぶことが多いという。

〔3〕 トラヤノ

虎屋は店の名称。

〔4〕 サンチューサ

サンチューは銚子第三中学校を指す。

〔5〕 カーチャラカ°

この場面のカーチャは話者自身を指している。



#### 【4】津波が来たら波崎はなくなる

収録時間 18秒

##### 話し手

A 女 1938 (昭和13)年 (収録時74歳) 元水産加工業  
C 女 1939 (昭和14)年 (収録時73歳) 元水産加工業

001A : ナグナッチャーヨナー。ツナミカ° キタラ ナグナッチャード。(B ソー)  
なくなっちゃうよなー。津波が 来たら なくなっちゃうぞ。(B そう)

002C : ダガラネー ソレカ° ネ (B \_\_\_\_\_) ソレカ° ナントモナガッタノヨー。  
だからねー それがね (B \_\_\_\_\_) それが 何ともなかったのよー。

ウジモ ナントモ ナガッタノツツタツケ キセキダネーッテ イワレダッテ。  
うちも 何とも なかったのって言ったら 奇跡だねって 言われたって。

003A : ホーントニ アノ ユレワヨー コノヨノ ミオサメガド オモッタナー。  
本当に あの 揺れはよー この世の 見納めかと 思ったなー。

アントギワ タマケ° ダナー。  
あのときは 驚いたなー。

## 【5】関東大震災の時の話

収録時間 1分49秒

### 話し手

|   |   |              |          |
|---|---|--------------|----------|
| A | 女 | 1938 (昭和13)年 | (収録時74歳) |
| B | 女 | 1936 (昭和11)年 | (収録時75歳) |
| C | 女 | 1939 (昭和14)年 | (収録時73歳) |

001C : ..... ハチジーナナサイノヨー ムゴーノネ ウジノネ マエノ  
..... 87歳のよー 向こうのね うちのね 前の

バーチャンカ° ヨー オレカ° ハチジーナナマデ イギデキテー  
婆ちゃんがよー 俺が 87まで 生きてきて

ハジメデダッテ。  
初めてだッテ。

002A : スコ° イヨナー。  
すごいよなー。

003C : デ バーチャン アレガイッテ アノー アレワーッテ  
で 婆ちゃん あれかいって あの あれは一ッテ

カントーダイシンサイワー ドーダッタツタツケヨー、 ソレワネー  
関東大震災は どうだったって言ったらよー、それはねー

ワカンナガッタツタツケヨー。  
わからなかったって言ったっけよー。

004A : ダガラ カントーダイシンサイモー アノ オサズカ° ー  
だから 関東大震災も あの お札が

フットンデキタッテ ヨグ トシヨリカ° イッテダンベヨー。  
飛んできたって よく 年寄りが 言っていたらろうよー。

005C : シタツケヨー オーバ [1] カ° ヨー ネ アノ ホラ タイヨーカ° ー  
そうしたらよー 老婆さんがよー ね あの ほら 太陽が

アノ マ マッカニ ナッテー マックロ ナッチッタダッテー、  
あの × 真っ赤に なって まっ黒 なってしまったんだッテ、

カントーダイシンサイノ トギニー。ダガラナー コレワー  
関東大震災の 時に。 だからなー これは

エドカ° ツッタヨー トーキョーッテ (A エドカ° ) イワネデ エドカ°  
江戸がって言ったよー 東京って (A 江戸が) 言わないで 江戸が

オーカジ。(A エドカ° オーカジガ) アノコロワ テレビモ ナイシー ネ  
大火事。(A 江戸が 大火事か) あの頃は テレビも ないし ね

シンブンモ ホラー ソンナニダガラ ホラ エドカ° オーカジダドッテ。  
新聞も ほら そんなにだから ほら 江戸が 大火事だぞって。

コンナニ オシサマカ° ー マックロン ナルワゲナイド。オシサマカ°  
こんなにお日様が まっ黒に なるわけないぞ。お日様が

マックロン ナッタダッテヨー [2]。ダガラ ソレバ イッテダ。 ダガラ  
まっ黒に なったんだってよー。 だから それを 言っていたんだ。だから

ジシンニ ナッタラ ツナミド カジワ キー ツケデネ。(A ソウダヨナー)  
地震に なったら 津波と 火事は 気 つけてね。(A そうだよなー)

デ トーキョーワ ソノ カジデー  
で 東京は その 火事で

006B : ホントニ タマケ° ダモンナー。  
本当に 驚いたものなー。

007C : デヨ トーカク° ライナー タイヨーノ イロカ° カワッテダッテ  
それでよ 10日ぐらいねー 太陽の 色が 変わっていたって

(A ヘー) オーバカ° ヨー ワダシニ ヨグ イッテダケドヨ。

(A ヘー) お婆さんがよー 私に よく 言っていたけれどよ。

008A : イマ ハジ、キュージューク° レーナ ヒトダッペナー、ソレ シッテンノワナ。  
今 8、90ぐらいな 人だろうなー、それ 知っているのはな。

009C : キュージーデネーヨ。オーバダガラ。  
90でないよ。 お婆さんだから。

010A : モット サギガ。  
もっと 先か。

011C : モット サギ。モー イギデダラ ヒャグジーゴク° レー。  
もっと 先。 もう 生きていたら 115ぐらい。

012A : ヒャグジューゴ。  
115。

013C : ウーン。モー ムスメッコダッタデネーノ。タイショーダッペ、アレワ。  
うーん。もう 娘っ子だったんでないの。大正だろう、 あれは。

014A : シタラ Y1ノ バーチャンラ シッテベナー。  
そうしたら Y1の 婆ちゃんら 知っているだろうなー。

015C : アー シッテベヨー。  
あー 知っているだろうよー。

016A : キューजू、キューजूハチダトガッテ ユッテダガンナ、ユンベナー。  
90、 98だとかって 言っていたからな、タベなー。

017C : アレ タイショーजूゴネンカ (A ナンネンダッペナ) ヨネンカ  
あれ 大正15年か (A 何年だったろうな) 4年か

ソゴラデナガッタ (A ワガンネケットネー)、 カントーダイシンサイッテナ。  
そこらでなかった (A わかんないけれどねー)、 関東大震災ってな。

デ ワダシラモ ホラー コドモコ° ゴロ コドモニ コ° ゴロデ  
で 私らも ほら 子供心 子供に 心で

キーダノダガラナー。ツナミ ジシン オッカネダドッテ。  
聞いたのだからなー。津波 地震 怖いのだぞって。

---

## 注

[1] オーバ

話者の祖母を指す。

[2] ナッタダッテヨー

伝聞のノダ文に対応する構文。ただし、標準語と異なり「ノ」は使われていない。

## 【6】地震、雷、火事、おやじ

収録時間 27秒

### 話し手

|   |   |              |          |        |
|---|---|--------------|----------|--------|
| A | 女 | 1938 (昭和13)年 | (収録時74歳) | 元水産加工業 |
| B | 女 | 1936 (昭和11)年 | (収録時75歳) | 元水産加工業 |
| C | 女 | 1939 (昭和14)年 | (収録時73歳) | 元水産加工業 |

001A : ジシンカミナリカジオヤジツツベヨー。 ナー。イマー オヤジナンカ  
地震・雷・火事・親父っていうだろうよー。 なー。今 親父なんか

ナニモ オッカナグネゲット。{笑} オヤジナンカ ナニモ  
何も 怖くないけれど。 {笑} 親父なんか 何も

オッカナグネケットモー。  
怖くないけれどもー。

002C : オヤジヨリ ヤマノカミノカ° オッカネツツゲ。{笑}  
親父より 山の神の方が 怖いっていうっけ。{笑}

003A : ヤマノカミノカ° オッカネツツテ オヤジカ° イッテルワ。  
山の神の方が 怖いって 親父が 言っているわ。

ジシンカミナリカジオヤジ。カジワ ミンナ モッテガレツチャーガンナー。  
地震・雷・火事・親父。 火事は みんな 持っていかれちゃうからなー。

ア コレワー モー (B ナントモ イーヨーネーナー) ワシラモ。  
あ これは もう (B 何とも 言いようがないなー) 私らも。

ナントモ イーヨーネー。  
何とも 言いようがない。

004C : デモヨ ジシンデ コーユー オッカナイモノダド オモワナガッタネ。  
でもよ 地震で こういう 怖いものだと 思わなかったね。

005B : ネー。  
ねー。

## 【7】津波は怖い、ダンベが流された

収録時間 33秒

### 話し手

|   |   |              |          |        |
|---|---|--------------|----------|--------|
| A | 女 | 1938 (昭和13)年 | (収録時74歳) | 元水産加工業 |
| B | 女 | 1936 (昭和11)年 | (収録時75歳) | 元水産加工業 |
| C | 女 | 1939 (昭和14)年 | (収録時73歳) | 元水産加工業 |

001B : ソノ ツナミカ° キタツツッタラ ヨゲー オッカネベヨー。ナミデ  
その 津波が 来たっていったら 余計 怖いだろうよー。波で

キタガラ モー。  
来たから もう。

002C : ジシント ツナミデネー ヤラレツチャーダモノ。  
地震と 津波でねー やられちゃうんだもの。

003B : ドーモ ヤリヨーカ° ネーベヨ。  
どうも やりようが ないだろうよ。

004A : ダガラ ガッコーン トゴロ ホラ ヒナンバシヨニ。  
だから 学校の ところ ほら 避難場所に。

005B : ミズツツーノワ スコ° イモンダネ。  
水っていうのは すごいものだね。

006A : ア ミズ。ミズ スコ° イダ、アンター。  
あ 水。 水 すごいんだ、あんた。

007B : アノー カコーヤノ ホラー ドンベー、ダンベガー (A ダンベ)。  
あのー 水産加工場の ほら ドンベ、 タンクか (A タンク)。

ダンベガ。ダンベカ° ミンナ ナガレツチャッテヨー。アンナ オメ。  
タンクか。タンクが みんな 流れちゃってよー。 あんな お前。

(A ナカ° レツチャーヨ) アンナ ガンジョーデ カダイモノカ° ナー。  
(A 流れてしまうよ) あんな 頑丈で 硬いものがない。

008C : タダ アノ カシマコーノヨー ホラー アノー コンナ オーキナヨー  
ただ あの 鹿島港のよー ほら あのー こんな 大きなよー

ネー カシヤミダイナ ホラ アレカ° ゼーンブ ナカ° サレデ。  
ねえ 貨車みたいな ほら あれが 全部 流されて。

## 【8】孫を迎えに行った話、液状化

収録時間 1分24秒

### 話し手

|   |   |              |          |        |
|---|---|--------------|----------|--------|
| A | 女 | 1938 (昭和13)年 | (収録時74歳) | 元水産加工業 |
| B | 女 | 1936 (昭和11)年 | (収録時75歳) | 元水産加工業 |
| C | 女 | 1939 (昭和14)年 | (収録時73歳) | 元水産加工業 |

001A : デ アレカ° ジューイジンチダッペー。デ ワダシラ ジューニンチ  
で あれが 11日だろう。 で 自ら 12日

X3バ ムゲーニ イッタダヨー。 X3バー。デ X2 イゲッカ、  
X3を 迎えに 行ったんだよー。 X3を。 で X2 行けるか、

コッターツッタノ。 ダガラ トニカグ イゲルトゴマデ  
これでって言ったの。 だから とにかく 行けるところまで

イッテンベツツッター イッター フカシバントゴダネー  
行ってみようって言って 行って 深芝のところだねー

フカシバントゴマデ コー ヘッテキタダヨー。  
深芝のところまで こう 入ってきたんだよー。

002C : フカシバダノ ~~~~~ アソゴラ タイヘンダッタガラナー。  
深芝だの ~~~~~ あそこら 大変だったからなー。

003A : アレカ° エキジョーカッテ ユーノガナー。 ミズカ°  
あれが 液状化って いうのかなー。 水が

ブクブクブクブク ナッター。  
ぶくぶくぶくぶく なる。

004C : デ ミズカ° ネー テッポーミズミデーニ フキアカ° ッタッテヨー。  
で 水が ねー 鉄砲水みたいに 吹きあがってよー。

005A : エサカ° ヨー コーナッチャッテンノ。 アー コレカ° エキジョーカッテ  
家がよー こうなってしまうているの。 あー これが 液状化って

イウノガッテ。デ ソゴ X2 コゴントゴ イッタラ クルマ  
いうのかって。で そこ X2 ここのところ 行ったら 車

モグッチャードツツッター マダ バックシター チガー ミジ イッター  
もぐってしまうぞって言って また バックして 違う 道 行って

コー ミキ° サ キレダツケ イマノ シマムラカ° アッペ。  
こう 右に 切れたら 今の シマムラが あるだろう。

(C アー ンー シマムラ) アソゴントゴ トーッタダヨ。アソゴサ デダノ。  
(C あー んー シマムラ) あそこのところ 通ったんだよ。あそこに 出たの。

006C : アソゴニー アソゴノ サギカ° ー アノ ホリワリー。デ カシマコー。  
あそこに あそこの 先が あの 堀割。 で 鹿島港。

ムガシ ホッチサ ホリワリカ° ソゴ ツタワッテキタンダド。ダガラ  
昔 そっちに 堀割が そこ 伝わってきたんだと。 だから

コグドーマデ イッチャッタダ。  
国道まで 行ってしまったんだ。

007A : デ コンド ホラ ズーット ホリワリノ ホー トーッテ  
で 今度 ほら ずーっと 堀割の 方 通って

イッタツケー アノ ソレゴソ イマ ユー カシヤー カブツッタッペー。  
行ったら あの それこそ 今 いう 貨車 貨物っていうだろう。

008C : コンテナ。コンテナ。コンテナカ° ヨー。  
コンテナ。コンテナ。コンテナがよー。

009A : アレカ° ヨー ブンリタイッテ イウノ。ブンリタイツツーノガ、アレ。  
あれがよー 分離帯って 言うの。分離帯っていうのか、 あれ。

ミジニ クサカ° オエデデー アッチド コッチ  
道に 草が 生えていて あっちと こっち

ハシッテベヨー。 (B ソーソー) ソゴサ ノシアカ° ッテデー。  
走っているだろうよー。(B そうそう) そこに のし上がっていて。

(B ハー オラワ イッタゴドネーガラ ワガンネダ)  
(B はあ 俺は 行ったことないから わからないんだ)

コンドヨー ズーットイッタ (B カミスノホーニ フカシバツツー  
今度よー ずーっと行った (B 神栖の方に 深芝っていう

オメライノヨー ウジノ オメライノヨー ソレカ° フカシバ)  
お前らの家のよー うちの お前らの家のよー それが 深芝)

010C : アノヨー フカシバノ コグドーガラ サギノ ホーワ ダイジョブダッタ。  
あのよー 深芝の 国道から 先の 方は 大丈夫だった。



デモヨー ドーロ ミナ コーナッテダヨー。  
でもよー 道路 みな こうなっていたよー。

011B : ドーロ スコ° イモノネ。  
道路 すごいものね。

012A : イマデモ ソーダモノ。  
今でも そうだもの。

013C : イマデモ ホドーナンカ イマデモ。  
いまでも 歩道なんか 今でも。

## 【9】孫を迎えに行った話

収録時間 49秒

### 話し手

|   |   |              |          |        |
|---|---|--------------|----------|--------|
| A | 女 | 1938 (昭和13)年 | (収録時74歳) | 元水産加工業 |
| B | 女 | 1936 (昭和11)年 | (収録時75歳) | 元水産加工業 |
| C | 女 | 1939 (昭和14)年 | (収録時73歳) | 元水産加工業 |

001A : オーアライナンカ スコ° ガッタガラ。デ ヤマン ナカ コー  
大洗なんか すごかったから。 で 山の 中 こう

トーッテッテー X2 オーアライ トーレネーツツガラ コノ ヤマン  
通って行って X2 大洗 通れないっていうから この 山の

ナガ ヘーッテッペヤツツッテー。 オッカナビックリダヨ、  
中 入って行ってやろうやって言って。おっかなびっくりだよ、

フタリデ。デモ イッショケンメダガラ ミドマデ イッチャッター。  
二人で。 でも 一所懸命だから 水戸まで 行っちゃった。

シタツケ ヤロー スマシテダ。  
そうしたら 野郎 澄ましていた。

002B : {笑} ヤロー スマシテッテ スマシテンナラ、 オメ ゲンキダ。  
{笑} 野郎 澄ましているって 澄ましているなら、お前 元気だ。

ナンニモ、オメ ジコカ° ネーケレナ。  
何も、 お前 事故が なければな。

003A : ナントモネカッタカツツッテー。  
何ともなかったと言って。

004B : ジコカ° アレバヨー アレダケットナー。  
事故が あればよー あれだけれどなー。

005A : アイツ ガッコニ イダダド。 ガッコノ クラブ ヤッテ イダダド。  
あいつ 学校に いたんだと。学校の クラブ やって いたんだと。

デー ホラ ミンナバ ダシトイデ ジブンワ サイコ° ニ  
で ほら みんなを 出しておいて 自分は 最後に

デデキタッテ。ア ワレ エラガッタナッテ ホメデ ヤッタケットモー。  
出てきたって。あ お前 偉かったなって 褒めて やったけれども。

デー ソゴサ オイデモ ショーカ° ネーガラ ツレデ キタッペー。  
で そこに 置いても しょうがないから 連れて きたらろう。

デ ケーリニヨー アノー ホリワリノ〔1〕 ホーバナ トーッテ キタッペ。  
で 帰りによー あの 掘割の 方をな 通って 着たららう。

シタツケ クルマカ° サンダイ イマユー ブンリタイ ソゴサナ  
そうしたら 車が 3台 今言う 分離帯 そこにな

ノシアカ° ッテダ。アレ シトカ° ヤッタッテ デギネードナー。  
のし上がっていた。あれ 人が やったって できないよなー。

006C : デギネー デギネー。  
できない できない。

---

## 注

〔1〕 ホリワリノ  
ホリワリ「掘割」は地名。

## 【10】ユニクロおよび花王石鹼のところの被害

収録時間 1分05秒

### 話し手

|   |   |              |          |        |
|---|---|--------------|----------|--------|
| A | 女 | 1938 (昭和13)年 | (収録時74歳) | 元水産加工業 |
| B | 女 | 1936 (昭和11)年 | (収録時75歳) | 元水産加工業 |
| C | 女 | 1939 (昭和14)年 | (収録時73歳) | 元水産加工業 |

001B : ダッテ ユニクロントゴナンカ スコ° ガッタッペヨ。  
だって ユニクロのところなんか すごかっただろうよ。

002A : スコ° ガッタ、ユニクロ スコ° ガッタ。  
すごかった、ユニクロ すごかった。

003C : ユニクロントゴヨ マダ マダ ナオシテルヨ。  
ユニクロのところよ まだ まだ 直しているよ。

004B : マダ ナオシテルノ。  
まだ 直しているの。

005A : スコ° イダ、アソゴ。デ コンド オーアライントゴマデ イッタダヨ。  
すごいんだ、あそこ。で 今度 大洗のところまで 行ったんだよ。

006C : コドシデ ホラ コドシデ イチネンハンダゲドモ  
今年で ほら 今年で 1年半だけれども。

(A オーアライデネーナ アソゴワ) モー イジネンハン  
(A 大洗でないな あそこは) もう 1年半

カガルッテ、ドーロ。~~~~~ ドーロオ オワルマデ。  
かかるって、道路。~~~~~ 道路を 終わるまで。

007B : タダ ホラ ドゴツツタツケ アノ ソノー カオーセッケン。  
ただ ほら どこって言ったっけ あの その一 花王石鹼。

(A ウン カオーセッケン) カオーセッケンノホーノ  
(A うん 花王石鹼) 花王石鹼の方の

ミズモレワ スコ° イダ、アンタ。イマ。  
水漏れは すごいんだ、あんた。今。

008A : マーダ イマダニ ソー。イマダニ ソー。  
まだ いまだに そう。いまだに そう。

- 009C : イマデモ一 ホドーワー ゼンブ コレ。  
 今でも 歩道は 全部 これ。
- 010A : イマダニ ソーダワ。 (B イズマデモナー)  
 いまだに そうだわ。 (B いつまでもなー)
- 011C : ソシテー クルマ トールド モー コー ナミノリ ドーロダヨ。  
 そして 車 通ると もう こう 波乗り 道路だよ。
- 012A : アソゴワ ナオッタナー、タジマヤマントゴロワ。〔1〕  
 あそこは 直ったなー、 但馬山のところは。
- 013C : ウン タジマヤマ ナオシタ。デモ コゴノ ハサギノ シンコー ミデミナー。  
 うん 但馬山 直した。 でも この 波崎の 新港 見てみなー。
- アレー オメ ゼンブヨー アーシテ シタノ ハシラ ナンニモ ナイダヨ。  
 あれ お前 全部よー ああして したの 柱 何も ないんだよ。
- 014A : イマ ナオシテル。  
 今 直している。
- 015C : イマ イマ ナオシテルワネー。  
 今 今 直しているわねー。
- 016A : イマ ナオシテル。  
 今 直している。
- 017B : シンコー。  
 新港。
- 018C : ウン シンコー。  
 うん 新港。
- 019A : ダッテ フネ ツカワンネガッタダモノ。 (C フネワ ツカワナイデ)  
 だって 舟 使われなかったんだもの。 (C 舟は 使わないで)
- ミズアケ° デギネガッタダモノ。  
 水揚げ できなかつたんだもの。
- 020B : トクニ ソバニ イガネガラ ワガンネ。  
 特に そばに 行かないから わからない。
- 021C : ジバンチンカシチャッター。ゴジッセンチク° レー サカ° ッチャッタッテ、  
 地盤沈下しちゃって。 50センチぐらい 下がっちゃったって、

ガンペギカ°。  
岸壁が。

022B : キシカ° ヨ ボゴボゴン ナッテダガラネ。  
岸がよ ぼこぼこに なっていたからね。

023C : ナッテベ。 ダガラネ フネオ ツカアンナイシー  
なっているだろう。だからね 舟を 使われないし。

(B アカイイシ クロイイシ) アノ トラックモ ハイレナイノ。(B ソー)  
(B 赤い石 黒い石) あの トラックも 入れないの。(B そう)

024A : ダガラ ミズアケ° カ° ゼンゼン デギナガッタッペー。  
だから 水揚げが 全然 できなかつただろう。

---

## 注

[1] タジマヤマントゴロワ。

タジマヤマ (但馬山) は地名。ちょっと盛り上がった平地林で太田の方にある。

## 【11】車が流された話

収録時間 35秒

### 話し手

|   |   |              |          |        |
|---|---|--------------|----------|--------|
| A | 女 | 1938 (昭和13)年 | (収録時74歳) | 元水産加工業 |
| B | 女 | 1936 (昭和11)年 | (収録時75歳) | 元水産加工業 |
| C | 女 | 1939 (昭和14)年 | (収録時73歳) | 元水産加工業 |

001A : シゼンノ チカラツツモナー オソロシーヨナー。  
自然の 力っていうものは 恐ろしいよなー。

002C : デ ソレカ° ゼンブー コグドーマデ ダーッテイッタダッテヨー。  
で それが 全部 国道まで だーって行ったんだってよー。

003A : ナー アノ ミズー。  
なー あの 水。

004C : ミンナ カイシャノ ヒトラワヨー クルマカ° ナカ° サレダリナンダリシテ  
みんな 会社の 人らはよー 車が 流されたり何だりして

アルイデ キタダッテヨー。  
歩いて 来たんだってよー。

005B : ソーダッテ アノ ウジノ ホラー Y2ニ ハイッテルヨー X4サンカ° ヨー。  
そうだって あの うちの ほらー Y2に 入っているよー X4さんがよー。

006C : ミンナネ ハサギマデ アルイデ キタンダッテ。  
みんなね 波崎まで 歩いて 来たんだって。

007B : カオーセッケンノ ムゴーツカワノ チョット スク° ムゴーツカワニ  
花王石鹸の 向こう側の ちょっと すぐ 向こう側に

ツトメデッタヨー。 デ クルマ。  
勤めているんだよー。で 車。

008C : アソゴラ ゼンブ ヤラレチャッタヨナー。  
あそこら 全部 やられちゃったよなー。

009B : ソノ カイシャ シマッテー クルマン ノッカッタツケー ソノ クルマ  
その 会社 閉まって 車に 乗ったら その 車

サンダイクライズラーツトズラーツト ナカ° レデッチッタダドヨー。 デ  
3台くらい ずらーっと ずらーっと 流されて行っちゃったんだとよ。で

ソノ アンチャン ソノアシタ〔1〕 キタガラ ドーシタ、  
その 兄ちゃん その次の日 きたから どうした、

オメラツツタツケヨ トチューデ ツマッタヨツテ イッテダツノニー  
お前らって言ったらよ 途中で 詰まったよって 言っていたって言うのに。

---

**注**

〔1〕 ソノアシタ

標準語と異なり、アシタは発話時の翌日だけでなく、過去のある日の次の日も指すことができる。



## 【12】千葉のソゴーにいた家族の話

収録時間 1分27秒

### 話し手

|   |   |              |          |        |
|---|---|--------------|----------|--------|
| A | 女 | 1938 (昭和13)年 | (収録時74歳) | 元水産加工業 |
| B | 女 | 1936 (昭和11)年 | (収録時75歳) | 元水産加工業 |
| C | 女 | 1939 (昭和14)年 | (収録時73歳) | 元水産加工業 |

001A : ワシライノ X5ヨー チョード ソントギニ チバノ ソコ ーニ  
私らの家の X5よー ちょうど そのときに 千葉の Sogo に

イダダド。 そって ゼンブ テンインイカ° イワ ダサレダダド、オモデサ。  
いたんだと。そして 全部 店員以外は 出されたんだと、表に。

シタツケナ エギノ マーリ パニックダッタッテ。デ ジブンワー  
そうしたら 駅の 周り パニックだったって。で 自分は

ドッコイショッテ コシカゲダダド。サテ コレガラ ドーショーッテ。  
どっこいしょって 腰かけたんだと。さて これから どうしようって。

ドーヤッテ イグベド オモッテ。マズ サイショニ カンケ° ーダノカ° ー  
どうやって 行こうかと 思って。 まず 最初に 考えたのが

アノー セブンイレブンカ° アイデダダド。 デ セブンイレブンサ  
あのー セブンイレブンが 開いていたんだと。で セブンイレブンに

イッテー モシ コレー マクハリマデ アルガネゲナンネガラー  
行って もし これ 幕張まで 歩かなければならないから

トチューデ ドーナッカ ワガンネガラー ミズ カッテ パン カッテ  
途中で どうなるか わからないから 水 買って パン 買って

ソッテ (C ナニモ ナガッタヨ) ヌックイノ カッテ  
そして (C 何も なかったよ) 暖かいの 買って

(B セブンイレブンニモ ネーガッタッペー) チガー。タッタイケン  
(B セブンイレブンにも なかったらろう) 違う。 たった1軒

アッタダド。 トビコンダダド。 デ ヒツヨーナモノダゲ カッテ  
あったんだと。飛び込んだんだと。で 必要なものだけ 買って

ケータイカ° キレダラ ショーカ° ネーガラ デンチ カッテ。  
携帯が 切れたら 仕様がなから 電池 買って。

002C : スーパーモ ナニモ モー ナンニモ ナガッタヨー。  
スーパーも 何も もう 何も なかったよー。

003A : デ イジジカンハン カガッテ マクハリマデ アルッタダド。  
で 1時間半 かかって 幕張まで 歩いたんだと。

004B : ダッテ ミズ カウノニ タイヘンダッタッペ。コンナ ボトルヨー カーノニ、  
だって 水 買うのに 大変だっただろう。 こんな ボトルよー 買うのに、

オメーヨー。(C アレガラ ダッペヨ、ボトル) トーキョーガラ エサ  
お前よー。(C あれから だろうよ、ボトル) 東京から 家に

オグッテモラッタノニ。ムスメカ° オグッテ ヨゴシテネー。  
送ってもらったのに。 娘が 送って よこしてねー。

ハサギニ ネーガラ。  
波崎に ないから。

005A : ヨク マクハリマデ ケーレダナッテ イッタッケー。デンシャ  
よく 幕張まで 帰れたなって 言ったっけ。 電車

006B : アルッテ ケーッタノ。  
歩いて 帰ったの。

007A : アルッテ ケーッタ。ニジカンハン カガッタド。チバガラ。  
歩いて 帰ったの。2時間半 かかったと。千葉から。

008B : アララ ア ソーダッペヤ。オライノ X6ノ〔1〕 チャーンカ°  
あらあ そうだろう。私の家の X6の 夫が

カイシャカラ シチジカン カガッタッテ。  
会社から 7時間 かかったって。

009A : ニジカンハン カガッタッテ。ンデ トチューデ アノ ナニカ°  
2時間半 かかったって。それで 途中で あの 何が

アッテモ ネデモ イーヨーニッテ ホ ホッカイロ カッテー  
あっても 寝ても いいようになって × ホッカイロ 買って

010B : オドゴダガラ オドゴノ アシダガラヨー シチジカンデ ケラレダケット  
男だから 男の 足だからよー 7時間で 帰られたけれど

オンナノ アシダド ケランネドー。  
女の 足だと 帰られないぞー。

011A : ホソイ ミジ トーッテッタラ ワガンネッテ〔2〕。ダガラ クルマノ トール  
細い 道 通っていったら わからないって。 だから 車の 通る

ホラ カンバンカ° アッペ。アレ ミーミ キタダッテ。  
ほら 看板があるだろう。 あれ 見ながら 来たんだって。

012B : アー ソーカ ソーカ。  
ああ そうか そうか。

---

## 注

〔1〕 X 6ノ

話者の娘の名前。

〔2〕 ワガンネッテ

この方言のワガンネには「駄目だ」の意味もあるが、ここでは迷子になることを表している。

【13】上野から赤羽まで（孫）

収録時間 40秒

話し手

A 女 1938（昭和13）年 （収録時74歳） 元水産加工業  
C 女 1939（昭和14）年 （収録時73歳） 元水産加工業

001C：ウジノ マコ° ラモヨ ウエノガラヨ アガバネマデ イグノニヨー  
うちの 孫らもよ 上野からよ 赤羽まで 行くのによー

デンシャミジ デンシャカ° モ イコ° ガナイガラ。ゼンインカ° ヨ  
電車道 電車が も 動かないから。 全員がよ

ソカイサレダ ヒナンミンミダイニヨ ミンナデネ デンシャミジ  
疎開された 避難民みたいによ みんなでね 電車道

アルイデ ヨジカン カガッタッテ。  
歩いて 4時間 かかったって。

002A：デモ ガギラワヨー オヤノコド シンペシルヨー。  
でも 子供たちはよー 親のこと 心配するよー。

003C：デネ ケータイ ツナカ° ンナイベー。  
でね 携帯 つながらないだろう。

004A：ケータイワ ツナカ° ンネーシ  
携帯は つながらないし

005C：デンワワ ツナカ° ンナイシ。ダガラ ケータイモ  
電話は つながらないし。 だから 携帯も

オボエドイダホーカ° イーネ。  
覚えておいた方が いいね。

006A：キンキューノ ヤズカ° アッタド。  
緊急の ものが あるんだぞ。

007C：キンキューノ ヒナンノ ナンダツケ。  
緊急の 避難の 何だっけ。

008A：シラネ。  
知らない。

009C : ..... ソレオ オセバ。  
..... それを 押せば。

010A : オサッタダケットモ ソンナノ ワスレッチャッタヨ。  
教わったけれども そんなの 忘れてしまったよ。

011C : ケータイデ ツナカ° ルッテ ユーケドモ。  
携帯で つながるって 言うけれども。

012A : ジブンワ ホラ コー。メール オグッタダッペケットモ コッチカ°  
自分は ほら こう。メール 送ったんだろうけれども こっちが

デギネワヨ。  
できないよ。

## 【14】舟の心配の話

収録時間 1分09秒

### 話し手

|   |   |              |          |        |
|---|---|--------------|----------|--------|
| A | 女 | 1938 (昭和13)年 | (収録時74歳) | 元水産加工業 |
| B | 女 | 1936 (昭和11)年 | (収録時75歳) | 元水産加工業 |
| C | 女 | 1939 (昭和14)年 | (収録時73歳) | 元水産加工業 |

001C : ウジノ ジーチャンカ° ヨ ミンナカ° ニケ° シノニヨ アノー ハマ  
うちの 爺ちゃんがよ みんなが 逃げるのによ あの 浜

イッタダヨ。 ネ アノー イチバン タカイトゴ ジブンカ° ホラ  
行ったんだよ。ね あのー 一番 高いところ 自分が ほら

フネカ° シンパイデ。モ ジブンカ° ノッテダ フネカ°  
船が 心配で。 も 自分が 乗っていた 船が

Y3カ° ホラ コッチノネ ガンペギノ コゴニ ツイデダダド。  
Y3が ほら こっちのね 岸壁の ここに ついていたんだと。

ソシテ S1ド Y4ド Y5カ° コッチカ° ワニ イダダド。  
そして S1と Y4と Y5が こっち側に いたんだと。

002A : Y5 シックリゲーッチマッタッペナー。  
Y5 ひっくり返ってしまったらうなー。

003C : Y3ワー ニケ° ダダド。デ ソレオネー アノ ミデダダド ジブンワ  
Y3は 逃げたんだと。で それをねー あの 見ていたんだと 自分は

タガイドゴニ イデ。デ シンパイデ。シタツケ ダイイッパ キテ ニハ  
高いところに いて。で 心配で。 そうしたら 第一波 来て 二波

キテ サンパメカ° ヤッパ スコ° ガッタダド。デ コノネ アカ° ッテク  
来て 三波目が やっぱり すごかったんだと。で このね 上がっていく

ナミデワー アノー ヒックリカエンナイダド。デ コンド ヒキシオデー。  
波では あの ひっくり返らないんだと。で 今度 引き潮で。

004B : ヒーデ クットギデネーガ。  
引いて 来的时候ではないか。

005C : ヒキシオデー ヒーデ クル ソノ イギオイデ フネカ° サンカイモ  
引き潮で 引いて 来る その 勢いで 船が 三回も

ヒックルケ° ーッチャッタダド、アノ オッキナ フネカ°。  
ひっくり返っちゃったんだと、あの 大きな 船が。

006A : デ ナンダッタツケ ホラ Y 4 Y 4カ° アカ° ッタガ。  
で なんだったっけ ほら Y 4 Y 4が 上がったか。

007C : アカ° シナイヨ。  
上がらないよ。

008A : マダ アカ° シネノ。  
まだ 上がらないの。

009C : アカ° シナイ。  
上がらない。

010A : アノ サルベージカ° キテダツケナ。ダガラ マダ コーイショーカ°  
あの サルベージが 来てたっけな。だから まだ 後遺症が

アッタヨナー。〔1〕 コーイショーカ° アッタヨー。  
あるんだよなー。 後遺症が あるんだよー。

011B : Y 5ワ デモナ。アノー。  
Y 5は でもな。あの。

012C : ナオシテ。  
直して。

013A : ナオシタ。  
直した。

014B : ナオシテヨ。アレダケツトモー。アミガラ ナニガラ ミンナ オガニ アケ° デ。  
直してよ。あれだけれども。網から 何から みんな 陸に 揚げて。

015A : スコ° インダナー。  
すごいんだなー。

016B : スコ° イド、オメ。トーグガラ アノ ゼーンブヨ シンテーサ〔2〕  
すごいぞ、お前。遠くから あの 全部よ 新堤に

アケ° ドイデヨー。  
揚げておいてよー。

017C : ~~~~~ カガツカンナー。  
~~~~~ かかるからなー。

注

〔1〕 アッタヨナー。

存在動詞「ある」を埋め込んだ標準語のノダ文に対応する構文の述部。/ar-u=aa/が
[atta] になっている。

〔2〕 シンテーサ

シンテー「新堤」は新しい堤防を指す。

【15】魚の風評被害

収録時間 1分29秒

話し手

| | | | | |
|---|---|--------------|----------|--------|
| A | 女 | 1938 (昭和13)年 | (収録時74歳) | 元水産加工業 |
| B | 女 | 1936 (昭和11)年 | (収録時75歳) | 元水産加工業 |
| C | 女 | 1939 (昭和14)年 | (収録時73歳) | 元水産加工業 |

001A : ダガラ ツナミー シンサイワヨ イロイロ アルヨナー。ダッテ コドシ
だから 津波 震災はよ いろいろ あるよなー。だって 今年

タデアミ デギネーヨナ。
建網 できないよな。

002C : ア デギネーヨ。ダゲド クカ° ズ ハイッテガラ
あ できないよ。だけど 9月 入ってから

003A : ア ハジマッタ。
あ 始まった。

004C : クカ° ズニ ハイッテガラー クカ° ズイッパイー ダガラ ズーット
9月に 入ってから 9月いっぱい だから ずーっと

デギナガッタダッペヨナー。
できなかつたんだろうよなー。

005B : ダガラ サガナモ ホラ クエンノ クエネーノッテ イッテダガラー。
だから 魚も ほら 食えるの 食えないのって 言っていたから。

006A : ナントモネーヨ。
何ともないよ。

007B : ナントモネーモンナ。
何ともないものな。

008C : ナントモナイダケドモー フーショーシカ° イデー オレノ ホラ
何ともないのだけれども 風評被害で 俺の ほら

ジッカナンカモー シラス ヤッテデモー モー ハンブン
実家なんかも シラス やっていても もう 半分

ハンブンイカダツツガラ。
半分以下だって言うから。

009B : シラスワ ナントモネーダッペ
シラスは 何ともないのだろう。

010C : ナントモナイダヨ。ゼンゼン モー ナントモナイダノニー [1]
何ともないのだよ。全然 もう 何ともないのに

イバラキッテ ユーダゲデー (B ア ソーカー モー) モー
茨城って いうだけで (B あ そうか もう) もう

(B モー ナメーカ° ウレチャッテ) ウーン。ソー ソレデー
(B もう 名前が 売れちゃって) うーん。そう それで

チバノ ホラ アサヒ。
千葉の ほら 旭。

011B : ダガラ コンナ ナンテノ (C シラスデモ) メータガー
だから こんな なんて言うの (C シラスでも) 目板鱈か

(A メータ) メータツツノガナー。 アンナンナンカ ミンナ
(A 目板鱈) 目板鱈っていうのかな。あんなのなんか みんな

コンナ デッカーダガラ、コレ。メータデネーヨ。ナンツツケ、アノ
こんな 大きいのだから、これ。 目板鱈でないよ。何っていうっけ、あの

アレ、アノ シラメデネ ナンツツタゲー。
あれ、あの ヒラメでない なんて言ったっけ。

012C : クチカ° レー。
くち鱈。

013A : チガー チガー。
違う 違う。

014B : ナントガ カレーツツダナー。
なんとか 鱈っていうんだなー。

015A : ソー。
そう。

016B : ナー。コンナ デケーノ モラッタッテ クエンノカ ダッテ、オメー。
なー。こんな 大きいの もらったって 食えるのか だって、お前。

017A : ダイジョブダヨー。
大丈夫だよー。

018B : アレデ アレデ カー ムグノ ナンキ° ダツツケネー。
あれで あれで 皮 剥くの 難しいっていうねー。

(C アレ ミンナ タベチャッタド) デ カー ムイデヨ。
(C あれ みんな 食べちゃったぞ) で 皮 剥いてよ。

ニツケデ クッタツケ ンマガッタド。
煮付けて 食ったら 旨かったぞ。

019A : イシカ° レーガ。
石鰈か。

020B : イシカ° レーダ。
石鰈だ。

021A : イシカ° レーワー ナマデ クワネド クセーダド。 ワシワ ナマ
石鰈は 生で 食わないと くさいんだぞ。私は 生

クワネーガラ ワガンネケットモ。 タイデ クッタラ クセード。
食わないから わからないけれども。煮て 食ったら くさいぞ。

022C : ンダガラ ナマデ タベレバ ンマイド。
そうだから 生で 食べれば 旨いぞ。

023A : ナマドガ テンプラドガ。
生とか 天ぷらとか。

024B : カー ミンナ カー ムイチャッター。ソレデモツテ モラツテ
皮 みんな 皮 剥いちやって。それでもって もらって

クッタケットモ モツテ キナクテ イーヨツテ オレモ オゴッタダヨ。
食ったけれども 持って 来なくて いいよって おれも 怒ったんだよ。

(A タイダラ ダメダワ。クセーワ) シタツケ モツテ キネーワ、コンド。
(A 煮たら だめだわ。くさいわ) そうしたら 持って 来ないわ、今度。

025A : ナマク° セー。ワダシラ トグニー サガナカ° クエネーガラ。
生臭い。 私ら 特に 魚が 食えないから。

(B オレラモ クエネーダ) ナマク° セー。
(B 俺らも 食えないんだ) 生臭い。

026B : ハーツテ イツテヨ。モツテ キナクテモ イーツテ。
は一って 行ってよ。持って 来なくても いいって。

注

〔1〕 ナントモナイダノニー

ノダ文に対応する構文の述部に接続助詞「ノニ」が後接している。コピュラは終止形のダのかたちをとっている。

【16】松露（キノコ）

収録時間 1分15秒

話し手

| | | | | |
|---|---|-------------|----------|--------|
| A | 女 | 1938（昭和13）年 | （収録時74歳） | 元水産加工業 |
| B | 女 | 1936（昭和11）年 | （収録時75歳） | 元水産加工業 |
| C | 女 | 1939（昭和14）年 | （収録時73歳） | 元水産加工業 |

001C：ンデ アノ ショーロー アッペ。 ショーロー
それで あの 松露 あるだろう。松露

002A：ショーローワ ショロショロ デルモンダ。
松露は しょろしょろ 出るものだ。

003C：ウーン アノ マズノヨ ネモドサ。（B デルノ、コンナ マルッコイノ）ネ。
うーん あの 松のよ 根元に。（B 出るの、こんな まるっこいの）ね。

デ ネ。ウジノヨー ワガイ ホラ
で ね。うちのよー 若い ほら

004B：デ ナニ トッテ キター。
で 何 取って 来た。

005C：トッテ キタダヨー。
取って 来たんだよー。

006B：ケッコー アッタッケナー、ミンナナー。
けっこう あったっけな、みんななー。

007C：デヨー ジブンノヨー ヤマカ° アルワゲ。シッテル ヤマカ°。
それでよー 自分のよー 平地林が あるわけ。知っている 平地林が。

（B アー アー）ソゴワ ダレモ ハイネダド。 デ コンナニモ トッテ
（B あー あー）そこは 誰も 入らないんだと。で こんなにも 取って

キタダヨ。 シタツケ ムスメカ° ヨ オメッテ コレナー クエンノガッテ。
来たんだよ。そうしたら 娘がよ お前って これなー 食べるのかって。

008A：ゲンバグガ。
原爆か。

009C：チガーヨ。
違うよ。

010A : ホーシャノー。
放射能。

011C : ホーシャノーデ。デ コレ ホーシャノー シラベダノガッテ。ンナノ
放射能で。 で これ 放射能 調べたのかって。 そんなの

シラベネツツタツケ ジャー、オメー マズノ キノ シタワー
調べないって言ったら じゃー、お前 松の 木の 下は

ホーシャノー タマッタッテ。ダレカ° クーダ、コレッテ
放射能 溜まるんだって。誰が 食うんだ、これって

コンナン モッテ キタノニナ。デ クワナイモンダガラ。
こんなの 持って 来たのにな。で 食わないものだから。

012A : キノゴワ キノ シタ デルモンダガ。
キノコは 木の 下 出るものだから。

013C : トーケツサ イレダダヨ、ネ。 シタラ トーケツ イレデ
冷凍庫に 入れたんだよ、ね。そうしたら 冷凍庫 入れて

コー X7 ドースルッテ。
こう X7 どうするって。

014A : ダッテ ヤマノ ドゴ、イチ。
だって 平地林の どこ、位置。

015C : イチツツタッテ ハサキノ ヤマダダケドモ。〔1〕
位置っていったって 波崎の 平地林なんだけども。

016A : ダイジョブダッペヨナー。
大丈夫だろうよなー。

017B : ソンナ シラベネゲ キモジ ワリーダッペヨー。
そんな 調べなければ 気持ち 悪いんだろうよー。

018C : バーチャンラワ クッテモ イーワッテ。ネ。デルマデニ シンチャーガラ
婆ちゃんらは 食っても いいわって。ね。出るまでに 死んじゃうから

(A ソー ソー シンチャー)、バーチャンラ タベデ ミロツターガラ
(A そう そう 死んじゃう)、婆ちゃんら 食べて 見ろっていうから

アー オラダッテ イノジ オシードー {笑} クワネ クワネッテヨー。
ああ 俺だって 命 惜しいぞ {笑} 食わない 食わないってよー。

トーケツサ イレツパナシニ ナツチャッタケド コレ ドースル
冷凍庫に 入れっぱなしに なってしまったけれど これ どうする

クレマデ〔2〕 ステッチャーガーッテ イッテモ セツカグ タンサー
暮れまで 捨てちゃうかって 言っても 折角 苦労して

シテナー。(A ホントダナー) トーケツサ イレドゲバ ホーシャセン
してなー。(A 本当だなー) 冷凍庫に 入れておけば 放射線

ヌゲット オモッテ。{笑}
抜けると 思っテ。 {笑}

019A : ソラ ネガッペケットモヨー。
それは ないだろうけれどもよー。

注

〔1〕 ヤマダダケドモー。

コンピュータを埋め込んだノダ文に対応する構文の述部。ここでは、終止形のコンピュータが連続する構造になっている。

〔2〕 クレマデ

ここに出てくるクレは年末を指す。

【17】東海村で事故があったら

収録時間 28秒

話し手

| | | | | |
|---|---|--------------|----------|--------|
| A | 女 | 1938 (昭和13)年 | (収録時74歳) | 元水産加工業 |
| B | 女 | 1936 (昭和11)年 | (収録時75歳) | 元水産加工業 |
| C | 女 | 1939 (昭和14)年 | (収録時73歳) | 元水産加工業 |

001A : デ ホラ トーカймラデー トーカймラデ モシ ソーイコド
で ほら 東海村で 東海村で もし そういうこと

アッペ。 シタラ コゴラマデ シカ°イ アッカネ。トーカймラ。
あるだろう。そうしたら ここらまで 被害 あるかね。東海村。

002C : コノヘンジャ アルテード アッテナイガー。
この辺じゃ ある程度 あるのでないか。

003A : アンノガナー。
あるのかなー。

004B : タデアミモ ズイブン ソンダッペナー、イママデナー。
建網も ずいぶん 損だろうなー、 今までなー。

005C : タデアミドゴロガヨー ゼンブダッペヨ。
建網どころかよー 全部だろうよ。

006A : ゼンブダヨ、ゼンブ。
全部だよ、 全部。

007C : ゼンブモー フネカンケー カコーヤカンケーモ ゼンブ ゼンブダメ。
全部もう 船関係 水産加工場関係も 全部 全部だめ。

008B : ダメダナー。
だめだなー。

009A : ホントダヨナー。
本当だよなー。

010B : ~~~~~
~~~~~

011C : ダガラ キョネンド モー ニネンダガラ。  
だから 去年と もう 2年だから。



012A : ニネンガ。  
2年か。

013C : キョネンワ モー イジネンワ ダメデ デ コドシモ モー。  
去年は もう 1年は だめで で 今年も もう。

【18】1週間に2回しか漁に出ることができない

収録時間 1分23秒

話し手

A	女	1938 (昭和13)年	(収録時74歳)	元水産加工業
B	女	1936 (昭和11)年	(収録時75歳)	元水産加工業
C	女	1939 (昭和14)年	(収録時73歳)	元水産加工業

001C : デ イマダッテ フネカ° デナイダガラ。(B デナイ) イッシューカンニ  
で 今だって 船が 出ないんだから。(B 出ない) 1週間に

ニカイ イッシューカンニ ニカイシカ デラレナイ。  
2回 1週間に 2回しか 出られない。

(A ニカイシカ デランネノゲ、フネ) ニカイシカ デランナイダヨ。デ  
(A 2回しか 出られないのかい、船) 2回しか 出られないんだよ。で

チャクリカ° ー (B チャクリカ°) チャクリカ° ニカイ。  
小型旋網船が (B 小型旋網船が) 小型旋網船が 2回。

イッシューカンニ ニカイ。  
1週間に 2回。

002A : イマ マーリフネニ [1] イッテツタツケガー。  
今 周り船に 行っているんだってね。

003C : イマ ハチノヘニ イッテル。  
今 八戸に 行っている。

004B : サバ トリニ イッテルワ。  
鯖 取りに 行っているわ。

005A : サバ トリニ イッテルノ。  
鯖 取りに 行っているの。

006C : サバ トリニ イッテモー トチューデ ケセンヌマトガー イシノマギカ°  
鯖 取りに 行っても 途中で 気仙沼とか 石巻が

ホラ ミズアケ° カ° ソンナニ デギナイワゲダヨ。  
ほら 水揚げが そんなに できないわけだよ。

007A : カコーヤカ° ネーモンナ。  
加工屋が ないもんな。

008C : ネー アノー レーゾーコカ° ナイガラ。トリアエズ チョーシマデ  
ない あの 冷蔵庫が ないから。とりあえず 銚子まで

モッテ キナギヤ ナンネ。  
持って 来なければ ならない。

009B : ヨワッチャーガンナー。  
弱っちゃうからなー。

010C : ヨワッチャーガラ。  
弱っちゃうから。

011A : サバナンカー。ソッタガラ チョーシサ サンマブネカ° コドシワ  
鯖なんかなー。 そうだから 銚子に サンマ船が 今年は

ハインノガ。  
入るのか。

012C : キタッペ、サンマブネカ°。  
来ただろう、サンマ船が。

013A : チョイチョイ ヘッテル。  
ちょいちょい 入っている。

014B : ヘッテンノ。  
入っているの。

015C : デ イシノマギダノー。  
で 石巻だの。

016B : コナイダ ハマ イッタツケヨー アノ イチバ ダイイチイチバ イッタツケヨ  
この間 浜 行ったらよー あの 市場 第一市場 行ったらよ

Y6カ° (C Y6カ° ネー) Y6カ°。オレラワ オソガッタ。スコシ  
Y6が (C Y6がねー) Y6が。俺らは 遅かった。少し

ハヤグ ゴミイゲバー モラッテ キラレダノニヨー。  
早く ゴミを出しに行けば もらって 来られたのによー。

017C : オメラノ オトツアノ Y6デナー ホグヨーサ イッタツケネー。  
お前らの お父さんの Y6でなー 北洋漁業に 行ったっけねー。

018B : オワッタトゴダッタ。  
終わったところだった。

019C : ナンネン イッタ ホグヨーサ。  
何年 行った 北洋に。

020B : オライノ オドツツァー ナンネンクレー イッタツケー。  
私の家の お父さん 何年くらい 行ったっけ。

021C : クネンク° ライ イッタ。  
9年くらい 行った。

022B : イッタツペ、ジューネンクライ。  
行っただろう、10年くらい。

023A : ホグヨーサ。  
北洋に。

024C : イッタペー、 コゴノ エノ オドツツァンダノ アダシノ イドゴノ ホラ  
行っただろう、この 家の お父さんだの 私の いとこの ほら

X8ダノネー (B ナー) ミオクリニ イッテ。アノコロ  
X8だのねー (B なー) 見送りに 行って。あの頃

イノジカ° ゲダヨナー。  
命がけだよなー。

025B : ミズキ° キネーダガラ ミズキ° ワ。  
水着 着ないんだから 水着は。

026A : セーセーシテダナ。 {笑}  
清々していたな。 {笑}

027B : デヨ デッカイ フネカ° デットヨ、オメ シャゲ ホラ シャゲバ  
それで 大きい 船が 出るとよ、お前 鮭 ほら 鮭を

ツンデ ソゴサ ゼンブカ° ノッカッテ ツカマッテ ソノ ウエサ  
積んで そこに 全部が 乗っかって 掴まって その 上に

アケ° ニ イグダガラ シャゲモ、オメ ソンナニ アレー アット  
揚げに 行くんだから 鮭も、 お前 そんなに あれ あるぞ

シャシン アッタゾ。アーイ カッコシテ ヤッタモンナー。ホントニ  
写真 あったぞ。ああいう 格好して やったもんなー。本当に

ショーカ° ネーナー。  
仕様が ないなー。

---

**注**

〔1〕 マーリフネニ

マーリフネは港を離れて漁をする船。1ヶ月から2ヶ月戻らない。

【19】この辺は目に見えないものに支えられている

収録時間 2分52秒

話し手

A	女	1938 (昭和13)年	(収録時74歳)	元水産加工業
B	女	1936 (昭和11)年	(収録時75歳)	元水産加工業
C	女	1939 (昭和14)年	(収録時73歳)	元水産加工業

001A : ダガラヨ コゴラワ オガケ° サマデヨ ナニカ メニ ミエネー  
だからよ この辺は おかげさまでよ 何か 目に見えない

モノニ キット ササエラレデッタヨナー。 イズモ ソー オモーモノ。  
ものに きっと 支えられているんだよなー。いつも そう 思うもの。

002C : コノ ジシンデヨ ウジカ° タオレナガッタツノカ° フシキ° ダヨネー。  
この 地震でよ うちが 倒れなかったっていうのが 不思議だよなー。

003A : ホントダヨナー。  
本当だなー。

004C : ミンナ チクサンジューゴネンガラ ゴジューネンイジョーノ ウジダヨー。  
みんな 築35年から 50年以上の うちだし。

005B : エサワナー。  
家はなー。

006C : ウーン モー ゼッタイニ モー ダメダワッテ ユッテダノ。  
うーん もう 絶対に もう だめだわって 言っていたの。

007A : ジバンニモ アッテネーノガナ。 アノ ホラ ムネ トラエダ  
地盤にも あるんじゃないのかな。あの ほら 棟 落ちた

トゴロノー ヤズ ミンナ コー ミデ ミラッセー [1]。  
ところの やつ みんな こう 見て 見なさい。

ソーシット [2] アノ トラエダ トゴロ ミナ シューチューシテベヨ。  
そうすると あの 落ちた ところ みな 集中しているだろうよ。

008C : バショカ° ナー。  
場所がなー。

009B : デ ナンツッタケ アノー Y7ノヨー X9サンニ  
で 何って言ったっけ あの Y7のよー X9さんに

ムスメ アッパー。 アノ ムネ ムネ トッチャッテ ムネカ°  
娘 あるだろう。あの 棟 棟 とってしまつて 棟が

テーランシチャッタダッテ。ア ソーカー。  
平らにしちやつたんだって。あ そうか。

010C : ダッテ アノー ズーット イグド ヤタベノ ホーモヨ ノギナミ  
だつて あの ずーっと 行くと 谷田部の 方もよ 軒並み

ゼーンブ オーギナ ウジカ° ヤラレダノ。デヨ ムネカ° タイラニ  
全部 大きな うちが やられたの。でよ 棟が 平らに

タイラニ ナッチャッテー。  
平らに なつちやつて。

011B : ムネカ° ミンナ トラレッチャーガンナ。ムネノ タガイノ  
棟が みんな 落ちやうからな。棟の 高いの

アッタッペー、コンナ タガイノヨ。  
あつただろう、こんな 高いのよ。

012A : タガイ。  
高い。

013B : アレラ ヤラレッチャッタナ、ケッコーナ。シグイノワ ソーデモ  
あれら やられてしまったな、けっこうな。低いのは そうでも

ネーダケットモー。  
ないのだけれども。

014A : ワシライ タガイケットモー。  
私らの家 高いけれども。

015B : タガイツツタッテ、オマー。  
高いっていったって、お前。

016C : ダガラ トゴロニ ヨンノ。  
だから ところに よるの。

017A : ダガラー (B タゲノゴ) ジバンニ アッタヨ、ジバンニ、コレワ。  
だから (B タケノコ) 地盤に あるんだよ、地盤に、これは。

ソー オモー。  
そう 思う。

018C : コゴラワ オームガシワー アノ ホラ カギカ° ラオ トッテー  
ここらは 大昔は あの ほら 蠣殻を とって

デ カギカ° ラオー ホラ カギオ トッテワー ジメンサ コー  
で 蠣殻を ほら 牡蠣を とっては 地面に こう

ノメデダダッテ。  
埋めていたんだって。

019A : ステデダノー。  
捨てていたの。

020C : ステデダダドヨー。 ソレカ° ダンダンダンダン ホラ ツジカ°  
捨てていたんだとよー。それが だんだんだんだん ほら 土が

アレデー (A チソーニ ナッタノガナ) チソーニ  
あれで (A 地層に なったのかな) 地層に

ナッテッタッペッツーダヨ。  
なっていったらうっていうのだよ。

021B : ヤッパリ カギ コナコ° ナン ナレバ セメンカ° クッツイデル  
やっぱり 牡蠣 こなごなに なれば セメンが くつついている

カンジデモッテ カダグ ナッチャーガンネ。  
感じでもって 堅く なってしまうからね。

022C : ムガシー コンナ ヤマ アッタッペヨ、 カギカ° ラネー。  
昔 こんな 山 あっただらうよ、蠣殻ねー。

023B : アッタヨナー。  
あつたよなー。

024C : カギオ ホラ コゴノー カワデ デギデ トリニ イッテダ トギー。  
牡蠣を ほら この 川で できて 取りに 行っていた とき。

025A : トゴロワ アノ ドゴダッケ。コノ ウエノヨー ブンジョーチ  
ところは あの どこだっけ。この 上のよー 分譲地

アソゴ ナンカ ホラ。  
あそこ なんか ほら。

026C : アソゴワ ミンナ カギカ° ラダネー。  
あそこは みんな 蠣殻だねー。



027A : ウミガラ アケ° ダ ツジダッペヨナー。デモ ナントモネガッタワナー。  
海から 揚げた 土だろうよなー。 でも なんともなかったわなー。

028B : アソゴナ キレーナ ツジダッペヨナ。イレダダッペケットモヨ。  
あそこのは きれいな 土だろうよな。 入れたんだろうけれどもよ。

コンダ アソゴノ フク° シタ イサ ドーシタツケ。  
今度は あそこの 壊した 家に どうしたっけ。

029C : ヨースルニー。  
要するに。

030A : シダガ。  
下か。

031B : シダ シダ。ン アソゴントゴナー。  
下 下。 ん あそこのところなー。

032C : シダガラ ゼンゼンヨー ナントモナガッタダガラ ダガラ コゴノー  
だから 全然よー 何ともなかったんだから だから この

チソーワ イガッタダヨナ。  
地層は よかったんだよな。

033A : イガッタダッペナー。 カダイダッペヨナー。 ミンナ コゴラ  
よかったんだろうなー。 堅いのだろうよなー。 みんな こころ

ナントモネーベヨ。  
何ともないだろうよ。

034B : ナントモ ネーネー。 コゴ Y 8カ° スコシ ヤラレダクライダ。  
何とも ないねー。 ここ Y 8が 少し やられたくらいだ。

035A : Y 8。  
Y 8。

036B : Y 8 ソゴノ Y 8。 イマデモ。  
Y 8 そこの Y 8。 今でも。

037C : マダ ヤラレデルワ。  
まだ やられているわ。

038B : マダ タノマネーノ。 タノンダラ マダ キネード。 ソゴカ° スコシ  
まだ 頼まないの。 頼んだら まだ 来ないぞ。 そこが 少し

ヤラレダガナ、コゴラワナ。  
やられたかな、ここらはな。

039A : ダガラヨ コレガラ トチ。  
だからよ これから 土地。

040B : Y9モ スコシ ヤラレダケツナ。Y9モ。  
Y9も 少し やられたけれどな。Y9も。

041A : Y9モ。  
Y9も。

042B : ウン ヤラレダド。  
うん やられたぞ。

043C : ア ヤラレダヨ。  
あ やられたよ。

044B : デ スク° ナオシタ。フネワ スク° ナオシタ。  
で すぐ 直した。 船は すぐ 直した。

(C デ モーヨー イチバン ハエガッタノ) イチバン ハエガッタ、ナオスノ。  
(C で もうよー 一番 早かったの) 一番 早かった、 直すの。

045C : ジブンラ コームテン ヤッテツカラ。  
自分たち 工務店 やっているから。

046B : コームテン ヤッテツカラヨー。  
工務店 やっているからよー。

047C : アレ ンデ イッシューカンモ タダネーウジニ ヤネワ  
あれ それで 1週間も 経たないうちに 屋根は

(B ヤッチッタノ) \_\_\_\_\_デ ナオシチャッタヨ。  
(B やっちやったの) \_\_\_\_\_で 直しちゃったよ。

048A : マダ ケッコー ナオンネー エサ (B アルヨ、マダ) アルヨナ。  
まだ 結構 直らない 家 (B あるよ、まだ) あるよな。

049B : カブサッテルモノ。  
被さっているもの。

050A : アノー ドゴダツケナー。  
あの一 どこだっけなー

051B : アノー アサヒサ イグ トチューデモヨ ケッコー アットー。  
あのー 旭に 行く 途中でもよ 結構 あるぞ。

052A : アル アル。  
ある ある。

053B : ヤネ コンナニ シート カブセダ。マダ コゴ ヤッテネーダワッテ ヌー。  
やね こんなに シート 被せた。 まだ ここ やってないのだわって いう。

054A : アノ チンカイ [3] (C ソッテ イマヨネー、アノー)  
あの 椿海 (C それで 今よねー、 あの)

チンカイナンカ スコ° イド。  
椿海なんか すごいぞ。

055C : フカシバダノー シライズミダノー オータシンチョーダノー  
深芝だの 平泉だの 太田新町だの

アソゴラカ° ゼンブモ ホラ ウメタテシタトゴダツツノカ°  
あそこらが 全部も ほら 埋め立てしたところだっていうのが

ワガッチャッテー イマ ドアイカ° ゼンゼン ウメタテ  
わかっちゃって 今 土合が 全然 埋め立て

シテナイカラー イマ ドアイカ° モー スコ° イノ。  
していないから 今 土合が もう すごい。

---

## 注

[1] ミラッセー

ミラッセーは丁寧な命令。「見なさい」の意味。

[2] ソーシット

サ変動詞の一段化の例。

[3] チンカイ

地名。四日市場にある。

Ⅱ－２ 福島県双葉郡浪江町の談話

杉本 妙子

【１】避難した頃の話

収録時間 ４分２５秒

話し手

A	女	1932 (昭和7)年	(収録時81歳)	農業
B	女	1935 (昭和10)年	(収録時78歳)	農業
C	女	1957 (昭和32)年	(収録時55歳)	(調査員)

001A : [1] はじめてー キタ \_\_\_\_\_ トシーワナー ンダカラ ワレワレワー ブーット  
はじめて [ここに]来た 年はなー そうから 我々は ずーっと

フクシマサ ココサ ハタケ カリタッタカラナー サトイモ クッキー  
福島に ここに 畑[を] 借りていたからなー 里芋[の] 茎[を]

ムイタノ オカシダナンカヨリ イーカラ、 ソーレオ、 アレ イマ  
剥いたの お菓子なんかより いいから、 それを、 あれ 今

ホシテッペシサ、 (C エー) アーレオ ミンナ モッテー  
干してるだろうよ、(C えー) あれを みんな 持って

002B : アレカ° アレカ° ヨロゴブダ。  
あれが あれが 喜ぶんだ。

003A : デンワデ ミンナ デンワデー ドコサ イルツチャーコト キーダガラ  
電話で みんな 電話で どこに いるっていうこと[を] 聞いたから

ワレワレカ° ソノー ムシメニ ノセライテ チョー アノー コーソクモ  
我々が そのー 娘に 乗せられて ××× あのー 高速[道路]も

ホレ オカネ トライネガッタペシサ、 (C エー) ガスリンダイデ  
そら お金[を] 取られなかっただろうよ、(C えー) ガソリン代で

イガレッカラ ブーイブン ミンナントコ、 (B ソー イマワ マダ ソレ)  
行けるから ずいぶん みんなのところ、 (B そう 今は まだ それ)

ブラク マワーッタド ミンナノ シトントコ。(B ンーンーンー) ンー。  
部落[を] 回ったぞ みんなの 人のところ。(B んーんーんー) んー。

ダガラ ホーストー モコーノ カセツサ ハイッテル シト イッテミタラ  
だから そうすると 向こうの 仮設[住宅]に 入ってる 人[が] 行ってみたら

イーヤ ユキンドコナー スベッテ ホーストー メンカイサ チタ シトタチ  
いや 雪のところな 滑って そうすると 面会に 来た 人たち

ホレー コゴサ イルヨーナッテ クット、 コンナノ ドッカラ、 オラ  
ほら ここに いるよなんて 来ると、 こんな のどこから、 俺[は]

ワラン トモダチ。 ユワッチャダッテ ドッカラ モラッタ  
笑うの 友達[の]ことを。 言われちゃっただって どこから もらった、

ホーストー モッテ モッテッテ (B マツツ イグツッテ。 ソー)  
そうすると 持って 持って行って (B            行くと言って。 そう)

モラッタダーツッテ オミゾジル ツグッテ カセダワーナンテ  
もらったんだと言って お味噌汁 作って 食べさせたよーなんて

ソーユフーニ ジブンノ ナカイー トモダジ ズイーブン オレワ アノ  
そういうふうに 自分の 仲いい 友達[に] ずいぶん 俺は あの

ケイデ カセツサ イッテ デンワバンコ° キクツツート コゴサ  
聞いて 仮設[住宅]に 行って 電話番号[を] 聞くというと ここに

イルツッテ テカ° ミオ ダシテ トモダチニ オシータリナー (B ン  
いると言って 手紙を 出して 友達に 教えたりな (B ん

ン) ミンナ コゴサ ジューショ コゴダガラ テカ° ミ  
ん) みんな ここに 住所[は] ここだから 手紙[を]

ヤッタノイトカナントカッテ。 シトリワー キューシューサ イッテシナー。  
やったのがいいとかなんとかって。 一人は 九州に 行ってるしな。

ンダガラー メグッテ アルッター。(B           ) イマデワ アンマリ  
だから 巡って 歩いた。(B           ) 今では あんまり

ミンナ ホンナ コイシクネーケンドモー キタ トシワ (B ナー ソー)  
みんな そんなに 恋しくないけれども 来た 年は (B なー そう)

コイシクッテ。  
恋しくって。

004C : ソーデスヨ。  
そうですよ。

005B : デンワ ワチャー デンワデ ..... サイキンワ  
電話 私は 電話で ..... 最近は

006A : ムスメニ ノセライテ トーカ° ネ [2] ムスメニ ノセライテ コゴサ  
娘に [車に]乗せられて 東金[の] 娘に 乗せられて ここに

ミンナ イッカイ キタンダケンドモ ソーレデ シンサイーノ トキヤー  
みんな 一回 [ここに]来たんだけども それで 震災の 時は

ハー ジューサンニチニカナ、 コゴサ ゼンブ ジューナンニンカ  
もう 13日にな、 ここに [家族]全部 十何人か

キタンダカラー。 ホーシテ トマッテデ コンド マコ° カ° シカ° ツニ  
来たんだから。 そうして 泊まっいて 今度 孫が 4月に

オサンシッカラ ソレワー カマカ° ヤ [3] ノ オレノ ゴバンメノ  
お産するから それは 鎌ヶ谷の 俺の 5番目の

ムスメントゴサ シナンシタベー。 ホシテ ソゴデ ビョーインデ  
娘のところに 避難しただろう。 そして そこで 病院で

ミデモラッテ ホレ ハラ キッテ ナス [4] ワケダガラ サンニンメ。  
診てもらって ほれ 腹[を] 切って 産むわけだから 3人目。

ホーシタラ コノ  
そうしたら この

007B : ナスッテ ウムノヨ。  
「ナス」って 産むのよ。

008C : ハイ ワカリマシタ。 {B 笑} {笑}  
はい わかりました。 {B 笑} {笑}

009B : カイトイテ。  
書いておいて。

010A : コノ ムスコワー アーノー (B ホントニ) C1 [5] カ° ー (B ン)  
この 息子は あのー (B ほんとに) C1が (B ン)

トーカ° ネサ アッタノ。 デグチ [6] ナミーサ アッタ C1カ°  
東金に あったの。 出口 浪江に あった C1が

トーカ° ネサ アッタガラー ソゴサ デンワ カゲダラ、 (B ン)  
東金に あったから そこに 電話 かけたら、 (B ン)

トーカ° ネノ コノ カイシャデ ンジャ ドンナ シゴトデモ イーガラ  
東金の この 会社で では どんな 仕事でも いいから

ツカッテクダサイ、(B ン) ツカッテモライデーッテ (B ン)  
使ってください、(B ン) 使ってもらいたって (B ン)

オネカ° イシタラ、(B ン) ソノー ウチオ ニゲン ミツケテクレテタ、  
お願いしたら、(B ン) その 家を 2軒 見つけてくれたた、

アノ アパート。(B アレー ウン イーダヨ) ソシタラ コンド、 ナー、  
あの アパート。(B あれー 運 いいんだよ) そうしたら 今度、 なー、

ダイイチコ° ーダッタンダド フクシマケンカラ ヒナンシテキタノ  
第一号だったんだって 福島県から 避難してきたの

トーカ° ネー。(B トー トーカ° ネニ イッタ シトカ° ナ)  
東金に。(B ×× 東金に 行った 人がね)

ダイイチコ° ーデ (B ンー ンー) アノ イッタ バン、 アノ シカイケン  
第一号で (B んー んー) あの 行った 晩、 あの 市議員[が]

ウジモ チャント ミツゲデオイダガラツッテ (B ンー ンー) ハー  
家も ちゃんと 見つけておいたからと言って (B んー んー) もう

シカイゲンノ シトカ° リョカンサ トメテクツチェ サシミーデ オスシデ  
市議員の 人が 旅館に 泊めてくれて 刺身で お寿司で

(B ンー) ゴチソーンナッテ ヤ バーチャンコトモ ツレテクット  
(B んー) ごちそうになって いや ばあちゃんも 連れてくると

ヨカッタッテ デンワ モラッタンダガラ。{B 笑} タイシタ ゴチソーデ  
良かったって 電話 もらったんだから。{B 笑} 大した ごちそうで

オハナシ キカセテクイヨッテアッテ シカイケンノ シトニナ。 ソーシテ  
お話[を] 聞かせてくださいって、市議員の 人にな。 そうして

タイグー シラッチャッタンダト。 チャントー ウチ ウジ  
待遇 してもらったんだと。 ちゃんと ×× 家[を]

ミツケテクイツチェ ソレカラ トーカ° ネサ ハダライデー デ アノ  
見つけてくれて それから 東金に 働いて [それ]で あの

コレー C1 デナ。  
これ C1 でな。

011B : C 1 ナー。 ハ アノ カイシャカ° アッタッテンノワ サイワイヨ、  
C 1 なー。 はあ あの 会社が あったていうのは 幸いよ、

ナンチッタッテー。  
なんて言ったって。

012A : ンダー。 ヨカッタンダー。  
そうだ。 よかったんだー。

013C : ジャ シゴトモ スムトコロモ ゼンブ ヨーイシテ (A ソー) ドーゾッテ  
じゃ 仕事も 住むところも 全部 用意して (A そう) どうぞって

ムカエテクレタンデスネー。  
迎えてくれたんですねー。

014B : \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

015A : ンー ソーシテ コンード アト フツカデ オライノ バッチン [7] カ°  
んー そうして 今度 あと 二日で 俺の家の 末っ子が

ホレ コーコーサ アカ° ルワケヨー。 ココサ イットキワ ハー アノ  
それ 高校に 上がるわけよー。 ここに いる時は もう あの

H 1 コーコー [8] ウゲタケンドモ、 ドーシンダ ドーシダ (B ン)  
H 1 高校[を] 受けたけれども、 どうするんだ どうするんだ (B ん)

ガッコ ドーシンダッテ、 ホ ホントニ マイニジ クドイテタノ [9]。  
学校 どうするんだって、 × ほんとに 毎日 くどくど 言っていたの。

ハー。(B ンー ンー) コーコーサ イガ ナー。(B ンー カラ)  
はー。(B んー んー) 高校に ×× なー。(B んー から)

ソレカ° トー トーカ° ネサ イッテ フツカメデ ホノ シカイギンノ  
それが ×× 東金に 行って 2日目で その 市会議員の

シトカ° ー ジャ ココノ ガッコサ アカ° レッテッテ コンド  
人が じゃ ここの 学校に 上がれって 言って 今度

H 2 コーコー [10]  
H 2 高校。

016B : H 1 コーコー アー。  
H 1 高校 あー。



017A : シー ソー。 ショーカイシテモラッタノー。 ホシタラ ソコカ° コンド  
んー そう。 紹介してもらったのー。 そしたら そこが 今度

テニス サカンナ ガッコデ ユーメーダッタダスケ H2 コーコーワ。  
テニス[が] 盛んな 学校で 有名だったんだので H2 高校は。

テニスノッテ ダレカ ホカカラモ シンドーイン キテンダトカッテ。  
テニスのって 誰か 他からも 指導員[が] 来てるのだとかって。

センシノ アレデ デルミテータナー。(B ン ン) シドー ヨカッタケンドモ  
選手の あれで 出るみたいだなー。(B ん ん) 指導[が] よかったけれども

ソコデー オライ ムス マコ° ワー イジダガラ ホレー トーホクカラ  
そこで 俺の家の ×× 孫は 意地だから それ 東北から

キテー (B ンー) マケテランネッテ、 (B ンー) ミンナニ ミラレツカラ  
来て (B んー) 負けてられないって、(B んー) みんなに 見られるから

イチバン サキ ガッコサ イッテ、 アー コノ カ キョーシツデナ  
一番 先[に] 学校に 行って、 あー この × 教室でな

ミンナゴト ウゲイレル [11] ヤグダト ホレー。(B ン) ソーシテ  
みんなを 迎え入れる 役だと そら。(B ん) そうして

ガンバッタッテ。 ホースト ミンナヨリ アトガラ オハヨゴザイマスナンテ  
頑張ったって。 そうすると みんなより 後から おはようございますなんて

イグチット カオ ミラレツペ。 サキサ イッテ  
行くというと 顔[を] 見られるだろう。 先に 行って

オハヨゴザイマスッテ トー アゲテ ミンナゴト ウケイレテ。  
おはようございますって 戸を 開けて みんなを 迎え入れて。

(B イーダヨ。 ン) ヤッパシ トーホグノ シトワ キモチカ°  
(B いいんだよ。 ん) やっぱし 東北の 人は 気持ちが

チカ° ウナッテ (C ンーン) (B ン ン) ソントキ センセニ ヤッチャッテ。  
違うなって (C んーん) (B ん ん) その時 先生に 言われたって。

018B : ン ン。 ホレワ イーコトダナ。  
ん ん。 それは いいことだな。

## 注

[1] (会話の冒頭)

下線部に、Bの発話「イナカッタライーケド」が重なっている。

[2] トーカ°ネ

地名。千葉県東金市。話し手Aの娘がいるところ。

[3] カマカ°ヤ

地名。千葉県鎌ケ谷市。

[4] ナス

子どもを産むこと。

[5] C 1

会社名。話し手Aの息子の勤務先の会社。

[6] デグチ

地名。福島県双葉郡浪江町藤橋出口。ここにC 1がある。

[7] バッチン

末っ子。バッチとも。

[8] H 1 コーコー

福島県双葉郡内にある福島県立の高校。H 1は高校名。

[9] クドイテタノ

「クドク」は、不満をくどくど言うことか。『方言辞典—大津あたりの言葉と民俗—』(北茨城民俗学会 2003)には、「クドグ ②(動詞)口説く。だらだらと不平不満を述べる。言い訳をする。」とある。浪江でも同じような意味で使われるものと思われる。なお、『福島県方言辞典』『相馬方言考』には「クドク・クドグ」はない。

[10] H 2 コーコー

千葉県立の高校。H 2は高校名。

[11] ウゲイレル

受け入れる。迎え入れる、の意味で使っている。

【１】 避難の話

収録時間 19分11秒

話し手

A 男 1936 (昭和11)年 (収録時77歳) 農業  
B 女 1938 (昭和13)年 (収録時75歳) 農業  
C 女 1957 (昭和32)年 (収録時56歳) (調査員)

001A : ホンジワナンテ ユッテルウチ トーデン バクハツシタダナー アレワ  
それではなんて 言っているうち[に] 東電 爆発したのだなー あれは

アノコロ。 アノメーニ シタダカ ホーシテモンジャー コーサ  
あの頃。 あの前に [爆発]したのだから ここに

イランネーナ ンジャー オラモ イグッペ ナンテー  
いられないな それじゃー 俺も 行こう なんてー

カーマダホーメン [1] ムカッター ヒャクジューヨンゴーセン [2] ダッド  
川俣方面[に] 向かってー 114号線 ざっと

ノボッテイッタノヨ。 ホ ツシマ [3] サ イッタラ ハー  
上って行ったのよ。 津島に 行ったら もう

ジドーシャ イコ° カネード アー。  
自動車 動かないんだ あー。

002C : ア ジュータイデ。  
あ 渋滞で。

003A : ジュータイデ。 ホンデワ ショーネートモッター ヤマシトツ コセバエ [4]  
渋滞で。 それでは しょうがないと思って 山ひとつ 越せば

オラノ バッパノ ジッカノホーダガラー ドーセ アンブラ [5] モ  
俺の お祖母さんの 実家の方だからー どうせ ガソリンも

ネーガラ ハー ムコーサ イッコモ サガ ノボッテ アト クンダレバ  
ないから もう 向こうに 坂 上って あと 下れば

ハー オラノ バッパノ ジッカノホーダガラ ソゴサ イゲバ  
もう 俺の お祖母さんの 実家の方だから そこに 行けば

ナントカナッペト オモッテ イッタラ、 ダッテ ソコサ イッテー デワ  
何とかなるだろうと 思って 行ったら、 だって そこに 行って では

キョーワ トマッペヤー ナンテ イッテー ホーシテ ソイツア  
今日は 泊まろうよー なんて 言ってー そうして そいつは

カズロツテ [6] ユートコダ (C ハイ) ンー。 ホーシテ コンドア  
葛尾って いうところだ (C はい) ンー。 そうして 今度は

{舌打} ソコデ アイ ンート ニサンチカン ヤスンデー ヨルノ ミシ  
{舌打} そこで ×× んーと 2・3時間 休んでー 夜の 飯

ゴチソーンナツテ (C ンー) ホイデアー サケ ダスカ ナンテ  
ご馳走になって (C んー) それじゃあ 酒 出すか なんて

ヤッチャレチャケドー ヤー キョーワ ナンショタクバ ワカンネカラサー  
言われたけれどー いや 今日は どうなるか わかんないからさー

イラネーナンツッテー イーッタラバー (C エー) コンドー カズロノ  
いらなんて言ってー 言ったらばー (C えー) 今度 葛尾の

ヤクバノホーガラ コゴモ アンブネーガラ {C 相槌} ドッコサ  
役場の方から ここも 危ないから {C 相槌} どこかに

ニケ° ロツテ。(C エー) ホンジ アノー ミヤコジ [7] サ イッタノ。  
逃げろって。(C えー) それで あのー 都路に 行ったの。

ミヤコジサ イッテガラ コンドワ ソッカラ ンート  
都路に 行ってから 今度は そこから んーと

アツマキュージョー [8] サ イッテー ソーデ  
あづま球場に 行ってー それで

004C : タイクカンジャナクテ キュージョー?  
体育館じゃなくて 球場?

005A : ンー アズマキュージョー。 サ イッテ アズマキュージョーサ  
んー あづま球場。 [あづま球場]に 行って あづま球場に

ミッカグレー イデガラ コンド アイズ [9] サ イッタダナー。  
3日ぐらい いてから 今度 会津に 行ったのだなー。

006C : アイズワ ズイブン トーインジャナイデスカー？  
会津は 随分 遠いんじゃないですかー？

007A : アイズ トーイガッター。(C エー) ヨル ズット一 (C エー) アー  
会津[は] 遠かった一。(C えー) 夜 ずっと二 (C えー) あー

ホントキ ダッテ アンブラ イチ アノ カ カズロサ アンブラ  
その時 だって ガソリン ×× あの × 葛尾に ガソリン

モラッテッチ ソッカラ カツローカラデネーナー ソイツワ。ミヤコジデモ  
もらって行って そこから 葛尾からではないな一 そいつは。都路でも

ヤッパリ ナランデ、 ヤット ゲージ ハンブングレーンナッタガラー  
やっぱり 並んで、 やっと 燃料計 半分ぐらいになったから一

~~~~~ ミンナワ アンブラ マンタンダッテ ユーカラ (C エー) オ  
~~~~~ みんなは ガソリン 満タンだって 言うから (C えー) ×

オレゴト ホンジラ マンナガニシテー ズーット イッテー  
俺は それでは [燃料計]真ん中にして ズーっと 行って一

ホーシテ アー ア アイズノーオ バンゲ [10] カ。(C エー) バイゲノ  
そうして あー × 会津の 坂下か。(C えー) ××××

バンゲノ ヤッパ ショーガッコーサ  
坂下の やっぱ 小学校に

008B : カワ カワニシショー [11]。  
×× 川西小[学校]。

009C : カワニシショー。  
川西小。

010B : ショーガッコー。  
小学校。

011A : シー カワニシショーガッコー。 ハイコーサ ソコー サ イ ソントキ  
んー 川西小学校。 廃校に そこー に × その時

012C : ソノトキ モー ハイコーニ ナッテタンデスカ？  
その時 もう 廃校に なってたんですか？

013A : ナッテタ。 ンー。  
なってた。 んー。

014C : デ ソレガ ヒナンジョニ カイホーサレテタンデスネ。  
で それが 避難所に 開放されてたんですね。

015A : シー シナンジョニ カイホーサレテテ ソシター ホントキア ハー  
んー 避難所に 開放されてて そしてー その時は もう

フタバ [12] ノ シトデ ネクテ  
双葉の 人で なくて

016B : ソッカラ ニシューカンクレー イタカー?  
そこから 2週間くらい いたかー?

017A : イタナー。 カズロームラノ シトート イッショニー (C エー) イン シ  
いたなー。 葛尾村の 人と 一緒にー (C えー) XX X

イタノヨ。 ソ ソコデ ニシューカングレー イター ホシター テレビ  
いたのよ。 X そこで 2週間ぐらい いてー そしてー テレビ

ミテタラバー (C エー) コノー フタバノシトカ° カーマダガラー  
見てたらばー (C えー) このー 双葉の人が 川俣からー

コッチノ ス スーパーアリーナ [13] サ イドースルナンテユー  
こっちの X [埼玉]スーパーアリーナに 移動するなんていう

(C エーエー ソーデスネー) ユーノ テレビデ ウツッタノヨー。  
(C えーえー そうですねー) いうの テレビで 映ったのよー。

ハーテ ホンジワ オラモ アッチャ スーパーアリーナサ イグッベート  
はて それじゃあ 俺も あっちに スーパーアリーナに 行こうと

オモッテー {舌打} アブラワー ネガッタケッチョモ (C んー) チョード  
思ってー {舌打} ガソリンは なかったけれども (C んー) ちょうど

ソゴサ トマッテタ シトニー ニーガタワ アブラ イッパイ  
そこに 泊まった 人にー 新潟は ガソリン いっぱい

アルッテワケダ。 ンジワー ナントカシテ コッチワ アノー  
あるっていうわけだ。 それでは 何とかして こっちは あのー

ハコンデモラニカナー ナンツッテー。 デ ハーンジラ  
運んでもらえないかなー なんて言って。 で それでは

ハコンジャルナンテ ヤッチェー ホントキーワー イコ° カナグテ  
運んでやるなんて 言われてー その時は 動かなくて

クルマワ ソ ソーゴ一 アズマソンゴ一グランドサ オキッパナシデ  
車は × 総合 あづま総合グランドに 置きっぱなしで

オイタダカラ。  
置いたのだから。

018C : コ クルマ オキッパナシデ ニーガタマデ。  
× 車 置きっぱなしで 新潟まで。

019A : イヤ チカ一。 ニーガ一 タワ ベツノ ク シトニ  
いや 違う。 新潟は 別の × 人に

モチキテモラッタンダ一 アンブラ。(C ア一) ホイデー  
持ってきてもらったんだ一 ガソリン。(C あ一) そして

アズマソーコ一グランドデー アンブラ マンタンニシテモラッテ一  
あづま総合グランドで一 ガソリン 満タンにしてもらって一

(C エ一) ソシテ一 アイズノ一 バンケ一カ? (C ハイ) ソコサ ア一  
(C え一) そして一 会津の一 坂下か? (C はい) そこに あ一

シトンチ一 コーユノ フタリデー イヤ ユギ フツテッケドヨ一。  
人の家に一 こういうの 2人で一 いや 雪 降ってるけどよ一。

ン一。  
ん一。

020C : サムカッタデスヨネ一 アノトキワ。  
寒かったですよね一 あの時は。

021A : サムカッター。 ソシテ一 ソコサ ツイデ ドコサ ネットペナーナンテ ヤ  
寒かった一。 そして一 そこに 着いて どこで 寝ような一なんて いや

ココサ ネ ネットホーガイ一 ナンテヤツチェ一ナ オ一 コッチカラ  
ここに × 寝たほうがいい なんて言われてな お一 こっちから

イッタシトタチ一 ナミエ [14]ノ シト  
行った人たち一 浪江の人

<話し手Aが中座=中略>

022C : サッキノ アイズノ バンゲノ ショーガッコーデ。  
さっきの 会津の 坂下の 小学校で。

023A : シーン。 アイズノ バンケ° ノ ショーカ° ッコーサ シバラグ  
ん んーん。 会津の 坂下の 小学校に しばらく

イタダナー。 アコ イッカゲツグレー イタッタカー? ホンナニ  
いたのだなー。 あそこ[に] 1か月ぐらい いたか? そんなに

イネーカ? シンダ ソーシテ ソノアト シンダカラー ス フタバノシトニ  
いないか? ×× そうして そのあと だからー × 双葉の人に

イドーシンノ ミダカラー。 (C エー) オレグライダッター んー  
移動するの[を] 見たからー。 (C えー) 俺ぐらいだった んー

コーソクドーロナンテ ハシッテ コト ネーガラー シー ダイタイ  
高速道路なんて 走った こと ないから んー 大体

チンズ ミデー コノヘンダナーットモッテ チタラバ ママ バンエツ [15]  
地図 見てー この辺だなーと思って 来たらば ~~~~~ 磐越[自動車道]

トーッテー ホーイデ トーホクドー [16] ハシカトモッタラ  
通ってー そして 東北[自動車]道 走るかと思ったら

マチカ° ッテー ジョーバンコーソク [17] サ ハイッチャター。 イヤ  
間違っってー 常磐高速に 入っちゃってー。 いや

トニカク トーキョーノホーサ ムカッテグンダカラ (C エー)  
とにかく 東京の方に 向かっていくんだから (C えー)

イトモッテー ホーシテ アノー ドコデ オリタダッケナー。  
いいと思っってー そして あのー どこで 降りたんだっけなー。

カシワ [18] デ オリタノカ。 カシワデ オリ  
柏で 降りたのか。 柏で ××

024C : カシワダト ダイブ トーイデスヨネー、 サイタマスーパーアリーナまで。  
柏だと 大分 遠いですよねー、 埼玉スーパーアリーナまで。

025A : シー トーインチョモー ソコデ オリデー (C エー) ホシター  
んー 遠いけれども そこで 降りてー (C えー) そしてー

ジューロクゴ オリタトコカ° ジューロクコ° ーセン [19] ダッタカラー。  
×××××× 降りたところが 16号線だったからー。

(C エー) ジューロクコ° ーセン ザート クダッテー イ キタラバー  
(C えー) 16号線 ずうっと 下ってー × 来たらばー



{舌打} トチューデ キータノヨー。 ヤ ス スーパーアリーナッテユー  
{舌打} 途中で 聞いたのよー。 いや × スーパーアリーナっていう

トコーナンテ ドノ ドコラヘンダベツツッタラ、 イーガラ コノミチ  
とこなんて ×× どこらへんだろうと言ったら、 いいから この道

マーッスグ クダッテ サカ° ッテグツツトー アノー スーパーアリーナー  
真っ直ぐ ×××× 下がっていくというと あのー スーパーアリーナ

ワカッカラーナンテ。 ホーシテ アッチサ イッタラ トチューサ イッタラ  
分かるからーなんて。 そして あっちに 行ったら 途中で 行ったら

ジューナナコ° ーセン [20] サ ブツツカッタラ ソイツオー ミギニ  
17号線に ぶつかったら それを 右に

マガッテー ソーシテ ソノナリー イッテー。 アトー ムコーサ  
曲がってー そして その[道]なり[に] 行ってー。 あとー 向こうに

アーノ ナンダ オーミヤ [21] チ チクガ ハイッタモンダラバ マ  
あのー なんだ 大宮 × 地区か 入ったならば まあ

モーイッカイ キーテミテナンテ (C エー) キーテミローナンテ  
もう1回 聞いてみてーなんて (C えー) 聞いてみろーなんて

ユワッチェ (C エー) ン。 ホシテ オーミヤチクーサ ハイッタラパー  
言われて (C えー) ン。 そして 大宮地区に 入ったらばー

ヤ ココ マッスグ ミツトー オッチナ タテモノダカラー  
やあ ここ[を] 真っ直ぐ 見ると言うとき 大きな 建物だからー

ワカッカラ イッテミ。 ホレカラ ホ イ イワッチェトーリ  
分かるから 行ってみ。 それから × × 言われたとおりに

マッスグ イッタラー オッキナ タテモノ アッタカラー  
真っ直ぐ 行ったらー 大きな 建物 あったからー

コレカナートモッテ ハイッテッタトゴノ チューシャジョーガ  
これかなーと思って 入って行ったところの 駐車が

スーパーアリーナノ チューシャジョーダッター。 (C エー) ン。 {咳払}  
スーパーアリーナの 駐車場だったー。 (C えー) ン。 {咳払}

デ クルマ ソコサ オイテー ヤグバノー ン フタバノ ヤグバノ シトニ  
で 車[を] そこに 置いてー 役場のー × 双葉の 役場の 人に

ドコサ ア アノー ネットマリシタラ イーダベッテ キータラバ、 オラ  
どこに × あのー 寝泊りしたら いいだろうって 聞いたらば、 俺

アシ ワリーガラ (C エー) ニカイダノ サンガイナンテユードーサ  
脚[が] 悪いから (C えー) 2階だの 3階だのなんていうところには

アー アガラネードナンツツタラバ ホンジワー アノー ココ マッスグ  
あー 上がらないなんて言ったらば それじゃあ あのー ここ 真っ直ぐ

ミチット、 アノー {咳払} ドッカ アイテットコ アッカラ ソ  
見るといって、 あのー {咳払} どこか 空いてるところ あるから ×

ソコサ (C エー) ハイッタッテイーッテ \_\_\_\_\_。  
そこに (C えー) 入ったっていいって \_\_\_\_\_。 ××

スーパーアリーナナカ コッカラ アガッタラモンダラ グルーット  
スーパーアリーナの中 ここから 上がったなら ぐるーっと

ローカダガラ。 (C えー) ンダカラ グーット アルッテッタラー  
廊下だから。 (C えー) だから ぐるーっと 歩いて行ったらー

トチュー チョード ココラヘンサダカ アッタカラー (C エー) ンダー  
途中 ちょうど ことから辺にだか あったからー (C えー) だから

ソ アー ココ イーナトモッテ ソコサ シークモノワー ナンダ ン  
× あー ここ[が] いいなと思って そこに 敷くものはー なんだ ン

コノヘンサ ニテル シトニ キーデ コノ ダンボールワ ドッカラ  
この辺に 寝てる 人に 聞いて この ダンボールは どこから

モッチキタダーツツタラ (C エー) オシーッカラ  
持ってきたんだって言ったら (C えー) 教えるから

コッチャーコー ナンテユワツチェ。 ソイデ オシーテモラッテー (C エー)  
こっちへ来い なんて言われて。 それで 教えてもらってー (C えー)

ソイデ ダンボール シーテ ホシテ ネール バシヨ ツグッテー ホシテ  
それで ダンボール[を] 敷いて そして 寝る 場所 作ってー そして

ソコサ スンデタンヨ。  
そこに 住んでたのよ。

026C : ジャ アア アノ スーパーアリーナの ローカニ。  
じゃ ×× あの スーパーアリーナの 廊下に。

027A : ローカダ。  
廊下だ。

028C : ローカノ アイテルトコニー。 (A ンー) アノ ダンボールパケ  
廊下の 空いてるところにー。 (A んー) あの ダンボール××

ダンボールダケダトー イタクナカッタデスカ。  
ダンボールだけだとー 痛くなかったですか。

029A : ダンボールサモ アレー モーフ シーテ (C エー) ヤ イタダッタワイ。  
ダンボールにも あれー 毛布 敷いて (C えー) いや いたのだったよ。

ダッテ ホンナ フトンダノ ホンナ ネーモノ。 イデーダノ  
だって そんな 布団だの そんな ないもの。 痛いだの

カイーダノナンテ コンナトコ シャー アー カタッテイライネー アノ  
痒いだのなんて こんなとこ ××× あー 言っていられない あの

ウワサ キーデカラワー。(C エー) ソーシテ ソコサー ナン ア  
噂 聞いてからはー。(C えー) そうして そこにー ×× ×

ナンボ イタッタカナー。  
どのくらい いたんだったかなー。

030B : ニカゲツクレー イタッペ。  
2か月くらい いただろう。

031A : イッカゲツグレー イタッタンベカナー。  
1か月ぐらい いたんだったろうかなー。

032C : イッカ イッカゲツクライデスカ。  
××× 1か月くらいですか。

033A : ンーンー。{舌打} スーパーアリーナガラ デテキテー ホノ キサイーノ  
んーんー。{舌打} スーパーアリーナから 出てきてー その 騎西の

ガッコー [22] サ (C エー) キタンダ。(C エーエー) ヤッパシ  
学校に (C えー) 来たんだ。(C えーえー) やっぱり

ホーントキ アイテルー ソコガ ソコガ ヒナジョダッテー イワッチェー。  
その時 空いてるー そこが そこが 避難所だっテー 言われてー。

034C : エー。 イマモ マダ アノ イラッシャルカタ イマスヨネー。  
えー。 今も まだ あの いらっしゃる方 いますよねー。

035A : イッカモシンネナー。  
いるかもしれないなー。

036B : ジューヨニンダカ イタッテ シンブンサ デテタナー (A ンダカー)  
14人だか いたって 新聞に 出てたなー (A そうかー)

イマ ノコッテンノ。  
今 [騎西高校に]残ってるの。

037A : シー。 コノシタチワー ヤッパシ バイショーキンノ コトデヨー (C エー)  
んー。 この人たちはー やっぱり 賠償金の ことによー (C えー)

コッチア デテキタノワ バイショーキンワ シトリー  
こっちは 出てきたのは 賠償金は ひとりー

ジューマンダケッチョモ アッチクサ ノコッテルト  
10万だけれども あっちの方に 残ってるど

ジューサンマンダカモラエルンダ。(C エー) ホイツアー ミズワ  
13万だかもらえるんだ。(C えー) そいつは 水は

タンダデ ノマレッペシ (C エー) フロモ タンダダシ クーノワ  
ただで 飲めるだろうし (C えー) 風呂も ただだし 食うのは

シエント サンビャクエングレー ダストー チガグサー アー  
300円ぐらい 出すとー 近くにー あー

ショクドー アッテ、 ソコデ クーヨーニアナッテー ユワッチェンダッケナー。  
食堂 あって、 そこで 食うようにはなんてー 言われたんだっけなー。

ダレ イッタッテ カレンノカーッテ オレ キータラ、 シー カレル、  
誰[が] 行ったって 食えるのかって 俺 聞いたら、 んー 食える、

カネ ダ サンビャクエン ダセバ ダレ イッタッテ ク クワレッカラ。  
金 × 300円 出せば 誰 行ったって × 食えるから。

ダカン ジャ ホゴサ イッテー オシルワ ゴチソーンナッカナンツッテ。  
だから じゃ そこに 行ってー お昼は ご馳走になるかなんて言って。

コッチカラ ナカ ヨーンジ アッテ イッタ トキネー。 シー。ダカリ ツ  
こっちから なんか 用事 あって 行った 時ねー。 んー。.....×

ホ ホノー キサイコーコーサワ。  
× このー 騎西高校には。

038B : ジッカゲツクレー イタノカ。  
///10か月くらい いたのか。

039A : キサイコーコーサ? (B ンー) ナンボ イタダッタカナー  
騎西高校に? (B んー) どれくらい いたんだったかなー

ワカンネケド。  
わかんないけど。

040B : ダッテー ジュ ジューニガツート ハツカニ キタダモン。  
だってー ×× 12月と 20日に [つくばに]来たのなもの。

041A : ンダー ツ  
んだー ×

042B : ナー。(A ンー) サンガズガラ ジューニガツハツカ イテー、 ホーシテ  
なー。(A んー) 3月から 12月20日[まで] いてー、 そうして

コーサ シッコシテキタベー。  
ここに 引っ越して来ただろう。

043A : ンーダ。 ユー コーサ {舌打} イツ イッカ コーナンツー ハガキ  
そうだ。 ×× ここに {舌打} いつ 何日 来いなどという はがき

アッタッタカラ ソイツ モッテー ツ ツクバ [23] ノ シヤクショサ  
あったから そいつ 持ってー × つくばの 市役所に

イッテー ホイテー カキ° モラー マエニ ナニカ ハナシ アッテ  
行って そしてー 鍵 もらう 前に 何か 話 あって

ワセタケンドモヨ。 デ ハナシ キーデ カギー モラッテ コーサ  
忘れたけどもよ。 で 話 聞いて 鍵 もらって ここに

ハイッタノ。  
入ったの。

044C : エー。 ジャー コノ ツクバノ ココニ コラレルマデワ ズット アノー  
えー。 じゃー この つくばの ここに 来られるまでは ずっと あのー

サイタマノ キサイコーコーニ。  
埼玉の 騎西高校に。

045A : ソー。  
そー。

046C : ダイブ ナガカッタ デスネー キサイコー コーモ。  
大分 長かったですねー 騎西高校も。

047A : キサイ ナゲカッタ ナー。  
騎西 長かったなー。

048C : ハント ハントシグ ライデ スカネー。  
××× 半年ぐらいですかねー。

049A : ハントシグ レーワ イタンデ ネーン カーナー (C ンー)  
半年ぐらいは いたんでないかなー (C んー)

050C : スーパー アリー ナデ ヒトツ キイテ (B \_\_\_) バンゲ ノ  
スーパー アリー ナ で 一月 いて (B \_\_\_) 坂下 の

カワニシ ショー ッガ ッコー デ ニ シュー カン デ スカ イ ッカ ゲツ。  
川西小学校で 2週間ですか 1か月。

051A : ニ シュー ニ シュー カン ダ カ イ ッカ ゲツ ダ ガ ナ。  
×××× 2週間だか 1か月だかな。

052C : ハ ー。 デ モ イ ッ シュー カン ダ ト シ テ モ ー ニ サン  
もう。 でも 1週間だとしても 2 3

053B : ジ ュ ジュ ッカ ゲツ ク レー ダ ナ イ タ ノ モ。  
×× 10か月ぐらいだな いたのも。

054A : ド コ サ ?  
どこに？

055B : キサ イ コー コ サ。  
騎西高校に。

056A : ア キサ イ コー コ サ ワ ナ ゲ カ ッタ ダ ナ。 サイ ショ ノ ウ チ ワ キサ イ コー コ サ  
あ 騎西高校には 長かったんだな。最初のうちは 騎西高校に

イ ッ タ ッ テ ー フ ロ ネ ガ ッ タ ガ ラ ー フ ロ ワ ド ッ カ サ ー バ ース デ  
行ったってー 風呂 なかったからー 風呂は どこかにー バスで

ア ン ツ レ デ ッ テ モ ラ ッ テ ー ホ シ テ ハ イ ッ テ タ。  
×× 連れてってもらってー そして 入ってた。

057C : モ ー マイ ン チ ノ コ ト ダ カ ラ (A ン ー ダ) チ カ ク ニ ヤ ッ パ リ フ ロ ガ  
も ー 毎日のことだから (A そ う だ) 近 く に や っ ぱ り 風 呂 が

ナイノモ ヨーイジャナイデスヨネー。  
ないのも 容易じゃないですよネー。

058A : ン。 ンダカラ アア アソコデワー ナン モットモ ナンニモ  
んーん。 んだから ア あそこではー ×× もっとも なんにも

シゴトワ ン ココサ イタッテ オンナジダケッチョ。(C エー)  
仕事は ン ここに いたって 同じだけれど。(C えー)

テンキーノ イーヒワ グランドゴルフ ヤッターリー (C エー)  
天気の良い日は グランドゴルフ やったりー (C えー)

ホンナシテー アスンデタワイ。 イッシュカンニ ニカイー サンカイグレー。  
そんなことして 遊んでたよ。 1週間に 2回 3回ぐらい。

アトワ (B ア) {舌打} キサイコーコサ イッタコロロ  
あとは (B ア) {舌打} 騎西高校に 行った頃は

ヌグイ トギダカラー。  
温い 時だからー。

059C : ソーデスネ。 チョード (A ンー) アッタカクナル ジキデー  
そうですね。 ちょうど (A んー) 温かくなる 時期でー

イートキデシタネー。  
良い時でしたねー。

060A : ア アサミシー クッタアドー タガ ユーガタノ ミシ クッタアドー  
× 朝飯ー 食べた後 タ 夕方の 飯 食べた後

(C ンー) サンポサ イグノダヨ。 ニッカワ ホイツダッタモンナー。  
(C んー) 散歩に 行くんだよ。 日課は そいつだったもんなー。

アソコデ ミルーナンツッタッテ ミン ミンナワー アー モラッター  
あそこで 見るなんていったって ×× みんなはー あー もらったー

カネデー パチンコヤサ イッターリ ホンナコトシテッタケドモー (C エー)  
金でー パチンコ屋に 行ったり そんなことしていたけどもー (C えー)

{舌打} ドーゴサ スムダカ ワカンネートキャ ホンナ カネー モラッタ  
{舌打} どこに 住むのだから わかんない時[に] そんな 金 もらった

ヤツ ツカッテ イランネーダントモッテタカラ オラモ ツ カネ アソコサ  
やつ 使って いられないのだと思ってたから 俺も × 金 あそこに

イッテ アスコサ イダッテ ココサ イダッテ ツ カネワ ホンナ イーシャ  
行って あそこに いたって ここに いたって × 金は そんな ××××

イーシャワ タンダカラ イートモ、 イーシャ タンダダツタッテ  
医者は ただから いいけれど、 医者 ただだって言たってー

アヅラ イッタッテ ダイタリ ンー ホンアノ カーチェチョ。 ンーン。  
ガソリン 入れたって \_\_\_\_\_ ンー そんなの //////。 うーん。

ホノ ホノグレダモンナー カネー ツカーノ。 アト クーモノ  
×× そのぐらいだもんなー 金 使うの。 あと 食うもの

クーモノダモンナ。 ヤッパシ ココサ キテカラワ ムコーデワ タンダデ  
食うものだもんな。 やっぱり ここに 来てからは 向こうでは ただで

クッ ダッタケチョ ココサ キタ キタ トーザナンテワ イヤ ナンニモ  
×× だったけど ここに 来た 来た 当時なんては いや なんにも

カーナクテ ナンニモ カーナクテナンネッテ イッカゲツ (C ソーデスネ)  
買わなくちゃ なんにも 買わなくちゃならなくて 1か月 (C そうですね)

ジュー ジューシチマン ニジューマングレ カカッタ フタリデ イッテ。  
××× 17万 20万ぐらい かかった 2人で いて。

061C : ココノ ツクバノ コノ コームインシュクシャーワ (A ンー) アノ  
ここの つくばの この 公務員宿舎は (A ンー) あの

ホントニ ナンニモナイ ヘヤダケガ テーキョーサレタンデスカ。 //////  
ほんとに なんにもない 部屋だけが 提供されたんですか。

062A : ンダナー アノー  
そうだなー あのー

063C : カーテントカ フトントカ ソーユーモーノワ スコシワ アッタンデスカ。  
カーテンとか 布団とか そういうものは 少しは あったんですか。

064A : ニエ。  
ない。

065C : ゼンゼン ナシデ?  
全然 なしで?

066A : ンー。 カーテンワ ジブンデ カッテ ジブン。(C エー)  
ンー。 カーテンは 自分で 買って 自分。(C えー)



カーネカタノワ コノ イヤコンナンテ アドカラ キタダ。  
買わなかったのは この エアコンなんて あとから 来たんだ。

067C : アッ アト コレワ アトデ シキューサレタ。  
×× あと これは あとで 支給された。

068A : ンー。 アトデ コイツト。 ンー  
んー。 あとで こいつと。 んー

069C : アト デンカセーヒンナンカワ？  
あと 電化製品なんかは？

070A : アト デンカセーシン アノー ナンテューダ マンマ ニテ クンノワ。  
あと 電化製品 あのー 何と言うのだ ご飯 煮て 食うのは。

071C : アー スイハンキ。  
あー 炊飯器。

072A : ア スイハン。 {笑} ソイツド ポットド、  
あ 炊飯。 {笑} そいつと ポットと、

073C : エー レーゾーコデスカネー。  
えー 冷蔵庫ですかねー。

074A : レーゾーコト、  
冷蔵庫と、

075C : センタッキ。  
洗濯機。

076A : センタッキト。 (C ンー) アト コンナノ オレ カッタダンベナ。  
洗濯機と。 (C んー) あと こんなの 俺 買っただろうな。

077C : アー。 マ キョーワ イマワネ ヒガ アタッテ アッタカイデスケドネー。  
あー。 ま 今日は 今はね 日が 当たって 温かいですけどねー。

078A : イマー ヤッパシナー アンブラ タケーガラ (C ソー) コイツ タクヨリ  
今ー やっぱりなー ガソリン 高いから (C そー) こいつ 焚くより

ハー コノ イヤコン カギテダホーガイー。 (C アー) ンー。  
もう この エアコン かけてた方がいい。 (C あー) んー。

079C : ココワ アトワ ソレワ タブン ガスノ。  
ここは あとは それは たぶん ガスの[ヒーター]。

080A : ンーダ コイツワ ガスダケチヨ \_\_\_\_\_  
          そうだ こいつは ガスだけど \_\_\_\_\_

081C : ガスナンデスヨネ。 (A ンー) ウチノ アパートモ オンナジデスモン  
ガスなんですよ。 (A んー) うちの アパートも 同じですもん

コレガ ツイテルンデスヨ。 (A ンー)  
これが 付いてるんですよ。 (A んー)

082A : コイツ ツカッタッデワー ホント  
          こいつ 使ったのでは ほんと

083C : コレ ツカート ウーント ガスダイガ カカルンデスヨ。  
          これ 使うと うんと ガス代が かかるんですよ。

084A : ガスダイ ンー ソー ユッテタ。  
ガス代 んー そう 言ってた。

085C : デモ ウチワ サムクッテ コーレーオ オイテナクッテ アトワ デンキシカ  
          でも うちの 寒くって これを 置いてくなくて あとは 電気しか

ナインデー (A ンー) \_\_\_\_\_ ホントニ サムイトキワ ヨルー  
ないんでー (A んー) \_\_\_\_\_ ほんとに 寒い時は 夜ー

チョットダケ カケトクンデスヨ。  
ちよっとだけ かけとくんですよ。

086A : ドレ コイツー?  
          どれ こいつー?

087C : イッカショダケ カケル。 (A ンー) ソレ イガイワ モー  
          1か所だけ かける。 (A んー) それ 以外は もう

ツカーナイコトニ シテルンデスケドネー。  
使わないことに してるんですけどねー。

088A : ナンツー オレモ ツカーネー コイツア。 コイツ ツカーネー カワリ  
          なんか 俺も 使わない こいつは。 こいつ 使わない 代わり

コノ イヤコン ツケテオク。 (C エーエー) コノ イヤコンモ かなり  
この エアコン つけておく。 (C えーえー) この エアコンも かなり

ヌクイワ。  
温いわ。

089C : アッ ア タブン アタラシーカラ アッタカイデショーネ。 ン一。  
あっ あ たぶん 新しいから 温かいでしょうね。 ん一。

090A : ン一。 ソノメー ンダカラ コイツ コネートギワ コノ (C エ一)  
ん一。 その前 だから こいつ 来ないときは この (C え一)

オンプーシーター カケテ (C エ一) ホシター コノー セキユス  
温風ヒーター かけて (C え一) そして一 この一 ××××

イチバン サギー セキューストーブサ カッタッタノヨ一。(C エ一 エ一)  
一番 先一 石油ストーブを 買ったのだよ一。(C え一 え一)

セキユストーブワ ナンダガ ホ ヌククナクテ コンナン ヘヤサナンテワ  
石油ストーブは なんだか × 温くなくて こんなの 部屋になんては

タダ アケーダケデ ナンノ アイツモ ネ一。 ン。  
ただ 赤いだけで なんの あいつも ない。 ん。

091C : ヤッパ コノ イタノマナンデー チョット サムイデスヨネ一。  
やっぱ この 板の間なんで一 ちょっと 寒いですよね一。

092A : ン一。 イタノマダッテ一 スグチカク コノグレ アガッテ一 シター  
ん一。 板の間だって すぐ近く このぐらい 上がって [床の]下[は]

コンクリダカンナー。 ン一。  
コンクリだからな一。 ん一。

093C : ダカ シタカラ コー サ サムイノガ アガッテキマスヨネ。  
だから 下から こう × 寒いのが 上がってきますよね。

094A : ン一。 ンダガラ ビョーインノー コノ ロ フフ アイツト オナジダ。  
ん一。 だから 病院の この × ×× あいつと 同じだ。

ビョーインナンテモ ヤッパシ イタバリ ダーット アッチ イタバリノ  
病院なども やっぱり 板張り だーっと 板張りの

ツギシタ [24] ワ コンクリダカンナー。(C コンクリダ) ンダカラ一 アノー  
床のすぐ下は コンクリだからな一。(C コンクリだ) だから一 あのー

ダンボー キライチットー シタカラ ヒヤヒヤ ヒヤヒヤ (C エ一)  
暖房 切られてしまうと 下から ヒヤヒヤ ヒヤヒヤ (C え一)

アガッテクンダ サムインダ。 ココモ ヤッパシ  
上がってくるんだ 寒いんだ。 こかも やっぱり

ソーユフンナンダベト オモーダ。  
そういう風なんだろうと 思うのだ。

095C : ヤー サムイト オモイマス。  
やあ 寒いと 思います。

096C : ンー。  
んー。

---

## 注

[1] カーマタホーメン

「カーマタ」は地名。福島県伊達郡川俣町。

[2] ヒャクジューヨンゴーセン

国道 114 号線。福島県福島市から同県双葉郡浪江町に至る道路。

[3] ツシマ

地名。福島県双葉郡浪江町津島。浪江町西部の地域で川俣町に隣接する。

[4] コセバエ

「バエ」の発音は、[a] と [e] の中間の音。広いエ ([ɛ])。このような発音については、以下、アエまたはエアと表記する。

[5] アンブラモ

「アンブラ」はガソリン（燃料油）のこと。また、「ア」は鼻母音のような発音。以下、このような発音あるいは渡り鼻音は「ン」と表記する。

[6] カズロツテ

「カズロ」は地名。福島県双葉郡葛尾村。正しくは「カツラオ」（葛尾村ホームページに記載の名称より）。

[7] ミヤコジ

地名。福島県田村市都路町。

[8] アツマキュージョー

「アズマキュージョー」とも。福島県営あづま球場。福島県福島市にあるあづま総合運動公園内にある施設。

[9] アイズ

地方名。福島県東部の地方。この後の会話から、具体的には福島県河沼郡会津坂下町に行った。

[10] バンゲ

地名。福島県河沼郡会津坂下町。

[11] カワニシショー

会津坂下町立川西小学校。震災当時、廃校になっていた。

[12] フタバ

地名。福島県双葉郡双葉町。話し手の出身地。

[13] スーパーアリーナ

施設名。さいたまスーパーアリーナ。埼玉県さいたま市にある多目的ホール。震災直後の 3 月 19 日から 31 日まで、双葉町の町民をはじめとする多くの人が避難所としていた。

[14] ナミエ

地名。福島県双葉郡浪江町。

[15] バンエツ

高速道路の略称。磐越自動車道。福島県いわき市のいわきジャンクションから、郡山市を通過して新潟県新潟市に至る。福島県をほぼ横断する。

[16] トーホクドー

高速道路の略称。東北自動車道。埼玉県川口市から青森県青森県に至る。福島県内では、郡山ジャンクションで磐越道と交差する。

[17] ジョーバンコーソク

高速道路の名称。常磐自動車道。埼玉県三郷市から茨城県、福島県を通過して、宮城県亘理郡亘理町に至る。

[18] カシワ

常磐自動車道の柏インターチェンジ。千葉県柏市内にある。柏 I C から国道 16 号線に接続する。

[19] ジューロクゴーセン

国道 16 号線。神奈川県横浜市を起点として、東京、埼玉、千葉を通過して横浜市に至る。首都圏を環状に結んでいる。

[20] ジューナナゴーセン

国道 17 号線。東京都日本橋と新潟県新潟市を結ぶ。埼玉県内ではさいたま市他を通る。

[21] オーミヤ

地名。埼玉県さいたま市大宮区。

[22] キサイーノ ガッコ

旧埼玉県立騎西高校。埼玉県加須市にある。双葉町からの避難者が 2013 年 12 月末頃まで居住していた。同年 12 月 27 日に閉鎖された。

[23] ツクバ

地名。茨城県つくば市。話者が現在居住している場所。

[24] ツギシタ

床のすぐ下のこと。『福島県方言辞典』（児玉卯一郎 1935）にはない語。

# 資料 方言文献目録



## 関東地方ならびに茨城方言等の文献リストについて

### 1 収録対象

- ・関東地方方言に関する「方言書目」と「方言論文」  
リストでの表示 【方言書目：関東】【方言論文（資料）：関東】
- ・茨城県に関する「方言書目」と「方言論文」  
リストでの表示 【方言書目：茨城】【方言論文（資料）：茨城】
- ・千葉県（茨城県に隣接する地域）に関する「方言論文」  
リストでの表示 【方言論文（資料）：千葉】
- ・福島県（浜通り）に関する「方言論文」  
リストでの表示 【方言論文（資料）：福島】

### 2 収録期間

- ・方言書目の収録期間  
関東地方方言 1952年～2008年まで  
茨城県方言 江戸末期～2013年まで
- ・方言論文の収録期間  
関東地方方言 1910年～2012年まで  
茨城県方言 1897年～2009年まで
- ・千葉県の文献の収録期間 1904年～2003年まで
- ・福島県の文献の収録期間 1908年～2012年まで

### 3 蔵書情報

- ・文献一覧には、国立国語研究所・茨城県内の大学・公共図書館等における方言文献の蔵書情報を示した。
- ・蔵書情報は、図書館名の略称で示してある。略称と正式名称の対応は以下のとおり。なお、図書館略称の後の「(復刻版)」「(複製)」は、当該図書館に復刻版あるいは複製が所蔵されていることを示す。なお、県内公立図書館の所在地等については、「茨城県の図書館ガイド」を参照されたい。(→[http://www.lib.pref.ibaraki.jp/home/iba\\_guide/tosyokan.htm](http://www.lib.pref.ibaraki.jp/home/iba_guide/tosyokan.htm))
- ・茨城県内公共図書館のうち下記にない図書館については、今回の調査で方言文献を確認できなかった。
- ・福島県内の文献に関しては、福島大学図書館と県立図書館の蔵書情報を示した。図書館名については、茨城県内公共図書館の記載の後に示した。

略称 : 正式名称

国研 : 国立国語研究所

茨大 : 茨城大学図書館 水戸本館

茨大(農) : 茨城大学図書館 農学部分館

茨大教育図書室 : 茨城大学教育学部図書室

筑大 : 筑波大学附属図書館

筑大(復刻版) : 筑波大学附属図書館

筑大(複製) : 筑波大学附属図書館

常磐大 : 常磐大学情報メディアセンター



茨キリ : 茨城キリスト教大学図書館  
県図 : 茨城県立図書館  
県図(復刻版) : 茨城県立図書館  
水戸中央 : 水戸市立中央図書館  
水戸見和 : 水戸市立見和図書館  
日立記念 : 日立市立記念図書館  
日立十王 : 日立市立十王図書館  
土浦 : 土浦市立図書館  
石岡 : 石岡市立中央図書館  
ゆうき : ゆうき図書館  
下妻 : 下妻市立図書館  
常総 : 常総市立図書館  
常陸太田 : 常陸太田市立図書館  
高萩 : 高萩市立図書館  
笠間 : 笠間市立笠間図書館  
取手 : 取手市立取手図書館  
つくば中央 : つくば市立中央図書館  
鹿島中央 : 鹿嶋市立中央図書館  
常陸大宮 : 常陸大宮市立図書館情報館  
神栖中央 : 神栖市立中央図書館  
神栖うずも : 神栖市立うずも図書館  
行方 : 行方市立図書館  
銚田 : 銚田市立図書館  
つくばみらい : つくばみらい市立図書館  
〈福島県内図書館〉  
福島図 : 福島県立図書館  
福島大 : 福島大学図書館

#### 参考文献

- 日本方言研究会 (2005) 『20 世紀の方言研究の軌跡』 国書刊行会  
川越めぐみ(2012) 「未来に残す被災地の方言」 『東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する予備調査研究』 (平成 23 年度文化庁委託事業報告書、東北大学方言研究センター編) pp.139-184  
国立国語研究所編 『国語年鑑』 2003-2008 年版, 大日本図書  
国立国語研究所 「日本語研究・日本語教育文献データベース」  
<http://www.ninjal.ac.jp/database/bunken/>

【方言書目：関東】

| 編著者                          | 書名                                         | 発行所               | 発行年月                        | 版型             | ページ数              | 地域              | 内容  | 蔵書情報                 |
|------------------------------|--------------------------------------------|-------------------|-----------------------------|----------------|-------------------|-----------------|-----|----------------------|
| 国立国語研究所<br>地方調査員             | 終助詞による待遇表現(関東・中部)(M)                       | 国研報告書             | 1952                        | B5             | 268               |                 | 研究書 | 国研                   |
| 東条 操                         | 方言学講座2(東部方言)                               | 東京堂               | 1961-3                      | B6             | 472               |                 | 研究書 | 国研・茨大・筑大・県<br>図・茨キリ  |
| NHK                          | 全国方言資料2 関東・甲信越編                            | 日本放送<br>出版協会      | 1967-2                      | A5             | 582               |                 | 研究書 | 国研・茨大・筑大・県<br>図・茨キリ  |
| 大橋勝男                         | 関東地方域方言事象分布地図<br>1音声篇<br>2表現法篇<br>3語彙篇     | 桜楓社<br>桜楓社<br>桜楓社 | 1974-5<br>1976-2<br>1976-10 | B4<br>B4<br>B4 | 345<br>327<br>333 | 関東甲信越、福<br>島、静岡 | 研究書 | 国研・茨大・筑大・県<br>図・茨キリ  |
| 飯豊毅一・日野<br>實純・佐藤亮一           | 講座方言学5 関東地方の方言                             | 国書刊行会             | 1984-6                      | A5             | 345               |                 | 研究書 | 国研・茨大・筑大・県<br>図      |
| 井上 史雄                        | 関東・東北方言の地理的・年齢的<br>分布(SFグロットグラム)           | 東京外国語大<br>学語学研究所  | 1985-3                      | B5             | 109               |                 | 研究書 | 国研                   |
| 大橋 勝男                        | 関東地方域の方言についての方言<br>地理学的研究1 序説<br>音声事象分布論篇  | 桜楓社               | 1989-2                      | A5             | 480               | 関東甲信越、福<br>島、静岡 | 研究書 | 国研・茨大・筑大・県<br>図・茨キリ  |
| 大橋 勝男                        | 関東地方域の方言についての方言<br>地理学的研究2<br>表現法事象分布論篇    | 桜楓社               | 1990-2                      | A5             | 517               | 関東甲信越、福<br>島、静岡 | 研究書 | 国研・茨大・筑大・県<br>図・茨キリ  |
| 大橋 勝男                        | 関東地方域の方言についての方言<br>地理学的研究3<br>語彙事象分布論篇     | 桜楓社               | 1991-2                      | A5             | 612               | 関東甲信越、福<br>島、静岡 | 研究書 | 国研・茨大・筑大・県<br>図・茨キリ  |
| 大橋 勝男                        | 関東地方域の方言についての方言<br>地理学的研究4<br>分布地真論・統括一般論篇 | 桜楓社               | 1992-2                      | A5             | 539               | 関東甲信越、福<br>島、静岡 | 研究書 | 国研・筑大・県図・茨<br>キリ     |
| 井上史雄；篠崎<br>晃一；小林隆；<br>大西拓一郎編 | 関東方言考1 関東一般・茨城県<br>栃木県<日本列島方言叢書5>          | ゆまに書房             | 1995-6                      | A5             | 488               |                 | 研究書 | 国研・筑大・県図             |
| 早野 慎吾                        | 首都圏の言語生態<br><地域語シリーズ 関東篇>                  | おうふう              | 1996-7                      | A5             | 185               |                 | 研究書 | 国研・茨大・筑大・茨<br>キリ・常磐大 |
| 佐藤 高司                        | 関東及び新潟地域における<br>新表現の社会言語学的研究               | 科研報告書             | 1997-3                      | B5             | 309               |                 | 研究書 | 国研                   |
| 佐藤 亮一                        | 東京周辺地域における<br>アクセントの古態性に<br>関する調査研究        | 科研報告書             | 1998-3                      | A4             | 64                |                 | 研究書 | 国研                   |

【方言書目：関東】

| 編著者                            | 書名                                                                             | 発行所   | 発行年月    | 版型 | ページ数 | 地域 | 内容  | 蔵書情報         |
|--------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|-------|---------|----|------|----|-----|--------------|
| 茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県教育委員会編<br>天野武監修 | 関東地方の民俗地図1<br>茨城・栃木・群馬・埼玉                                                      | 東洋書林  | 1999-9  | A5 |      |    | 研究書 | 国研・筑大・県図・茨キリ |
| 木部暢子；高橋顕志；安部清哉；熊谷康雄著<br>小林陸編著  | 方言の形成<シリーズ方言学1>                                                                | 岩波書店  | 2008-3  | A5 | 222  |    | 研究書 | 国研・筑大        |
| 井上史雄                           | 社会方言学論考 新方言の基盤<br>Papers in Social Dialectology:<br>Foundations of New Dialect | 明治書院  | 2008-5  | A5 | 421  |    | 研究書 | 国研・筑大・県図     |
| 大西拓一郎                          | 現代方言の世界<シリーズ現代日本語の世界 6>                                                        | 朝倉書店  | 2008-6  | A5 | 120  |    | 研究書 | 国研・筑大・県図     |
| 篠崎晃一著                          | 出身地(イナカ)がわかる！気づかない方言                                                           | 毎日新聞社 | 2008-8  | B6 | 175  |    | 研究書 | 国研・水戸見和      |
| 山口幸洋博士の古希をお祝いする会編              | 方言研究の前衛 山口幸洋博士古希記念論文集                                                          | 桂書房   | 2008-9  | A5 | 484  |    | 研究書 | 国研・筑大        |
| 工藤真由美；八尾裕美                     | 複数の日本語 方言からはじめる言語学<br><講談社選書メチエ 427>                                           | 講談社   | 2008-11 | B6 | 205  |    | 研究書 | 国研・筑大・県図     |
| 大橋勝男                           | 太平洋沿岸方言音声の研究 上                                                                 | おうふう  | 2008-11 | A5 | 780  |    | 研究書 | 国研           |
| 大橋勝男                           | 太平洋沿岸方言音声の研究 下                                                                 | おうふう  | 2008-12 | A5 | 835  |    | 俚言集 | 国研           |

【方言論文(資料):関東】

| 著者    | 論文名                              | 所収雑誌<br>〔単行本〕名 巻・号 | 発行年月    | ページ数 | 地域          | 内容                                                                                                                              | 蔵書情報    |
|-------|----------------------------------|--------------------|---------|------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|
| 保科 孝一 | 関東べい                             | 帝国文学               | 1910    |      | 関東地方        | 研究論文:近世近代関東方言「関東べい」の変遷。                                                                                                         | 茨大      |
| 保科 孝一 | 関東言葉について                         | 黒潮 32-1            | 1927-1  |      | 関東地方        | 研究論文:上代～近世関東方言<br>京阪地方が国の中心であった頃から江戸時代までの間に、関東方言がどのよう<br>に扱われてきたかについて述べている。                                                     | 茨大      |
| 保科 孝一 | 江戸言葉に就いて                         | 東亜の光 4-12          | 1930-1  |      |             | 研究論文:近世江戸語                                                                                                                      | 県図(復刻版) |
| 東条 操  | 刊行方言書目解題(四)<br>一関東地方之部一          | 方言 2-7             | 1932-7  | 8    |             |                                                                                                                                 | 県図(復刻版) |
| 湯沢幸吉郎 | 近松物に見えたる東国方言に就いて                 | 方言 2-12            | 1932-12 | 20   |             | 研究論文:近代東国方言                                                                                                                     | 県図(復刻版) |
| 豊田八千代 | 万葉集に現れたる東国方言                     | 国学院雑誌 39-1         | 1933-1  |      |             | 研究論文:上代東国方言                                                                                                                     | 筑大      |
| 東条 操  | 関東の方言調査                          | 方言 3-1             | 1933-1  | 3    |             | 研究論文                                                                                                                            | 県図(復刻版) |
| 豊田八十代 | 関東語と東歌                           | 国語教育 18-11         | 1933-11 | 6    | 関東地方        | 研究論文:上代東国方言<br>文法。音声。<br>万葉集巻十四の東歌と巻二十の防人歌<br>を例に挙げ、特徴のある文法音声それ<br>それに当てはまるものを紹介している。                                           | 茨大      |
| 山田正紀  | 三馬と方言                            | 方言 3-12            | 1933-12 | 16   |             | 研究論文:近世東国方言                                                                                                                     | 県図(復刻版) |
| 一寸木幹愛 | アツマ言葉の音韻転化                       | 国語と民俗思想            | 1935-2  |      |             | 研究論文:音韻                                                                                                                         |         |
| 岸田 定雄 | 室町初期に於ける国語史の一考察<br>一京都語と阪東語との対立一 | 方言 5-3             | 1935-3  | 5    |             | 研究論文:中世東国方言                                                                                                                     | 県図(復刻版) |
| 東条 操  | 関東地方の方言分布                        | 国語教育 20-11         | 1935-11 | 3    | 関東地方        | 研究論文<br>関東地方の方言その性質の違いによつ<br>て、東京市および近郊、伊豆七島の島嶼<br>部、東京市及び伊豆七島を除いた関東<br>地方の3つに分けることができることを述<br>べたうえで、関東方言の分布状況をさら<br>に細かく述べている。 | 茨大      |
| 東条 操  | 関東方言の二三の音韻現象                     | 音声学協会会報 42         | 1936-6  | 2    | 関東地方        | 研究論文:音韻                                                                                                                         | 筑大      |
| 中村 通夫 | 江戸時代初期東国語の一資料<br>一雑兵物語の成立について一   | 方言 6-9             | 1936-9  |      |             | 研究論文:近世東国方言                                                                                                                     | 県図(復刻版) |
| 東条 操  | 霜柱と氷柱(関東の方言より)                   | 文字と言語 10           | 1936-11 |      |             | 研究論文                                                                                                                            | 国研      |
| 橋 正一  | 関東べい                             | コトバ                | 1937-7  |      |             | 研究論文                                                                                                                            | 筑大      |
| 中村 通夫 | 国語に於ける東西方言交渉史                    | 国語と国文学             | 1937-7  |      | 本州東部・西<br>部 | 研究論文:文法                                                                                                                         | 茨大      |

【方言論文(資料): 関東】

| 著者    | 論文名                                    | 所収雑誌<br>〔単行本〕名 巻・号  | 発行年月                          | ページ数 | 地域          | 内容                                                     | 蔵書情報    |
|-------|----------------------------------------|---------------------|-------------------------------|------|-------------|--------------------------------------------------------|---------|
| 東条 操  | 関東地方の方言分布                              | 垣内教授還暦記念論文集「日本文学論攷」 | 1938-1                        |      |             | 研究論文                                                   | 筑大      |
| 東条 操  | 関東の唾の方言                                | 音声学協会会報 50          | 1938-1                        | 1    |             | 研究論文                                                   | 筑大      |
| 東条 操  | 関東方言の区画                                | 諸学振興委員会報告書          | 1938-6                        |      |             | 研究論文                                                   |         |
| 東条 操  | 関東に於ける蠅螂の土語                            | 国語と国文学 15-12        | 1938-12                       |      |             | 研究論文                                                   | 筑大      |
| 黒田 鈺一 | 東西方言の分界線に就いて                           | 国語教育                | 1939-4                        |      | 愛知県         | 研究論文: 方言区画                                             | 筑大      |
| 橋 正一  | 坂東サ                                    | 国語研究 8-5            | 1940-5                        |      |             | 研究論文                                                   | 筑大      |
| 岩淵悦太郎 | 醒睡笑と女房詞・東国方言                           | 日本語2-3              | 1942-3                        |      |             | 研究論文: 近世東国方言                                           | 筑大(復刻版) |
| 金田一春彦 | 関東地方に於けるアクセントの音韻分布                     | 〔日本語のアクセント〕         | 1942-4                        | 119  |             | 研究論文: 音韻(アクセント)                                        | 国研      |
| 金田一春彦 | 関東平野に於ける音韻分布                           | 方言研究8               | 1943-11                       | 46   |             | 研究論文                                                   | 国研      |
| 福田 良輔 | 奈良朝時代東国方言の成立について(上)(中)(下)              | 文学研究37・38・40        | 1948-12<br>1949-12<br>1950-11 | 84   |             | 研究論文: 上代東国方言                                           | 県図      |
| 亀井 孝  | 文学としての東歌、その言語的背景                       | 文学18-9              | 1950-9                        | 14   |             | 研究論文: 上代東国方言                                           | 県図      |
| 福田 良輔 | 奈良朝時代東国方言成立に関する諸問題一金田一博士・亀井孝氏の批判に答えつつ一 | 文学研究42              | 1951-11                       | 22   | 畿内以東～北海道    | 研究論文: 上代東国方言(音韻)                                       | 茨大      |
| 前田 勇  | 指定助動詞「や」に就て                            | 近畿方言12              | 1952-5                        | 6    |             | 研究論文                                                   | 筑大      |
| 村上 保夫 | 奈良時代東国方言の形容詞語尾について一連体形語尾の表現を中心として一     | 日本文学論究10            | 1952-7                        | 9    |             | 研究論文: 上代東国方言(文法)                                       | 国研      |
| 中沢 政雄 | 関東(方言の実態)                              | 解釈と鑑賞217            | 1954-6                        | 3    |             | 研究論文                                                   | 茨大      |
| 福田 良輔 | 奈良時代東国方言とその基層語                         | 国語国文11              | 1955-2                        | 13   |             | 研究論文: 上代東国方言                                           | 茨大      |
| 金田 弘  | 東国語脈で書かれた抄物二三一江戶初期東国方言研究資料一            | 国語学20               | 1955-3                        | 10   | 三河以東        | 研究論文: 近世東国方言                                           | 茨大      |
| 都竹通年雄 | 日本語の方言 東日本の巻                           | 〔講座日本語〕3            | 1955-11                       | 11   | 北海道～長野県・静岡県 | 研究論文                                                   | 茨大      |
| 福田 良輔 | 奈良時代東国方言の周辺一言語基層・八丈島方言・補説一             | 文学研究53              | 1955-12                       | 5    | 全国          | 研究論文: 上代東国方言(音声・音韻)<br>音声。<br>八丈島の言語と奈良時代東国方言との関係について。 | 茨大      |
| 中沢 政雄 | 方言の旅 関東地方                              | NHK国語講座 2-2         | 1956-3                        | 1    |             | 随想                                                     | 国研      |
| 金田一春彦 | 方言の旅 関東・中部方言の性格                        | NHK国語講座 3-2         | 1957-3                        | 2    |             | 随想                                                     | 国研      |
| 福田 良輔 | 東歌の語法                                  | 〔万葉集大成〕6            | 1957-5                        | 28   |             | 研究論文: 上代東国方言(文法)                                       | 茨大      |

【方言論文(資料): 関東】

| 著者                      | 論文名                                | 所収雑誌<br>〔単行本〕名 巻・号             | 発行年月    | ページ数 | 地域                               | 内容                                                                                        | 蔵書情報 |
|-------------------------|------------------------------------|--------------------------------|---------|------|----------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 福田 良輔                   | 奈良時代東国方言の音韻状態<br>(その一)             | 文学研究56                         | 1957-7  | 11   | 関東地方                             | 研究論文: 上代東国方言(音韻)<br>音声。                                                                   | 茨大   |
| 金田一春彦・<br>中沢政雄・<br>芳賀 毅 | ことばの行違いと方言 関東地方                    | [NHK国語講座方言と<br>文化]             | 1957-10 | 6    |                                  | 研究論文                                                                                      | 県図   |
| 中沢 政雄                   | 日本の方言 関東地方                         | [NHK国語講座方言と<br>文化]             | 1957-10 | 7    |                                  | 研究論文                                                                                      | 県図   |
| 山田 修                    | 共通語教育のあり方 関東甲信越地方                  | [NHK国語講座方言と<br>文化]             | 1957-10 | 7    |                                  | 研究論文                                                                                      | 県図   |
| 上村 幸雄                   | 方言の手帖-関東甲信一                        | 放送文化13-1                       | 1958-1  | 2    |                                  | 雑文集                                                                                       | 筑大   |
| 中村 通夫                   | 近世東国語の資料                           | 国語と国文学427                      | 1959-10 | 9    |                                  | 研究論文: 近世東国方言                                                                              | 県図   |
| 金田 弘                    | 江戸語と関東方言                           | 国語と国文学427                      | 1959-10 | 12   |                                  | 研究論文: 近世東国方言                                                                              | 県図   |
| 柴田 武                    | 方言の旅 東海道の巻                         | [NHK国語講座 方言<br>の旅]             | 1960-9  | 42   |                                  |                                                                                           |      |
| 平山 輝男                   | 東部方言概説                             | [方言学講座]2                       | 1961-3  | 29   | 東日本(島嶼<br>を含む)                   | 研究論文: 概説                                                                                  | 茨大   |
| 近藤 国一                   | 学校における方言と共通語教育 東北・<br>関東           | [方言学講座]2                       | 1961-3  | 17   | 秋田県                              | 研究論文: 言語教育(共通語)<br>秋田県における共通語指導(明治~戦<br>前・戦後のあらましを述べている。                                  | 茨大   |
| 柴田 武                    | 東部方言の語彙 関東・東海・東山                   | [方言学講座]2                       | 1961-3  | 35   | 全国                               | 研究論文: 語彙<br>19の語を例に挙げ、八丈方言と西部・九<br>州、東部方言の語彙を比較している。                                      | 茨大   |
| 鈴木 博                    | ロドリゲス日本大文典の関東方言の条に<br>関して          | 国語学45                          | 1961-6  | 10   | 東日本                              | 研究論文: 近世東国方言(文法)                                                                          | 茨大   |
| 岡田 春潮                   | 日本語の東部方言の発音について                    | 言語生活 119                       | 1961-8  | 4    | 関東地方                             | 研究論文: 音声<br>標準語は学制が確立された明治五年頃<br>より始まったが、発音についてまで共通<br>化することはできていない。関東人の発<br>音と関西人の発音を比較。 | 茨大   |
| 野元 菊雄                   | 概説 東日本の方言                          | [方言学概説]<br>秋田大学学芸学部研<br>究紀要 13 | 1962-11 | 20   | 東日本                              | 研究論文: 概説、方言区画                                                                             | 茨大   |
| 北条 忠雄                   | 上代東国語における特殊語法の成立                   |                                | 1963-3  | 25   |                                  | 研究論文: 上代東国方言(文法)                                                                          | 茨大   |
| 飯豊 毅一                   | 南奥方言と関東方言との境界について<br>- 福島県を中心として - | [日本の方言区画]                      | 1964-11 | 29   | 宮城、山形、<br>福島、新潟、<br>茨城、栃木、<br>群馬 | 研究論文: 方言区画<br>方言を分ける際の区画方法を述べ、音<br>声・音韻、文法、語彙の3つの面からその<br>分布を考察。                          | 茨大   |

【方言論文(資料): 関東】

| 著者                  | 論文名                                                                      | 所収雑誌<br>〔単行本〕名 巻・号   | 発行年月              | ページ数 | 地域    | 内容                                                                                                                                                                                                                                                                      | 蔵書情報                 |
|---------------------|--------------------------------------------------------------------------|----------------------|-------------------|------|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|
| 大橋 勝男               | 関東地方北東部方言の文アケセント傾向                                                       | 方言研究年報9              | 1966-10           | 12   |       | 研究論文:アケセント                                                                                                                                                                                                                                                              | 筑大                   |
| 秋永 一枝               | 利根川下流域のアケセント                                                             | 人類科学20               | 1968-3            | 11   |       | 研究論文:アケセント                                                                                                                                                                                                                                                              | 常磐大                  |
| 飯豊 毅一               | 利根川流域の言語分布<br>—文法について—                                                   | 人類科学20               | 1968-3            | 12   | 利根川流域 | 研究論文:文法                                                                                                                                                                                                                                                                 | 常磐大                  |
| 大橋 勝男               | 関東東半地域方言の地理的内質                                                           | 国文学攷46               | 1968-4            | 18   | 関東地方  | 研究論文                                                                                                                                                                                                                                                                    | 茨大                   |
| 大橋 勝男               | 関東地方における「暑いねー」の「ねー」<br>に相当する方言事象の分布およびその解                                | 方言の研究創               | 1969-3            | 6    | 関東地方  | 研究論文:文法                                                                                                                                                                                                                                                                 | 国研                   |
| 徳川 宗賢               | 利根川流域における単語の分布                                                           | 人類科学21               | 1969-3            | 11   | 利根川流域 | 研究論文                                                                                                                                                                                                                                                                    | 常磐大                  |
| 大橋 勝男               | 関東地方域における「どうぞおあがりくだ<br>さい」の言いかたについて<br>—とくに「なさる」系「しゃる」系方言事<br>象の分布に注目して— | 方言の研究2-1             | 1970-3            | 12   | 関東地方  | 研究論文:文法                                                                                                                                                                                                                                                                 | 国研                   |
| 加藤 正信<br>井上 史雄      | 利根川流域の音韻                                                                 | 人類科学22               | 1970-3            | 30   | 利根川流域 | 研究論文:音韻                                                                                                                                                                                                                                                                 | 常磐大                  |
| 大橋 勝男               | 関東地方域の方言についての方言地理<br>学的研究 (1)~(7)                                        | 新潟大教育学部紀要<br>11-1~17 | 1970-3<br>~1976-3 | 91   | 関東地方  | 研究論文:音声、表現法                                                                                                                                                                                                                                                             | 茨大教育図書室<br>(11,12のみ) |
| 大橋 勝男               | 北関東方言小辞典                                                                 | 〔ワイドカラー日本〕4          | 1971-1            | 2    | 北関東   | 方言辞典<br>研究論文                                                                                                                                                                                                                                                            | つくば中央<br>茨大          |
| 大橋 勝男               | 関東地方域の「かまきり」の方言事象にみ<br>られる造語(-命名)法                                       | 国文学攷55               | 1971-2            | 11   | 関東地方  | 人は生活の展開にともない、新たに必要<br>となった語を創生する一方で不要になっ<br>た語を衰滅させてきた。<br>語創生のメカニズムを説明するため、具<br>象的なものに対して何らかの命名をする<br>際にどのように行われるかを討究するべ<br>く「かまきり」が各地でどのように呼ばれ<br>ているかを調査した。<br>結果、命名に際しては、対象のもつ特性<br>のすべてを盛り込む必要はないこと、特<br>性のうちのわずかなものでも当てはまれ<br>ば十分であるということを導いている。<br>研究論文:音声、アケセント | 茨大                   |
| 秋永 一枝・佐藤<br>亮一・金井英雄 | 利根川上・中流域のアケセント                                                           | 〔利根川—自然・文<br>化・社会—〕  | 1971-3            | 12   | 利根川流域 |                                                                                                                                                                                                                                                                         | 茨大                   |
| 飯豊 毅一<br>大橋 勝男      | 利根川流域方言の文法                                                               | 〔利根川—自然・文<br>化・社会—〕  | 1971-3            | 36   | 利根川流域 | 研究論文:文法                                                                                                                                                                                                                                                                 | 茨大                   |



【方言論文(資料):関東】

| 著者                     | 論文名                                       | 所収雑誌<br>〔単行本〕名 巻・号 | 発行年月    | ページ数 | 地域           | 内容                                                                                                                                                   | 蔵書情報  |
|------------------------|-------------------------------------------|--------------------|---------|------|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 井上 史雄・加藤 正信・高田 誠・徳川 宗賢 | 利根川流域の語の分布                                | 〔利根川―自然・文化・社会―〕    | 1971-3  | 11   | 利根川流域        | 研究論文:語彙                                                                                                                                              | 茨大    |
| 芳賀 綏<br>野林 正路          | 利根川中流域の一農村における言語生活                        | 〔利根川―自然・文化・社会―〕    | 1971-3  | 14   | 埼玉県          | 研究論文:言語生活                                                                                                                                            | 茨大    |
| 大橋 勝男                  | 関東地方域における「かご」「嘆ぐ」「死ぬ」各語末方言音の分布状況およびその相互比較 | 方言の研究3-1           | 1971-3  | 10   | 関東地方         | 研究論文                                                                                                                                                 | 国研    |
| 大島 一郎                  | 南関東の方言                                    | 〔フイドカラ―日本〕5        | 1971-5  | 2    | 南関東          | 研究論文                                                                                                                                                 | つくば中央 |
| 青柳 精三                  | 房州・伊豆南西部の潮と風―千倉・布良・石廊崎・妻良・雲見・岩地―          | フィールドの歩み 3         | 1973-3  | 40   | 千葉、静岡        | 研究論文                                                                                                                                                 | 筑大    |
| 大橋 勝男                  | 音声面から見た関東地方域の方言分派―とくに東西対立分布相に注目して―        | 方言研究年報16           | 1973-12 | 14   | 関東地方         | 研究論文                                                                                                                                                 | 筑大    |
| 大橋 勝男                  | 関東地方域の方言の語アクセントと文アクセントとの相関について            | 新潟大国文学会誌18         | 1974-5  | 7    | 関東地方         | 研究論文:アクセント                                                                                                                                           | 筑大    |
| 竹内 好徳                  | 関東方言「べい(ペ)」について                           | 〔ことば随想〕            | 1974-8  | 8    |              | 研究論文:文法                                                                                                                                              | 県図    |
| 飯豊 毅一                  | 東北南部と関東の方言                                | 〔方言と標準語―日本語方言学概説〕  | 1975-1  | 27   | 南東北、関東地方     | 研究論文                                                                                                                                                 | 茨大    |
| 大島 一郎                  | 関東方言                                      | 〔新・日本語講座〕3         | 1975-5  | 22   | 関東地方         | 研究論文:概説<br>音声。<br>関東地方を1.北部関東方言(茨城県・栃木県)、2.西部関東方言(群馬県・大田部・埼玉県西部・神奈川県北部・山梨県郡内地区)、3.東部関東方言(千葉県・埼玉県東部地区)、4.越後方言(新潟県)、5.東京・横浜の方言に分け、音声上の特色と文法上の特色を述べている。 | 茨大    |
| 坂本真理子                  | 南関東における蠅螂・蜥蜴の語形交替の発生                      | 学習院大外国語国文学会誌19     | 1975-12 | 13   | 千葉県(山武町・成東町) | 研究論文:分佈<br>蠅螂をトカゲ、蜥蜴をカマキリと呼ぶ「語形交替」は関東を中心とする地方に広く、その他九州大分県の海岸部にわずかに存在する。この現象につき、昭和49年7月に千葉県東部の山武町と成東町で行った調査の結果を分析している。                                | 茨大    |
| 青柳 精三                  | 本州東部沿岸および伊豆諸島海域の方言潮流名                     | 日本方言研究会第22回発表原稿集   | 1976-5  | 11   |              | 研究論文                                                                                                                                                 | 国研    |



【方言論文(資料): 関東】

| 著者              | 論文名                                                   | 所収雑誌<br>〔単行本〕名 巻・号                  | 発行年月    | ページ数 | 地域             | 内容                                                                           | 蔵書情報 |
|-----------------|-------------------------------------------------------|-------------------------------------|---------|------|----------------|------------------------------------------------------------------------------|------|
| 大橋 勝男           | 関東地方域の方言についての方言地理学的研究 (8)                             | 新潟大教育学部紀要<br>人文社会18                 | 1977-3  | 12   | 関東地方           | 研究論文                                                                         | 筑大   |
| 大橋 勝男           | 関東地方域の方言についての方言地理学的研究 (9)                             | 新潟大教育学部紀要<br>人文社会19                 | 1978-3  | 9    | 関東地方           | 研究論文                                                                         | 筑大   |
| W・A・<br>グロウターズ  | 日本語地図(LAJ)と関東地方域方言事象分布地図(DAK)の比較<br>一方言地理学的方法論についての考察 | 日本方言研究会第26<br>回発表原稿集                | 1978-5  | 20   |                | 研究論文                                                                         | 国研   |
| 大橋 勝男           | 関東地方域の方言についての方言地理学的研究 (10)                            | 新潟大教育学部紀要<br>人文社会20                 | 1979-3  | 12   | 関東地方           | 研究論文                                                                         | 筑大   |
| 大橋 勝男           | 言語地図をどう読むか関東地方域の/e/の方言音事象分布図の解釈                       | 国語学119                              | 1979-12 | 13   | 関東地方           | 研究論文: 音声・音韻<br>「柄」の方言分布状況を考察し、過去の発音状況との比較をおこなっている。                           | 茨大   |
| 馬瀬 良雄           | 生きている東歌の語法                                            | 言語生活342                             | 1980-6  | 7    | 関東・東北地方        | 研究論文: 文法<br>古代東国方言の特徴は、音韻では現代方言に受け継がれているものが多いが、語法の特徴は動詞命令形口を除きわずかにしか行われていない。 | 茨大   |
| 大橋 勝男           | 関東域における〔kwa〕〔gwa〕音の分布とその解釈                            | 国語教育研究(広島大)26上                      | 1980-11 | 11   | 関東地方           | 研究論文: 音声                                                                     | 国研   |
| 佐藤 高司<br>井上 史雄  | 関東北部における「新方言」                                         | 日本方言研究会第32<br>回発表原稿集                | 1981-5  | 9    |                | 研究論文: 言語変化                                                                   | 国研   |
| 大橋 勝男           | 関東地方域方言分派論                                            | 〔方言学論叢 I 方言<br>研究の推進〕               | 1981-6  | 19   | 関東地方           | 研究論文: 言語変化                                                                   | 国研   |
| 佐藤 高司           | 関東北部における「新方言」                                         | 語学と文学(群馬大)                          | 1982-8  | 7    |                | 研究論文: 言語変化                                                                   | 国研   |
| Inoue,<br>Fumio | A note on recent changes of dialect near Tokyo        | 東京外国語<br>大学論集33                     | 1983-3  | 5    | 福島、栃木、茨城、埼玉、東京 | 研究論文(英文)<br>東京近郊の方言について。「のよう」と「みたく」、「いいだろ」と「いいべ・いいじゃん」について、年齢と場所をふまえて考察。     | 茨大   |
| 河崎 裕子・<br>井上 史雄 | 首都圏の「新方言」                                             | 〔「新方言」とく言葉の<br>乱れ〕に関する社会<br>言語学的研究〕 | 1983-3  | 26   | 首都圏            | 研究論文: 言語変化                                                                   | 国研   |
| 大橋 勝男           | 関東地方域における「先生が来なされたよ」に相当する表現法事象の分布とその解釈                | 〔現代方言学の課題<br>1〕                     | 1983-6  | 17   | 関東地方・福島        | 研究論文: 文法・敬語表現                                                                | 茨大   |

【方言論文(資料): 関東】

| 著者    | 論文名                                             | 所収雑誌<br>〔単行本〕名 巻・号                                | 発行年月    | ページ数 | 地域         | 内容                                                                                                    | 蔵書情報 |
|-------|-------------------------------------------------|---------------------------------------------------|---------|------|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 大橋 勝男 | 方言に方言人の心理を見つめて 関東域方言に見られる語形成法                   | 方言研究年報26                                          | 1984-5  | 27   | 関東地方、他     | 研究論文: 音声、文法、他                                                                                         | 茨大   |
| 大橋 勝男 | 方言研究の心理的見地 主に関東域方言の地域性に着目して                     | 方言研究年報28                                          | 1985-12 | 20   |            | 研究論文                                                                                                  | 筑大   |
| 大橋 勝男 | 方言研究の体系的推進 関東地方域の方言についての方言地理学的研究に關して            | 方言研究年報29                                          | 1987-2  | 17   | 関東地方、他     | 研究論文: 音声<br>おうふう「関東地方方言事象分布図第一巻／音声篇」参照                                                                | 茨大   |
| 井上 史雄 | 東京圏の方言と共通語 埼玉県女子高アスケート                          | 東京外国語大学論集 37                                      | 1987-3  | 24   | 埼玉         | 研究論文                                                                                                  | 茨大   |
| 田原 広史 | 北関東における共通語化の状況 地域・年齢・言語意識                       | 大阪大学日本学報7                                         | 1988-3  | 24   | 北関東、他      | 研究論文: 言語變化(共通語化)                                                                                      | 茨大   |
| 加藤 和夫 | 現代首都圏女子大生における可能表現使用の一実態                         | 和洋国文研究23                                          | 1988-3  | 20   | 首都圏        | 研究論文: 文法、言語變化<br>首都圏に居住する女子大生を対象に、可能表現(一般動詞の「られる」形と「しる」形・五段動詞における可能動詞化)の使用実態を調査した結果の考察。調査は1987年7月に実施。 | 茨大   |
| 大橋 勝男 | 方言接辞の研究－方言に方言人の心理を見つめて 関東域方言に見られる語形成法 (2. 接尾辞法) | 方言研究年報30                                          | 1988-10 | 27   | 関東地方       | 研究論文                                                                                                  | 国研   |
| 田原 広史 | トライアングラムによる場面差分分析 東京～福島方言調査により                  | 吉沢典男教授追悼論文集<br>東条操先生生誕100周年記念<br>日本方言研究の歩み<br>論文編 | 1989-12 | 15   | 関東地方、福島    | 研究論文                                                                                                  | 筑大   |
| 佐藤 亮一 | 関東地方の方言研究                                       | 56-1                                              | 1990-6  | 34   | 関東地方       | 研究論文                                                                                                  | 筑大   |
| 荒井 孝一 | 東北方言における継続相のテンス 関東地方の一部分まで                      | 国文学解釈と鑑賞 56-1                                     | 1991-1  | 10   | 東北地方、北関東   | 研究論文: 文法                                                                                              | 茨大   |
| 加藤 正信 | 東日本の音声の調査・研究について                                | 〔東日本の音声 論文編(1)〕                                   | 1991-3  | 4    |            | 研究論文                                                                                                  | 筑大   |
| 早野 慎吾 | 栃木・茨城両方言の接尾辞「メ」「コ」「ボ(一)」について                    | 名古屋方言研究会 会報8                                      | 1991-5  | 18   |            | 研究論文                                                                                                  | 国研   |
| 山口 幸洋 | 方言における男女差 東日本方言                                 | 国文学解釈と鑑賞 56-7                                     | 1991-7  | 7    | 東海地方、東京、長野 | 研究論文                                                                                                  | 茨大   |

【方言論文(資料):関東】

| 著者    | 論文名                                  | 所収雑誌<br>〔単行本〕名 巻・号 | 発行年月    | ページ数 | 地域          | 内容                                                             | 蔵書情報                 |
|-------|--------------------------------------|--------------------|---------|------|-------------|----------------------------------------------------------------|----------------------|
| 大橋 勝男 | 関東方言                                 | 日本語学11-6           | 1992-5  | 3    | 東日本         | 研究論文                                                           | 茨大                   |
| 森下 喜一 | 無ア地域における高校生の東京式ア化現象 東北・北関東方言を対象に     | 多々良麿男先生傘寿記念論文集     | 1993-3  | 19   | 東北地方、北関東    | 研究論文:アクセント                                                     | 国研                   |
| 佐藤 高司 | 北関東西部における新方言の伝播の特徴                   | 語学と文学(群馬大学)30      | 1994-3  | 16   | 北関東         | 研究論文:言語変化                                                      | 国研                   |
| 山口 幸洋 | ある一型アクセント話者の談話分析                     | 音声学会報(日本音声学会) 206  | 1994-8  | 6    |             | 研究論文:アクセント                                                     | 筑大                   |
| 小林 隆  | 関東方言における方向を表す「サ」の類の用法 海岸部の方言について     | 文化(東北大学)60-1・2     | 1996-9  | 18   | 関東地方、他      | 研究論文:文法                                                        | 茨大                   |
| 青柳 精三 | 関東地方の与格助詞ゲー                          | 日本語研究諸領域の視点 上      | 1996-9  | 9    | 関東地方        | 研究論文:文法                                                        | 筑大                   |
| 小林 隆  | 関東方言における方向を表す「サ」の類の分布と用法 内陸部の方言を中心に  | 日本語研究諸領域の視点 上      | 1996-10 | 19   | 関東地方、他      | 研究論文:文法                                                        | 筑大                   |
| 大橋 勝男 | <各地の方言生活の特色-具体例を挙げつつ> 関東 夕方のあいさつ方言生活 | 国文学解釈と教材の研究42-7    | 1997-6  | 5    | 関東地方(島嶼部含む) | 研究論文:言語生活<br>屋でもなく夜でもない微妙な一時期である夕方のあいさつの地域性を生活や環境との関わりで考察している。 | 茨大                   |
| 加藤 大鶴 | 首都圏における外来語平板アクセントと馴染み度               | 早稲田日本語研究7          | 1999-3  | 12   |             | 研究論文                                                           | 国研                   |
| 早野 慎吾 | 首都圏の新方言形チツタ                          | 名古屋・方言研究会<br>会報16  | 1999-5  | 9    |             | 研究論文:言語変化                                                      | 国研                   |
| 小野 葉子 | 江戸語の疑問詞について『仮名文章娘節用』を資料として           | 青山語文 32            | 2002-3  | 11   |             |                                                                | 茨大(人文文芸・思想コース資料室)・国研 |
| 山口 幸洋 | 八丈島方言のバイリンガルについて(2)                  | 静岡・ことばの世界 5        | 2002-3  | 10   |             |                                                                | 国研                   |
| 小松 寿雄 | 江戸東京語における女性の係助詞ハと連母音アイの融合            | 国語と国文学 79-8        | 2002-8  | 11   |             |                                                                | 茨大(本館)・筑大・国研・福島大・福泉  |
| 久保田 篤 | 江戸語における動詞連用形の一用法について                 | 国語と国文学 79-11       | 2002-11 | 14   |             |                                                                | 茨大(本館)・筑大・国研・福島大・福泉  |
| 田中 章夫 | 否定条件の先行する二重否定形の動向 江戸語資料を中心として        | 国語と国文学 79-11       | 2002-11 | 11   |             |                                                                | 茨大(本館)・筑大・国研・福島大・福泉  |
| 椎名 渉子 | 子守唄における文末詞研究 江戸子守歌の社会的・言語地理学的研究より    | 玉藻 38              | 2002-11 | 13   |             |                                                                | 国研                   |

【方言論文(資料):関東】

| 著者               | 論文名                                                        | 所収雑誌<br>〔単行本〕名 巻・号         | 発行年月    | ページ数 | 地域 | 内容 | 蔵書情報                                        |
|------------------|------------------------------------------------------------|----------------------------|---------|------|----|----|---------------------------------------------|
| 佐々木 英樹           | <かまきり>と<とかげ>の混乱と適応<br>東京湾岸言語地図から                           | 駒沢女子大学研究紀<br>要 9           | 2002-12 | 37   |    |    | 茨大(本館)・筑<br>大・常磐大・国研・福<br>島大(電子<br>ジャーナル)   |
| 湯浅 彩央            | 関東地方における当為表現 史的变化・<br>分布からの一考察                             | 論究日本文学 77                  | 2002-12 | 18   |    |    | 茨大(人文文芸芸<br>思想コース資料<br>室)・筑大・国研・<br>福島大     |
| 河内 秀樹            | 関東北東域アクセント事象についての方<br>言地理学的研究 二拍名詞にみえる当域<br>の傾向            | 新大国語 29                    | 2003-3  | 17   |    |    | 国研                                          |
| 中井 精一            | 言語地理学からみた利根川下流域 上方<br>語系語形式の残存に焦点をあてて                      | 国立歴史民俗博物館<br>研究報告 103      | 2003-3  | 15   |    |    | 茨大(本館)・筑<br>大・県図・国研・福<br>島大・行方              |
| 田中 宣広            | 東京方言付属語アクセントの記述的研究                                         | 国語学研究 42                   | 2003-3  | 14   |    |    | 茨大(人文学部)・<br>国研                             |
| 田中 ゆかり           | 首都圏方言における形容詞活用形のアク<br>セントの複雑さが意味するもの「気づき」<br>「変わりやすさ」の観点から | 語文 116                     | 2003-6  | 25   |    |    | 茨大(本館)・筑<br>大・国研・福島大                        |
| 安部 清哉            | 関東における日本語方言境界線から見た<br>河川地形名の重層とその背景                        | 国語学 214                    | 2003-7  | 16   |    |    | 茨大(本館)・人文<br>学部・筑大・茨<br>キ・国研・福島大<br>国研      |
| 今和泉 賀世子          | 東京方言の研究 墨田区方言の男女差                                          | 埼玉大学国語教育論<br>叢 7           | 2004-2  | 10   |    |    | 国研                                          |
| 西原 菜奈子           | 東京山の手方言話者のスタイル切換え                                          | 阪大社会言語学研究<br>ノート 6         | 2004-3  | 19   |    |    | 国研                                          |
| カイザー, シュテ<br>ファン | Exercises in the Yokohama Dialectと横浜<br>ダイアレクト             | 日本語の研究 1-1                 | 2005-1  | 15   |    |    | 茨大(人文学部)・<br>筑大・茨キリ・国<br>研・福島大(電子<br>ジャーナル) |
| 大橋 純一            | 関東・東北境界域方言の分布パターン                                          | いわき明星大学人文<br>学部研究紀要 18     | 2005-3  | 11   |    |    | 茨大(本館)・筑<br>大・常磐大・県図・<br>国研・福島大・福<br>島大     |
| 本多 真史            | 並行するグロットグラムと平面分布図によ<br>る言語侵入の立体的把握 北関東から福<br>島県中通り・浜通りにかけて | いわき明星大学大学<br>院人文学研究紀要<br>3 | 2005-3  | 12   |    |    | 常磐大・県図・国<br>研・福島大・福<br>島大                   |

【方言論文(資料):関東】

| 著者     | 論文名                                         | 所収雑誌<br>〔単行本〕名 巻・号      | 発行年月    | ページ数 | 地域 | 内容 | 蔵書情報                                        |
|--------|---------------------------------------------|-------------------------|---------|------|----|----|---------------------------------------------|
| 阿部 貴人  | を格のスタイル切換え 東京下町・大阪市・津軽方言の対照                 | 阪大社会言語学研究<br>ノート 7      | 2005-3  | 18   |    |    | 国研                                          |
| 市岡 香代  | 栃木県岩舟町方言における意志・推量表現形式「べ」の用法                 | 日本語研究 25                | 2005-3  | 15   |    |    | 茨大(人文学部)・<br>筑大・茨キリ大・国<br>研                 |
| 琴鍾愛    | 日本語方言における談話標識の出現傾向 東京方言、大阪方言、仙台方言の比較        | 日本語の研究 1-2              | 2005-4  | 17   |    |    | 国研                                          |
| 梁井 久江  | 北関東における「テシマウ相当形式」について                       | 都大論究 42                 | 2005-4  | 16   |    |    | 国研                                          |
| 田中 ゆかり | 世田谷区立中学校に通う中学生のアクセントとイントネーション 聞き取りアンケート調査から | 論集 1                    | 2005-9  | 24   |    |    | 国研                                          |
| 新井 小枝子 | 養蚕語彙による比喩表現 群馬県藤岡市方言における「ズー」を中心に            | 国文学 言語と文芸<br>122        | 2005-12 | 18   |    |    | 茨大(本館)・筑大・<br>国研                            |
| 竹村 和子  | 麗沢大学「八丈島言語調査」(1991)のアクセント資料とその分析(1)         | ことばと文化 3                | 2006-2  | 13   |    |    | 国研                                          |
| 新井 小枝子 | 群馬県方言における養蚕のく場所を<br>表す語彙 語彙体系と造語法について       | 国語学研究 45                | 2006-3  | 13   |    |    | 茨大(本館)・国研                                   |
| 嶺田 明美  | 首都圏出身在住の若年層女性の母音調音の実態について                   | 昭和女子大学大学院<br>日本文学紀要 17  | 2006-3  | 7    |    |    | 茨大(人文学部)・思<br>想コース資料室)・<br>筑大(オンライン)・<br>国研 |
| 高田 三枝子 | 語頭有声破裂音におけるVOTの地域差と世代差 東北から関東の分析            | 日本語の研究 2-2              | 2006-4  | 11   |    |    | 茨大(人文学部)・<br>筑大・茨キリ大・国<br>研                 |
| 田中 ゆかり | 「東京首都圏」に「方言」はあるのか                           | 国文学 解釈と教材<br>の研究 51-4   | 2006-4  | 3    |    |    | 茨大(本館)・筑大・<br>常磐大・茨キリ大・<br>国研・福島大・福<br>島大   |
| 川上 葵   | 最近の首都圏語のアクセント変化                             | 音声研究 10-2               | 2006-8  | 5    |    |    | 筑大・国研                                       |
| 田中 ゆかり | 「とびはね音調」の採否とイメージ 東京首都圏西部域高校生調査から            | 語文 126                  | 2006-12 | 13   |    |    | 茨大(本館)・筑大・<br>国研・福島大                        |
| 金田 草宏  | 民話の文法 八丈島のくー文だけの民話                          | 国文学 解釈と鑑賞<br>72-1       | 2007-1  | 6    |    |    | 県図・筑大・常磐<br>大・茨キリ大・国<br>研・福島大               |
| 斎藤 孝滋  | 首都圏在住女子大学生における場面別形容詞活用体系(1)                 | 多文化・共生コミュニ<br>ケーション論叢 2 | 2007-2  | 47   |    |    | 茨大(人文資料<br>室)・常磐大・国研・<br>福島大                |

【方言論文(資料):関東】

| 著者     | 論文名                                               | 所収雑誌<br>〔単行本〕名 巻・号 | 発行年月    | ページ数 | 地域  | 内容         | 蔵書情報                                   |
|--------|---------------------------------------------------|--------------------|---------|------|-----|------------|----------------------------------------|
| 新井 小枝子 | 群馬県藤岡市方言における「養蚕語彙」の比喩表現                           | 日本語科学 21           | 2007-4  | 21   |     |            | 茨大(人文学部、人文言語情報論、人文コミュニケーション動態論)・筑大・福島大 |
| 新井 小枝子 | 関東方言                                              | 日本語学 26-11         | 2007-9  | 2    |     |            | 茨大(人文学部)・県図・筑大・常磐大・茨キリ大・国研・福島大         |
| 榎引 祐希子 | 関東方言の「ウツチャル」の形成に関する一考察                            | 文芸研究 文芸・言語・思想 164  | 2007-9  | 12   |     |            | 茨大(本館、人文文芸・思想コース資料室)・茨キリ               |
| 久野 マリ子 | 八丈方言若年層における共通語アクセントの習得の実態                         | 音声研究 11-3          | 2007-12 | 16   |     |            | 筑大・国研                                  |
| 山田 伸子  | 日本語学習者および茨城方言話者による東京方言アクセントの習得—その類似点と相違点について—     | 音声研究 11-3          | 2007-12 | 15   |     |            | 筑大・国研                                  |
| 大西拓一郎  | 特集:資料研究の現在—一方言資料の現在                               | 日本語の研究(日本語学会)4-1   | 2008-1  | 12   |     | 研究論文       | 茨大                                     |
| 大西拓一郎  | リレー連載:言語学者の道具箱(1)—MANDARARAで描く言語地図(1)MANDARARAの導入 | 言語(大修館書店)37-1      | 2008-1  | 6    |     | 研究論文       | 茨大                                     |
| 李香蘭    | 日本語における外来語アクセント型の地域方言の差                           | 日本文化学報(日本語学会)4-4   | 2008-2  | 14   |     | 研究論文:アクセント | 国研                                     |
| 大西拓一郎  | リレー連載:言語学者の道具箱(2)—MANDARARAで描く言語地図(2)白地図を作        | 言語(大修館書店)37-2      | 2008-2  | 6    |     | 研究論文       | 茨大                                     |
| 大西拓一郎  | リレー連載:言語学者の道具箱(3)—MANDARARAで描く言語地図(3)言語地図を描こう(1)  | 言語(大修館書店)37-3      | 2008-3  | 6    |     | 研究論文       | 茨大                                     |
| 三樹陽介   | 首都圏方言の形容詞アクセントの多様性                                | 国学院大学大学院紀要 文学研究科39 | 2008-3  | 12   | 首都圏 | 研究論文:アクセント | 国研                                     |
| 木野景子   | 首都圏方言における母音の無声化とアクセント核の移動について                     | 国語研究(国学院大学研究会)71   | 2008-3  | 12   | 首都圏 | 研究論文:アクセント | 国研                                     |
| 井上博文   | 方言性向語彙の比喩語 農業地域と漁業地域との対照                          | 学大国文(大阪教育大学)51     | 2008-3  | 18   |     | 研究論文:語彙    | 茨大                                     |
| 玉懸元    | 方言終助詞の分析法を考える                                     | 中国国文学(中京大学国文学会)27  | 2008-3  | 9    |     | 研究論文       | 茨大                                     |



【方言論文(資料):関東】

| 著者                                 | 論文名                                                                              | 所収雑誌<br>〔単行本〕名 巻・号      | 発行年月    | ページ数 | 地域    | 内容         | 蔵書情報 |
|------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|---------|------|-------|------------|------|
| 大西拓一郎                              | 方言文法と分布                                                                          | 日本語文法(日本語<br>文法学会)8-1   | 2008-3  | 16   |       | 研究論文:文法    | 茨大   |
| 大西拓一郎                              | リレ-連載;言語学者の道具箱(4)――<br>MANDARAで描く言語地図(4) 言語地図を<br>描こう(2)                         | 言語(大修館書店)<br>37-4       | 2008-4  | 6    |       | 研究論文       | 茨大   |
| 藤本雅子                               | 特集:話し言葉の日本語――話し言葉の<br>音声 方言音声の音響的特徴とその生成<br>に関わる生理学的要因 東京方言と大阪<br>方言における母音無声化の比較 | 日本語学(明治書院)<br>27-5      | 2008-4  | 12   |       | 研究論文       | 茨大   |
| 大西拓一郎                              | リレ-連載;言語学者の道具箱(5)――<br>MANDARAで描く言語地図(5)レイヤを使<br>う                               | 言語(大修館書店)<br>37-5       | 2008-5  | 6    |       | 研究論文       | 茨大   |
| 大西拓一郎                              | リレ-連載;言語学者の道具箱(6)――<br>MANDARAで描く言語地図(6-最終回)分<br>布を比べる                           | 言語(大修館書店)<br>37-6       | 2008-6  | 7    |       | 研究論文       | 茨大   |
| 三樹陽介                               | 首都圏方言の形容詞アクセントの複雑さ<br>「クナイ」「クナル」の形を例に                                            | 国学院雑誌(国学院<br>大学)109-7   | 2008-7  | 15   | 首都圏   | 研究論文:アクセント | 茨大   |
| 山岸智子                               | 〈資料〉撥音の長さによる知覚の差 首都<br>圏方言話者と近畿方言話者                                              | 社会言語科学(社会<br>言語科学会)11-1 | 2008-8  | 6    | 首都圏、他 | 研究論文:音声    | 筑大   |
| Shport,Irina A.;<br>Guion,Susan G. | The Effect of Segmental Structure on F0<br>Patterns of Words in Tokyo Japanese.  | 音声研究(日本音声<br>学会)12-2    | 2008-8  | 13   | 東京    | 研究論文:音声    | 筑大   |
| 田中ゆかり                              | 「気づきにくく変わりやすい方言」首都圏<br>におけるI類動詞連用形尾高型の消失<br>調査者に応じた被調査者のモード切替と<br>音声の質的变化        | 論集(アクセント史資<br>料研究会)4    | 2008-9  | 17   | 首都圏   | 研究論文:アクセント | 筑大   |
| 土岐哲                                | 調査者に応じた被調査者のモード切替と<br>音声の質的变化                                                    | 論集(アクセント史資<br>料研究会)4    | 2008-9  | 9    |       | 研究論文       | 筑大   |
| 高田三枝子                              | 日本語語頭有声閉鎖音のVOTに関する<br>全国的分布パターン                                                  | 日本語の研究(日本<br>語学会)4-4    | 2008-10 | 14   |       | 研究論文:音声    | 茨大   |
| 沢村美幸                               | 〈葬式〉を表す方言分布の形成と社会<br>的要因                                                         | 日本語の研究(日本<br>語学会)4-4    | 2008-10 | 15   |       | 研究論文       | 茨大   |
| 日高水穂                               | 特集:〔例解〕日本語の条件表現 言語に<br>「もし」がなかったら? ―「そこに車を止<br>めればダメです」標準語と方言の意味の<br>ずれ          | 言語(大修館書店)<br>37-10      | 2008-10 | 8    |       | 研究論文       | 茨大   |
| 井上文子                               | 特集:日本語はこままでわかった――方<br>言 方言文法について                                                 | 日本語学(明治書院)<br>27-12     | 2008-10 | 12   |       | 研究論文:文法    | 茨大   |
| 土井清史                               | ワードウォッチングの旅 カメラで集めた<br>方言                                                        | ことばとくらし(新潟県<br>ことばの会)20 | 2008-10 | 4    |       | 研究論文       | 国研   |

【方言論文(資料): 関東】

| 著者            | 論文名                                                                                                                                                                             | 所収雑誌<br>〔単行本〕名 巻・号                                                          | 発行年月    | ページ数 | 地域    | 内容       | 蔵書情報                                                                    |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|---------|------|-------|----------|-------------------------------------------------------------------------|
| Ebata, Yoshio | The New Method and Findings of Geolinguistics, Using Linguistic Atlases from Every Decade with regard to the Phrase "It will be fine tomorrow." Dialectologia et Geolinguistics | Journal of the International Society for Dialectology and Geolinguistics 16 | 2008-11 | 15   |       | 研究論文     |                                                                         |
| 山岸智子          | 撥音の長さで感情的印象 首都圏方言話者と近畿方言話者                                                                                                                                                      | 音声言語(近畿音声言語研究会)6                                                            | 2008-12 | 13   | 首都圏、他 | 研究論文: 音声 | 国研                                                                      |
| 轟木靖子          | 東京語の終助詞の音調と機能の対応について 内省による考察                                                                                                                                                    | 音声言語(近畿音声言語研究会)6                                                            | 2008-12 | 24   |       | 研究論文: 音声 | 国研                                                                      |
| 田頭(谷口)未希      | PNLPの音声特徴 首都圏方言話者を例に                                                                                                                                                            | 音声言語(近畿音声言語研究会)6                                                            | 2008-12 | 14   |       | 研究論文: 音声 | 国研                                                                      |
| 山岸智子          | <研究ノート> 日本語母語話者の撥音の長さに関する規範意識 首都圏方言話者と近畿方言話者                                                                                                                                    | 音声研究(日本音声学会)12-3                                                            | 2008-12 | 11   |       | 研究論文: 音声 | 筑大                                                                      |
| 松田 勇一; 高丸 圭一  | 栃木方言「〜ヨウダ」の用法と使用実態—相手の年齢差と親疎による表現の使用差—                                                                                                                                          | 茨城大学留学生センター紀要 7                                                             | 2009-2  | 13   |       |          | 茨大(本館)・県<br>図・国研                                                        |
| 孫 在賢          | 東京方言と長野県方言アクセントの比較研究                                                                                                                                                            | 日語日文学研究 日本語学・日本語教育 学篇 68-1                                                  | 2009-2  | 24   |       |          | 国研                                                                      |
| 窪 蘭 晴夫        | 音韻規則の実在性について                                                                                                                                                                    | 語彙の意味と文法                                                                    | 2009-2  | 13   |       |          | 茨大(教育学部)・<br>筑大・国研・福島<br>国研・福島大・福<br>県図                                 |
| 本多 真史         | 関東・東北方言接触地帯における新方言普及                                                                                                                                                            | 言文 国文学・国語教育 特集号 56                                                          | 2009-3  | 11   |       |          | 茨大(人文学部)・<br>国研・福島大                                                     |
| 佐藤 奏          | 活用形・付属語のアクセント—東京方言と宮城県登米(とめ)市方言を例に—                                                                                                                                             | 日本語学論集 5                                                                    | 2009-3  | 53   |       |          | 茨大(人文学部)・<br>国研・福島大                                                     |
| 久木田 恵         | 方言談話における会話方法の地域性—談話展開方法の分析—                                                                                                                                                     | 月刊言語 特集: 対話の方言学—コミュニケーションの地域性— 38-4                                         | 2009-4  | 8    |       |          | 茨大(人文芸・<br>思想コーズ資料<br>室、教育英語教<br>育)・筑大・常磐<br>大・茨キリ大・県<br>図・国研・福島大<br>国研 |
| 孫 在賢          | 日本語と韓国語の音韻                                                                                                                                                                      | 日本学報 79                                                                     | 2009-5  | 11   |       |          | 茨大(人文芸・<br>思想コーズ資料<br>室)・国研                                             |
| 矢島 美穂         | 栃木県方言における命令・依頼表現—旧栗野町方言におけるバリエーションと体系—                                                                                                                                          | 千葉大学日本文化論叢 10                                                               | 2009-7  | 23   |       |          |                                                                         |



【方言論文(資料):関東】

| 著者              | 論文名                                      | 所収雑誌<br>〔単行本〕名 巻・号                | 発行年月    | ページ数 | 地域 | 内容 | 蔵書情報                                          |
|-----------------|------------------------------------------|-----------------------------------|---------|------|----|----|-----------------------------------------------|
| 堀田 浩司           | 三宅島坪田方言の名詞アクセント体系                        | 東京大学言語学論集<br>28                   | 2009-9  | 18   |    |    | 国研                                            |
| 吉田 雅子           | 「関東及隣接方言調査書」について—<br>紹介と分析—              | 山梨ことばの会会報<br>15                   | 2009-10 | 19   |    |    | 国研                                            |
| 孫 在賢            | 日本語と韓国語の音調システム                           | 日語日文学研究 日<br>本語学・日本語教育<br>學篇 71-1 | 2009-11 | 13   |    |    | 国研                                            |
| 松田 勇一;高<br>丸 圭一 | 栃木方言「～ヨウダ」の待遇表現—相手<br>の属性による敬語の使い分け—     | 茨城大学留学生セン<br>ター紀要 8               | 2010-2  | 20   |    |    | 茨大(本館)                                        |
| 篠木 れい子          | (講演)峠をめぐって—方言分布と生活—                      | 群馬県立女子大学国<br>文学研究 30              | 2010-3  | 12   |    |    | 常磐大<br>国研                                     |
| 亀田 裕見           | 埼玉県東部地方の方言分布と世代差(1)<br>—語彙の分布—           | 文教大学文学部紀要<br>23-2                 | 2010-3  | 59   |    |    | 筑大・国研・福島<br>大                                 |
| 井上 史雄           | 東京新方言の重力モデル                              | 明海大学外国語学部<br>論集 22                | 2010-3  | 16   |    |    | 筑大・国研                                         |
| 野島 本泰           | 神奈川県座間市の方言における、「必要」<br>を表す「ようだ」          | 地球研言語記述論集<br>2                    | 2010-3  | 13   |    |    | 筑大・国研                                         |
| 劉 佳琦            | 中国語母語話者(北京・上海出身者)によ<br>る複合動詞の東京語アクセントの習得 | 早稲田日本語教育学<br>8                    | 2010-5  | 14   |    |    | 筑大・国研・福島<br>大                                 |
| 亀田 裕見           | 埼玉県東部地方の方言分布と世代差(2)<br>—文法事象の分布—         | 文教大学文学部紀要<br>24-1                 | 2010-9  | 51   |    |    | 筑大・国研・福島<br>大                                 |
| 山本 いずみ          | 書評 田島 優著『漱石と近代日本語』<br>(翰林書房 2009)        | 名古屋大学国語国文<br>学 103                | 2010-11 | 7    |    |    | 茨大(人文芸芸<br>思想コーズ資料<br>室)・国研                   |
| ロング, ダニエル       | 小笠原諸島の日本語変種                              | 日本語学 特集・言語<br>接触の世界 29-14         | 2010-11 | 14   |    |    | 茨大(本館、人文<br>学部)・筑大・常磐<br>大・茨キリ大・県<br>図・国研・福島大 |
| 工藤 力男           | ハツ場ダム—日本語雑記・五—                           | 成城文芸 213                          | 2010-12 | 14   |    |    | 茨大(本館)・筑<br>大・常磐大・国研                          |
| 新井 小枝子          | 群馬県藤岡市方言における頭高型アクセ<br>ント—3拍名詞について—       | 国語学研究 50                          | 2011-3  | 16   |    |    | 茨大(人文学部)・<br>国研                               |
| 新井 小枝子          | 〈桑の実〉を表す語彙—造語法と方言分布                      | 国文学言語と文芸<br>127                   | 2011-3  | 17   |    |    | 筑大・国研                                         |
| 久野 マリ子          | 首都圏方言における大学生の言語生活<br>—挨拶表現と音声変化の例—       | 国学院雑誌 112-5                       | 2011-5  | 19   |    |    | 茨大(本館)・筑<br>大・国研・福島大                          |

【方言論文(資料):関東】

| 著者               | 論文名                                                               | 所収雑誌<br>〔単行本〕名 巻・号                           | 発行年月    | ページ数 | 地域 | 内容 | 蔵書情報                                                |
|------------------|-------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|---------|------|----|----|-----------------------------------------------------|
| 儀利古 幹雄           | 東京方言におけるアクセントの平板化—<br>外来語複合名詞アクセントの記述—<br>言語意識による地域の類型化と分類の試<br>み | 国立国語研究所論集<br>1                               | 2011-5  | 19   |    |    | 国研                                                  |
| 田中 ゆかり           | 日本語学習者における母音無声化—台<br>湾人日本語学習者、東京・近畿方言話者<br>を対象に—                  | 語文 140<br>音声研究 特集・アジ<br>ア東部諸言語の喉頭<br>特徴 15-2 | 2011-6  | 16   |    |    | 茨大(本館)・筑<br>大・国研・福島大<br>筑大・国研                       |
| 安田 麗子            | イメージ語からみた方言スタイルブ—<br>山形県三川町調査・首都圏大学生調査・<br>全国方言意識調査から—            | 語文 142                                       | 2012-3  | 15   |    |    | 茨大(本館)・筑<br>大・国研・福島大                                |
| 田中 ゆかり           | 方言意識の現在をとらえる—「2010年全<br>国方言意識調査」と統計分析—                            | 国語研プロジェクトレ<br>ビュー 3-1                        | 2012-7  | 12   |    |    | 国研                                                  |
| 相澤 正夫            | 「方言」の受けとめかたの移り変わり—全<br>国方言意識調査からみる年齢差・地域差<br>—                    | 日本語学 特集・平成<br>の言語変化 31-11                    | 2012-9  | 12   |    |    | 茨大(工学部・人<br>文学部)・筑大・常<br>磐大・茨キリ・県<br>図・国研・福島大<br>国研 |
| 田中 ゆかり           | 「方言」の受けとめかたの移り変わり—全<br>国方言意識調査からみる年齢差・地域差<br>—                    | 日本語学 特集・平成<br>の言語変化 31-11                    | 2012-9  | 12   |    |    | 茨大(工学部・人<br>文学部)・筑大・常<br>磐大・茨キリ・県<br>図・国研・福島大<br>国研 |
| 竹田 晃子;三<br>井 はるみ | 「全国方言文法の対比的研究」調査の概<br>要とそのデータ分析—原因・理由表現—                          | 国立国語研究所論集<br>4                               | 2012-11 | 32   |    |    | 国研                                                  |

【方言書目：茨城】

| 編著者                     | 書名                                           | 発行所            | 発行年月    | 版型  | ページ数 | 地域                                                        | 内容                                                                | 蔵書情報                |
|-------------------------|----------------------------------------------|----------------|---------|-----|------|-----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|---------------------|
| 中山 信名                   | 常陸方言(新編常陸國誌方言之部)<br>(国語学体系20)                | 厚生閣            | 江戸末     |     | 45   | 常陸國。<br>鹿島郡、那珂郡、<br>久慈郡、真壁郡、<br>水戸、土浦、新<br>治、西山公瑞龍近<br>郷他 | 俚言葉集<br>明治34年5月に印行された「新編<br>常陸國誌方言部」を底本として撰<br>刻。<br>全727語。       | 茨大                  |
| 北相馬郡教育会                 | 北相馬郡方言集<br>香取郡方言調査書                          |                | 1901    | A5  | 26   |                                                           |                                                                   |                     |
| 稲敷郡教員集會                 | 茨城県稲敷郡方言集                                    | 稲敷郡<br>教員集會    | 1902-11 | 半紙本 | 64   |                                                           | 俚言葉集                                                              | 国研・土浦               |
| 茨城教育教会                  | 茨城方言集覽                                       | 茨城教<br>育教会     | 1904-4  | 菊   | 255  |                                                           | 俚言葉集                                                              | 国研・茨大・筑大・           |
| 茨城県師範学校<br>国語漢文部会       | 訛語仮名遣法                                       | 茨城県師範学<br>校    | 1910-6  | 小   | 42   |                                                           | 研究書                                                               |                     |
| 三谷 栄一                   | 茨城県北相馬郡川原代村方言集<br>(方言誌第三弾輯)                  | 国学院大学方<br>言研究会 | 1932-7  |     |      |                                                           | 俚言葉集                                                              |                     |
| 小島 保                    | 方言の研究                                        | 小島 保           | 1935-11 | 四六  | 114  |                                                           | 研究書                                                               | 国研                  |
| 田口 美雄                   | 茨城県方言の概観(M)                                  | 国研報告書          | 1950    | B5  | 44   |                                                           | 研究書                                                               | 国研                  |
| 田口 美雄                   | 茨城県方言音韻語法の特徴形の実<br>態(M)                      | 国研報告書          | 1950    | B5  | 380  |                                                           | 研究書                                                               | 国研                  |
| 田口 美雄                   | 茨城県方言研究の概観(M)                                | 国研報告書          | 1950    | B5  | 26   |                                                           | 研究書                                                               | 国研                  |
| 富村 登                    | 水海道の呼び方                                      | 常総文化研究         | 1953-6  | B6  | 73   |                                                           | 研究書                                                               | 国研・県図               |
| 田口 美雄                   | 新治郡田余村方言の記述(M)                               | 国研報告書          | 1954    | B5  | 94   |                                                           | 俚言葉集                                                              |                     |
| 長須 正文                   | 新莊校児童の方言の実態と対策<br>ことばのスケッチ 利根のことば<br>(郷土新書7) | 長須正文<br>高城書店   | 1954-9  | B6  | 84   |                                                           | 研究書                                                               | 国研                  |
| 上野 勇                    | 水戸地方の方言資料1<br>一附・符牒・符号および隠語一<br>(茨城民俗資料2)    | 茨城民俗学会         | 1959-9  | B40 | 144  |                                                           | 研究書                                                               | 国研・県図               |
| 外山 善八<br>金沢 直人          | 茨城の民俗                                        | 鶴屋出版部          | 1966-5  | A5  | 71   |                                                           | 研究書<br>水戸・玉造地方の方言を例に、茨<br>城弁の特徴・民俗を記述。<br>その他、動植物等の方言218語を<br>収録。 |                     |
| 読売新聞社水戸<br>支局           | 利根の方言と食習調査                                   | 鶴淵蛍光           | 1967-7  | B6  |      |                                                           | 研究書                                                               | 国研・茨大・筑大・県<br>図・茨キリ |
| 鶴淵 蛍光                   | 利根の方言と食習調査                                   | 鶴淵蛍光           | 1968-8  | B6  | 78   |                                                           | 研究書                                                               |                     |
| 九学会連合利根<br>川流域調査委員<br>会 | 利根川ー自然・文化・社会ー                                | 弘文堂            | 1971-3  | B5  | 688  |                                                           | 研究書                                                               |                     |

【方言書目：茨城】

| 編著者        | 書名                      | 発行所        | 発行年月    | 版型  | ページ数 | 地域             | 内容                                                                                                                                                                                                          | 蔵書情報                           |
|------------|-------------------------|------------|---------|-----|------|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|
| 鶴尾 能子      | 茨城の昔話（昔話研究資料叢書7）        | 三弥井書店      | 1972-5  | B6  | 312  |                | 昔話                                                                                                                                                                                                          | 国研・茨大・県図・茨キリ・常磐大               |
| 鹿島町史編さん委員会 | 鹿島町史 第二巻                | 鹿島町広報課     | 1974-12 | B5  | 836  | 鹿島町<br>(現：鹿嶋市) | 研究書・俚言葉集<br>鹿島方言の概略と俚言298語。                                                                                                                                                                                 |                                |
| 茨城教育協会     | 茨城方言集覧(再刊)（原本は1904年4月刊） | 国書刊行会      | 1975-1  | A5  | 267  |                | 俚言葉集                                                                                                                                                                                                        | 国研・茨大・茨キリ                      |
| いばらき新聞社    | 茨城人名辞書（1915年刊の複製）       | 崙書房        | 1975-12 | A5  | 1冊   |                |                                                                                                                                                                                                             | 茨大・筑大・県図                       |
| 江原 忠昭      | 茨城の地名                   | 耕人社        | 1976-1  |     | 266  |                |                                                                                                                                                                                                             | 茨大・筑大・県図・茨キリ・常磐大               |
| 大野村史編さん委員会 | 大野村史                    | 大野村教育委員会   | 1979-8  | B5  |      | 大野村<br>(現：鹿嶋市) | 俚言葉集・(「あ」行から「わ」行まで)132語収録                                                                                                                                                                                   |                                |
| 更科公護       | 筑波山周辺の動植物の方言動物編         | 筑波書林       | 1981-3  | B40 | 69   |                | 俚言葉集                                                                                                                                                                                                        | 国研・茨大・筑大・県図・茨キリ・常磐大            |
| 更科公護       | 筑波山周辺の動植物の方言植物編         | 筑波書林       | 1981-4  | B40 | 77   |                | 俚言葉集                                                                                                                                                                                                        | 国研・茨大・筑大・県図・茨キリ・常磐大            |
| 伊藤 晃       | 常盤沿線 ことば風土記             | 崙書房        | 1981-4  | B6  | 167  |                | 研究書<br>波崎のことばの成立と移り変わりについての考察。方言、共通語、標準語についての定義を述べたうえで波崎のことばを分析。また、波崎のことばを用例とともに1,777語を収録(あ行…348語、か行…298語、さ行…247語、た行…244語、な行…127語、は行…219語、ま行…147語、や行…103語、ら行…15語、わ行…29語)。〈言い回しが複数あることばは、それぞれ1語としてカウントしています〉 | 国研・茨大・県図<br>国研・茨大(農)・筑大・県図・茨キリ |
| 遠藤 忠男      | 茨城のことば 上（ふるさと文庫）        | 筑波書林(茨城図書) | 1983-11 | B6  | 96   |                | 研究書<br>波崎のことばの成立と移り変わりについての考察。方言、共通語、標準語についての定義を述べたうえで波崎のことばを分析。また、波崎のことばを用例とともに1,777語を収録(あ行…348語、か行…298語、さ行…247語、た行…244語、な行…127語、は行…219語、ま行…147語、や行…103語、ら行…15語、わ行…29語)。〈言い回しが複数あることばは、それぞれ1語としてカウントしています〉 | 国研・茨大・筑大・県図・茨キリ・常磐大            |

【方言書目：茨城】

| 編著者             | 書名                        | 発行所            | 発行年月    | 版型 | ページ数     | 地域             | 内容                                                                                 | 蔵書情報                                                        |
|-----------------|---------------------------|----------------|---------|----|----------|----------------|------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| 遠藤 忠男           | 茨城のことば 下 (ふるさと文庫)         | 筑波書林(茨城<br>図書) | 1984-11 | B6 | 98       |                |                                                                                    | 国研・茨大(農)・筑大・<br>県図・茨キリ・常磐大                                  |
| 横山俊珠著<br>横山静子編  | なんだべえ歳時記<br>茨城のことば・習俗12ヵ月 | 川又書店           | 1986-9  | B6 | 199<br>図 |                |                                                                                    | 国研・茨大・常磐大                                                   |
| 波崎町文化財保<br>護審議会 | 波崎のことば                    | 波崎町教育<br>委員会   | 1990-3  | B5 | 132      | 波崎町<br>(現：神栖市) | 研究書・俚言集<br>波崎のことばの概説。<br>波崎のことばを用例とともに1,777<br>語を収録。また、植物の方言246<br>語、動物の方言150語を収録。 | 神栖中央・行方・鹿島<br>中央                                            |
| 神栖町教育委員<br>会    | 文化財かみす 第13集               | 神栖町教育委<br>員会   | 1990-3  | A4 |          | 神栖町<br>(現：神栖市) | 俚言集<br>297語収録(「あ」「い」)                                                              |                                                             |
| 神栖町教育委員<br>会    | 文化財かみす 第14集               | 神栖町教育委<br>員会   | 1991-3  | A4 |          | 神栖町<br>(現：神栖市) | 俚言集<br>706語収録                                                                      | 県図・神栖                                                       |
| 赤城 毅彦           | 茨城方言民俗語辞典                 | 東京堂出版          | 1991-9  | A5 | 1035     |                |                                                                                    | 国研・茨大・筑大・県<br>図・常磐大                                         |
| 神栖町教育委員<br>会    | 文化財かみす 第20集               | 神栖町教育委<br>員会   | 1997-3  | A4 |          | 神栖町<br>(現：神栖市) | 俚言集<br>2,709語収録                                                                    | 県図・城里・笠間・北<br>茨城・常陸大宮・常陸<br>太田・守谷中央・石<br>岡・ゆうき・古河・神<br>栖・行方 |
| 土浦市文化財愛<br>護の会  | 土浦の方言                     | 土浦市教育委<br>員会   | 1997-8  | A5 | 277      |                |                                                                                    | 茨大・筑大・県図                                                    |

【方言書目：茨城】

| 編著者           | 書名                                   | 発行所                                                                                 | 発行年月    | 版型 | ページ数 | 地域 | 内容  | 蔵書情報                                                                                                                      |
|---------------|--------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|---------|----|------|----|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 青木智也          | いばらぎじゃなくっていばらき—超人<br>気WEBサイト「茨城王」を読む | 茨城新聞社                                                                               | 2004-5  | B5 | 203  |    |     | 県図・城里・小美玉・<br>東海・水戸・茨城・那<br>珂・常陸大宮・常陸太<br>田・日立・かすみがう<br>ら・つくばみらい・つく<br>ば・利根・取手・土浦・<br>守谷中央・牛久・稲<br>敷・石岡・下妻・古河・<br>行方      |
| 青木智也          | 続 いばらぎじゃなくっていばらき—極<br>私的「茨城の地域活性化論」  | 茨城新聞社                                                                               | 2006-4  | B5 | 255  |    |     | 県図・城里・小美玉・<br>東海・水戸・茨城・那<br>珂・常陸大宮・常陸太<br>田・日立・かすみがう<br>ら・つくばみらい・つく<br>ば・取手・土浦・守谷<br>中央・牛久・稲敷・石<br>岡・下妻・古河・行方             |
| 日本方言研究会<br>編刊 | 日本方言研究発表会発表原稿集                       | Conference<br>Paper of the<br>Dialectological<br>Circle of Japan<br>(日本方言研究<br>会編刊) | 2008-5  | B5 | 88   |    | 研究書 |                                                                                                                           |
| 日本方言研究会<br>編刊 | 日本方言研究発表会発表原稿集                       | Conference<br>Paper of the<br>Dialectological<br>Circle of Japan<br>(日本方言研究<br>会編刊) | 2008-11 | B5 | 84   |    | 研究書 |                                                                                                                           |
| 青木智也          | ごじゃっぺディア—楽しく学ぶ茨城<br>弁                | 茨城新聞社                                                                               | 2011-11 | B5 | 188  |    |     | 茨大(本館)・常磐大・<br>県図・城里・小美玉・<br>東海・水戸・茨城・那<br>珂・常陸大宮・常陸太<br>田・日立・かすみがう<br>ら・つくばみらい・つく<br>ば・取手・土浦・守谷<br>中央・牛久・稲敷・石<br>岡・下妻・古河 |

【方言書目：茨城】

| 編著者    | 書名             | 発行所 | 発行年月 | 版型 | ページ数 | 地域 | 内容                                                                                                                                                                                    | 蔵書情報 |
|--------|----------------|-----|------|----|------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 石井 藤喜男 | 浜の言葉とおはなし(大正編) | 自家版 | 2013 | B5 | 199  |    | <p>俚言集<br/>五十音順。3,419語。例文あり。<br/>作者が子供の頃から家や街で聞いた言葉や話を思い出して書き留めたノートをもとに、大正時代の浜の人々の会話を拾い集めている。<br/>(あ行…594語、か行…616語、さ行…469語、た行 350語、な行…230語、は行…489語、ま行…361語、や行…180語、ら行…90語、わ行…40語)</p> |      |

【方言論文(資料):茨城】

| 著者    | 論文名             | 所収雑誌<br>[単行本]名 巻・号 | 発行年月    | ページ数 | 地域               | 内容                                                                                          | 蔵書情報   |
|-------|-----------------|--------------------|---------|------|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 川角 寅吉 | 常陸地方方言          | 風俗画報140            | 1897-5  |      | 稲敷郡西南部           | 俚言(方言)集<br>共通語(標準語)との対応表記<br>7.25頁(動物49語、植物21語)                                             | 茨大・筑大  |
| 川角 寅吉 | 常陸地方方言          | 風俗画報146            | 1897-8  |      | 稲敷郡西南部           | 俚言(方言)集<br>共通語(標準語)との対応表記<br>140号の訂正(動物5語、植物2語)<br>他、新たに94語(人倫45語、身体28語、<br>天文時令8語、地理13語)収録 | 茨大・筑大  |
| 雲霞庵花山 | 常陸潮来町方言         | 風俗画報262            | 1903-1  |      | 潮来町<br>(現:潮来市)   | 俚言(方言)集<br>・鼻濁音の単語4語(蛙、人参、大根、西瓜)<br>・潮来地方独特の俚言27語(動詞3語、名詞22語、形容詞1語、接続語1語)                   | 茨大・筑大  |
| 安楽居善子 | 結城地方方言          | 風俗画報332            | 1906-1  |      | 結城               | 俚言(方言)集                                                                                     | 筑大(複製) |
| 横田 晁峯 | 水戸市の方言          | 風俗画報364            | 1907-6  |      | 水戸               | 俚言(方言)集                                                                                     | 筑大(複製) |
| 蘆の円屋  | 常陸の方言東南地方       | 風俗画報366            | 1907-7  |      |                  | 俚言(方言)集                                                                                     | 筑大(複製) |
| 徳宿 克忠 | 方言訛語            | 郷土大観               | 1910年頃  | 28   | 大洗町              | 俚言集<br>發音・文法等による区分をした233語収録。                                                                | 大洗中央   |
| 東宮鉄真呂 | 猿島郡方言表          | 人類学会雑誌(4)          |         |      | 猿島郡              | 俚言(方言)集                                                                                     | 筑大     |
| 東宮鉄真呂 | 猿島郡方言表          | 人類学会雑誌(39)         |         |      | 猿島郡              | 俚言(方言)集                                                                                     | 筑大     |
| 田口 美雄 | 茨城縣方言の考察        | 国語教育16-9           | 1931-9  | 8    |                  | 研究論文                                                                                        | 茨大・筑大  |
| 三谷 栄一 | 茨城県北相馬郡川原代村方言集  | 方言誌3               | 1932-8  | 11   | 北相馬郡川原代村(現:龍ヶ崎市) | 俚言(方言)集                                                                                     | 国研     |
| 鈴木英次郎 | 茨城県那珂郡大宮町の方言    | 田舎8                | 1934-9  |      | 那珂郡大宮町(現:常陸大宮市)  | 俚言(方言)集                                                                                     | 国研     |
| 村岡 豊  | 茨城県三兵地方の言語の音韻現象 | 声音教育3-11           | 1936-11 | 8    |                  | 研究論文                                                                                        | 国研     |
| 小川 莊  | 茨城県南部方言集        | 土の香107             | 1937-5  | 12   |                  | 俚言(方言)集                                                                                     | 国研     |



【方言論文(資料):茨城】

| 著者    | 論文名                             | 所収雑誌<br>[単行本]名 巻・号 | 発行年月   | ページ数 | 地域    | 内容                                                                                 | 蔵書情報                                                                                                |
|-------|---------------------------------|--------------------|--------|------|-------|------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 田口 美雄 | 方言                              | 総合郷土研究 下巻<br>(茨城県) | 1939-5 | 19   |       |                                                                                    | 茨大(本館)・筑大・常磐大・県図・福島大・水戸・笠間・土浦・ゆうき(影印版)・下妻(影印版)・神栖(影印版)・常陸太田(影印版)・日立(影印版)・かすみがうら(影印版)取手(影印版)・石岡(影印版) |
| 田口 美雄 | 茨城県方言の考察、主として音韻語法について           | 茨城県総合郷土研究誌         | 1939-7 |      | 県南    | 研究論文<br>標準語と著しく異なるもの750語を蒐集し、音韻と語法の二方面について特徴を述べている。                                | 東京大学文学部<br>図書館                                                                                      |
| 田口 美雄 | 茨城方言語法二三の考察                     | 方言研究10             | 1944-7 | 12   |       | 研究論文                                                                               | 国研                                                                                                  |
| 金田一春彦 | 一型アクセントについての考察 一水戸方言のアクセント型について | コトバ復7              | 1948-9 | 7    |       | 研究論文:アクセント                                                                         | 筑大                                                                                                  |
| 田口 美雄 | ことば風土記(茨城)                      | 言語生活2              | 1952-2 | 1    | 霞ヶ浦沿い | 談話資料<br>1951年初冬の朝、農夫(70歳前後)と川魚行商婦(62・3歳)の会話の文字化                                    | 茨大・筑大・茨キリ・常磐大                                                                                       |
| 佐藤 正巳 | 茨城県の植物方言(予報)                    | 山形農林学会報3・4         | 1953-5 | 7    |       | 俚言(方言)集                                                                            | 茨大(農)                                                                                               |
| 浅野 長雄 | 茨城県海産魚類の方言について                  | 県立那珂湊水産高校          | 1956-1 | 33   | 県内全域  | 研究論文・俚言(方言)集<br>魚類の方言126種とその解説。<br>標準和名、魚種の分布範囲、最大体長、漁獲数の多寡、方言とその方言を使う地域の分布について解説。 | 県図                                                                                                  |

【方言論文(資料):茨城】

| 著者    | 論文名                     | 所収雑誌<br>[単行本]名 巻・号 | 発行年月    | ページ数 | 地域                  | 内容                                                                                                 | 蔵書情報                 |
|-------|-------------------------|--------------------|---------|------|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|
| 米川 三男 | 茨城県鹿島郡のことば              | 言語生活53             | 1956-2  | 2    | 鹿島郡北部<br>(現:銚田市)    | 研究論文<br>仙台のことばと鹿島郡の言葉の類似点を例示、説明。                                                                   | 茨大・筑大・県図・<br>茨キリ・常磐大 |
| 江面 静彦 | 発音平易化の現象? (ことば風土記)      | 言語生活57             | 1956-6  | 1    | 古河市                 | 研究論文<br>鹿島郡での「だんべえ」使用。→4例を挙げて説明。<br>方向を示す助詞と位置を表す助詞の混同。                                            | 茨大・筑大・県図・<br>茨キリ・常磐大 |
| 野元 菊雄 | 茨城                      | [NHK国語講座 方言の旅]     | 1956-9  | 6    | 新治郡葦穂村<br>(現:石岡市)   | 談話資料<br>朝、男の人が女の人の家を訪ねたところの会話の談話の文字化と解説。                                                           | 茨大・県図                |
| 宮島 達夫 | 「土」と茨城弁                 | 言語生活61             | 1956-10 | 5    | 結城郡石下町国生<br>(現:常総市) | 研究論文<br>長塚節の小説「土」における方言(発音・文法・語彙など)の考察                                                             | 茨大・筑大・県図・<br>茨キリ・常磐大 |
| 岡崎 有隣 | 日立市久慈浜地方の音韻現象           | 音声学会会報94           | 1957-8  | 3    | 日立市久慈浜地方            | 研究論文                                                                                               | 筑大                   |
| 宮島 達夫 | 現代文学と方言 現代文学と茨城弁        | NHK国語講座3-5         | 1957-9  | 2    |                     | 研究論文<br>研究論文                                                                                       | 国研<br>筑大・常磐大         |
| 田沢 新  | 澄むか濁るか「水海道」の場合          | 放送文化13-1           | 1958-1  | 2    |                     |                                                                                                    |                      |
| 杉山 十祐 | 常陸の方言                   | 言語生活79             | 1958-4  | 2    |                     | 研究論文<br>常陸方言の特質2点(夫婦・親子・老若の区別がほとんどないこと、話の運び方の特徴)の指摘と説明。                                            | 茨大・筑大・県図・<br>茨キリ・常磐大 |
| 宮島 達夫 | 方言の語イ体系 一茨城方言の形容詞を例にして一 | 国語学36              | 1959-3  | 18   | 水海道市中妻町<br>(現:常総市)  | 研究論文<br>茨城方言の形容詞を例に挙げて記述し、標準語の体系と比較。                                                               | 茨大・筑大・茨キリ            |
| 宮島 達夫 | 方言の実態と共通語化の問題 福島・茨城・栃木  | [方言学講座]2           | 1961-3  | 28   | 福島、<br>栃木           | 研究論文<br>やや特色のうすい東北方言地帯の福島・茨城・栃木の三県の特徴(「一型アクセント」であること、「シ・ス」「チ・ツ」の混同がないこと、語中の濁音の前に鼻音がはいらないこと)の指摘と説明。 | 茨大・筑大・県図             |

【方言論文(資料):茨城】

| 著者            | 論文名                        | 所収雑誌<br>〔単行本〕名 巻・号 | 発行年月   | ページ数 | 地域              | 内容                                                                                       | 蔵書情報                                                               |
|---------------|----------------------------|--------------------|--------|------|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 国語教育<br>科学研究会 | 言語調査－茨城県水海道市における音韻の調査－     | 国語教育科学2-4          | 1962-4 | 4    | 水海道市<br>(現:常総市) | 研究論文                                                                                     | 国研                                                                 |
| 石馬 賢洲         | 大野村地方の方言                   | 〔茨城の民俗〕5           | 1967-2 | 2    | 大野村(現:<br>鹿嶋市)  | 俚言(方言)集<br>118語収録(あ行…24語、か行…28語、さ行…14語、た行…13語、な行…9語、は行…19語、ま行…6語、や行…2語、ら行…2語、わ行…1語)      | 筑大・県図・常磐<br>大・水戸中央・笠<br>間・常陸大宮・常<br>陸太田・日立十<br>王・取手・土浦・石<br>岡・神栖中央 |
| 金沢 直人ほか       | 茨城県の水柱方言の分布                | 〔茨城の民俗〕5           | 1967-2 | 7    | 全県域             | 研究論文<br>茨城県における水柱方言の分布についで<br>の調査。                                                       | 筑大・県図・常磐<br>大・水戸中央・笠<br>間・常陸大宮・常<br>陸太田・日立十<br>王・取手・土浦・石<br>岡・神栖中央 |
| 鼓 乙音          | 水郷玉造を中心とした方言(続)            | 〔茨城の民俗〕5           | 1967-2 | 2    | 玉造<br>(現:行方市)   | 俚言(方言)集<br>72語収録(あ行…12語、か行…12語、さ<br>行…10語、た行…13語、な行…2語、は<br>行…16語、ま行…4語、や行…2語、わ行<br>…1語) | 筑大・県図・常磐<br>大・水戸中央・笠<br>間・常陸大宮・常<br>陸太田・日立十<br>王・取手・土浦・石<br>岡・神栖中央 |
| 広瀬金之介         | 水戸の方言－水戸地方の方言資料(1)<br>の追加－ | 〔茨城の民俗〕5           | 1967-2 | 2    | 水戸              | 俚言(方言)集<br>71語収録(あ行…13語、か行…11語、さ<br>行…4語、た行…16語、な行…2語、は行<br>…19語、ま行…2語、や行…4語)            | 筑大・県図・常磐<br>大・水戸中央・笠<br>間・常陸大宮・常<br>陸太田・日立十<br>王・取手・土浦・石<br>岡・神栖中央 |
| 根本今朝男         | 茨城北部方言の一断面                 | ほうげん3              | 1967-3 | 2    |                 | 研究論文                                                                                     | 国研                                                                 |

【方言論文(資料):茨城】

| 著者     | 論文名                        | 所収雑誌<br>[単行本]名 巻・号 | 発行年月    | ページ数 | 地域             | 内容                                                                                                                            | 蔵書情報                                                                                       |
|--------|----------------------------|--------------------|---------|------|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 大久保 錦一 | 地名「潮来」について                 | [茨城の民俗]6           | 1967-12 | 4    | 潮来<br>(現:潮来市)  | <b>研究論文</b><br>潮来の地名についての考察(「イタコ」の地名の発生と漢字表記について)。                                                                            | 筑大・県図・常磐<br>大・水戸中央・笠<br>間・常陸大宮・常<br>陸太田・取手・石<br>岡・ゆうき・下妻・<br>神栖中央                          |
| 佐藤 次男  | 茨城県の地名研究ノート                | [茨城の民俗]6           | 1967-12 | 20   |                | <b>研究論文</b><br>茨城県の地名に関する研究。                                                                                                  | 筑大・県図・常磐<br>大・水戸中央・笠<br>間・常陸大宮・常<br>陸太田・取手・石<br>岡・ゆうき・下妻・<br>神栖中央                          |
| 長久保 光明 | 地名についての考察 一浜街道をめぐる一        | [茨城の民俗]6           | 1967-12 | 6    | 高萩市、北<br>茨城市   | <b>研究論文</b><br>地名の概念、行政上の区分について述べた上で、浜街道・陸前浜街道を説明。                                                                            | 筑大・県図・常磐<br>大・水戸中央・笠<br>間・常陸大宮・常<br>陸太田・取手・石<br>岡・ゆうき・下妻・<br>神栖中央                          |
| 下村 淑子  | 茨城県岩井町方言について               | 国文目白7              | 1968-3  | 11   | 岩井町(現:<br>坂東市) | <b>研究論文</b>                                                                                                                   | 国研・筑大                                                                                      |
| 石馬 賢洲  | 大野村地方の方言(追加)               | [茨城の民俗]7           | 1968-12 | 1    | 大野村(現:<br>鹿嶋市) | <b>俚言(方言)集</b><br>31語収録(あ行…11語、か行…7語、さ行…3語、た行…3語、な行…1語、は行…1語、ま行…1語、や行…1語、ら行…2語、わ行…1語)                                         | 筑大・県図・常磐<br>大・水戸中央・笠<br>間・常陸大宮・常<br>陸太田・日立十<br>王・取手・石岡・つ<br>くばみらい・ゆう<br>き・下妻・神栖中<br>央・鹿島中央 |
| 更科 公護  | 植物動物方言(東茨城郡茨城町下土師・昭和26年採取) | [茨城の民俗]7           | 1968-12 | 9    | 東茨城郡茨<br>城町    | <b>俚言(方言)集</b><br>草本…122語、木本(灌木)…33語、菌類…14語、作物…16語、昆虫…87語、その他(節足)…6語、貝類…9語、その他…3語、魚類…25語、両棲類…10語、爬虫類…4語、鳥類…32語、獸類…13語、昆虫…6語収録 | 筑大・県図・常磐<br>大・水戸中央・笠<br>間・常陸大宮・常<br>陸太田・日立十<br>王・取手・石岡・つ<br>くばみらい・ゆう<br>き・下妻・神栖中<br>央・鹿島中央 |

【方言論文(資料):茨城】

| 著者            | 論文名                          | 所収雑誌<br>[単行本]名 巻・号   | 発行年月    | ページ数 | 地域                           | 内容                                                                                    | 蔵書情報                                                                 |
|---------------|------------------------------|----------------------|---------|------|------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| 大洗町文化財<br>保存会 | 方言訛語(『郷土大観』所収)               | 大洗町史料(一)             | 1969-10 |      |                              | 俚言集<br>發音・文法等による区分をした233語収録。<br>録。                                                    | 県図・大洗中央                                                              |
| 石馬 賢洲         | 鹿島郡大野地方の方言(3)                | [茨城の民俗]10            | 1971-11 | 1    | 大野村(現:<br>鹿嶋市)               | 俚言(方言)集<br>59語収録(あ行…15語、か行…15語、さ<br>行…4語、た行…5語、な行…3語、は行<br>…9語、ま行…2語、や行…4語、ら行…2<br>語) | 筑大・県図・常磐<br>大・水戸中央・笠<br>間・常陸大宮・常<br>陸太田・日立(記<br>念・十王)・石岡・<br>常総・神栖中央 |
| 更科 公護         | 動物の方言 - 茨城町の方言 -             | [茨城の民俗]10            | 1971-11 | 3    | 東茨城郡茨<br>城町                  | 俚言(方言)集<br>家畜(メト)という単語を語尾に付ける)、虫類<br>や両生類、魚類(語尾にコのものが多い)につ<br>いて例(二百数十例)を挙げながら特徴を解説。  | 筑大・県図・常磐<br>大・水戸中央・笠<br>間・常陸大宮・常<br>陸太田・日立(記<br>念・十王)・石岡・<br>常総・神栖中央 |
| 宮島 達夫         | 茨城県方言資料                      | [昔話研究資料叢書<br>7]      | 1972-5  | 16   | 東茨城郡美<br>野里町<br>(現:小美玉<br>市) | 方言資料:昔話3編(1)「継子と笛」、(2)<br>「額田のたつあい」、(3)「いっちゅう栗山<br>話」]                                | 茨大・県図・茨キ<br>リ・常磐大                                                    |
| 野尻 洋一         | 那珂湊の自然発話                     | フィールドの歩み2            | 1973-3  | 20   | 那珂湊(現:<br>ひたちなか<br>市)        | 研究論文:表現                                                                               | 筑大                                                                   |
| 野尻 洋一         | 磯崎の潮と風                       | フィールドの歩み3            | 1973-3  | 6    | 磯崎(現:ひ<br>たちなか市)             | 随想                                                                                    | 筑大                                                                   |
| 瀬谷義彦<br>豊崎 卓  | 方言<茨城県の歴史 付録>                | [県史シリーズ8]            | 1973-7  | 4    |                              | 研究論文・俚言集・方言資料<br>茨城方言の特徴の指摘、俚言151語、<br>「額田のたつあい」]                                     | 茨大・筑大・県図・<br>常磐大                                                     |
| 山口 幸洋         | 私の聞いた「茨城一型」アクセント             | 音声学会会報143            | 1973-8  | 3    |                              | 研究論文<br>研究論文:アクセント                                                                    | 国研                                                                   |
| 山口 幸洋         | 一型アクセントをめぐる諸問題について           | 国語学102               | 1975-9  | 14   |                              |                                                                                       | 茨大(本館)・筑波<br>大・茨キリ大・国<br>研・福島大                                       |
| 平山 輝男         | 地域社会の変移と言語との関係 茨城県<br>東海村の場合 | 国学院大日本文化研<br>究所報14-3 | 1977-8  | 3    | 東海村                          | 研究論文                                                                                  | 茨大                                                                   |

【方言論文(資料):茨城】

| 著者    | 論文名                                     | 所収雑誌<br>〔单行本〕名 巻・号     | 発行年月     | ページ数 | 地域                       | 内容                                             | 蔵書情報                                          |
|-------|-----------------------------------------|------------------------|----------|------|--------------------------|------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 松本八千代 | 茨城方言雑記                                  | 音声学会会報158              | 1978-7   | 2    |                          |                                                | 筑大                                            |
| 宮島 達夫 | 高萩の方言資料                                 | 〔高萩の昔話と伝説〕             | 1980-10  |      | 高萩市                      | 方言資料:昔話4編(「弁当が仕事」、「腰巻は家例」、「嘘の本」、「たろ吉ともく助」)の文字化 | 茨大・筑大・県図・常磐大・高萩                               |
|       | ことば百科@方言の発音と固有名詞—古くて新しいことは              | 放送文化 36-2、3            | 1981-2・3 |      |                          |                                                | 茨大(本館)・県図・国研・福島大(3のみ)・福県図                     |
| 更科 公護 | 鹿島線沿線の動・植物方言                            | 〔国鉄鹿島線沿線の民俗〕           | 1981-3   | 21   | 国鉄鹿島線沿線(現:鹿島臨海鉄道大洗鹿島線沿線) | 研究論文<br>鹿島線沿線の動植物和名50語に対する方言、266語の対照と解説。       | 茨大・筑大・県図・茨キリ・神栖(中央)・うずも)・銚田・鹿島中央              |
| 金沢 直人 | 「茨城の方言」                                 | 茨城の国語教育1               | 1982-1   | 3    |                          | 研究論文                                           | 茨大・県図・水戸中央                                    |
| 菅谷 広美 | 特集・方言風土記—茨城                             | 言語16-9                 | 1987-8   | 2    |                          | 随想                                             | 茨大・筑大・茨キリ・常磐大                                 |
| 宮島 達夫 | 「茨城方言 民俗語辞典」の印刷と検索                      | 日本語学10-10              | 1991-10  | 7    |                          | 研究論文                                           | 茨大(本館)・人文芸・思想コース資料室)・筑大・常磐大・短大・茨キリ大・県図・国研・福島大 |
| 大橋 勝男 | 日本語方言についての記述的研究(22) 茨城県東茨城郡美野里町羽鳥方言について | 新潟大学教育学部紀要人文・社会科学編34-1 | 1992-10  | 28   | 東茨城郡                     | 研究論文                                           | 筑大                                            |
| 佐々木 冠 | 水海道方言における閉鎖音の有声化                        | 言語学論叢(筑波大学) 特別号        | 1993-9   | 14   | 水海道市(現:常総市)              | 研究論文:音声                                        | 筑大・茨キリ                                        |

【方言論文(資料):茨城】

| 著者             | 論文名                                                                  | 所収雑誌<br>[単行本]名 巻・号                                                                                                                                     | 発行年月    | ページ数 | 地域              | 内容                                                                                                                                                                                                                  | 蔵書情報              |
|----------------|----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|------|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| 原 香織           | いわゆる「尻上がり」イントネーションの玉造町における調査                                         | 言語・文化研究(東京外国語大学)12                                                                                                                                     | 1994-3  | 10   | 玉造町<br>(現:行方市)  | <b>研究論文</b><br>9人の茨城弁話者に、アンケート用紙の質問に対して答えてもらったものを録音し、被験者は録音した発話を聞きながら各話者の「尻上がり」度合いや頻度をこたえる形式で調査を行った。被験者は、玉造中学校父兄54名、玉造中学3年生の生徒63名。今回の調査は1992年にを行ったが、1991年にもほぼ同じ調査(話者のうち8名の発話は今回と同一)を千葉県で行っており、両方の調査との比較をしながら紹介している。 | 茨大                |
| 永瀬 治郎          | 霞ヶ浦の漁業語彙                                                             | 専修国文55                                                                                                                                                 | 1994-8  | 18   |                 | <b>俚言(方言)集</b>                                                                                                                                                                                                      | 筑大                |
| 山田 伸子          | 東京方言アクセントの習得と中間方言の形成 茨城方言話者の場合を中心に                                   | 茨城大学人文学部紀要人文科学論集28                                                                                                                                     | 1995-3  | 13   |                 | <b>研究論文:茨城方言話者のアクセントの共通語化(東京アクセント習得)</b>                                                                                                                                                                            | 茨大・筑大・県図・常磐大・水戸中央 |
| Sasaki, Kan    | Possessive, Genitive and Adnominal Locative in the Mitsuoka dialect. | [Studies in Possessive Expressions; A report of the Joint Research Project; Analysis and Description of Individual Languages and Linguistic Typology.] | 1997-3  | 25   | 水海道市<br>(現:常総市) |                                                                                                                                                                                                                     |                   |
| 佐々木冠;カルヤヌ、ダニエラ | 水海道方言の連体修飾格                                                          | 言語研究(日本言語学会)111                                                                                                                                        | 1997-3  | 25   | 水海道市<br>(現:常総市) | <b>研究論文:文法</b>                                                                                                                                                                                                      | 筑大                |
| 早野 慎吾          | 茨城県玉造方言の変化伝統方言と新規方言                                                  | Ars Linguistica, Linguistic Studies of Shizuoka 4                                                                                                      | 1997-5  | 15   | 玉造町(現:行方市)      | <b>研究論文</b>                                                                                                                                                                                                         | 国研                |
| 佐々木 冠          | 二重対格構文とヲ格重複制約水海道方言を例に                                                | 言語27-7                                                                                                                                                 | 1998-7  | 10   | 水海道(現:常総市)      | <b>研究論文:文法</b>                                                                                                                                                                                                      | 茨大・筑大・茨キリ・常磐大     |
| 佐々木 冠          | 水海道方言の性格 有生対格と無生対格の統語論                                               | 日本語科学(国立国語研究所) 4                                                                                                                                       | 1998-10 | 23   | 水海道(現:常総市)      | <b>研究論文:文法</b>                                                                                                                                                                                                      | 筑大                |

【方言論文(資料): 茨城】

| 著者          | 論文名                                                       | 所収雑誌<br>〔単行本〕名 巻・号                                | 発行年月    | ページ数 | 地域          | 内容                                                | 蔵書情報                            |
|-------------|-----------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|---------|------|-------------|---------------------------------------------------|---------------------------------|
| 佐々木 冠       | 希求構文の統語論水海道方言の場合                                          | 言語学論叢(筑波大学) 18                                    | 1999-12 | 15   | 水海道(現:常総市)  | 研究論文:文法                                           | 筑大                              |
| 宮島 達夫       | 長塚節『土』の方言はわかるか                                            | 国文学解釈と鑑賞 65-1                                     | 2000-1  | 8    |             | 研究論文<br>長塚節の小説『土』で使われている方言20語についての認知度アンケートの結果と考察。 | 茨大・筑大・県図・茨キリ・常磐大                |
| 佐々木 冠       | 水海道方言の複合型希求構文                                             | 文芸言語研究 言語篇(筑波大学) 37                               | 2000-3  | 55   | 水海道市(現:常総市) | 研究論文:文法                                           | 茨大・筑大                           |
| 佐々木 冠       | 水海道方言の使役文                                                 | 文芸言語研究 言語篇(筑波大学) 38                               | 2000-10 | 31   | 水海道市(現:常総市) | 研究論文:文法                                           | 茨大・筑大                           |
| 佐々木 冠       | 水海道方言における与格パターン希求構文の成立条件                                  | 〔意味と形のインターエース中右実教授還暦記念論文集フェリス学院大学日本文学院紀要 9        | 2001-3  | 12   | 水海道市(現:常総市) | 研究論文:文法                                           | 筑大                              |
| 二宮 愛        | 茨城方言の談話展開の方法『全国方言資料』自由会話を対象として                            | フェリス学院大学日本文学院紀要 9                                 | 2002-3  | 5    |             | 研究論文                                              | 筑大(オンライン)・国研                    |
| 早野 慎吾       | 東京話者と茨城話者のイメージ 水戸市の調査から                                   | 名古屋・方言研究会会報 19                                    | 2002-6  | 8    |             | 研究論文                                              | 国研                              |
| 早野 慎吾       | 茨城方言における遊びのかけ声・台詞                                         | Ars Linguistica, Linguistic Studies of Shizuoka 9 | 2002-11 | 10   |             | 研究論文                                              | 国研                              |
| 山田 伸子       | 茨城方言話者によるアクセントのスタイルシフト                                    | 茨城大学留学生センター紀要 1                                   | 2003-3  | 12   |             | 研究論文:アクセント                                        | 茨大(本館、工学部分館、農学部分館)・筑大(オンライン)・国研 |
| 早野 慎吾       | 無アクセントの比較研究 栃木・茨城アクセントと宮崎アクセントの比較                         | 地域文化研究 1                                          | 2006-3  | 10   |             | 研究論文:アクセント                                        | 国研                              |
| Sasaki, Kan | Hardening Alternation in the Mitsukaidou Dialect of Japan | 言語研究(日本語学会)134                                    | 2008-9  | 23   | 水海道市(現:常総市) | 研究論文:音声・音韻                                        | 筑大                              |
| 若狭 あゆみ      | 茨城県沼田町方言のイントネーションに関する記述音声学的研究                             | 言語学論叢 特別号 城生 佐太郎教授退職記念論文集                         | 2009-2  | 13   |             | 研究論文:音声・音韻                                        | 筑大・国研                           |



【方言論文(資料): 福島】

| 筆者     | 論文名                         | 所収雑誌<br>[単行本]名 巻・号 | 発行年月     | ページ数 | 地域  | 市町村        | 内容                                                                                                          | 蔵書情報                                         |
|--------|-----------------------------|--------------------|----------|------|-----|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| 横田 暁峰  | 福島地方方言                      | 風俗画報 383           | 1908-4   |      |     |            |                                                                                                             | 茨大(本館・複製版)、筑大(複製版)、茨キリ(CD)、石岡(複製)日本の雑誌、ひたちなか |
| 高萩 精玄  | 石城地方抗夫用語                    | 方言 2-10            | 1932-10  | 4    | 浜通り | いわき地方      | 俚言葉集<br>抗夫用語99語(あ行…15語、か行…20語、さ行…19語、た行…14語、な行…4語、は行…18語、ま行…5語、や行…3語、わ行…1語)                                 | 筑大(複製版)、県図(複製版)                              |
| 松本 繁   | 磐城相馬の植物方言                   | 方言 2-10            | 1932-10  | 6    | 浜通り | いわき地方、相馬地方 | 俚言葉集<br>植物方言220語(あ行…22語、か行…41語、さ行…25語、た行…37語、な行…17語、は行…34語、ま行…23語、や行…10語、ら行…3語、わ行…8語)                       | 筑大(複製版)、県図(複製版)                              |
| 鈴木 安信  | 福島県に於ける一部の方言について            | 国語教育 17-11         | 1932-11  |      |     |            |                                                                                                             | 茨大(本館)、筑大                                    |
| 鈴木 安信  | べー、吉書、語ぬ(福島方言)              | 国語教育 18-2・3        | 1933-2・3 | 12   |     |            |                                                                                                             | 茨大(本館)、筑大                                    |
| 新妻 三男  | 相馬に於ける敬語助詞及び助動詞(福島県)        | 国語研究 2-4           | 1934-4   |      | 浜通り | 相馬地方       |                                                                                                             | —                                            |
| 高木 稲水  | 磐城地方方言考(一)                  | 方言 4-9             | 1934-9   | 8    | 浜通り |            | 俚言葉集<br>あ行61語(あ…24語、う…1語、え…18語、お…18語)                                                                       | 筑大(複製版)、県図(複製版)                              |
| 高木 稲水  | 磐城方言考(二)                    | 方言 5-3             | 1935-3   | 10   | 浜通り |            | 俚言葉集<br>か行75語(か…28語、き…8語、く…15語、け…4語、こ…20語)                                                                  | 筑大(複製版)、県図(複製版)                              |
| 見玉 卯一郎 | 岩磐方言に於ける特殊音韻現象一やや行が行相通について一 | 方言 5-4             | 1935-4   | 4    | 浜通り |            | 研究論文<br>福島県北地方を中心として、浜通り地方南部の石城郡、中部地方の安積郡、会津地方の一部でのみ残存する「ユ」と「ズ」が相通する音韻現象を、例を挙げつつ考察。また、「エ」と「ゼ」の相通についても触れている。 | 筑大(複製版)、県図(複製版)                              |
| 高木 稲水  | 磐城方言の接尾語に就いて                | 方言 5-9             | 1935-9   | 5    | 浜通り |            | 俚言葉集<br>接頭語13種類、接尾語8種類                                                                                      | 筑大(複製版)、県図(複製版)                              |

【方言論文(資料):福島】

| 筆者               | 論文名                               | 所収雑誌<br>[単行本]名 巻・号 | 発行年月             | ページ数   | 地域  | 市町村                                      | 内容                                     | 蔵書情報             |
|------------------|-----------------------------------|--------------------|------------------|--------|-----|------------------------------------------|----------------------------------------|------------------|
| 高木 稲水            | 磐城方言考—福島県平町近在磐崎村藤原を中心とする—         | 方言 6-4             | 1936-4           | 8      | 浜通り | いわき市                                     | 鑑書集<br>さ行66語さ…14語、し…31語、ず…7語、せ…5語、そ…9語 | 筑大(復刻版)、県図(復刻版)  |
| 広瀬 敏子<br>日本方言研究所 | 磐城方言の中に見える古語<br>福島方言の花園           | 日本の言葉 3<br>日本の言葉 6 | 1947-8<br>1948-3 | 3<br>1 | 浜通り |                                          |                                        | —<br>—           |
| 一谷 清昭            | ことば風土記(福島)                        | 言語生活 5             | 1952-2           | 1      |     |                                          |                                        | 茨大(本館)、筑大、常磐大、県図 |
| 菅野 宏             | 福島のでいねい語                          | 言語生活 29            | 1954-2           | 1      |     |                                          |                                        | 茨大(本館)、筑大、常磐大、県図 |
| 一谷 清昭            | 方言の旅 福島県                          | NHK国語講座 2-1        | 1956-1           | 2      |     |                                          |                                        | 茨大(本館)、筑大、常磐大、県図 |
| 菅野 宏             | 方言の旅 方言によるコミュニケーションと感情(福島)        | NHK国語講座 3-3        | 1957-5           | 2      |     |                                          |                                        | 茨大(本館)、県図        |
| 飯豊 毅一            | 福島県の文末助詞                          | 方言研究年報 1           | 1957-12          | 15     |     |                                          |                                        | —<br>—           |
| 佐藤 喜代治           | 福島県方言の敬語法                         | 文化(東北大学文学会) 23-2   | 1959-7           | 18     | 浜通り | 南相馬市(石神村)、飯館村(大館村)、双葉町(標葉町)、葛尾村          |                                        | 筑大、国研            |
| 飯豊 毅一            | 注目すべきアークセント事象について—福島県方言の質問表現における— | 国文学放 27            | 1962-3           | 4      |     |                                          |                                        | 茨大(本館)、筑大、常磐大    |
| 飯豊 毅一            | 方言の分布—推量表現「…べー」について—              | 相模女子大学紀要 13        | 1962-10          | 15     | 浜通り | 相馬市、南相馬市(鹿島町)、浪江町、津島村、いわき市(久之浜町、磐城市、勿来市) |                                        |                  |
| 飯豊 毅一            | 意志・推量を表す「べー」について(一)               | 国語・国文学試論 6・7       | 1962-12          | 11     |     |                                          |                                        | 筑大               |

【方言論文(資料):福島】

| 筆者            | 論文名                               | 所収雑誌<br>[単行本]名 巻・号 | 発行年月    | ページ数 | 地域  | 市町村                                           | 内容                                                                                                                                              | 蔵書情報                        |
|---------------|-----------------------------------|--------------------|---------|------|-----|-----------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| 飯豊 毅一         | 福島県方言における対者尊敬表現について               | 国語学 59             | 1964-12 | 14   | 浜通り | 相馬市、南相馬市(鹿島町)、浪江町、津島村)、いわき市(久之浜町、磐城市、勿来市)、川俣町 |                                                                                                                                                 | 茨大(本館)、筑大、茨キリ、国研(webデータベース) |
| * (録音機)       | 農村の出かせぎ                           | 言語生活 183           | 1966-12 | 3    |     |                                               | <p>談話資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福島県北部の農山村から東京へ出かせぎに行ったことのある三人の青年(24歳、21歳、22歳。いずれも農家のあととりで村の青年団の幹部)と3人と初対面の男性の会話。</li> </ul> | 茨大(本館)、筑大、常磐大、県図            |
| 言語班           | 福島県相馬地方調査・言語編一 概説、音韻的特徴、血族関係語彙など一 | ほうげん 3             | 1967-3  | 81   | 浜通り | 相馬地方                                          |                                                                                                                                                 | —                           |
| 菅野 宏・飯豊 毅一    | 言語生活                              | [福島県史] 24          | 1967-3  | 61   | 全域  |                                               |                                                                                                                                                 | 茨大(本館)、筑大                   |
| 渡辺 友左         | 福島県北部方言の親族語と形容詞の語彙体系              | [ことばの研究] 3         | 1967-8  | 88   |     |                                               |                                                                                                                                                 | 茨大(本館)、筑大、茨キリ               |
| 本堂 寛          | 福島県における二・三の方言の古さ新しさ               | 一 関工高専研究紀要 2       | 1968-3  | 16   |     |                                               |                                                                                                                                                 | —                           |
| 菅野 宏          | 福島県方言の子音体系の付属語                    | 日本方言研究会第7回発表原稿集    | 1968-11 | 7    |     |                                               |                                                                                                                                                 | —                           |
| 飯豊 毅一         | 福島県方言における「ル」「ラル」敬語について            | 国文学攷 49            | 1969-3  | 13   | 全域  |                                               |                                                                                                                                                 | 筑大、国研                       |
| 小林 清治<br>山田 舜 | 方言 <福島県の歴史 付録>                    | [県史シリーズ] 7         | 1970-3  | 1    | 全域  |                                               |                                                                                                                                                 | —                           |
| * (録音機)       | 農業用語あれこれ                          | 言語生活 241           | 1971-10 | 3    |     |                                               | <p>談話資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・八月のある日</li> <li>・福島県のある農家の主人と東京からやってきた中年の訪問客の最近の農業用語についての会話。</li> </ul>                     | 茨大(本館)、筑大、常磐大、県図            |

【方言論文(資料):福島】

| 筆者                         | 論文名                                                | 所収雑誌<br>[単行本]名 巻・号   | 発行年月    | ページ数 | 地域  | 市町村           | 内容                                                                                              | 蔵書情報                                                     |
|----------------------------|----------------------------------------------------|----------------------|---------|------|-----|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| * (録音機)                    | おじいちゃんの民話                                          | 言語生活 242             | 1971-11 | 3    |     |               | 談話資料<br>伊達郡国見町小坂から宮城県白石市方面へ通じる小坂峠にある万蔵稲荷というお稲荷さんの名前の由来について、地域で語り継がれてきている話を老人が小学校2~3年生の孫娘に話している。 | 茨大(本館)、筑大、常磐大、県図                                         |
| 菅野 宏                       | 福島県の方言                                             | [講座方言学4 北海道東北地方の方言]  | 1982-9  | 33   | 全域  |               |                                                                                                 | 茨大(教育学部・研究室配架)、筑大、茨キリ、県図、水戸中央、下妻、古河、神栖、日立、ひたちなか、笠間、那珂、石岡 |
| 森下 喜一                      | いわき市の敬語表現について 特に接頭語「お」をめぐって                        | 国語研究(国学院大学) 49       | 1985-12 | 10   | 浜通り | いわき市          |                                                                                                 | —                                                        |
| 森下 喜一                      | いわき市の敬語表現 命令的表現の型を中心に                              | 岩手医科大学教養部研究年報 21     | 1986-12 | 16   | 浜通り | いわき市          |                                                                                                 | 筑大、国研                                                    |
| 森下 喜一                      | 福島方言アクセントの年齢的特徴                                    | 作新学院大学紀要 文化と科学 3     | 1993-3  | 19   | 浜通り | 相馬市、いわき市      |                                                                                                 | 茨大(本館)、筑大、常磐大                                            |
| 加藤 正信;<br>斎藤 孝滋;<br>半沢 康;亀 | 福島県小高町における方言の共通語化に関する社会言語学的調査報告                    | 東北大学日本文化研究所研究報告 別巻31 | 1994-3  | 23   | 浜通り | 南相馬市(小高町)     |                                                                                                 | 茨大(本館)、国研                                                |
| 亀田 裕見                      | 福島県相馬地方の無型アクセント多人数話者における音相 基本周波数曲線の視覚的パターン分類による    | 東北大学日本文化研究所研究報告 別巻33 | 1996-3  | 13   | 浜通り | 相馬地方          |                                                                                                 | 茨大(本館)、国研                                                |
| 半沢 康;亀田 裕見                 | 方言変化に関わる社会的・心理的要因 福島県相馬地方における共通語使用に関する調査から         | [方言の現在]              | 1996-3  | 21   | 浜通り | 南相馬市(小高町、原町市) |                                                                                                 | 茨大(本館)、筑大、稲敷、下妻                                          |
| 小野 栄一                      | 福島県相馬地方への旅                                         | 日本語学 19-10           | 2000-9  | 7    | 浜通り | 相馬地方          |                                                                                                 | 茨大(本館)、筑大、常磐大、茨キリ、県図                                     |
| 大橋 純一                      | 福島県相馬市方言における語中ガ行入り渡り鼻音                             | 国語学研究43              | 2004-3  | 13   |     |               |                                                                                                 | 茨大(人文学部)・国研                                              |
| 本多 真史                      | 並行するグロットグラムと平面分布図による言語侵入の立体的把握 北関東から福島県中通り・浜通りにかけて | いわき明星大学大学院人文学研究科紀要 3 | 2005-3  | 12   |     |               |                                                                                                 | 常磐大・国研・県図・福島大・福泉図                                        |
| 本多 真史                      | 方言の変容 福島県北部地域における「頼」を例として                          | いわき明星大学大学院人文学研究科紀要 4 | 2006-3  | 9    |     |               |                                                                                                 | 常磐大・国研・県図・福島大・福泉図                                        |

【方言論文(資料):福島】

| 筆者               | 論文名                                 | 所収雑誌<br>[単行本]名 巻・号      | 発行年月    | ページ数 | 地域 | 市町村 | 内容 | 蔵書情報                                           |
|------------------|-------------------------------------|-------------------------|---------|------|----|-----|----|------------------------------------------------|
| 市岡 香代            | 福島県金山町方言における意志・推量表現形式「べ」の意味・用法      | 日本語研究 26                | 2006-5  | 14   |    |     |    | 国研                                             |
| 幡 早夏             | 福島方言における「べ」について                     | 思言(東京外国語大学記述言語学論集) 2    | 2007-1  | 25   |    |     |    | 国研                                             |
| 1-本多 真史; 2-加藤 浩二 | 福島県中通り・浜通りにおける方言領域生活圏との関わりに着目して     | 言文 54                   | 2007-3  | 10   |    |     |    | 国研・福島大・福県図                                     |
| 白岩 広行            | 福島方言の伝聞表現トとスケ                       | 阪大社会言語学研究ノート(大阪大学大学院) 8 | 2008-3  | 16   |    |     |    | 国研                                             |
| 白岩 広行            | 福島方言のノダツケ 実は俺、まだ学生なんだっけ             | 阪大社会言語学研究ノート(大阪大学大学院) 8 | 2008-3  | 16   |    |     |    | 国研                                             |
| 白岩 広行            | 福島県郡山市方言の推量・意志表現バイ若年層における確認要求表現への変化 | 待兼山論叢 日本学篇(大阪大学大学院) 42  | 2008-12 | 18   |    |     |    | 国研・茨大(本館)・筑波大・福島大                              |
| 半沢 康             | 南相馬市小高区方言の変容—方言実時間調査データの比較—         | 言文 57                   | 2010-3  | 13   |    |     |    | 国研・福島大・福県図                                     |
| 本多 真史            | 福島県南相馬市小高区における方言使用美態—世代差に着目して—      | 言文 57                   | 2010-3  | 11   |    |     |    | 国研・福島大・福県図                                     |
| 白岩 広行            | 福島方言の問い返し疑問—イントネーションによる区別—          | 阪大社会言語学研究ノート 9          | 2011-1  | 16   |    |     |    | 国研                                             |
| 白岩 広行            | 福島方言の文末イントネーション—意味的な記述への視点—         | 日本語文法 11-1              | 2011-3  | 17   |    |     |    | 茨大(人文言語情報論)・筑波大・国研                             |
| 白岩 広行            | 福島方言の自発表現                           | 阪大日本語研究24               | 2012-2  | 19   |    |     |    | 茨大(人文学部)・筑波大・国研・福島大                            |
| 死 雖 庵            | 奥州記                                 | 風俗画報 270                |         |      |    |     |    | 茨大(本館・複製版)・筑波大(複製版)・茨キリ(CD)・石岡(複製刻日本の雑誌)・ひたちなか |

【方言論文(資料):千葉】

| 筆者                    | 論文名                                                          | 所収雑誌<br>〔単行本〕名 巻・号     | 発行年月       | ページ数 | 地域                  | 市町村 | 内容 | 蔵書情報                                                            |
|-----------------------|--------------------------------------------------------------|------------------------|------------|------|---------------------|-----|----|-----------------------------------------------------------------|
| 木内 桂華                 | 下総国香取郡東部地方の方言                                                | 風俗画報 281               | 1904-1     |      | 香取                  |     |    | 茨大(本館)、茨大(複製版・CD-ROM)、茨キリ(CD-ROM)、ひたちなか                         |
| 蓋山 處士                 | 九十九里浜方言考                                                     | 風俗画報 477               | 1916-2     |      | 海匝、山武、長生、夷隅、安房      |     |    | 茨大(複製版・CD-ROM)、茨キリ(CD-ROM)                                      |
| 齋藤 源三郎                | 下総地方の方言集                                                     | 旅と伝説 4-6               | 1931-6     | 4    | 海匝、香取、印旛、千葉(北部)、東葛飾 |     |    | 複製版…茨大(本館)、茨大、茨キリ<br>複製版…茨キリ、水戸市、東海、日立市、那珂、笠間友部、鉾田              |
| 齋藤 源三郎                | 房総地方の動植物方言(一)(二)                                             | 方言と土俗 3-6・7            | 1932-10・11 | 16   | 全域                  |     |    | —                                                               |
| 齋藤 達夫                 | 東総地方方言集                                                      | 方言誌 3                  | 1932-7     |      | 海匝、山武、長生            |     |    | —                                                               |
| 齋藤 源三郎                | 千葉県地方春蘭の方言                                                   | 方言と土俗 4-6              | 1933-10    | 1    |                     |     |    | —                                                               |
| 齋藤 源三郎                | 房総地方の鳥類方言補遺                                                  | 方言と土俗 3-11             | 1933-3     | 2    | 全域                  |     |    | —                                                               |
| 齋藤 義七郎                | 千葉県地方セミ類の方言                                                  | 方言と土俗 4-1              | 1933-5     | 2    |                     |     |    | —                                                               |
| 篠田 定吉                 | 気象に関する方言、訛語(下総)                                              | 旅と伝説 13-11             | 1940-11    |      | 海匝、香取、印旛、千葉(北部)、東葛飾 |     |    | 複製版…茨大(本館)、茨大、茨キリ<br>複製版…茨キリ、水戸市、東海、日立市、那珂、笠間友部、鉾田<br>茨大(本館)、県図 |
| 大岩 正伸                 | 千葉                                                           | 〔NHK国語講座 方言の旅〕         | 1956-9     | 6    |                     |     |    |                                                                 |
| 加藤 信昭                 | 千葉県北部方言アクセントの推移について                                          | 〔音声の研究〕 8              | 1957-1     | 11   |                     |     |    | 茨大、茨キリ                                                          |
| Grootaers, Wille m A. | A Dialectgeographical Study of the Japanese Accents in Chiba | Monumenta Nipponica 14 | 1958-      | 13   |                     |     |    | 茨大                                                              |
| 中村 通夫ほか               | 千葉方言における「語中k音の脱落現象」の調査                                       | 中大国文 創                 | 1958-3     | 9    |                     |     |    | 茨大(本館)、茨大                                                       |
| 坂上 弘之<br>福田 真久        | 千葉方言調査の旅                                                     | 中大国文 2                 | 1959-3     | 2    |                     |     |    | 茨大(本館)、茨大                                                       |
| グローターズ                | 千葉県アクセントの言語地理学的研究                                            | 国語学 37                 | 1959-6     | 34   | 全域                  |     |    | 茨大(本館)、茨大、茨キリ                                                   |
| 大岩 正伸                 | 房総の方言                                                        | 国文学季報(千葉大学文理学部国文科) 2   | 1960-12    | 7    |                     |     |    | —                                                               |
| 金田一 春彦                | 房総アクセント再論—グローターズさんの「千葉県アクセントの言語地理学的研究」を読んで—                  | 国語学 40                 | 1960-3     | 13   | 房総半島                |     |    | 茨大(本館)、茨大、茨キリ                                                   |

【方言論文(資料): 千葉】

| 筆者                                        | 論文名                                                                            | 所収雑誌<br>〔単行本〕名 巻・号    | 発行年月             | ページ数 | 地域            | 市町村 | 内容 | 蔵書情報              |
|-------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|------------------|------|---------------|-----|----|-------------------|
| 加藤 信昭                                     | 方言の実態と共通語化の問題点 千葉・東京・神奈川                                                       | 〔方言学講座〕 2             | 1961-3           | 25   | 全域            |     |    | 茨大(本館)、筑大、茨キリ、県図  |
| 潮田 鉄雄                                     | 千葉県の田下駄                                                                        | 民俗学研究 292-2           | 1964-10          | 8    |               |     |    | 茨大(本館)            |
| 高橋 在久                                     | 〈ことばはいきている〉ことばは文化財であるー千葉方言のスケッチー                                               | 放送文化 23-6             | 1968-6           | 2    |               |     |    | 茨大(本館)、筑大         |
| 平野 馨                                      | 〈ことばはいきている〉房総のわらべ歌ー暮から正月へー                                                     | 放送文化 24               | 1969-12          | 2    |               |     |    | 筑大、県図、取手          |
| 小笠原 長和<br>川村 優                            | 方言く千葉県の歴史 付録>                                                                  | 〔県史シリーズ〕 12           | 1971-10          | 4    |               |     |    | 茨大(本館)、筑大、常磐大、茨キリ |
| * (録音機)                                   | 野菜談義                                                                           | 言語生活 236              | 1971-5           | 3    |               |     |    | 茨大(本館)、筑大、常磐大、茨キリ |
| * (録音機)                                   | 鈍行列車                                                                           | 言語生活 240              | 1971-9           | 3    |               |     |    | 茨大(本館)、筑大、常磐大、茨キリ |
| 加藤 昭                                      | 外川ことばの音声面における特徴                                                                | フィールドの歩み 1            | 1972-9           | 19   | 海匝            | 銚子市 |    | 筑大                |
| 野尻 洋一                                     | 外川の自然と人間                                                                       | フィールドの歩み 1            | 1972-9           | 20   | 海匝            | 銚子市 |    | 筑大                |
| 村上 昭子                                     | 外川の自然発話(1)                                                                     | フィールドの歩み 2            | 1973-3           | 35   | 海匝            | 銚子市 |    | 筑大                |
| 中条 修                                      | 房総半島方言の音韻の研究(1)(2)                                                             | 静岡大教養部研究報告人文 8・9      | 1973-3<br>1974-3 | 45   |               |     |    | 茨大(本館)、筑大         |
| 藤原 伸介                                     | 千葉県南部地方におけるk音脱落現象の推移                                                           | 学習院大言語国文学会誌 19        | 1975-12          | 10   |               |     |    | 茨大(本館)、筑大         |
| 加藤 信昭                                     | 関東方言における千葉県方言の占める                                                              | 資料の広場 7               | 1975-3           | 6    |               |     |    | 県図                |
| 藤原 文夫<br>谷萩 かほる                           | 房総半島(中・南部)のヒキガエル方言                                                             | 資料の広場 7               | 1975-3           | 7    |               |     |    | 県図                |
| 森田 保                                      | 房総たべもの方言層                                                                      | 資料の広場 7               | 1975-3           | 12   |               |     |    | 県図                |
| 川名 興                                      | 千葉県でのネコハエトリの方言                                                                 | 房総文化 13               | 1975-9           | 11   | 高津市を中<br>心に全域 |     |    | —                 |
| 川名 興                                      | 千葉県のゴキブリの方言                                                                    | 千葉生物誌 26-2            | 1977-            | 10   | 全域            |     |    | —                 |
| 中条 修                                      | 「語中のカ行子音」ノート 房総半島のk音について                                                       | 静岡大教育学部研究報告人文社会 31    | 1981-3           | 14   |               |     |    | —                 |
| 川名 興                                      | あいさつお国めぐり(6) 千葉の巻                                                              | 言語生活 354              | 1981-6           | 2    |               |     |    | 茨大(本館)、筑大、常磐大、茨キリ |
| 池田 桂子                                     | アクセントの内省 東京と千葉の違い                                                              | 昭和学院国語国文              | 1982-3           | 5    |               |     |    | 筑大、常磐大            |
| 川名 興                                      | 千葉県の植物方言 (2)~(5)                                                               | 野草 386-388~390        | 1982-3~1         | 9    |               |     |    | —                 |
| 磯崎 富美代                                    | 千葉県北部およびその周辺における語彙の分布について                                                      | 語文(日本大) 55            | 1982-7           | 11   |               |     |    | 茨大(本館)、筑大         |
| Sasaki Hideki,<br>Grootaers,<br>Willem A. | A word geography of Tateyama city and Awa district(South Chiba prefecture)[和文] | Sophia Linguistica 15 | 1984-            | 393  |               |     |    | —                 |

【方言論文(資料): 千葉】

| 筆者    | 論文名                                                                                  | 所収雑誌<br>〔単行本〕名 巻・号     | 発行年月           | ページ数 | 地域 | 市町村 | 内容 | 蔵書情報                                               |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|----------------|------|----|-----|----|----------------------------------------------------|
| 伊藤 一也 | 特集・あたらしい方言文法－〈方言文法の<br>実際と問題点 東日本・八丈島方言〉千葉<br>方言の文法から「ニ」格、サ格、「ヲ」格、シ<br>コト格のばりあい関係をみる | 国文学 解釈と鑑賞<br>49-1      | 1984-1         | 12   |    |     |    | 筑大、常磐大、茨キリ                                         |
| 川名 興  | 千葉県の植物方言 (6)                                                                         | 野草 399                 | 1984-5         | 2    |    |     |    | —                                                  |
| 川名 興  | 千葉県の植物方言 (7)~(9)                                                                     | 野草 403 405 406         | 1985-1・<br>5・7 | 6    |    |     |    | —                                                  |
| 川名 興  | 千葉県の植物方言 (10)                                                                        | 野草 409                 | 1986-1         | 1    |    |     |    | —                                                  |
| 篠崎 晃一 | 千葉方言におけるカ行子音の分布と変化                                                                   | 〔日本語論考〕                | 1991-1         | 17   |    |     |    | 筑大                                                 |
| 篠崎 晃一 | 千葉方言における動詞・形容詞の活用                                                                    | 人文学報(東京都立<br>大学) 225   | 1991-1         | 22   |    |     |    | 筑大(本館)、筑大、常磐<br>大                                  |
| 伊藤 直美 | 千葉県言語地図                                                                              | 語文論叢(千葉大学)<br>22       | 1994-11        | 18   |    |     |    | 筑大(人文文芸・思想<br>コース資料室)                              |
| 篠崎 晃一 | 変容する日本の方言－千葉 東京近隣の<br>共通語主流社会における言語意識                                                | 言語 24-12               | 1995-11        | 12   |    |     |    | 筑大(人文文芸・思想<br>コース資料室、教育英<br>語教育)、筑大、常磐<br>大、茨キリ、県図 |
| 永島 寛子 | 千葉県東海岸部のことばの世代差に關す<br>る一考察 文末表現形式                                                    | ことば(現代日本語研<br>究会) 20   | 1999-12        | 13   |    |     |    | 筑大                                                 |
| 川名 興  | 海辺の人々からみた天文・気象方言と天<br>氣の言い伝え 銚子、九十九里、白浜、富<br>津、金田                                    | 千葉県立安房博物館<br>研究紀要 通巻10 | 2003-3         | 40   |    |     |    |                                                    |





執筆者

杉本 妙子（茨城大学）

佐々木 冠（札幌学院大学）

---

平成 25(2013)年度 文化庁委託事業報告書  
方言がつなぐ地域と暮らし・方言で語り継ぐ震災の記憶  
～被災地方言の保存・継承と学びの取り組み～

平成 26(2014)年 3 月 20 日発行

編者 杉本妙子（茨城大学）

〒310-8512 茨城県水戸市文京 2-1-1  
茨城大学人文学部 TEL 029(228)8104(代)

---

